

1. 引間松葉遺跡Ⅲ区の概要

現県道足門前橋線沿いの調査区であったため、上面は削平を受けている箇所もあり、塚田村東Ⅳ遺跡のような複数にわたる面調査は行えなかった。やはり奈良・平安時代が主体であり、住居跡27軒などを検出した。時期は6世紀後半から11世紀に至り幅広い。しかし、国分寺創立時期に関わる8世紀中葉か

ら9世紀前半の住居跡は少なく、その前後の時期が多い。

また、近代の土坑1基を除くと中世・近世と明瞭に確認できた遺構は検出されていない。上面には削平の影響があると考えられる。

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物

(1) 縄文時代の遺物 (第177図、遺物PL.61)

中期から後期初頭の土器片や打製石斧、石鏃などが出土した。これらは、遺構確認面や遺構覆土中から出土したが、縄文時代の遺構は確認できていない。



第177図 縄文時代出土遺物

縄文時代遺物 遺物観察表

探検番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			石材	特徴	備考		
			長さ	幅	厚さ					
第177図1 PL. 61	縄文土器 深鉢	1住覆土 口破片	— — 1.8	胎 底 厚	— — 1.8	胎 色 明赤褐色	胎 質 緻密 良好	白色・黒色・赤色紅物	肥厚する口縁部	加曾利E3式
第177図2 PL. 61	縄文土器 深鉢	3溝覆土 口破片	— — 1.4	胎 底 厚	— — 1.4	胎 色 橙	胎 質 緻密 良好	白色・赤色・黒色紅物	口縁下に連続する押圧痕等が 高る	称名寺式
探検番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			石材	特徴	備考		
長さ	幅	厚さ								
第177図3 PL. 61	石器 石鏃	70土坑覆土 欠損あり	(2.2)	(1.3)	0.4	チャート	凹形無茎の石鏃、先端部と左側の基部は欠損している			
第177図4 PL. 61	石器 打製石斧	70土坑覆土 欠損あり	(7.0)	5.6	1.5	硬質泥炭	楔形か、裏面に自然面を残す。基部は欠損			
第177図5 PL. 61	石器 打製石斧	64土坑覆土 刃部欠損	(13.3)	(8.7)	2.9	砂岩	両側面から挟りがはいる。自然面を一部に残し、 刃部は欠損している			

(2) 竪穴住居

1号住居跡 (第178・179図, 遺構PL.55、遺物PL.61)

位置: Fb~Fd-45~46

長軸方位: N-75°-E

規模・形状: 本住居跡南東部は試掘による影響を受けているため、一部明らかにできなかったところもある。3.3m×2.62mの隅丸長方形を呈する。床面積は5.94㎡で、壁の高さは0.3mである。

カマド: 東壁中央よりわずかに南側に構築されていた。燃烧部の幅は不明で、張り出しは壁から1.24mであった。火床から支脚として使われた可能性があ

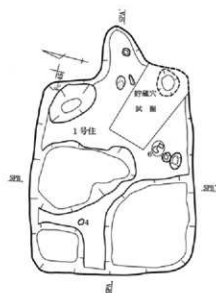
る際が出土している。

内部施設: 壁溝やピットは検出できなかった。貯蔵穴は試掘坑の下から検出した。残存している大きさは0.44m×0.36mで、深度0.09mであった。

床面: 平坦で、固く締まっていた。

出土遺物: 土師器杯 (No 1)、土師器小型壺 (No 8) は床面直上より出土した。土師器杯 (No 4、6) は掘り方土からの出土であった。

その他: 出土している土師器杯や壺より、本住居跡の時期は8世紀前葉と判断される。



1号住居跡

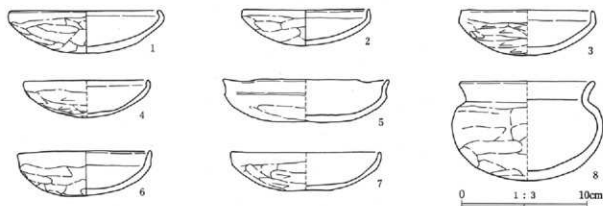
1. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含
2. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒少含
3. 暗褐色土 ロームブロック多含、締まり強
4. 暗褐色土 焼土粒やや多、As-C・ロームブロック少含
5. 暗褐色土 As-C・焼土粒やや多含
6. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含
7. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含
8. 暗褐色土 焼土粒・灰少含、粘性弱
9. 暗褐色土 焼土粒やや多、ロームブロック少含
10. 暗褐色土 焼土粒・灰やや多、ロームブロック少含
11. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒少含、粘性弱
12. 暗褐色土 灰・焼土粒やや多含、粘性弱
13. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、床土、締まり強

14. 暗褐色土 ロームブロック少含、締まり弱
15. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
16. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック少含
17. 暗褐色土 ロームブロック多含
18. 暗褐色土 ロームブロック多、焼土粒・灰やや多含
19. 暗褐色土 焼土粒・灰多含、締まり弱
20. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロックやや多含
21. 暗褐色土 焼土粒・As-C・灰・炭化物少含
22. 暗褐色土 焼土粒・As-C・ローム粒少含
23. 暗褐色土 焼土粒・灰やや多、As-C・ローム少含、粘性弱
24. 暗褐色土 焼土粒・As-C少含
25. 暗褐色土 焼土粒やや多含
26. 暗褐色土 焼土粒・As-C・ローム粒少含

0 1:60 1m

第178図 1号住居跡

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物



第179図 1号住居跡出土遺物

1号住居跡 遺物観覧表

図番号	種類	出土位置	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第179図1 PL.61	土師器 坏	床直上 ほぼ空	口 (11.9) 底 - 高 3.4	胎 細砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 酸化焙 良好 色 橙	口縁部深く内湾 外面: 口縁部横ナデ、体部~底部ヘラ削り 内面: ナデ	
第179図2 PL.61	土師器 坏	覆土	口 10.2 底 - 高 2.9	胎 細砂粒少 白色鉱物 焼 酸化焙 良好 色 橙	口縁部内湾 外面: 口縁部横ナデ、体部~底部ヘラ削り 内面: ナデ	
第179図3 PL.61	土師器 坏	覆土	口 (10.3) 底 - 高 (3.6)	胎 細砂粒少 白色鉱物 焼 酸化焙 良好 色 橙	口縁部内湾 外面: 口縁部横ナデ、体部~底部ヘラ削り 内面: ナデ	
第179図4 PL.61	土師器 坏	掘り方	口 (10.0) 底 - 高 3.0	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焙 良好 色 橙	口縁部やや内湾 外面: 口縁部横ナデ、底部ヘラ削り 内面: ナデ	
第179図5 PL.61	土師器 坏	覆土	口 (13.0) 底 - 高 3.3	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焙 良好 色 橙	口縁部外反する 外面: 口縁部横ナデ、体部~底部ヘラ削り 内面: ナデ	
第179図6 PL.61	土師器 坏	掘り方	口 10.6 底 - 高 3.6	胎 細砂粒少 白色鉱物 焼 酸化焙 良好 色 橙	口縁部深く外反する 外面: 口縁部横ナデ、体部~底部ヘラ削り 内面: ナデ	
第179図7 PL.61	土師器 坏	覆土	口 (12.0) 底 - 高 3.0	胎 砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 酸化焙 良好 色 明赤褐	外面: 口縁部横ナデ、体部~底部ヘラ削り 内面: ナデ	
第179図8 PL.61	土師器 小型甕	床直上	口 (10.7) 底 - 高 7.8	胎 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焙 良好 色 橙	外面: 口縁部横ナデ、体部~底部ヘラ削り 内面: ナデ	

2号住居跡 (第180図、遺構PL.55、遺物PL.61)

位置: Fc~Fe-44~46

長軸方位: N-7°-E

規模・形状: 本住居跡の北東部は、攪乱による影響を床面まで受けているところがある。2.85m×2.70mの隅丸正方形に近いが、北壁が長く延びており、台形を呈する。床面積は6.47m²で、壁の高さは0.24mである。北西角には、本住居跡より古い倒木痕があり、掘り方の様相は明らかにできなかった。

カマド: 東壁のほぼ中央に検出された。窯焼部の幅は0.8m、張り出しは0.8mであった。

内部施設: 糠漕や貯蔵穴などは検出できなかった。

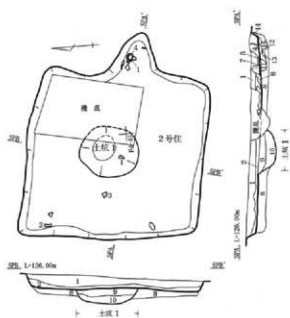
本住居跡中央部やや北寄りに床面から掘り込みがある土坑を1基検出した(土坑1)。また、南西角近くで、床下に土坑状の落ち込みを検出した(土坑2)。土坑1は大きさ0.93m×0.74mで深度0.24m、土坑2は0.7m×0.66mで、深度0.15mであった。

床面: 平坦で、固く締まっていた。

出土遺物: 土師器甕(No1)はカマド火床から土坑1にかけて、須恵器器埴(No4)は火床より出土した。薦編石(No5)は掘り方土からの出土である。

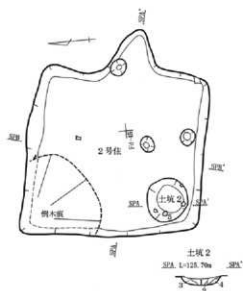
その他: 出土した土師器甕より、本住居跡の時期は9世紀第3四半期と判断される。

第4章 引間松葉遺跡田区の調査



2号住居跡

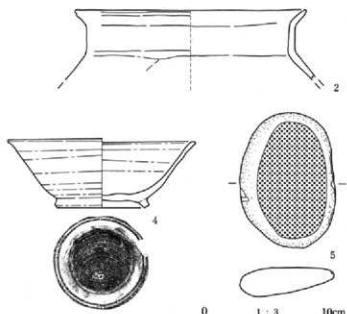
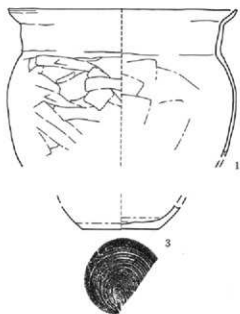
1. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒・砂質ブロック少含
2. 暗褐色土 1層と同様だがAs-C少含
3. 暗褐色土 As-C・焼土粒・炭化物・ロームブロック少含
4. 暗褐色土 焼土粒やや多、ロームブロック・炭化物少含
5. 暗褐色土 ロームブロック多、焼土粒少含、締まり強
6. 暗褐色土 焼土粒やや多、As-C少含
7. 暗褐色土 焼土粒・灰多含、粘性弱
8. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒少含、床土、締まり強
9. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含
10. 暗褐色土 ロームブロック多含



土坑2

1. 暗褐色土 ロームブロック多、焼土粒少含
2. 暗褐色土 ロームブロック少含
3. 暗褐色土 焼土粒・炭化物多、ロームブロック少含
4. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック少含
11. 暗褐色土 焼土粒少、灰多含、粘性弱
12. 暗褐色土 焼土粒・灰やや多含、粘性弱
13. 暗褐色土 焼土粒・灰少含、粘性弱
14. 暗褐色土 焼土粒・As-C少含、粘性弱
15. 暗褐色土 ロームブロック少含

0 1:60 1m



第180図 2号住居跡、出土遺物

2号住居跡 遺物観察表

探検番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
			長さ	幅	高さ			
第180図1 PL.61	土師器 甕	カマド・土 坑1 口～体1/8	口 底 高	(18.0) - (12.3)	胎 焼 色	細砂粒少 酸化焰 白色・黒色鉱物 良好 にぶい濁	外面：口縁部横ナデ、口唇部 1条の沈線が巡る、体部へラ 削り 内面：へラナデ	
第180図2 PL.61	土師器 甕	覆土 口～体上1/6	口 底 高	(18.4) - (5.8)	胎 焼 色	細砂粒少 酸化焰 白色・黒色鉱物 良好 赤濁	外面：口縁部横ナデ、口唇部 1条の沈線が巡る、体部へラ 削り 内面：横へラナデ	
第180図3 PL.61	須恵器 坏	覆土 体～底2/3	口 底 高	- (6.0) (1.9)	胎 焼 色	細砂粒やや多 還元焰 白色鉱物 良好 灰黄濁	橢圓整形 (右回転) 底部： 回転糸切り	
第180図4 PL.61	須恵器 埴	カマド ほぼ完	口 底 高	14.8 7.4 5.5	胎 焼 色	φ3mm小礫 粗砂粒少 還元焰 白色鉱物 良好 灰	橢圓成形 (右回転) 底部： 回転糸切り後、付け高台	
探検番号	種類	出土位置	計測値 (cm)			石材	特徴	
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	高さ			
第180図5 PL.61	石製品 磨輪石か	土坑2 ほぼ完	10.6	7.5	2.3	粗粒輝石安山岩	平坦面は磨られている	

3号住居跡 (第181・182図、遺構PL.55、遺物PL.61・62)

位置：Fd～Fe-43-45

東壁方位：N-23°-E

規模・形状：本住居跡は、調査区域外にまで広がることや、他の遺構によって切られているため、ごくわずかしが残存せず、全容は伺えない。検出部で南北1.8m×東西1.0mで、隅丸方形状であろう。壁の高さは0.15mである。

カマド：検出されていない。

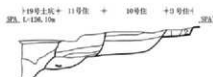
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：わずかししか検出していないが、残存部では踏みはあまり強くない。

出土遺物：南東角の床面直上より土師器甕 (No 1、2、3) がまとまって出土した。

重複遺構：本住居跡は東壁南部と南東角付近の一部を除いたほとんどで重複している。西側は北から順に、21号土坑、10号住居跡、11号住居跡と重複し、東壁北側は4号土坑と重複する。新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他：出土した土師器甕から、本住居跡の時期は9世紀第3四半期と判断される。

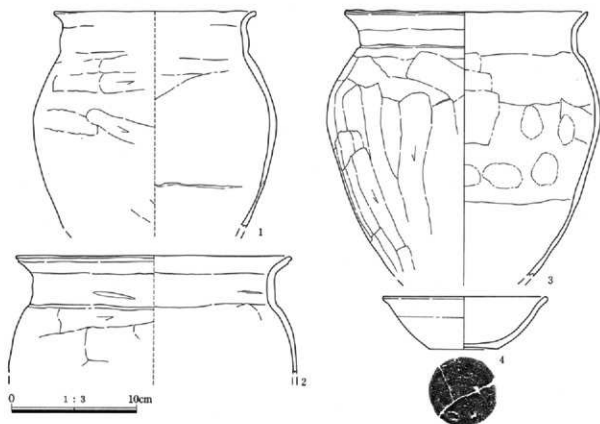


3号住居跡

1. 暗褐色土 As-C少含
2. 暗褐色土 ロームブロック・炭化物少含

0 1:60 1m

第181図 3号住居跡



第182図 3号住居跡出土遺物

3号住居跡 遺物観察表

神居番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第182図1 PL.61	土師器 甕	床直上 口~体1/8	口 (16.0) 底 - 高 (19.0)	胎 細砂較少 白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ 体部ヘラ削り 内面：横ナデ、体部に輪轡痕残る	
第182図2 PL.61	土師器 甕	床直上 口~体上1/4	口 (21.6) 底 - 高 (9.1)	胎 細砂較少 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい・黒	外面：口縁部横ナデ、口唇部に1条の沈線が走る、体部ヘラ削り 内面：ヘラナデ	
第182図3 PL.62	土師器 甕	床直上 口~体2/3	口 19.2 底 - 高 (21.0)	胎 細砂較少 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい・黒	外面：口縁部横ナデ、口唇部に1条の沈線が走る、体部ヘラ削り 内面：ヘラナデ	
第182図4 PL.61	須恵器 坏	覆土 体~底3/4	口 13.0 底 5.2 高 4.2	胎 細砂やや多 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 橙	甕型整形（右回転）口縁部外反する 底部：回転糸切り	細かく割れた状態出土

4号住居跡（第183図、遺構PL.55、遺物PL.61）

位置：Fd~Fe-44~45

長軸方位：N-16°30'-E

規模・形状：本住居跡のほとんどは11号住居跡によりさられているため、横相は明らかでない。検出部で、南北1.1m×東西0.4m、壁の高さは0.27mである。

カマド：検出されていない。

内部施設：不明

出土遺物：土師器坏（No1）は床面直上からの出土

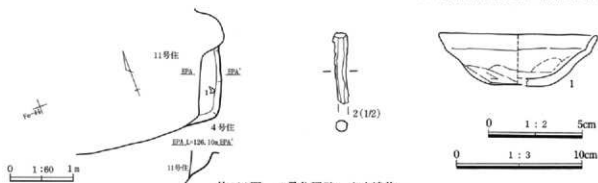
である。

床面：わずかしかが検出していないが、残存部では締まりはあまり強くない。

重複遺構：本住居跡は、東壁南部から南東角付近を除いたほとんどで、11号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と堀土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他：出土した土師器坏から9世紀前半と判断される。

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物



第183図 4号住居跡、出土遺物

4号住居跡 遺物観察表

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		胎土・焼成・色調			器形・技法等の特徴	備考
			口 底 高	(12.4) (4.8) 4.0	胎 土 色	砂粒やや 酸化焰 良好	白色・黒色 灰物		
第183図1 PL. 61	土師器 環	床直上 口～底1/5						外面：口縁部横ナデ、腰部～ 底部へう開り 内面：ナデ、指頭環痕	
検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		特徴			備考	
第183図2 PL. 61	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	長さ (3.8)	幅 0.8	厚さ 0.6	重量 (g) 3	腐食激しく形状は不明瞭		

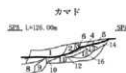
5号住居跡 (第184・185図、遺構PL.55、遺物PL.61・62)

位置：Fa-Fc-45-47

長軸方位：N-22°-W

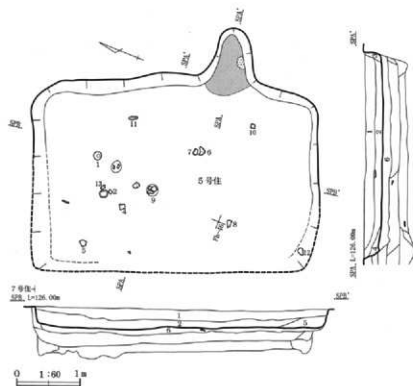
規模・形状：本住居跡は重複が激しく、不明瞭なところもある。規模は4.55m×3.15mで、隅丸長方形

を呈すると考えられる。床面積は不明だが、11㎡を超えるだろう。壁の高さは0.3mである。



カマド

1. 暗褐色土 As-C・焼土粒・ロームブロックやや多含
2. 暗褐色土 As-C・焼土粒・ロームブロック少含
3. 暗褐色土 As-C・焼土粒・灰少含
4. 暗褐色土 灰やや多、As-C・焼土粒少含
5. 暗褐色土 焼土粒・灰・炭化物やや多含
6. 暗褐色土 灰多、焼土粒少含
7. 暗褐色土 ローム粒・As-C・焼土粒・炭化物少含、練まり痕
8. 暗褐色土 ロームブロック少含
9. 暗褐色土 ロームブロック多、焼土粒少含
10. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含
11. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒少含
12. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒・ロームブロック少含
13. 暗褐色土 灰・焼土粒やや多含
14. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒少含
15. 暗褐色土 灰・焼土粒・ロームブロック少含
16. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含



第184図 5号住居跡

第4章 引間松雲遺跡Ⅲ区の調査

カマド：東壁中央より南側に構築されていた。燃焼部の幅は0.9m、張り出しは壁から0.95mであった。

内部施設：糠漉や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：土師器環 (No1, 2) は床面直上から出土した。土師器環 (No4, 5, 6, 7)、土師器甕 (No8)、須恵器甕 (No10)、砥石 (No13) は床下の土層からの出土で、掘り方土か土坑に相当するだろう。

重複遺構：本住居跡の西側で6号住居跡と、下面で7号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断さ

5号住居跡

1. 暗褐色土 As-C やや多、炭化物・焼土粒少含

2. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含

3. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロック・As-C少含

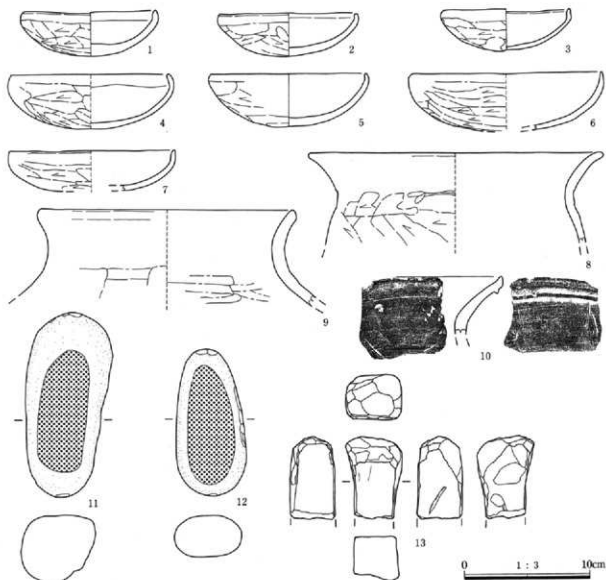
4. 暗褐色土 As-C・炭化物・焼土粒少含

5. 暗褐色土 As-C・焼土粒・ロームブロック少含

6. 暗褐色土 ローム粒・As-C・焼土粒少含、床土、締まり強

れる。

その他：後述する6、7号住居跡と位置が重なり、時期も近いことから、建て替えなどの関連が伺える。出土した土師器環、甕から7世紀末～8世紀初頭と判断される。



第185図 5号住居跡出土遺物

2. 引開松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物

5号住居跡 遺物観察表

種別 図版番号	種別 図版番号	出土位置 残存状況	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
			幅	長さ	高さ			
第185図1 PL.61	土師器 環	床直上	口	10.6	胎 砂粒少	白色・黒色灰物 焼 酸化焰 色 良好	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部へラ削り 内面：横ナデ	
			底	-	胎 φ4mm小礫			
第185図2 PL.61	土師器 環	床直上	口	11.0	胎 φ4mm小礫	砂粒少 白色灰物 焼 酸化焰 色 良好	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部へラ削り 内面：ナデ	
			底	-	胎 φ4mm小礫			
第185図3 PL.61	土師器 環	覆土	口	10.1	胎 砂粒少	白色・黒色灰物 焼 酸化焰 色 にぶい澄	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部へラ削り 内面：ナデ	
			底	-	胎 砂粒少			
第185図4 PL.62	土師器 環	掘り方か	口	(12.5)	胎 細砂粒少	黒色・白色灰物 焼 酸化焰 色 良好	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部へラ削り 内面：ナデ	
			底	-	胎 細砂粒少			
第185図5 PL.62	土師器 環	掘り方か	口	12.4	胎 φ4mm小礫	砂粒少 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 色 良好	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部へラ削り 内面：ナデ	
			底	-	胎 φ4mm小礫			
第185図6 PL.62	土師器 環	掘り方か	口	(15.3)	胎 砂粒少	黒色・白色灰物 焼 酸化焰 色 良好	口縁部やや内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部へラ削り 内面：ナデ	
			底	-	胎 砂粒少			
第185図7 PL.62	土師器 環	掘り方か	口	(13.2)	胎 砂粒少	黒色・白色灰物 焼 酸化焰 色 良好	口縁部やや内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部へラ削り 内面：ナデ	
			底	-	胎 砂粒少			
第185図8 PL.62	土師器 壺	掘り方か	口	(23.4)	胎 粗砂粒やや多	黒色・白色灰物 焼 酸化焰 色 良好	外面：口縁部横ナデ、へラ痕残る、体部へラ削り 内面：横ナデ	
			底	-	胎 粗砂粒やや多			
第185図9 PL.62	土師器 壺	覆土	口	(20.4)	胎 粗砂粒やや多	白色・黒色灰物 焼 酸化焰 色 にぶい澄	外面：口縁部横ナデ、体部へラ削り 内面：横ナデ	
			底	-	胎 粗砂粒やや多			
第185図10 PL.62	須恵器 壺	掘り方か	口	-	胎 砂粒少	白色灰物 焼 還元焰 色 良好	口縁部は折り返し 内外面横ナデ	
			底	-	胎 砂粒少			
種別 図版番号	種別 図版番号	出土位置 残存状況	計測値(cm)			石材	特徴	
			幅	長さ	高さ			
第185図11 PL.62	石製品 磨石	床直上	ほぼ完	14.5	6.6	5.3	粗粒輝石安山岩	先端部に敲打痕、平坦面は磨かれている
				11.5	5.5	3.3	ひん岩	縦断面に敲打痕、平坦面は磨かれている
第185図12 PL.62	石製品 磨石	床直上	ほぼ完	11.5	5.5	3.3	ひん岩	縦断面に敲打痕、平坦面は磨かれている
				11.5	5.5	3.3	ひん岩	縦断面に敲打痕、平坦面は磨かれている
第185図13 PL.62	石製品 砥石	掘り方か	欠損あり	(6.5)	4.4	3.5	斑沢石	先端部を除き、4面が使用面 溝状の切り込みが入る

6号住居跡 (第186図、遺構PL.55、遺物PL.62・63)

位置：Fb～Fc-45～47

西壁方位：N-12°-W

規模・形状：本住居跡は重複により、全容は明らかにできなかった。規模は検出部で南北4.8m×東西2.6mあり、形状は方形が想定される。壁の高さは0.3mである。

カマド：西壁の北寄りに構築されていた。熱焼部の幅は0.54m、張り出しは壁から0.74mであった。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：土師器壺(No2)は床面直上から出土した。須恵器環(No5)は床面から掘り方土にかけて出土した。カマドから床面や掘り方土にかけて、土

師器壺(No3、4)が出土した。

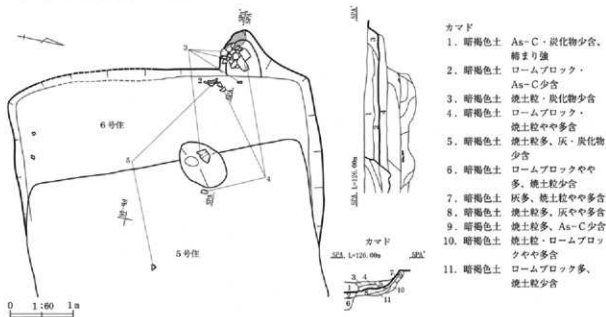
重複遺構：本住居跡の東側で5号住居跡と、下面で7号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡は5号住居跡より古く、7号住居跡より新しいと判断される。

その他：重複により、住居跡の範囲や出土遺物の帰属には不明瞭な点もある。出土遺物や重複関係より、本住居跡の時期は7世紀末と考える。

6号住居跡

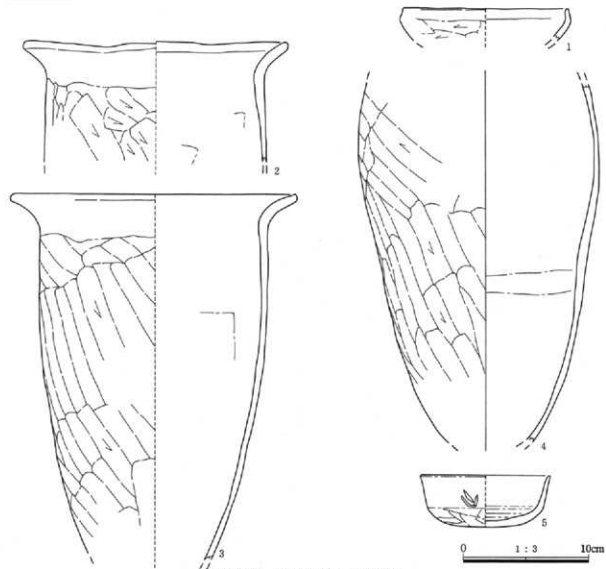
1. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含、締まり弱
2. 暗褐色土 As-C・焼土粒・炭化物・ロームブロック少含
3. 暗褐色土 As-C・焼土粒・やや多含
4. 暗褐色土 As-C少含、床土、締まり強

第4章 引間松葉遺跡目区の調査



カマド

1. 暗褐色土 As-C・炭化物少含、
締まり強
2. 暗褐色土 ロームブロック・
As-C少含
3. 暗褐色土 焼土粒・炭化物少含
4. 暗褐色土 ロームブロック・
焼土粒やや多含
5. 暗褐色土 焼土粒多、灰・炭化物
少含
6. 暗褐色土 ロームブロックやや
多、焼土粒少含
7. 暗褐色土 灰多、焼土粒やや多含
8. 暗褐色土 焼土粒多、灰やや多含
9. 暗褐色土 焼土粒多、As-C少含
10. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロッ
クやや多含
11. 暗褐色土 ロームブロック多、
焼土粒少含



第186図 6号住居跡、出土遺物

6号住居跡 遺物観察表

検出番号	種別	出土位置	計面積 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
図版番号	器種	残存状態				
第186図1	土師器 環	覆土	口 (13.0) 底 - 高 (3.9)	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい赤褐色	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部へラ削り 内面：横ナデ	
PL. 62		口～体1/8				
第186図2	土師器 甕	床面上	口 (20.6) 底 - 高 (9.7)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部へラ削り 内面：ナデ	
PL. 62		口～体上1/4				
第186図3	土師器 甕	カマド	口 (22.7) 底 - 高 (28.7)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部へラ削り 内面：横ナデ	
PL. 63		口～体1/3				
第186図4	土師器 甕	カマド	口 - 底 - 高 (28.0)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい橙	外面：へラ削り 内面：横ナデ	
PL. 63		体7/8				
第186図5	須恵器 環	掘り方	口 (10.2) 底 - 高 4.1	胎 細砂粒少 黒色・白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰白	輪縁整形 外面：体部下～底部へラ削り、体部に工具痕	
PL. 62		口～底1/2				

7号住居跡 (第187～189図、遺構PL.55、遺物PL.62・63)

位置：Fa～Fc-45～47

長軸方位：N-73°-E

規模・形状：本住居跡は5・6号住居跡の下にあるため、上面を中心として不明瞭なところもある。残存部で4.33m×4.25mあり、ほぼ隅丸正方形を呈する。床面積は検出部で17.2㎡、壁の高さは0.55mである。

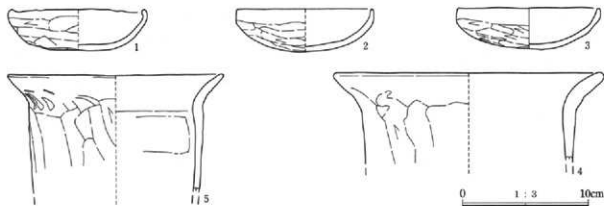
カマド：西壁中央より南に構築されていた。袖などは6号住居跡によって切り取られている可能性がある。検出部で燃焼部の幅は0.75m、張り出しは壁から1.2mであった。

内部施設：壱溝が住居を1周するように掘られていた。貯蔵穴は南西角にあり、0.74m×0.57m、深度は0.25mであった。ピットは検出できなかった。

床面：平坦で、固く締まっていた。

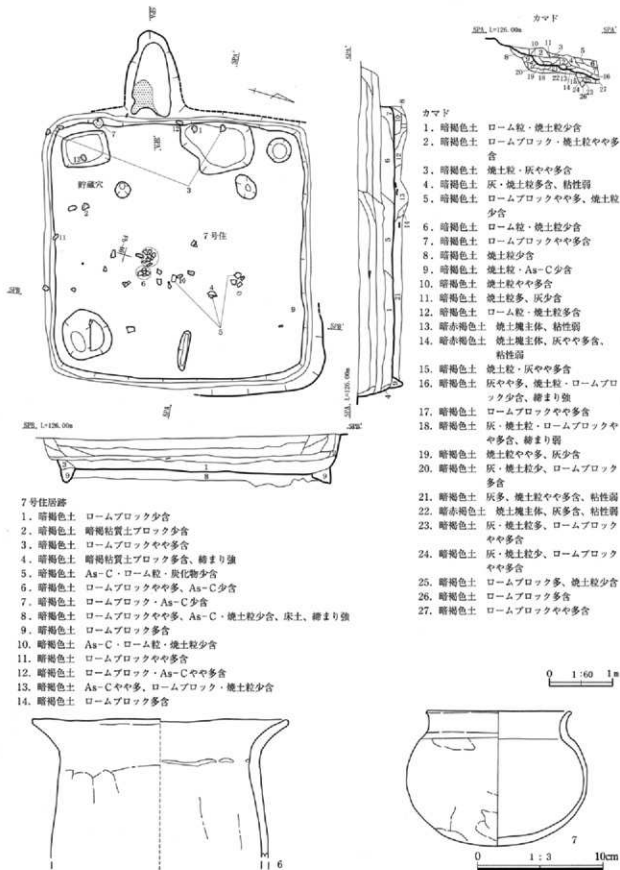
出土遺物：土師器環 (No1、2)、土師器甕 (No6)、土師器小型甕 (No7)、砥石 (No10)、磨礪石 (No11、12) は床面直上からの出土であった。また、貯蔵穴からの出土には磨礪石 (No13) があった。

重複遺構：本住居跡の上面には5・6号住居跡が存在する。新旧関係は、遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡がもっとも古いと判断される。その他：5・6・7号住居跡は位置がほぼ重なり、時期も近接している。出土遺物には、それぞれの住居跡のものが混入している可能性がある。しかし、これらの遺物の中でもっとも古い時期に属するのは、7世紀後葉である。本住居跡はこの住居跡群の中でもっとも古いと考えられることから、その時期は7世紀後葉と考えたい。



第187図 7号住居跡出土遺物 (1)

第4章 引間松葉遺跡Ⅱ区の調査



第188図 7号住居跡、出土遺物(2)

8号住居跡 (第190-192図、遺構PL.55、遺物PL.63・64)

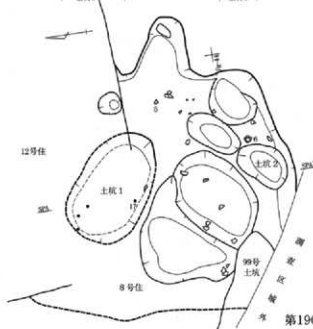
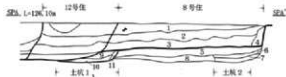
位置: Ff~Fh-43~45

長軸方位: N-80°-W

規模・形状: 本住居跡は、南西角付近が調査区域外にあり、北部や西部には重複する遺構があるため、

全容は明らかにできなかった。検出部で4.13m×4.0mの隅丸方形と考えられるが、西壁が長く延びて台形上になる可能性がある。床面積は不明で、壁の高さは0.4mである。

カマド: 東壁に構築されていた。燃焼部の幅は0.75m、煙道部の先端まで含めて張り出しは、壁から1.07mであった。

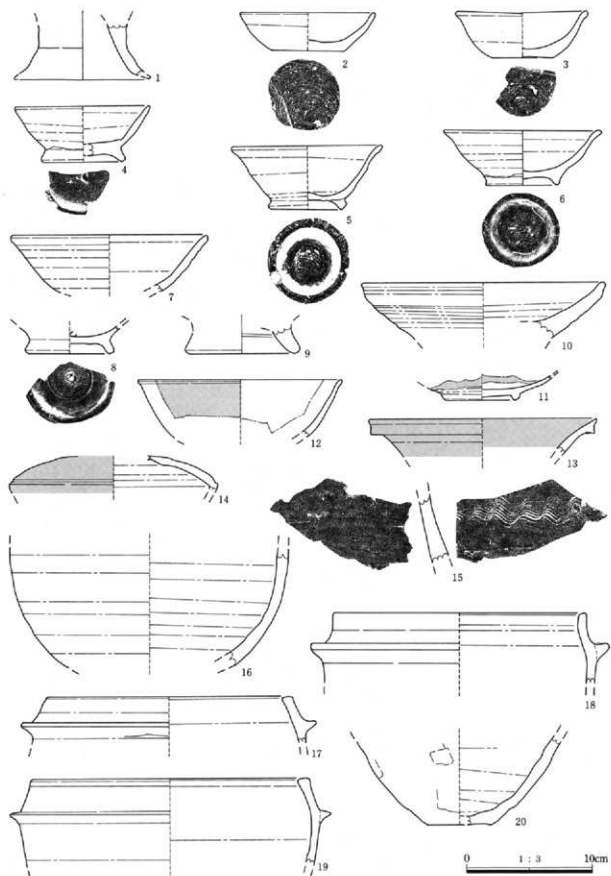


- カマド
1. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含
 2. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含
 3. 暗褐色土 As-C・灰・焼土粒少含
 4. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含
 5. 暗褐色土 As-C・灰・焼土粒・ローム粒少含
 6. 暗褐色土 灰多、焼土粒・As-C少含、締まり弱
 7. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・As-C少含
 8. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック少含
 9. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒・As-C・炭化物少含
 10. 暗褐色土 ロームブロック・As-C少含
 11. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒・As-C・炭化物少含
 12. 暗褐色土 焼土粒少含、粘性強
 13. 暗褐色土 焼土粒やや多含、粘性強
 14. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒・As-C少含、締まり・粘性弱
 15. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含
 16. 暗褐色土 焼土粒やや多含
 17. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロックやや多、炭化物少含
 18. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含

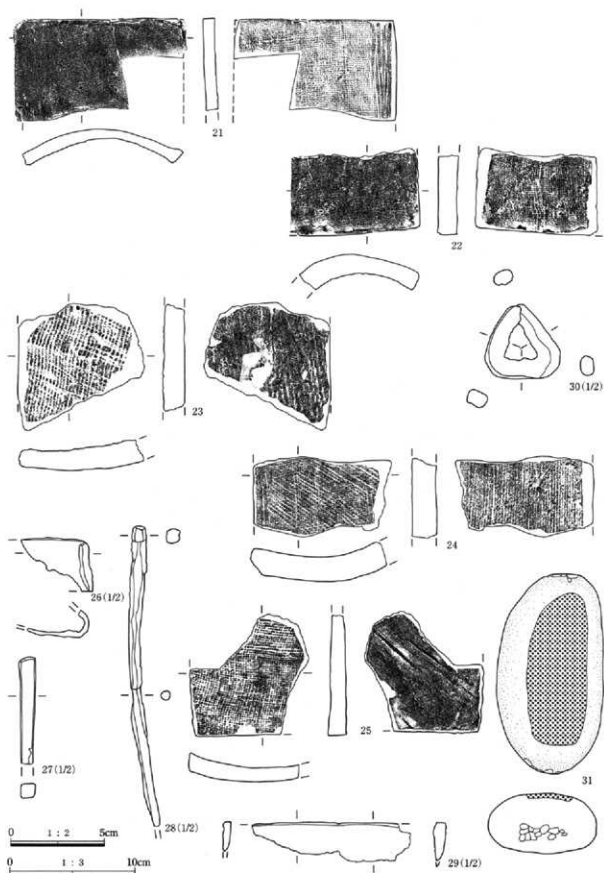
8号住居跡

1. 暗褐色土 焼土粒・As-C少含
2. 暗褐色土 炭化物・ロームブロック少含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
4. 暗褐色土 ロームブロック・暗褐色質土ブロックやや多含
5. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・As-C少含、灰土、締まり強
6. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック少含、締まり弱
7. 暗褐色土 灰・焼土粒・ロームブロックやや多含
8. 暗褐色土 灰・焼土粒少、ロームブロックやや多含
9. 暗褐色土 炭化物・焼土粒・As-C少含
10. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少、As-C極少含
11. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含
12. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含
13. 暗褐色土 ロームブロックやや多、炭化物・焼土粒極少含
14. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含、締まり強
15. 暗褐色土 ロームブロック多含
16. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
17. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含
18. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
19. 暗褐色土 灰やや多、ロームブロック・焼土粒少含

第190図 8号住居跡



第191図 8号住居跡出土遺物(1)



第192図 8号住居跡出土遺物(2)

2. 引間松葉遺跡Ⅱ区の遺構と遺物

内部施設：壁溝、ピットは検出できなかった。貯蔵穴は0.28m×0.57mで、深度0.21mであった。

床面：残存部の床は平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：重複が激しいため、覆土からも遺物の量は多い。土師器台付き甕 (No1)、須恵器羽釜 (No20)、腐黒石 (No31)、鉄製鎌 (No26)、鉄釘 (No27) は床面直上より出土した。須恵器埴 (No6) は掘り方土から、須恵器埴 (No5) は掘り方土と貯蔵穴から、須恵器埴 (No8)、須恵器壺 (No16)、須恵器羽

釜 (No19)、瓦 (No24) は貯蔵穴から出土した。カマド火床からは、瓦 (No22、23) が出土した。

重複遺構：本住居跡南西部で99号土坑と、北部で12号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。西部では9・13号住居跡と重複し、平面と埋土の状況から本住居跡が新しいと判断される。

その他：重複遺構が多く、他の遺構の遺物が含まれている可能性がある。貯蔵穴出土の遺物の様相から、本住居跡の時期は10世紀前葉と判断される。

8号住居跡 遺物調査表

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第191図1 PL 63	土師器 台付き甕	床直上	口 - 底 - 高 (4.1)	胎 粗砂粒やや多 黒色・白色・赤色紅物 焼 酸化焙 良好 色 におい澄	内外面横ナエ	
第191図2 PL 63	須恵器 埴	覆土 口～底 底 完 壘1/2	口 (10.8) 底 5.8 高 3.1	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色紅物 焼 酸化焙 やや軟 色 澄	横輪整形 (右回転) 口縁部 外反 底部：回転糸切り後、 付け高台	
第191図3 PL 63	須恵器 埴	覆土 口～底1/3	口 (10.4) 底 (4.8) 高 3.6	胎 砂粒やや多 白色・赤色・黒色紅物 焼 還元焙 やや軟 色 灰黄	横輪整形 (右回転) 底部： 回転糸切り後、付け高台	
第191図4 PL 63	須恵器 埴	覆土 口～体1/4	口 (10.6) 底 (6.6) 高 4.4	胎 粗砂粒少 白色・黒色・赤色紅物 焼 還元焙 良好 色 におい黄濁	横輪整形 (右回転) 底部： 回転糸切り後、付け高台	内外面口縁部に 油漣付着
第191図5 PL 64	須恵器 埴	掘り方・貯穴 口～底 底 完 壘1/2	口 (12.0) 底 6.2 高 5.1	胎 砂粒やや多 白色・赤色紅物 焼 還元焙 やや軟 色 灰黄	横輪整形 (右回転) 口縁部 外反 底部：回転糸切り後、 付け高台	
第191図6 PL 64	須恵器 埴	掘り方 口～底 底 完 壘1/2	口 12.4 底 5.8 高 4.3	胎 φ7mm小礫 粗砂粒やや多 白・赤・黒色紅物 焼 酸化焙 やや軟 色 におい黄濁	横輪整形 (右回転) 口縁部 外反 底部：回転糸切り後、 付け高台	
第191図7 PL 64	須恵器 埴	土坑1 口～底 - 完 壘1/6	口 (15.4) 底 - 高 (4.0)	胎 砂粒やや多 白色・黒色紅物 焼 還元焙 やや軟 色 灰黄	横輪整形 (右回転) 口縁部 弱く外反 底部：回転糸切り 後、付け高台	
第191図8 PL 64	須恵器 埴	貯蔵穴 口 - 底 (7.0) 高 (2.2)	口 - 底 (7.0) 高 (2.2)	胎 砂粒やや多 白色・赤色・黒色紅物 焼 酸化焙 良好 色 澄	横輪整形 (右回転) 底部：回 転糸切り後、付け高台 内面： 内黒、縦方向のミガキあり	
第191図9 PL 64	須恵器 埴	覆土 高台完	口 - 底 9.0 高 (2.3)	胎 砂粒抄 白色・黒色紅物 焼 還元焙 やや軟 色 灰	横輪整形 厚みがあり、やや 高めの高台	
第191図10 PL 64	須恵器 高坏もしくは 高盤少	覆土 口～体1/6	口 (19.2) 底 - 高 (4.4)	胎 砂粒抄 白色・黒色紅物 焼 還元焙 良好 色 灰白	横輪整形	
第191図11 PL 64	灰輪陶器 皿	覆土 体下～底 底完 壘1/4	口 - 底 5.8 高 (2.5)	胎 緻密 焼 還元焙 良好 色 灰白	横輪整形 (右回転) 内外面 体部まで施釉、刷毛塗り	虎渓山1号室 式期
第191図12 PL 64	灰輪陶器 埴	覆土 口～底 - 完 壘1/6	口 (16.2) 底 - 高 (4.6)	胎 φ3mm小礫 緻密 焼 還元焙 良好 色 灰白	横輪整形 内外面施釉 液け 掛け	大原2号室式 期
第191図13 PL 64	灰輪陶器 長頸壺	覆土 口～頸1/8	口 (18.0) 底 - 高 (3.0)	胎 緻密 焼 還元焙 良好 色 灰白	横輪整形 内外面施釉	
第191図14 PL 64	灰輪陶器 平飯か	覆土 口～底 - 完 壘1/3	口 - 底 - 高 (2.8)	胎 細砂粒少 白色紅物 焼 還元焙 良好 色 灰	横輪整形 外面：施釉、刷毛 塗り	黒坂90号室式 期
第191図15 PL 64	須恵器 甕	覆土 口 - 底 - 高 -	口 - 底 - 高 -	胎 粗砂粒少 白色紅物 焼 還元焙 良好 色 暗灰	外面：波状文 内面：横ナエ	
第191図16 PL 64	須恵器 壺	貯蔵穴 口 - 底 - 高 (9.9)	口 - 底 - 高 (9.9)	胎 φ2mm小礫 砂粒少 白色紅物 焼 還元焙 良好 色 灰白	横輪整形	

第4章 引間松葉遺跡Ⅱの調査

第191図17 PL. 64	須恵器 羽釜	土坑1 口～体上1/8	口 底 高	(19.4) — (3.7)	胎 燒 色	砂粒やや多 白色・黒色炭物 還元焰 良好 灰白	輪軸整形			
第191図18 PL. 64	須恵器 羽釜	覆土 口～体1/4	口 底 高	(20.0) — (5.5)	胎 燒 色	φ3mm小礫 砂粒少 白色・赤色・黒色炭物 酸化焰 良好 灰	輪軸整形			
第191図19 PL. 64	須恵器 羽釜	貯蔵穴 口～体1/8	口 底 高	(22.0) — (7.0)	胎 燒 色	φ10mm 粗砂粒やや多 白色・黒色炭物 酸化焰 良好 灰黄緑	輪軸整形			
第191図20 PL. 64	須恵器 羽釜	床直上 口～ 体下～底1/3	口 底 高	(5.0) (7.0)	胎 燒 色	φ8mm小礫 粗砂粒少 白色・黒色炭物 還元焰 良好	外面：体部へう割り 内面： ナデ			
神田番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・輪痕・ 一枚作り可能性	粘土版(割 取表・裏・ 接合)	奉日痕(合目 ・擦消)・瓦 乾燥時仔痕	輪軸使用・ 叩き技法・ 型式名称	集部 面取	備考	
第192図21 PL. 64	丸瓦	覆土 破片	胎 燒 色	並 差 橙	裏 輪 一	表 裏 接	合 擦 乾	輪 印 型 横溝	1 筋込	赤陶土質・藤岡窯 9世 紀前～中葉
第192図22 PL. 64	丸瓦	カマド 破片	胎 燒 色	並 差 褐灰	裏 輪 一	表 裏 接	合 擦 乾	輪 印 型 横溝	1	赤陶土質・藤岡窯 9世 紀前～中葉
第192図23 PL. 64	平瓦	カマド 破片	胎 燒 色	並 差 にぶい橙	裏 輪 一	表 裏 接	合 擦 乾	輪 印 型 横溝	—	吉井宮小観音山窯 8世 紀後葉～9世紀前葉
第192図24 PL. 64	平瓦	貯蔵穴 破片	胎 燒 色	並 差 褐灰	裏 輪 一	表 裏 接	合 擦 乾	輪 印 型 縦溝	3	観音山窯 8世紀後葉～ 9世紀前葉
第192図25 PL. 64	平瓦	振り方・ 破片	胎 燒 色	並 差 褐灰	裏 輪 一	表 裏 接	合 擦 乾	輪 印 型 太太平行	1	赤陶土質・藤岡窯 9世 紀前～中葉
神田番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			特徴				
第192図26 PL. 64	鉄製品 鏝	覆土 欠損あり	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	基部を折り曲げる跡。刃部はほとんど欠損している			
第192図27 PL. 64	鉄製品 棒状品	床直上 欠損あり	(5.6)	0.75	0.75	11	頭部の折り曲げなどは見られないが、角釘状の棒状品			
第192図28 PL. 64	鉄製品 棒状品	覆土 先端部欠損	(15.8)	0.7	0.7	20	断面円形の長い棒状品。中央部はやや細くなっている			
第192図29 PL. 64	鉄製品 刀子	覆土 欠損あり	(8.3)	2.0	0.6	12	やや湾湾。刃部と基部は欠損している			
第192図30 PL. 65	鉄製品 環状鉄製品	土坑2覆土 完整	3.9	1.1	8	18	断面長方形の棒状品を2箇所折り曲げて、三角形の鎖 状にしている			
神田番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			石材	特徴			
第192図31 PL. 65	石製品 黒曜石か	床直上 ほぼ完	長さ	幅	厚さ		両先端部に敲打痕、平坦面は磨かれている			

9号住居跡 (第193～196図、遺構PL.55、遺物PL.65・66)

位置：Fg～Fi-43～44

長軸方位：N-18°-E

規模・形状：本住居跡は調査区域外にまで広がることと、重複遺構により、全容は明らかにできなかった。検出部で4.28m×3.42mの隅丸長方形に近いが、台形状を呈する。床面積は不明で、壁の高さは0.28mである。

カマド：東壁の南側に構築されていた。燃焼部の幅は不明で、張り出しは壁から0.6m検出した。袖は明らかでないが、瓦が出土していることから、構築材

として瓦を使用していると考えられる。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。しかし、本住居跡からは多数の土坑が検出されている。これらがすべて同一時期に存在し、本住居跡と関連をもっていたとは考えられないが、床面から確認できることや出土遺物の時期が同じと考えられることから、本住居跡に関連するものと判断した。

床面：ほぼ平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：須恵器坏 (No.2)、須恵器塊 (No.3)、灰輪軸器塊 (No.8) は床面直上からの出土である。土

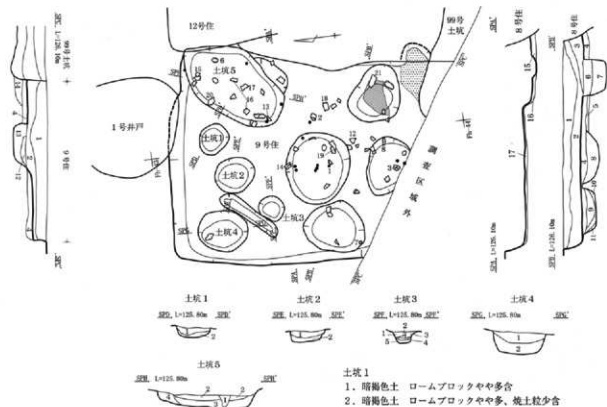
2. 引開松葉遺跡Ⅱ区の遺構と遺物

師器坏 (No1)、灰軸陶器坑 (No7)、緑軸陶器皿 (No10)、瓦 (No19) は掘り方土からの出土である。土坑5からは、須恵陶甕 (No6)、須恵器羽釜 (No15)、須恵器甕 (No16、17) が出土した。

重複遺構：本住居跡の東側で8・12・17号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、8・12号住居跡よりは古く、17号住居跡

よりは新しいと判断される。また、南東部で99号土坑と、北部で1号井戸と重複し、本住居跡が古いと判断される。

その他：重複が激しく、遺構や遺物が入り乱れていることから、時期判断は困難である。しかし、床面出土の灰軸陶器や羽釜から、本住居跡の時期は9世紀末から10世紀前葉と考えたい。



9号住居跡

1. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒・炭化物・ロームブロック少含
2. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック・炭化物・As-C少含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含、床土、締まり強
5. 暗褐色土 ロームブロック多含
6. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック・As-C少含
7. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
8. 暗褐色土 焼土粒やや多、炭化物・ロームブロック少含
9. 暗褐色土 焼土粒やや多、炭化物少含
10. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック少含
11. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
12. 暗褐色土 ロームブロック・炭化物・焼土粒少含
13. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含
14. 暗褐色土 As-C多、焼土粒・ロームブロック極少含
15. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロックやや多含
16. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック少含
17. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、締まり強

土坑1

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含

土坑2

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含

土坑3

1. 暗褐色土 As-C少含
2. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C少含
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
5. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック少含

土坑4

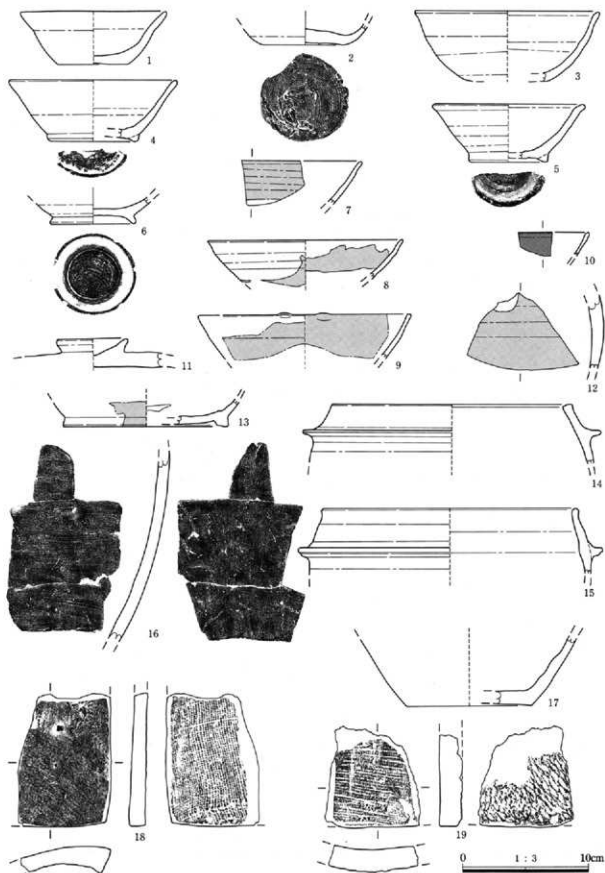
1. 暗褐色土 As-Cやや多、ロームブロック少含
2. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含

土坑5

1. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C少含
3. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒やや多、As-C少含
4. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒やや多含

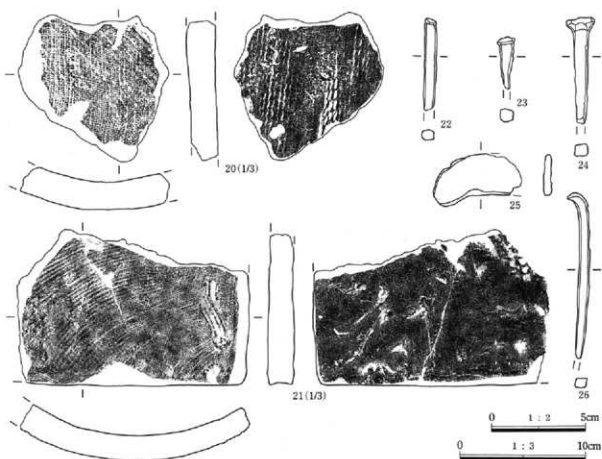
0 1:50 1m

第193図 9号住居跡



第194図 9号住居跡出土遺物(1)

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物

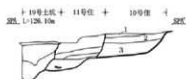
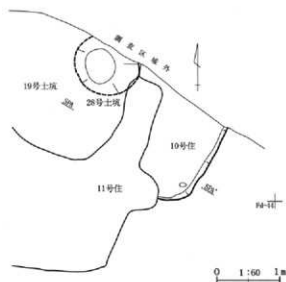


第195図 9号住居跡出土遺物(2)

9号住居跡 遺物調査表

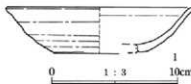
図号 図取番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第194図1 PL.65	土師器 坏	掘り方	口 (11.6) 底 (5.6) 高 (4.2)	胎 砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 微化焙 良好 色 明赤褐色	体部上半から外反する 外 面：口縁部横ナテ、体部一底 部調整不明瞭	
第194図2 PL.65	須恵器 坏	床直上 体一底4/5	口 - 底 6.3 高 (1.7)	胎 φ2mm小礫 粗砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 還元焙 良好 色 灰	轆轤整形(右回転) 底部： 回転糸切り	
第194図3 PL.65	須恵器 坏	床直上 口一底1/3	口 (14.6) 底 - 高 (5.6)	胎 φ5mm小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焙 やや軟 色 灰白	轆轤整形 口縁部弱く外反	
第194図4 PL.65	須恵器 坏	覆土 口一底1/6	口 (13.3) 底 (7.0) 高 4.9	胎 φ9mm小礫 砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 還元焙 良好 色 灰白	轆轤整形(右回転か) 底 部：回転糸切り後、付け高台	
第194図5 PL.65	須恵器 坏	掘り方 口一底1/3	口 (12.0) 底 (7.0) 高 4.6	胎 φ4mm小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焙 良好 色 灰	轆轤整形(右回転か) 口縁 部外反 底部：回転糸切り後、 付け高台	
第194図6 PL.65	須恵器 坏	土坑5 体一底3/4	口 - 底 6.8 高 (2.1)	胎 φ4mm小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焙 良好 色 灰	轆轤整形(右回転か) 底 部：回転糸切り後、付け高台	
第194図7 PL.65	灰輪陶器 坏	掘り方 口破片	口 - 高 - 口 (15.4)	胎 φ3mm小礫 緻密 焼 還元焙 良好 色 灰白	轆轤整形 内外面施釉、漬け 掛け	大原2号窯式 期
第194図8 PL.65	灰輪陶器 坏	床直上 口一底1/5	底 - 焼 還元焙 良好 高 (3.9)	胎 φ5mm小礫 緻密 焼 還元焙 良好 色 灰白	轆轤整形 内外面施釉、硝毛 塗りか	被熱か、大原 2号窯式期
第194図9 PL.65	灰輪陶器 輪花瓶	覆土 口一底1/6	口 (17.0) 底 - 高 (3.5)	胎 細砂粒少 白色鉱物 焼 還元焙 良好 色 灰白	轆轤整形 口唇部一部指押し される 内外面施釉、硝毛塗 りか	被熱か、大原 2号窯式期

その他：出土した遺物は少ないが、重複関係も踏まえると、本住居跡の時期は9世紀後葉と判断される。



10号住居跡

1. 暗褐色土 As-C やや多、焼土粒少含
2. 暗褐色土 As-C ・ロームブロック・焼土粒少含
3. 暗褐色土 As-C やや多、ロームブロック・焼土粒少含



第196図 10号住居跡、出土遺物

10号住居跡 遺物観察表

採回番号 図版番号	種別 器種	出土位置		計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考		
		残存状態	掘り方						
第196図1 PL.66	須恵器 坏	環り方	口 底 高	(14.6) (7.8) (3.6)	胎 焼 色	暗砂粒少 微 にぶい黄緑	白色・黒色雜物 良好	轆轤整形 底部切り際し技法 不明	

11号住居跡 (第197~199図、遺構PL.55、遺物PL.66~67)

位置：Fd~Ff-43~45

長軸方位：N-5°-E

規模・形状：本住居跡は重複により全容は明らかでない。3.45m×3.26mの隅丸長方形に近いが、北壁は長く延びると考えられ、台形状を呈する。床面積は不明で、壁の高さは0.46mである。

カマド：燃焼部の幅は0.75mで、張り出しは壁から0.63mであった。袖の構築材には礫と瓦が使われていた。

内部施設：南東角に貯蔵穴があり、規模は0.9m×0.46mで、深度は0.21mであった。また、中央より西よりの床下には土坑状の落ち込みがあり、規模は1.14m×0.87mで、深度0.12mであった。壁溝やピットは検出できなかった。

床面：平坦で、床は固く締まっていた。

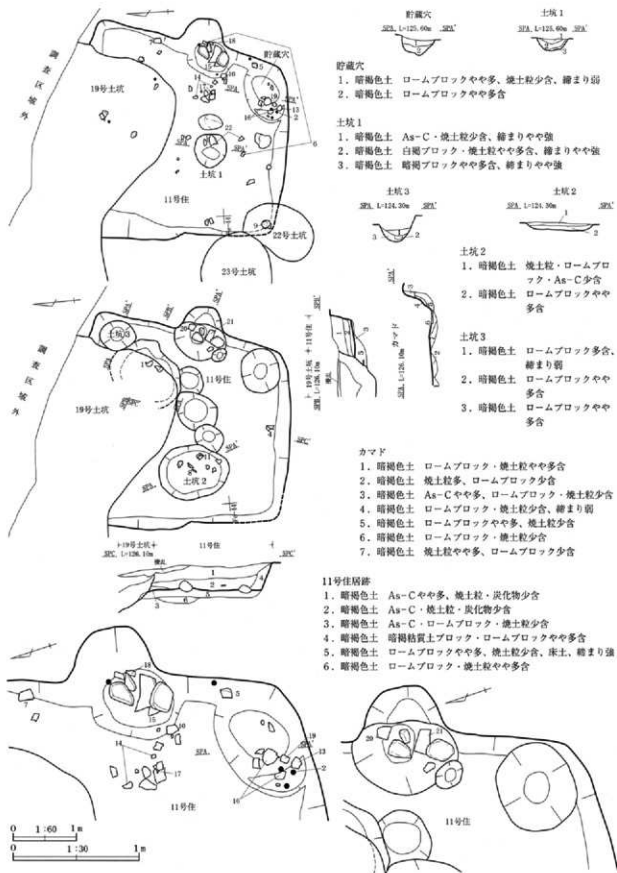
出土遺物：出土遺物の量は多い。重複が多いためか、時期幅は広く、他遺構の遺物が入り込んでいる可能

性がある。須恵器坏 (No 9) は床面直上から出土した。須恵器坏 (No 6) は床面直上からカマドにかけての出土であった。掘り方土からは、土師器坏 (No 1)、土師器甕 (No 4)、須恵器埴 (No 12) があった。貯蔵穴からは、土師器坏 (No 2)、須恵器埴 (No 13)、須恵器甕 (No 16)、瓦 (No 19) があった。カマドからは、須恵器埴 (No 15)、緑軸陶器手取瓶 (No 18)、瓦 (No 20、21) が火床で出土した。

重複遺構：本住居跡の北東角を除く北部で19号土坑と、南西角で22・23号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、東壁では4・10号住居跡と重複するが、本住居跡が新しい。

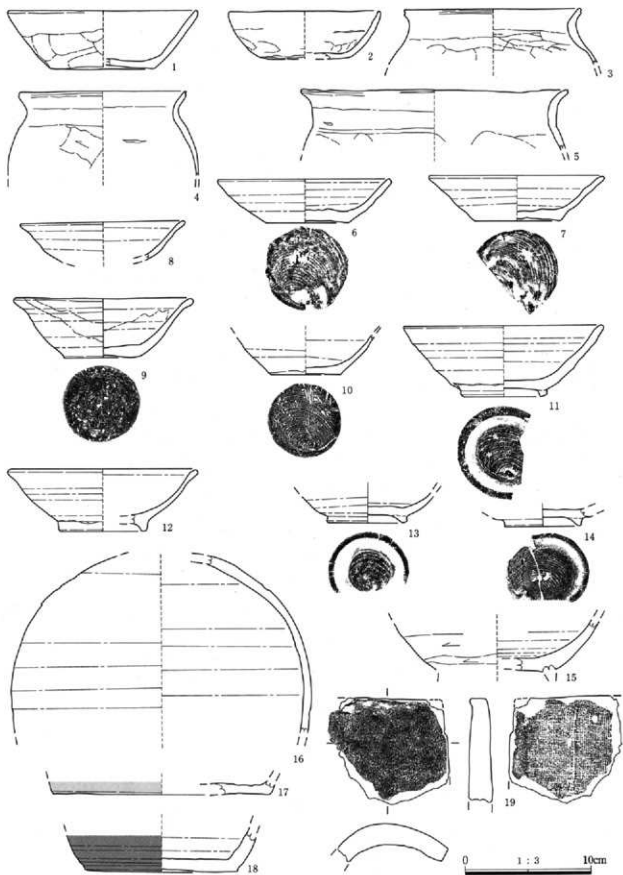
その他：出土した遺物には時期幅があり、他遺構の遺物が混入していると考えられる。しかし、貯蔵穴や掘り方土からの遺物と、重複関係より、本住居跡の時期は9世紀後葉と判断される。

第4章 引開松葉遺跡Ⅲ区の調査

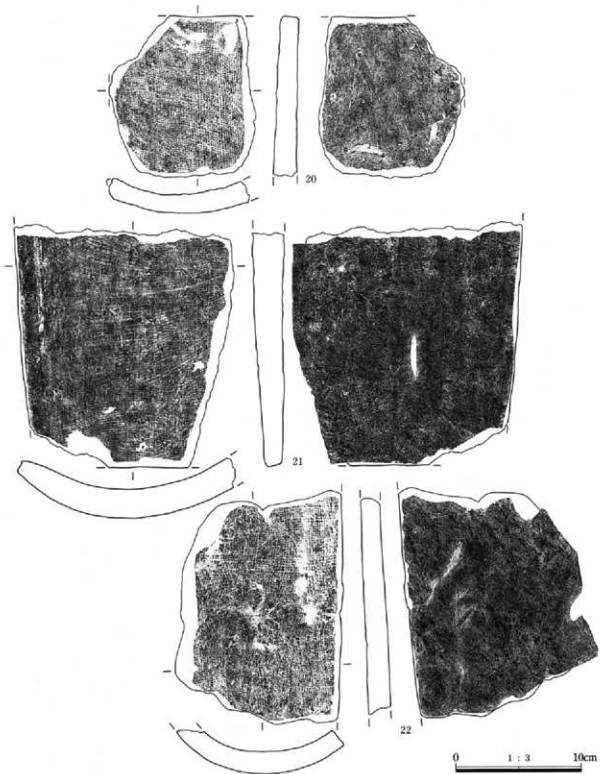


第197図 11号住居跡

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物



第198図 11号住居跡出土遺物(1)



第199図 11号住居跡出土遺物（2）

11号住居跡 遺物観察表

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第198図1 PL. 66	土師器 罎	掘り方 口～底1/3	口 (15.0) 底 (8.2) 高 (4.6)	胎 砂粒少 焼 強化焙 色 橙 白色・黒色灰物 良好	外面：口縁部横ナデ、体部～ 底部へラ削り 内面：横ナデ	

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物

第198図2	土師器 坏	貯蔵穴	口 底	(12.0) -	胎 焼	砂粒少 酸化焰	白色・黒色鉱物 良好	外面：口縁部横ナデ、体部～ 体部へラ削り 内面：ナデ、 指頭任意、輪積み痕			
PL. 66		口～底1/4	口 底	13.9 3.8	胎 色	細砂粒少 酸化焰	白色・黒色鉱物 良好	外面：口縁部横ナデ、体部へ ラ削り 内面：ヘラナデ	内面炭化物付 着		
第198図3	土師器 甕	覆土	口 底	(13.9) -	胎 焼	細砂粒少 酸化焰	白色・黒色鉱物 良好	外面：口縁部横ナデ、体部へ ラ削り 内面：ヘラナデ			
PL. 66		口～体上1/6	口 底	(4.5) -	胎 色	にぶい焼					
第198図4	土師器 甕	覆土	口 底	(13.2) -	胎 焼	砂粒やや多 酸化焰	黒色・白色・赤色鉱物 良好	外面：口縁部横ナデ、1条の 沈線が走る、体部へラ削り 内面：ナデ、輪積み痕			
PL. 66		口～体上1/6	口 底	(6.7) -	胎 色	にぶい焼					
第198図5	土師器 甕	覆土	口 底	(21.0) -	胎 焼	φ3mm小礫 酸化焰	砂粒少 良好	外面：口縁部横ナデ、へラ削 り 内面：横ヘラナデ			
PL. 66		口～体1/3	口 底	(4.5) -	胎 色						
第198図6	須恵器 坏	床直上	口 底	(13.8) 6.5	胎 焼	φ3mm小礫 還元焰	細砂粒少 良好	縦横整形（右回転） 底部： 回転糸切り			
PL. 66		口～底	口 底	3.5 -	胎 色	灰					
第198図7	須恵器 坏	覆土	口 底	(13.8) (6.8)	胎 焼	φ6mm小礫 還元焰	砂粒やや多 良好	縦横整形（右回転） 底部： 回転糸切り			
PL. 66		口～底1/4	口 底	3.6 -	胎 色	灰白					
第198図8	須恵器 坏	土坑2	口 底	(13.0) -	胎 焼	φ5mm小礫 還元焰	砂粒少 やや軟	縦横整形 口縁部外反			
PL. 66		口～体1/5	口 底	(3.4) -	胎 色	明焼灰					
第198図9	須恵器 坏	床直上	口 底	14.2 5.8	胎 焼	φ5mm小礫 酸化焰	粗砂粒少 良好	縦横整形 底部：切り離し技 法不明	内外面炭化物 付着		
PL. 66		ほぼ定	口 底	4.8 -	胎 色	にぶい赤焼					
第198図10	須恵器 坏	覆土	口 底	- 5.6	胎 焼	φ7mm小礫 還元焰	砂粒やや多 やや不具	縦横整形（右回転） 底部： 回転糸切り			
PL. 66		体～底 完他1/3	口 底	(3.1) -	胎 色	黄灰					
第198図11	須恵器 埴	土坑2	口 底	(15.7) (6.7)	胎 焼	φ4mm小礫 還元焰	粗砂粒少 良好	縦横整形（右回転） 底部： 回転糸切り後、付け高台			
PL. 66		口～底1/4	口 底	5.6 -	胎 色	灰白					
第198図12	須恵器 埴	掘り方	口 底	(15.0) (7.0)	胎 焼	細砂粒少 還元焰	黒色・白色鉱物 やや軟	縦横整形（右回転） 底部： 回転糸切り後、付け高台			
PL. 66		口～体1/4	口 底	5.0 -	胎 色	灰					
第198図13	須恵器 埴	貯蔵穴	口 底	- 6.4	胎 焼	φ6mm小礫 還元焰	粗砂粒やや多 良好	縦横整形（右回転） 底部： 回転糸切り後、付け高台			
PL. 66		体下～底3/4	口 底	(2.3) -	胎 色	黄灰					
第198図14	須恵器 埴	覆土	口 底	- 6.0	胎 焼	φ3mm小礫 還元焰	砂粒やや多 良好	縦横整形（右回転） 底部： 回転糸切り後、付け高台			
PL. 66		体下～底 底出穴完他1/2	口 底	(1.3) -	胎 色	暗灰					
第198図15	須恵器 埴	カマド	口 底	- -	胎 焼	砂粒少 還元焰	白色・黒色鉱物 良好	縦横整形（右回転） 底部： 回転糸切り後、付け高台 外 面：へラ削り			
PL. 66		体下～底1/3 高台欠損	口 底	(4.0) -	胎 色	灰					
第198図16	須恵器 甕	貯蔵穴	口 底	- -	胎 焼	φ5mm小礫 還元焰	粗砂粒少 良好	縦横整形			
PL. 66		体1/6	口 底	(14.0) -	胎 色	灰					
第198図17	灰釉陶器 鉢	覆土	口 底	- (17.0)	胎 焼	φ2mm小礫 還元焰	軟害 良好	縦横整形 外面：体部施釉			
PL. 66		底1/8	口 底	(1.1) -	胎 色	灰白					
第198図18	緑釉陶器 手取瓶	カマド	口 底	- (12.1)	胎 焼	砂粒少 還元焰	白色鉱物 良好	縦横整形 底部：回転糸切り後、 ヘラナデ調整 外面：体部～底 部施釉 内面：底部に軸	炭化痕		
PL. 66		体下～底1/4	口 底	(3.6) -	胎 色	灰					
洋国番号	瓦種	出土位置	胎土・焼成・ 色調	製作法・橋脚・ 一枚作り可能性	粘土板（調 取灰・黄・ 接合）	布目痕（合目 ・横滑）・瓦 乾燥時任意	縦横使用・ 叩き技名 ・型式名称	側部 面取	備考		
函版番号	瓦種	残存状態									
第198図19	丸瓦	貯蔵穴 破片	胎 焼 色	縦 横 黄 灰	製 橋 一 なし	2枚 交し	表 裏 接 × ○ × ×	合 接 × × × ×	縦 叩 型 横 無	2	笠懸型、2次焼熟 8世 紀後葉～9世紀前葉
PL. 66											
第199図20	平瓦	カマド 破片	胎 焼 色	縦 横 黄 灰	製 橋 一 ○		表 裏 接 × × × ×	合 接 × × × ×	縦 叩 型 素 文	-	吉井窯 8世紀後葉～9 世紀前葉
PL. 67											
第199図21	平瓦	カマド 破片	胎 焼 色	縦 横 黄 灰	製 橋 一 ○		表 裏 接 × × × ×	合 接 × × ○ ×	縦 叩 型 素 文	3	吉井窯 8世紀後葉～9 世紀前葉
PL. 67											
第199図22	平瓦	覆土 破片	胎 焼 色	縦 横 黄 灰	製 橋 一 ○		表 裏 接 × × × ×	合 接 × × × ×	縦 叩 型 素 文	1	吉井窯 9世紀前葉
PL. 67											

12号住居跡 (第200・201図, 遺構PL.55、遺物PL.67)

位置: Ff~Fh-43~44

北壁軸方位: N-82°-E

規模・形状: 本住居跡の周囲には他の遺構が多くあり、全容は明らかでない。検出部で東西4.25m×南北3.1mあり、隅丸長方形を呈すると考えられる。床面積は不明であり、壁の高さは0.54mである。

カマド: 検出されていないが、瓦が出土しているので、構築材には瓦が使用されていた可能性がある。

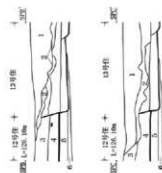
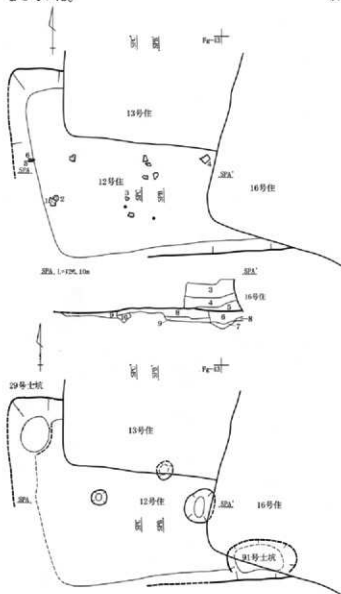
内部施設: 竈溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面: 一部しか残存していないが、平坦で、固く締まっていた。

出土遺物: 瓦 (No 4) は床面直上からの出土である。須恵器埴 (No 1、2)、灰陶器埴 (No 4) は掘り方土からの出土である。

重複遺構: 本住居跡の北側で13号住居跡と、東側で16号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、南側で8号住居跡と、南西部で9・16号住居跡と重複するが、平面と断面の状況から本住居跡が新しいと判断される。

その他: 出土遺物の傾向と重複遺構より、本住居跡の時期は10世紀中葉と判断される。

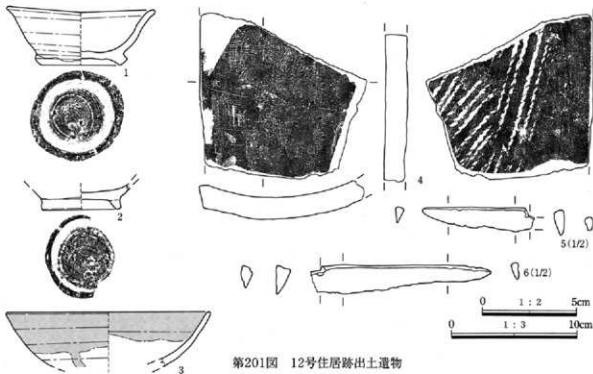


12号住居跡

1. 灰褐色土 細砂質土、攪乱層、締まり弱・粘性なし
2. 暗褐色土 細砂質土、粗砂粒やや多、酸化鉄含、攪乱層、粘性なし
3. 暗褐色土 As-Cやや多、炭化物・焼土粒少含
4. 暗褐色土 As-C・炭化物・焼土粒少含
5. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C・焼土粒・炭化物少含、床土、締まり強
6. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含、締まりやや強
7. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
8. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C・焼土粒・炭化物少含、床土、締まり強
9. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含、床土、締まりやや強
10. 暗褐色土 ロームブロックやや多含

0 1:60 1m

第200図 12号住居跡



第201図 12号住居跡出土遺物

12号住居跡 遺物観察表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		胎土・焼成・色調				器形・技法等の特徴		備考
第201図1 PL. 67	須恵器 甕	廻り方 口~底 口~底 完 他1/2	口 底 高	(11.8) 6.2 4.6	胎 焼 色	粗砂粒やや多 還元焰 黄灰	白色・黒色灰物 やや軟	轆轤整形 (右回転) 底部: 回転糸切り痕、付け高台			
第201図2 PL. 67	須恵器 甕	廻り方 体~底 (山) 底完 他1/2	口 底 高	— 6.2 (2.1)	胎 焼 色	粗砂粒やや多 還元焰 灰白	白色・黒色灰物 良好	轆轤整形 (右回転) 底部: 回転糸切り痕、付け高台			
第201図3 PL. 67	灰輪陶器 甕	廻り方 口~体1/5	口 底 高	(16.0) — (4.3)	胎 焼 色	粗密 還元焰 灰黄	良好	轆轤整形 内外面体部上半 施輪、漬け掛付		大原2号室式 期	
検出番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・桶瓦・ 一枚作り可能性	粘土質 (測 取表・裏・ 接合)	布目痕 (合目 ・擦消)・瓦 乾燥時圧痕	轆轤使用・ 叩き技法・ 型式名称	脚部 面取	備考		
第201図4 PL. 67	平瓦 破片	床直上 破片	胎 焼 色 に お い ぬ	製 桶 一 不明	表 裏 接	× × ×	合 擦 乾 × ○ ×	轆 明 型 × × ×	2	笠懸室 8世紀中葉	
検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)				特徴				
第201図5 PL. 67	鉄製品 刀子	床直上 欠損あり	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	やや小型の刀子				
第201図6 ——	鉄製品 刀子	床直上 基部欠損	(9.5)	1.6	0.8	10	肉厚だが幅狭で、長めの刀子				

13a・b号住居跡 (第202・203図, 遺構PL.55, 遺物PL.67-68)

位置: Ff~Fh-42~44

西壁方位: N-8°-W

規模・形状: 本住居跡も重複が激しく、さらに擾乱が上面に存在していたため、明らかでない点もある。また、調査最終時に壁溝が2つに分かれることから、2軒が重複したものであることが判明した。壁溝がより東に延びるものを13a号住居跡とし、短いもの

を13b号住居跡とする。検出部で13a号は東西3.98mで、13b号は東西2.94mであった。西壁は共通の可能性があり、3.03mを検出した。形状は隅丸長方形を呈するだろう。壁の高さは0.41mである。カマド: 検出されていない。

内部施設: 13a号は北東角を除く北壁から西壁にかけて、13b号は東壁北部から北壁・西壁にかけて壁

第4章 引間松葉遺跡Ⅲ区の調査

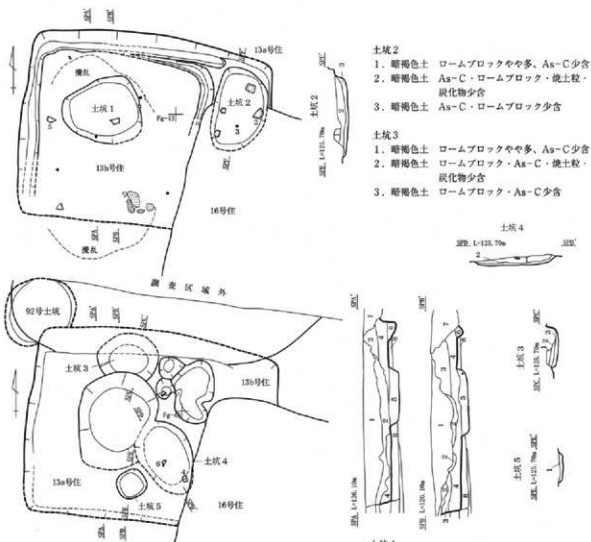
溝が巡る。北壁で2軒の壁溝が重なる。貯蔵穴やピットは検出されていないが、土坑が5基検出された。北東角の土坑2は13a号に属するであろうが、他の土坑の帰属はどちらになるのか、明らかでない。

床面：ほぼ平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：瓦（No5）は床面直上より出土した。須恵器鉢（No2）、須恵器羽釜（No3）は土坑2から、須恵器羽釜（No4）は土坑4の出土である。

重複遺構：本住居跡の北東角を除く東側で16号住居跡と重複し新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、南側で12号住居跡と、北西角で92号土坑と重複するが、本住居跡が新しい。

その他：出土遺物と重複関係より、本住居跡の時期は10世紀後半と判断される。



13a・b号住居跡

1. 灰褐色土 礫砂質土、攪乱層、締まり弱・粘性なし
2. 暗褐色土 礫砂質土、礫砂粒やや多、酸化鉄粒子含、攪乱層、粘性なし
3. 暗褐色土 As-Cやや多、炭化物・焼土粒少含
4. 暗褐色土 As-C・ローム粒・焼土粒少含
5. 暗褐色土 As-C・炭化物・ロームブロック・焼土粒少含
6. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、締まり弱
7. 灰褐色土 砂質土、攪乱層、締まり弱
8. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、床土、締まりやや強

土坑2

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C少含
2. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
3. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含

土坑3

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C少含
2. 暗褐色土 ロームブロック・As-C・焼土粒・炭化物少含
3. 暗褐色土 ロームブロック・As-C少含

土坑4

- 2

土坑4

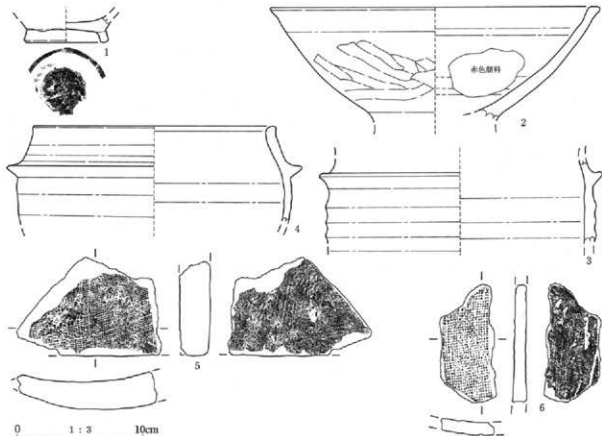
1. 暗褐色土 焼土塊多、ロームブロックやや多含、締まり・粘性弱
2. 暗褐色土 焼土塊・ロームブロックやや多含、締まり・粘性弱

土坑5

1. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒・炭化物少含

第202図 13a・b号住居跡

2. 引間松葉遺跡Ⅱ区の遺構と遺物



第203図 13号 a・b住居跡出土遺物

13号 a・b住居跡 遺物観察表

検出番号 図版番号	種類	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
第203図1 PL.67	須恵器 埴	覆土 体一底1/2	口 底 高 (6.6) (2.1)	胎 焼 色 粗砂較やや多 酸化焙 良好 橙	甕罐整形 (右回転) 底部: 回転糸切り後、付け高台				
第203図2 PL.67	須恵器 鉢	土坑2 口一底1/5	口 底 高 (26.0) (9.0)	胎 焼 色 φ3mm小礫 粗砂較やや多 還元焙 良好 浅黄	甕罐整形 (右回転) 外面: 体部へラ削り	内面赤色顔料 付着			
第203図3 PL.67	須恵器 羽釜	土坑2 体1/4	口 底 高 (6.7)	胎 焼 色 φ4mm小礫 粗砂較多 酸化焙 良好 灰白	甕罐整形				
第203図4 PL.68	須恵器 羽釜	土坑4 口一底1/8	口 底 高 (19.2) (7.7)	胎 焼 色 粗砂較やや多 酸化焙 良好 色にぶい黄橙	甕罐整形				
検出番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・桶裏・ 一枚作り可能性	粘土板 (副 取表・裏・ 乾燥時圧痕)	布目痕 (合目 ・衝消)・瓦 型式名称	甕罐使用・ 叩き技法・ 型式名称	削部 面取	備考
第203図5 PL.68	平瓦	床直上 破片	胎 焼 色 並 赤 灰黄	製 桶 輪 なし あり	表 裏 接 ○ × × ×	合 押 × ×	甕 × × × × × ×	-	吉井藩 9世紀前葉
第203図6 PL.68	平瓦	土坑4 小破片	胎 焼 色 並 粗 灰黄	製 桶 輪 なし あり	表 裏 接 × × ×	合 押 × × ×	甕 × × × × × ×	-	非陶土質 9世紀中葉、 薄作

14号住居跡 (第204~206図、遺構PL.56、遺物PL.68・69)

位置: Ep-Eq-48-50

東壁方位: N-3°-E

規模・形状: 他遺構との重複により不明瞭な点もあ

るが、検出部で3.52m×2.85mあり、南壁がやや長く、隅丸台形を呈する。床面積は7.71㎡、壁の高さは0.62mである。

第4章 引間松葉遺跡Ⅱ区の調査

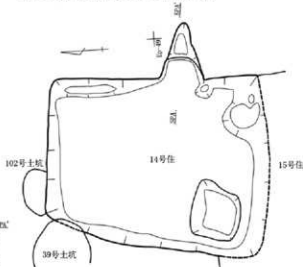
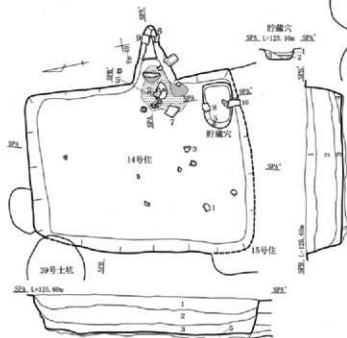
カマド：東壁中央よりやや南よりに構築されていた。燃焼部の幅は0.65m、張り出しは壁から0.98mであった。礫が出土しているものの、瓦が多くカマドから出土しており、構築材には瓦が主体的に使用されていたと判断できる。

内部施設：壁溝やピットは検出できなかった。貯蔵穴は南東角にあり、規模は0.72m×0.46m、深度0.1mであった。

床面：ほぼ平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：須恵器塊 (No 1) は床面直上からの出土である。カマドでは、須恵器塊 (No 2)、瓦 (No 7) が火床から、瓦 (No 6、8) が煙道部から出土した。また、貯蔵穴からは灰輪陶器 (No 5)、瓦 (No 8) が出土した。

重複遺構：本住居跡の南側で15号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。また、北西角で39号土坑と重複するが、本住居跡が古いと判断される。その他：出土した須恵器坏などの様相より、本住居跡の時期は10世紀中葉と判断する。



貯蔵穴

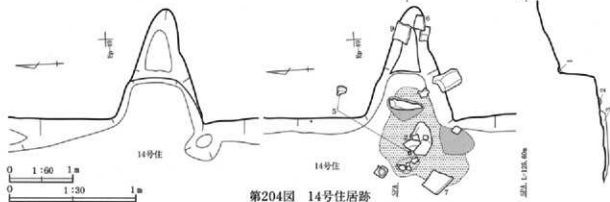
1. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C 少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
3. 暗褐色土 ロームブロック多含

14号住居跡

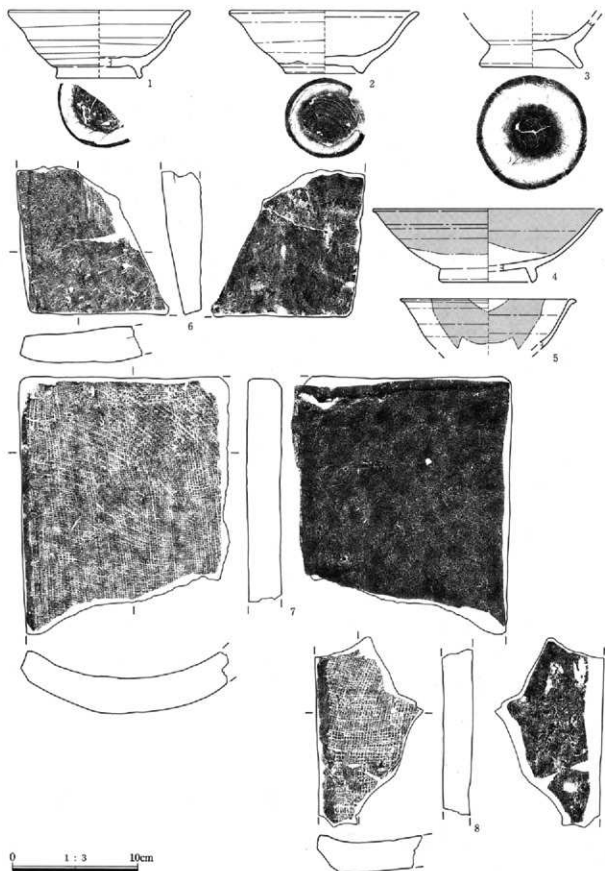
1. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含
2. 暗褐色土 As-C・ロームブロックやや多、炭化物・焼土粒少含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
4. 暗褐色土 ロームブロック少含
5. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、床土、締まり強

カマド

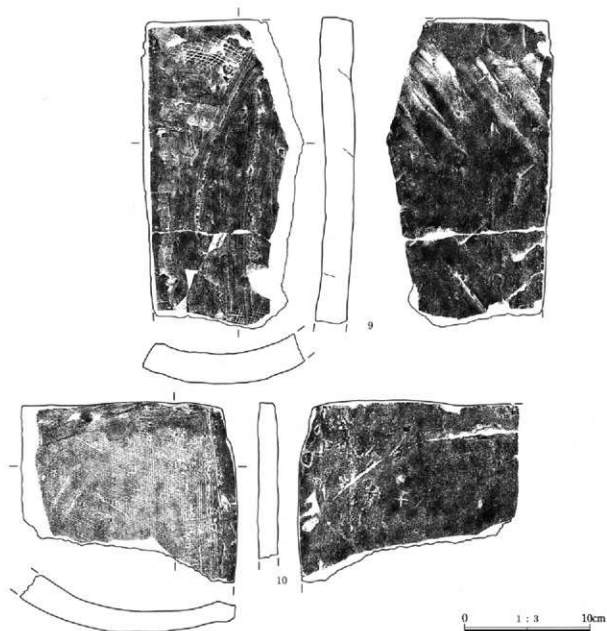
1. 暗赤褐色土 硬化した焼土塊、締まり強・粘性なし
2. 黒褐色土 炭化物・灰が主体、締まり強・粘性弱
3. 暗褐色土 炭化物・灰が主体、焼土粒少含、締まり強・粘性弱



第204図 14号住居跡



第205図 14号住居跡出土遺物(1)



第206図 14号住居跡出土遺物(2)

14号住居跡 遺物観察表

採回番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第205図1 PL.68	須恵器 埴	床直上	口 (14.4) 底 (6.8) 口〜底1/3 高 5.4	胎 小5mm小礫 砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焼 良好 色 灰白	轆轤整形(右回転) 底部: 回転糸切り後、付け高台	
第205図2 PL.68	須恵器 埴	カマド	口 (15.2) 底 (6.2) 口〜底1/4 高 (5.1)	胎 砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 還元焼 やや軟 色 透黄	轆轤整形(右回転) 底部: 回転糸切り後、付け高台	
第205図3 PL.68	須恵器 足高台埴	覆土 体〜底 底 完 他1/4 高 (3.8)	口 - 底 8.1 高 (3.8)	胎 粗砂粒やや多 白色・赤色・黒色灰物 焼 酸化焼 良好 色 橙	轆轤整形(右回転) 底部: 回転糸切り後、付け高台	
第205図4 PL.68	灰輪陶器 埴	カマド覆土・ 住外	口 18.1 底 7.8 口〜底2/3 高 5.8	胎 緻密 焼 還元焼 良好 色 灰黄	轆轤整形 内外面体部施釉、 刷毛塗り	先ヶ丘1号壺 式期
第205図5 PL.68	灰輪陶器 埴	貯蔵穴	口 (13.8) 底 - 口〜体1/8 高 (4.0)	胎 緻密 焼 還元焼 良好 色 灰白	轆轤整形 内外面体部施釉、 刷毛塗り	先ヶ丘1号壺 式期

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物

採回番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・橋痕・ 一枚作り可能性	粘土板(割 取表・裏・ 裡合)	春日瓦(合目 ・捺雨)・瓦 乾燥時位置	輪軸使用・ 叩き技法・ 型式名称	側部 面取	備考
第205図6 PL.68	平瓦	カマド	胎 焼 色 並 並 に お い 燈	製 橋 一 不 明 不 明	表 裏 接 × × ○	合 捺 部 分 乾 × × ×	輪 叩 型 △ 素 文	3	笠懸窯 8世紀中葉
第205図7 PL.68	平瓦	カマド 破片	胎 焼 色 暗 暗 密 灰	製 橋 ○ 一 枚	表 裏 接 × × ×	合 捺 × × ×	輪 叩 型 横 溝	2	笠懸窯 8世紀後半～9世紀初
第205図8 PL.68	平瓦	貯蔵穴 破片	胎 焼 色 暗 暗 密 灰	製 橋 一 な し あ り	表 裏 接 × × ×	合 捺 × × ×	輪 叩 型 素 文	3	観音山窯 8世紀後半～9世紀初
第206図9 PL.68	平瓦	カマド 破片	胎 焼 色 暗 暗 密 灰	製 橋 一 不 明 あ り	表 裏 接 × × ×	合 捺 ○ 乾 × × ×	輪 叩 型 素 文 タ テ 無	3	伏見窯 8世紀後半～9世紀初
第206図10 PL.69	平瓦	覆土 破片	胎 焼 色 並 並 に お い 燈	製 橋 一 な し あ り	表 裏 接 × × ×	合 捺 × × ×	輪 叩 型 素 文	2	笠懸窯か吉丹窯 8世紀後半～9世紀前半

15号住居跡 (第207～209図、遺構PL.56、遺物PL.69)

位置: Ep-Eq-49-50

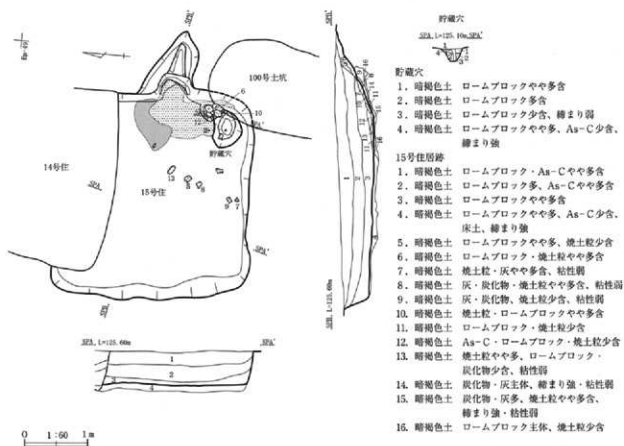
北壁方位: N-87°-E

規模・形状: 重複により、一部明らかにできなかった。検出部で3.27m×3.16m、面積は不明である。

壁の高さは0.55mである。

カマド: 東壁中央よりやや南側で検出した。燃焼部の幅は0.52m、壁からの張り出しは1.12mであった。瓦は貯蔵穴より出土しているが、袖の構架材として使われた可能性がある。

内部施設: 土溝やピットは検出できなかった。貯蔵



第207図 15号住居跡

第4章 引間松乗道跡Ⅲ区の調査

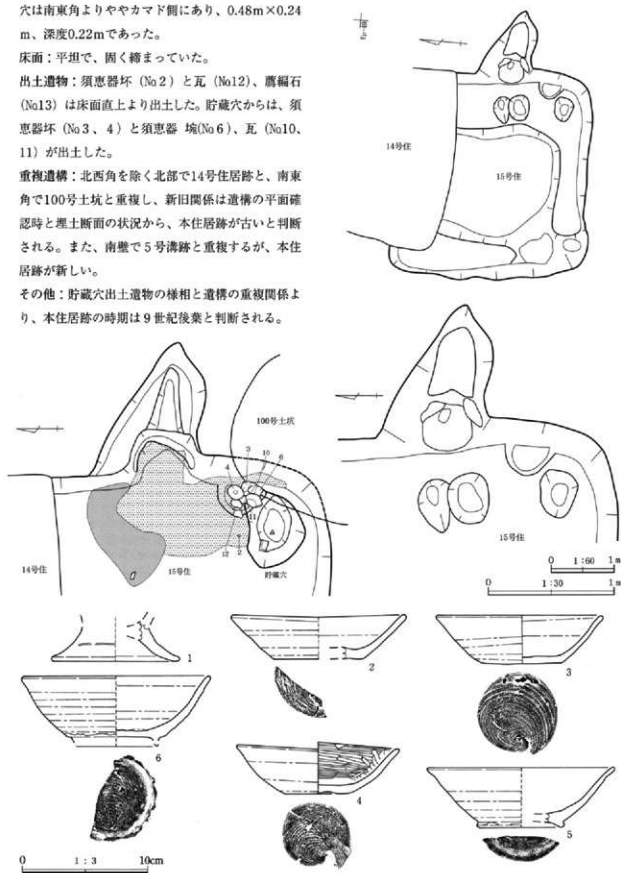
穴は南東角よりややカマド側にあり、0.48m×0.24m、深度0.22mであった。

床面：平坦で、固く締まっていた。

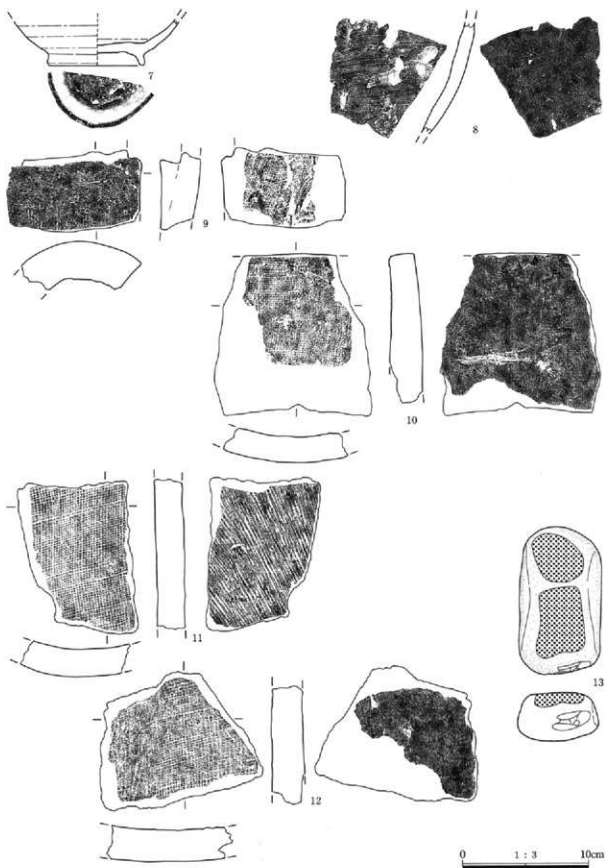
出土遺物：須恵器杯 (No 2) と瓦 (No 12)、藤編石 (No 13) は床面直上より出土した。貯蔵穴からは、須恵器杯 (No 3、4) と須恵器 埴 (No 6)、瓦 (No 10、11) が出土した。

重複遺構：北西角を除く北部で14号住居跡と、南東角で100号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、南壁で5号溝跡と重複するが、本住居跡が新しい。

その他：貯蔵穴出土遺物の様相と遺構の重複関係より、本住居跡の時期は9世紀後葉と判断される。



第208図 15号住居跡掘り方、カマド、出土遺物 (1)



第209図 15号住居跡出土遺物(2)

第4章 引間松葉遺跡Ⅲ区の調査

15号住居跡 遺物観察表

探図番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考		
第208図1	土師器	覆土	口 - 底 (10.2) 高 (3.2)	胎 砂粒やや多 焼 酸化焰 色 赤色・白色・黒色鉱物 明赤黒	内外面ナデ			
PL.69	壺	胴1/4						
第208図2	須恵器	床直上	口 (13.9) 底 (7.0) 高 3.5	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 黒色・白色・赤色 灰白	轆轤整形 (右回転) 底部: 回転糸切り			
PL.69	環	口〜底1/5						
第208図3	須恵器	貯蔵穴	口 13.2 底 6.0 高 4.0	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 黒色・白色・赤色 にぶい黄褐色	轆轤整形 (右回転) 口縁部 回転糸切り	内面: 口縁部 炭化物付着		
PL.69	環	口〜底3/4						
第208図4	須恵器	貯蔵穴	口 12.8 底 5.1 高 4.1	胎 砂粒やや多 焼 還元焰 色 白色・赤色・黒色 にぶい黄褐色	轆轤整形 (右回転) 底部: 回転糸切り	内外面口縁部 炭化物付着		
PL.69	環	ほぼ定						
第208図5	須恵器	覆土	口 (14.8) 底 (6.9) 高 4.7	胎 粗砂粒やや多 焼 還元焰 色 白色・赤色・黒色 にぶい黄褐色	轆轤整形 (右回転) 底部: 回転糸切り後、付け高台			
PL.69	環	口〜底1/6						
第208図6	須恵器	貯蔵穴	口 (15.0) 口〜底1/2 高台欠損	胎 φ4mm小礫 粗砂粒やや多 焼 還元焰 色 白色・赤色・黒色 灰白	轆轤整形 (右回転) 口縁部 外反 底部: 回転糸切り後、 付け高台			
PL.69	環	口〜底2/5						
第209図7	須恵器	覆土	口 - 底 (7.6) 高 (3.6)	胎 φ3mm小礫 粗砂粒やや多 焼 還元焰 色 白色・赤色・黒色 灰白	轆轤整形 底部: 切り離し技 法不明、付け高台			
PL.69	壺	体〜底2/5						
第209図8	須恵器	覆土	口 - 底 - 高 -	胎 φ5mm小礫 砂粒少 焼 還元焰 色 白色・赤色・黒色 灰	外面: 並行目 内面: 横 ナデ			
PL.69	壺	体破片						
探図番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			器形・技法等の特徴	備考	
図原番号	瓦種	残存状態	長さ	幅	厚さ			
第209図9	丸瓦	覆土	胎 硬	製 2枚	表 ×	合 ○	轆轤使用、 叩き技法、 型式名係	笠形窓 8世紀後半
PL.69	有段	破片	焼 並 色 灰白	製 横 一 なし	裏 × 表 × 接 ×	合 × 挿 × 乾 ×	縦 型 縦溝消	
第209図10	平瓦	貯蔵穴	胎 並	製 横	表 ×	合 ×	縦 ×	笠形窓 8世紀後半〜9 世紀初
PL.69	破片	破片	焼 並 色 灰	製 横 一 ○ 一枚	裏 × 表 × 接 ×	合 × 挿 × 乾 ×	縦 × 叩 × 型 × タ子撫	
第209図11	平瓦	貯蔵穴	胎 締	製 横	表 ×	合 ×	縦 ×	腰音山堂か吉井窟 8世 紀後半〜9世紀前半
PL.69	破片	破片	焼 密 色 暗灰	製 横 一 なし あり	裏 × 表 × 接 ×	合 × 挿 × 乾 ×	縦 × 叩 × 型 平行	
第209図12	平瓦	床直上	胎 軟	製 横	表 ○	合 ×	縦 ×	吉井窟 9世紀前半
PL.69	破片	破片	焼 並 色 橙	製 横 一 なし あり	裏 × 表 × 接 ×	合 × 挿 × 乾 ×	縦 × 叩 × 型 素文	
探図番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			石材	特徴	
図原番号	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ			
第209図13	石製品	床直上	11.6	6.4	3.9	ひん岩	先端部に敲打痕、平頭面は磨かれている	
PL.69	磨石か	ほぼ定						

16号住居跡 (第210・211図、遺構PL.55、遺物PL.69・70)

位置: Ff~Fg-43~44

長軸方位: N-13°30'-E

規模・形状: 重複により、一部不明瞭なところもある。

検出部で3.50m×3.32m、面積は推定9.28㎡で、壁の高さは0.5mである。

カマド: 東壁の南角近くで検出した。燃焼部の幅は0.3m、壁からの張り出しは1.24mであった。両脇の袖には煙が残されており構築材として使われていたことがわかる。また、瓦も出土していることから、同様に使用されたと考えられる。

内部施設: 釜沸や貯蔵穴は検出できなかった。ピツ

トラしきものが南西角にあり、規模は0.59m×0.52mで、深度0.6mであった。また、床下の中央部西よりには土坑状の落ち込みが2基検出された。

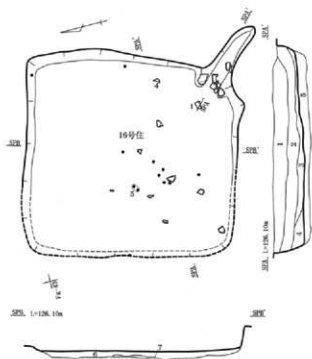
床面: 平坦で、固く締まっていた。

出土遺物: 瓦 (No6) は掘り方土からの出土で、カマドの袖からは須恵器皿 (No2)、同じく火床から土師器壺 (No1)、煎礮石 (No8) が出土した。須恵器環 (No3) はピツからの出土であった。

重複遺構: 西壁付近で13号住居跡と、西壁から南壁にかけて12号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しい

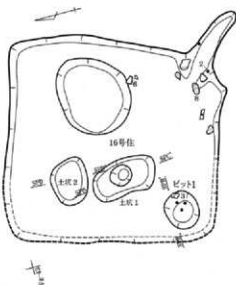
と判断される。

その他：出土した須恵器皿や土師器甕より、本住居跡の時期は11世紀中葉と判断される。



16号住居跡

1. 暗褐色土 As-Cやや多、ローム粒・炭化物・焼土粒少含
2. 暗褐色土 As-C・ロームブロックやや多、炭化物・焼土粒少含
3. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含、粘りやや強
4. 暗褐色土 As-Cやや多、ロームブロック・炭化物・焼土粒少含
5. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含、床土、糲まり強
6. 暗褐色土 As-C・ローム粒・焼土粒少含
7. 暗褐色土 ロームブロック多含



カマド

1. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・灰少含、糲まり弱
3. 暗褐色土 焼土粒やや多、As-C・ロームブロック少含
4. 暗褐色土 ロームブロック多、灰・炭化物少含
5. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含
6. 暗褐色土 As-Cやや多、炭化物少含
7. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロックやや多含
8. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・As-C少含
9. 暗褐色土 灰やや多、ロームブロック・焼土粒・As-C少含
10. 暗褐色土 ロームブロック多含
11. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
12. 暗褐色土 焼土粒やや多、ロームブロック少含
13. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロックやや多含
14. 暗褐色土 焼土粒多、ロームブロックやや多含
15. 暗褐色土 As-Cやや多、ロームブロック少含
16. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含
17. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒やや多含

ピット1

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C少含
2. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含
3. 暗褐色土 ロームブロック・As-C少含
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、糲まり弱

土坑1

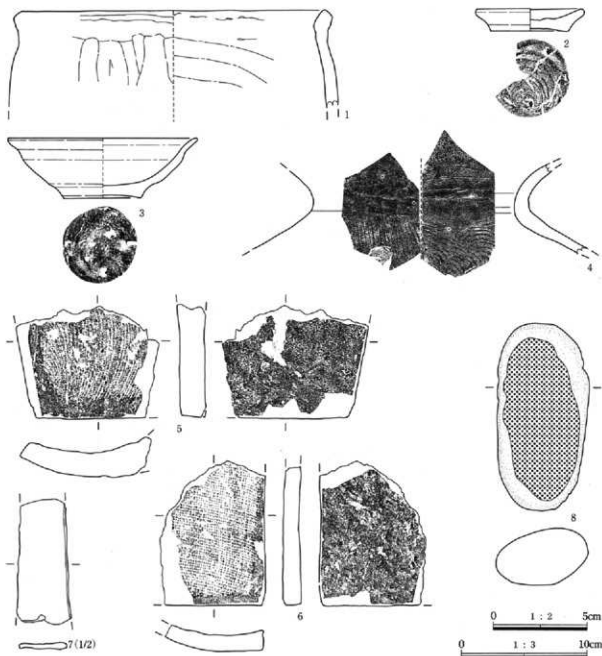
1. 暗褐色土 焼土粒・炭化物・As-C・ロームブロック少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C少含
3. 暗褐色土 焼土粒多、ロームブロック少含
4. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロックやや多含
5. 暗褐色土 ロームブロック多含、焼土粒・炭化物少含
6. 暗褐色土 ロームブロックやや多、炭化物・焼土粒少含

土坑2

1. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多含

0 1:60 1m

第210図 16号住居跡



第211図 16号住居跡出土遺物

16号住居跡 遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第211図1 Pl. 60	土師器 甕	カマド 口~体上1/8	口 (25.2) 底 - 高 (7.7)	胎 ①8mm小礫粗砂粒やや多・黒・赤色灰物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい地	外面：口縁部横ナア、体部へラナア 内面：横へラナア、輪積み痕残る	
第211図2 Pl. 60	須恵器 甕	カマド 口~底3/4	口 8.6 底 6.2 高 1.8	胎 粗砂粒多 黒色・白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい黄澄	輪轆整形（右回転） 底部：回転糸切り	
第211図3 Pl. 70	須恵器 坏	ビット1 口~底 底 完 全 輪2/5	口 (15.0) 底 8.2 高 4.7	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 澄	輪轆整形（右回転） 底部：回転糸切り	
第211図4 Pl. 70	須恵器 甕	覆土 体破片	口 - 底 - 高 (7.2)	胎 砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 暗灰	外面：肩部に自然輪付着 内面：青海波文	

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物

神田番号 図版番号	瓦種	出土位置	胎土・焼成・ 色調	製作法・模痕・ 一枚作り可能性	粘土板(割 取表・裏・ 接合)	春日煎(合目 ・捺煎)・瓦 乾燥時圧痕	簡種使用・ 叩き技法・ 型式名称	細部 図取	備考	
第211図5 PL.70	平瓦	覆土 破片	胎 硬 焼 密 色 暗青灰	製 不 輪 明 一 あり	表 × 裏 ○ 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	幅 × 印 × 型 素文	3	吉井室 9世紀前葉	
第211図6 PL.70	平瓦	掘り方 破片	胎 軟 焼 差 色 におい黄橙	製 輪 輪 なし 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	幅 × 印 × 型 素文	2	藤岡室・赤陶土質 9世紀中葉、薄作	
神田番号 図版番号	種別 器種	出土位置	計測値 (cm)				特徴			
第211図7 PL.70	鉄製品 板状品	覆土 欠損あり	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	扁平で薄い板状品			
第211図8 PL.70	石製品 磨礪石か	カマド 欠損あり	長さ	幅	厚さ	石材	平出面は磨られている 磨礪石を軸石に転用したか			

17号住居跡 (第212図、遺構PL.55、遺物PL.70)

位置：Fg-Fh-43-44

西壁方位：N-13°-E

規模・形状：本住居跡は重複により、ほとんど失われているため、不明瞭なところが多い。重複している他の住居跡の下からカマドなどが確認できたに過ぎない。規模や形状は不明である。

カマド：西壁で検出した。残存部で、燃焼部の幅は0.75m、壁からの張り出しは0.64mであった。

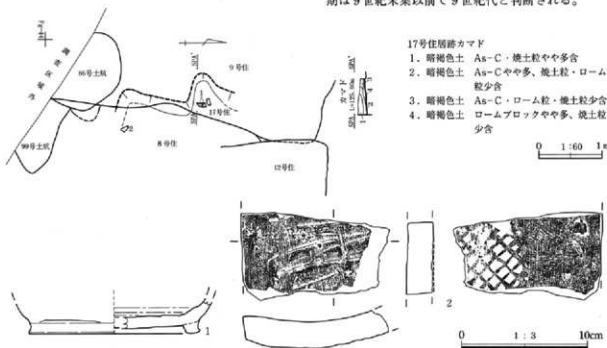
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：ほとんど残存していない。

出土遺物：図示した須恵器壺 (No.1) や瓦 (No.2) は、カマドの火床下より出土した。

重複遺構：カマドを含む西壁付近で9号住居跡と、それより東側では8・12号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他：出土遺物は少なく、時期判断は困難である。重複遺構や出土した瓦から考えると、本住居跡の時期は9世紀末葉以前で9世紀代と判断される。



第212図 17号住居跡、出土遺物

第4章 引間松葉道跡Ⅲ区の調査

17号住居跡 遺物観察表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
第212図1 PL.70	須臾器 壺	カマド 底1/4	口 - 底 (13.5) 高 (28)	胎 φ3mm小礫 産元始 色 砂粒少 良好 白色・黒色臍物 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部一 底部ヘラ削り 内面：ナデ				
検出番号 図版番号	種別 残存状態	出土位置	胎土・焼成・ 色調	製作法・補痕・ 一枚作り可能性	粘土板(割 取表・裏・ 接合)	布目痕(合目 ・捺消)・瓦 乾燥跡(疋痕)	織物使用・ 叩き技法・ 型式名称	側面 面取	備考
第212図2 PL.70	平瓦 破片	廻り方 破片	胎 焼 色 硬 密 灰	製 横 一 なし あり	表 裏 接 ○ ×	合 捺 乾 ×	織 叩 部 分 格子 ×	3	空室籠 8世紀後半～9 世紀初

18号住居跡 (第213・214図、遺構PL.56、遺物PL.70)

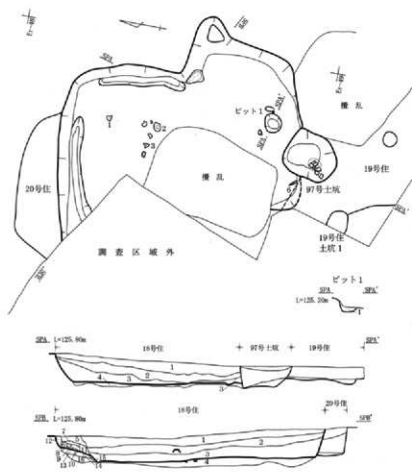
位置：Er-Es-48-49

長軸方位：N-11°-W

規模・形状：本住居跡は調査区域外にまで広がることや擾乱により、一部不明瞭なところもある。検出部で3.88m×2.8m、隅丸長方形に近い形状であろうが、東壁南半が突き出たり、北壁が長く延びるなどやや崩れた形状で検出した。面積は不明で、壁の高

さは0.49mである。

カマド：東壁の中央よりやや南で検出した。蒸焼部の幅は0.65m、壁からの張り出しは0.8mであった。北側の袖には礫が残されており構築材として使われていたことがわかる。また、出土遺物には瓦も含まれていることから、同様に使用された可能性がある。内部施設：東壁下北半と、北東角を除く北壁下で、



18号住居跡

1. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒・炭化物・ローム粒少含
2. 暗褐色土 As-C・焼土粒・炭化物・ローム粒少含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C・焼土粒少含
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、床土、縞まり強
5. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含
6. 暗褐色土 焼土粒多、As-C粒少含
7. 暗褐色土 焼土粒・As-Cやや多含
8. 暗褐色土 焼土粒・As-C少含、床土、縞まり強
9. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロックやや多、As-C少含、床土、縞まり強
10. 暗褐色土 焼土粒少含
11. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・As-C少含
12. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック・As-C少含
13. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒少含
14. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒少含
15. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック多含
16. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック少含

ビット1

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多含

第213図 18号住居跡

壁溝を検出した。また、ピットと土坑状の落ち込みを1基検出した。貯蔵穴は検出できなかった。

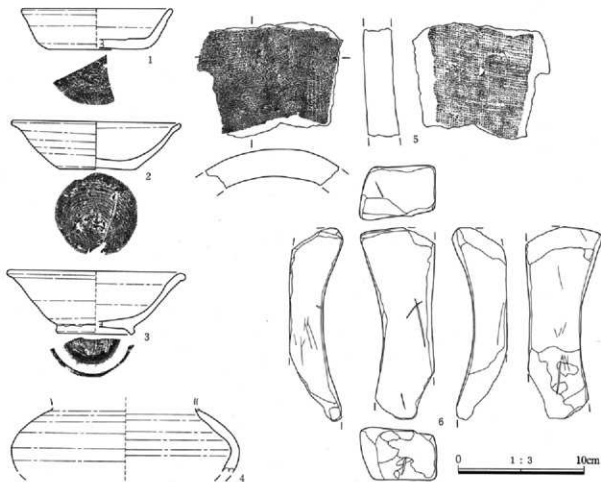
床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：須恵器壺 (No.3)、瓦 (No.5)、砥石 (No.6) は床面直上からの出土であった。

重複遺構：北壁付近で20号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住

居跡が新しいと判断される。また、南壁付近で19号住居跡と97号土坑と重複するが、平面と埋土の状況から本住居跡が古いと判断される。

その他：出土遺物には古い時期のものも混じるが、床面出土の須恵器壺や瓦が出土していることから、本住居跡の時期は9世紀後葉と判断される。



第214図 18号住居跡出土遺物

18号住居跡 遺物観察表

探検番号 図原番号	種類 器種	出土位置		計測値(cm)	胎土・焼成・色調			器形・技法等の特徴	備考
		種類	残存状態		胎	焼	色		
第214図1 PL.70	須恵器 壺	覆土	口~底1/6	口 (12.0) 底 (7.8) 高 3.2	胎 細砂粒やや多 焼 還元焰 色 灰白	胎 白色・黒色疵物 焼 良好	縦壺形 底部：切り離し技法不明、その後ヘラナデ		
第214図2 PL.70	須恵器 壺	覆土	口~底3/4	口 13.5 底 6.0 高 3.8	胎 細砂粒やや多 焼 還元焰 色 灰白	胎 直径3mm小礫 砂粒少 白色・黒色疵物 焼 良好	縦壺形 (右回転) 口縁部外反 底部：回転糸切り	内外面 口縁部に炭化物付着	
第214図3 PL.70	須恵器 壺	床直上	口~底2/5	口 (14.2) 底 (6.2) 高 5.0	胎 粗砂粒やや多 焼 還元焰 色 灰白	胎 白色・黒色疵物 焼 良好	縦壺形 (右回転) 口縁部外反 底部：回転糸切り後、付け高台		
第214図4 PL.70	須恵器 壺	覆土	体1/8	口 - 底 - 高 (5.0)	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 灰	胎 白色・黒色疵物 焼 良好	縦壺形 外面：部分的に自然釉付着		

第4章 引間松葉遺跡Ⅲ区の調査

種別番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・輪轆・ 一枚作り可能性	粘土質(副 取表・裏・ 接合)	布目痕(合目 ・捺消)・瓦 乾燥時圧痕	継輪使用・ 叩き技法・ 型式名称	備部 面取	備考
第214図5 PL.70	丸瓦	床直上 破片	胎 焼 色 並 並 並 灰	製 輪 一 全し	表× 裏? 接×	合× 拵× 乾×	継 叩 型 横断	○	鎌倉山麓か笠懸遺 8世 紀後葉-9世紀前葉
種別番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			石材	特徴		
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ				
第214図6 PL.70	石製品 砥石	床直上 両端部欠損	(15.2)	5.9	2.6	砥沢石	欠損部を除く、ほぼ全面が使用面 溝状の切り込みが入る		

19号住居跡 (第215・216図、遺構PL.56、遺物PL.70)

位置: Er~Es-49~50

東壁方位: N-13°-E

規模・形状: 本住居跡は調査区域外にまで広がることや攪乱により、不明瞭なところが多い。規模や形状、面積は不明で、壁の高さは0.28mである。

カマド: 東壁で検出した。攪乱により燃焼部の幅は不明で、壁からの張り出しは1.27m以上であろう。南側の袖には瓦が残されており檜梁材として使われていたことがわかる。

内部施設: 壁溝や貯蔵穴は検出できなかった。また、検出部西端ではピットと土坑状の落ち込みが1基検

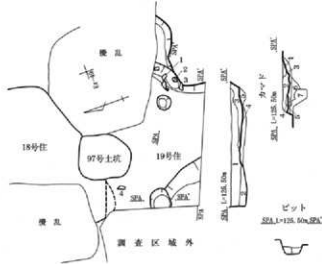
出された。

床面: はほぼ平坦で、固く締まっていた。

出土遺物: 土師器甕 (No.1) はカマドの火床から、灰釉陶器長頸壺 (No.2)、瓦 (No.3) はカマドの袖から出土した。

重複遺構: 北壁で18号住居跡と97号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡は18号住居跡より新しく、97号土坑より古いと判断される。

その他: 出土した土師器甕より、本住居跡の時期は10世紀中葉と判断される。



19号住居跡

1. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・炭化物少含
2. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
3. 暗褐色土 灰やや多、ロームブロック少含
4. 暗褐色土 ロームブロック少含、床土、締まり強
5. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含

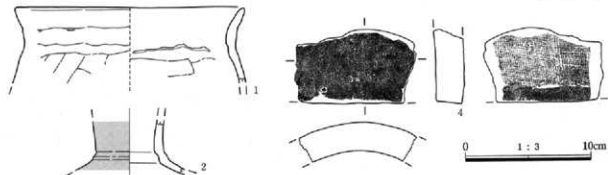
カマド

1. 暗褐色土 焼土粒・灰少含
2. 暗褐色土 灰やや多、ロームブロック・焼土粒少含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含
5. 暗褐色土 灰多、炭化物・焼土粒少含、粘性弱
6. 暗褐色土 灰・焼土粒・ロームブロックやや多含
7. 暗褐色土 炭化物・ロームブロックやや多、焼土粒少含、締まり・粘性弱

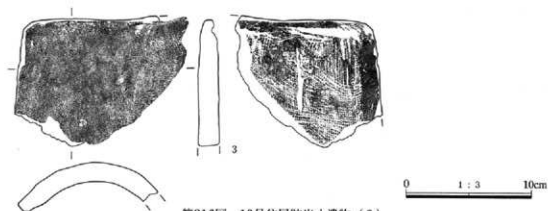
ピット1

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多含

0 1:60 1m



第215図 19号住居跡、出土遺物(1)



第216図 19号住居跡出土遺物(2)

19号住居跡 遺物観察表

図版番号	種類	出土位置	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
第215図1 PL.70	土師器 甕	カマド 口~体上1/3	口 (18.2) 底 - 高 (6.0)	胎 粗砂粒少 焼 酸化焰 色 明赤釉	黒色・赤色・白色灰物 良好	外面：口縁部横ナデ、輪積み痕、体部へら削り 内面：横ヘラナデ、輪積み痕			
第215図2 PL.70	灰輪陶器 長頸壺	カマド 胴下ほぼ完了	口 - 底 - 高 (4.2)	胎 φ3mm小礫 焼 還元焰 色 灰白	砂粒少 良好	白色・黒色灰物 輪壺整形 外面：残存部全体施釉			
図版番号	瓦種	出土位置	胎土・焼成・色調	製作法・破面・一枚作り可能性	粘土板(調取表・裏・接合)	布目痕(合目・横消)・瓦乾燥時圧痕	輪壺使用・叩き技法・型式名称	側面 面取	備考
第216図3 PL.70	丸瓦 破片	カマド	胎 並 焼 並 色 に近い	製 不明 作 あり	表 × 裏 ○ 接 ×	合 △ 横 × 乾 ×	輪 印 型 横消	3	笠懸窯 8世紀後半~9世紀初
第215図4 PL.70	丸瓦 小破片	覆土	胎 締 焼 並 色 灰	製 2枚 作 一 柄 なし	表 × 裏 × 接 ×	合 × 横 × 乾 ×	輪 印 型 横撫	-	笠懸窯 8世紀後半~9世紀初

20号住居跡 (第217図、遺構PL.56)

位置：Er-Es-48-49

北壁方位：N-88°-E

規模・形状：本住居跡は調査区域外にまで広がることや、大半が重複遺構により失われているため、詳細は明らかにできなかった。規模や形状、面積は不明で、壁の高さは0.40mである。

カマド：検出されていない。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

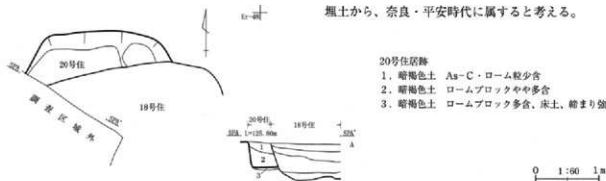
床面：残存部では平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：出土していない。

重複遺構：北壁付近を除く大半で18号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他：遺物の出土が無く、時期は判断できない。

埋土から、奈良・平安時代に属すると考える。



第217図 20号住居跡

20号住居跡

1. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
3. 暗褐色土 ロームブロック多含、床土、締まり強

21号住居跡 (第218図, 遺構PL.56, 遺物PL.71)

位置: Fj-F1-39~40

南壁方位: N-81°-E

規模・形状: 本住居跡は半分以上が調査区域外にまで広がるため、一部不明瞭なところもある。検出部で東西3.05m×南北2.07m、隅丸方形を呈すると考えられる。面積は3.86㎡検出し、壁の高さは0.15mである。

カマド: 東壁の南東角近くに構築されていた。ほとんどが調査区域外に広がるため、一部を検出したに過ぎない。壁からの張り出しは0.21mだけ検出した。
内部施設: 壁溝は検出できなかった。貯蔵穴は南東角にあり、規模は0.39m×0.33m、深度0.2mであっ

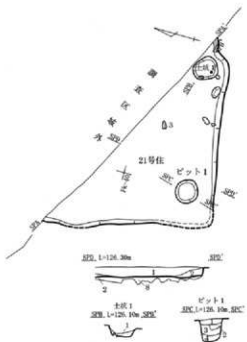
た。ピットは南西角で1基検出し、0.4m×3.6m、深度は0.36mであった。

床面: 平坦で、やや固く締まっていた。

出土遺物: 須恵器羽釜? (No 3) は床面直上からの出土であった。貯蔵穴からは、須恵器杯 (No 2) が出土した。

重複遺構: 南西角で22・24号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。

その他: 貯蔵穴出土の須恵器杯は古い時期のものと考えられるが、他に出土した須恵器羽釜? から、本住居跡の時期は10世紀後半と判断される。



21号住居跡

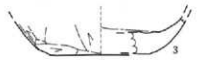
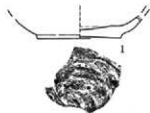
1. 暗褐色土 As-C・炭化物・焼土粒少含
2. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロックやや多含、粘性やや強
3. 暗褐色土 焼土粒・ローム粒少含
4. 暗褐色土 焼土粒やや多含
5. 暗褐色土 ロームブロック少含
6. 暗褐色土 焼土粒多含
7. 暗褐色土 焼土粒・灰少含
8. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含、床土、締まり強
9. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒・炭化物少含
10. 暗褐色土 焼土粒やや多、As-C・ローム粒少含
11. 暗褐色土 焼土粒多含、締まり・粘性弱
12. 暗褐色土 焼土粒やや多、As-C・ローム粒・灰少含、粘性弱
13. 暗褐色土 灰多、焼土粒少含、粘性弱

ピット1

1. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含
2. 暗褐色土 ロームブロック少含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
4. 暗褐色土 ロームブロック多含、粘性やや強

土灰1

1. 暗褐色土 焼土粒やや多、灰少含



第218図 21号住居跡、出土遺物

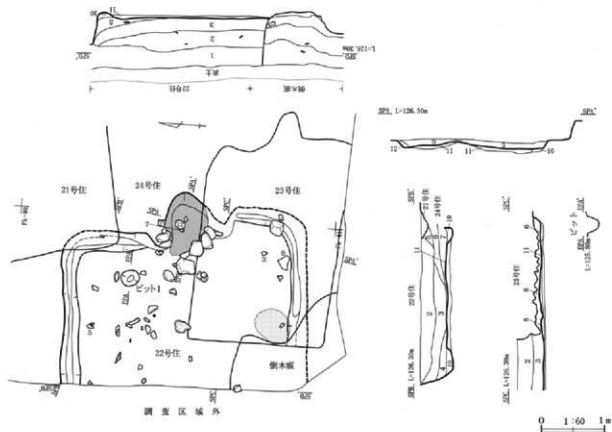
21号住居跡 遺物観察表

押出番号 図原番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第218回1 PL.71	須恵器 環	野嶽穴覆土 体下~底1/4	口 底 高 (6.6) (1.7)	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 灰青	黒色・白色泥物 胎 緻密 焼 還元焰 色 灰青	輪襷整形(右回転) 口縁部 外反 底部:回転糸切り
第218回2 PL.71	緑釉陶器 皿	覆土 体~底1/6	口 底 高 (8.0) (1.3)	胎 緻密 焼 還元焰 色 灰青	胎 緻密 焼 還元焰 色 灰青	輪襷整形 底部も含めて、残 存部内外面施釉
第218回3 PL.71	須恵器 羽釜か蓋	床直上 体下~底1/3	口 底 高 (8.0) (3.0)	胎 φ4mm小 焼 還元焰 色 にぶい帯	胎 砂粒多 白・黒・赤色泥物 胎 緻密 焼 還元焰 色 灰青	輪襷整形小 外面:体部へフ 削り

22号住居跡 (第219~222回、遺構PL.56、遺物PL.71)

位置:Fj~Fl-40~41

東壁方位:N-12°-W

規模・形状:本住居跡は調査区域外にまで広がること
とや重複遺構などにより、一部不明瞭なところもある。検出部で南北3.95m×東西2.35m、隅丸方形に
近い形状であろうが、東壁南半がやや突き出ている。
面積は検出部で8.14㎡、壁の高さは0.45mである。
カマド:東壁のほぼ中央で検出した。燃焼部の幅は

22号住居跡

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------------|
| 1. 暗褐色土 As-B・As-C少含、締まり・粘性弱 | 7. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒少含 |
| 2. 暗褐色土 As-Cやや多、炭化物・焼土粒少含 | 8. 暗褐色土 焼土粒少含 |
| 3. 暗褐色土 As-C・炭化物・焼土粒・ローム粒少含 | 9. 暗褐色土 焼土粒やや多、ロームブロック少含 |
| 4. 暗褐色土 As-C・焼土粒・ローム粒極少含 | 10. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒少含 |
| 5. 暗褐色土 As-C・焼土粒やや多含 | 11. 暗褐色土 As-C・焼土粒・ロームブロックやや多含、床土、締まり強 |
| 6. 暗褐色土 As-C・焼土粒・ローム粒少含 | 12. 暗褐色土 焼土粒多含、締まりやや強・粘性弱 |

第219回 22号住居跡

第4章 引開松築遺跡Ⅲ区の調査

0.92m、壁からの張り出しは0.85mであった。袖には礎が残されており構築材として使われていたことがわかる。

内部施設：カマドを除く北壁、東壁、南壁東側下で、壁溝を検出した。ビットらしき坑が北東角のやや南よりで1基検出された。0.28m×0.24mで深度0.2mであった。他に8基、掘り方面でビット状の落ち込みを検出した。貯蔵穴は検出できなかった。

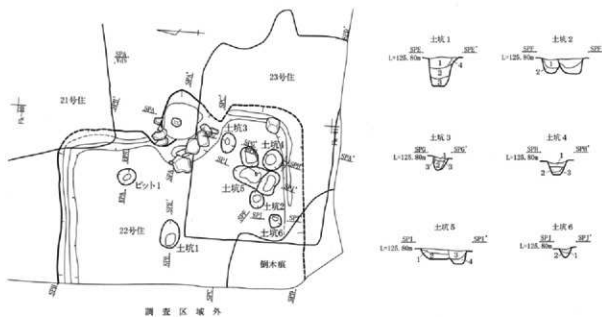
床面：やや凹凸があり、固く締まっていた。

出土遺物：土師器坏 (No5)、須恵器甕 (No9) は床面直上からの出土であった。土師器甕 (No7) はカ

マドの火床から出土した。

重複遺構：北東角で21号住居跡と、南東部で23号住居跡と、南西部で倒木痕と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、東壁中央付近で24号住居跡と重複するが、平面と埋土の状況から本住居跡が新しいと判断される。

その他：出土遺物には覆土からのものが多いが、床面やカマド出土の土師器坏・甕より、本住居跡の時期は8世紀中葉と判断される。



土坑1

1. 暗褐色土 As-C・炭化物・焼土粒・ロームブロック少含
2. 暗褐色土 炭化物・As-C・ロームブロック少含、絡まり強
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、粘性やや強
4. 暗褐色土 ロームブロック多含、粘性やや強

土坑2

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C・焼土粒・炭化物少含
2. 暗褐色土 ロームブロック・炭化物少含

土坑3

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含
2. 暗褐色土 ロームブロック・As-C・焼土粒少含
3. 暗褐色土 ロームブロック少含

土坑4

1. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック・As-C少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含
3. 暗褐色土 ロームブロック少含

土坑5

1. 暗褐色土 焼土粒・炭化物・ロームブロック少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C・焼土粒・炭化物少含
4. 暗褐色土 ロームブロック・炭化物少含

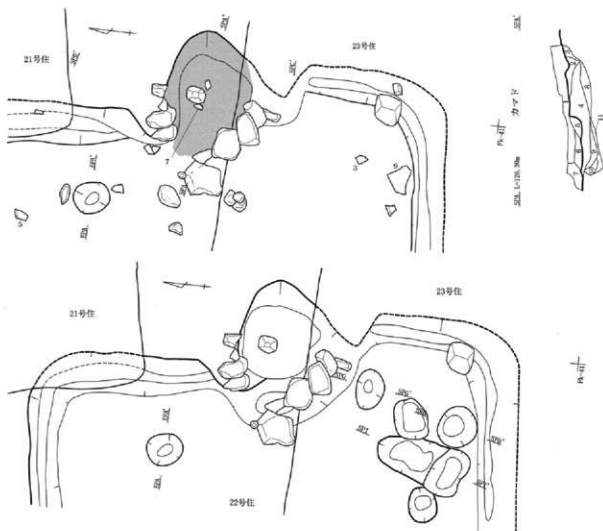
土坑6

1. 暗褐色土 炭化物・ロームブロック・As-C少含
2. 暗褐色土 炭化物・ロームブロック少含



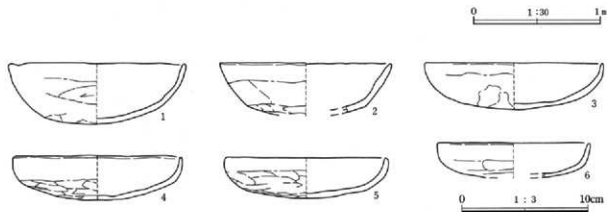
第242図 22号住居跡掘り方

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物



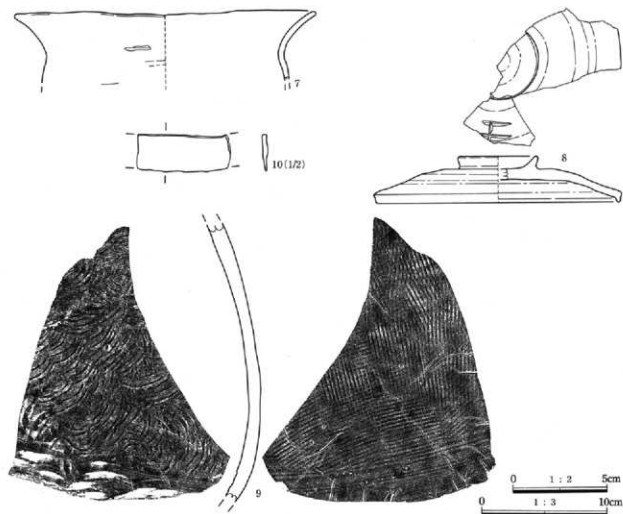
カマド

- | | | | |
|---------|-------------------------|----------|--------------------------|
| 1. 暗褐色土 | As-C・焼土粒・炭化物・ローム粒少含 | 7. 暗褐色土 | 砂岩やや多、焼土粒少含 |
| 2. 暗褐色土 | 焼土粒やや多、As-C・灰少含、絡まり・粘性弱 | 8. 暗褐色土 | 焼土粒・灰やや多、ロームブロック少含、粘性弱 |
| 3. 暗褐色土 | 焼土粒・灰・As-C少含 | 9. 暗褐色土 | 焼土粒・ロームブロック・灰少含 |
| 4. 暗褐色土 | 焼土粒やや多、ロームブロック少含 | 10. 暗褐色土 | 焼土粒・As-C・ロームブロック少含 |
| 5. 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物・ロームブロック少含 | 11. 暗褐色土 | ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含、粘性弱 |
| 6. 暗褐色土 | 焼土粒・As-C・ローム粒少含 | | |



第221図 22号住居跡カマド、出土遺物(1)

第4章 引間松葉道跡Ⅱ区の調査



第222図 22号住居跡出土遺物(2)

22号住居跡 遺物観察表

神岡番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第221図1 PL. 71	土師器 坏	覆土 口~底1/4	口 底 高 - - 4.9	胎 焼 酸化焰 色 砂粒やや多 良好 色	外面：口縁部横ナデ、体部~ 底部へラ削り 内面：ナデ	
第221図2 PL. 71	土師器 坏	覆土 口~底1/4	口 底 高 13.6 - 4.0	胎 焼 酸化焰 色 φ4mm小礫 砂粒少 赤色・白色・黒色臍物 良好 色 におい豊	外面：口縁部横ナデ、体部~ 底部へラ削り 内面：ナデ	
第221図3 PL. 71	土師器 坏	覆土 口~底1/8	口 底 高 14.0 - 3.7	胎 焼 酸化焰 色 砂粒やや多 黒色・白色・赤色臍物 良好 色 におい豊	口縁部直立 外面：口縁部横 ナデ、体部~底部へラ削り 内面：ナデ	
第221図4 PL. 71	土師器 坏	覆土 口~底1/2	口 底 高 13.3 - 3.5	胎 焼 酸化焰 色 砂粒やや多 黒色・白色臍物 良好 色 におい豊	口縁部直立 外面：口縁部横 ナデ、体部~底部へラ削り 内面：ナデ	
第221図5 PL. 71	土師器 坏	床直上 口~底1/4	口 底 高 12.8 - 3.2	胎 焼 酸化焰 色 砂粒やや多 黒色・白色臍物 良好 色 におい豊	口縁部直立 外面：口縁部横 ナデ、体部~底部へラ削り 内面：ナデ	
第221図6 PL. 71	土師器 坏	土坑5覆土 口~底1/6	口 底 高 12.0 - 2.8	胎 焼 酸化焰 色 砂粒やや多 黒色・白色臍物 良好 色 におい豊	口縁部弱く直立 外面：口縁 部横ナデ、体部~底部へラ削 り 内面：ナデ	
第222図7 PL. 71	土師器 甕	カマド 口~体上1/5	口 底 高 24.0 - 5.6	胎 焼 酸化焰 色 砂粒多 白色・黒色・赤色臍物 良好 色	外面：口縁部横ナデ、へラ直 残る、体部へラ削り 内面： 横ナデ	
第222図8 PL. 71	須恵器 蓋	覆土 横~口1/6	口 横 高 19.3 6.2 3.7	胎 焼 還元焰 色 砂粒少 白色・黒色臍物 良好 灰	縦横整形(右回転) 外面： 天弁部上半回転へラ削り、割 青あり	

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物

第222図9 PL. 71	須恵器 類	床直上 口破片	口 底高 — —	胎 色 — —	胎 砂粒少 — —	白色磁物 — —	良好 — —	胎 色 — —	胎 砂粒少 — —	白色磁物 — —	良好 — —	胎 色 — —	胎 砂粒少 — —	白色磁物 — —	良好 — —	外部：平行叩き目 内面：青 海塩文
採出番号	種別	出土位置	計測値 (cm)				特徴									
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	高さ	重量 (g)										
第222図10 PL. 71	鉄製品 板状品	覆土 欠損あり	(4.9)	1.9	0.2	6	扁平で薄い板状品。鏽の刃部か									

23号住居跡 (第223・224図、遺構PL.56、遺物PL.71)

位置：Fj-F1-40-41

東壁方位：N-1°-W

規模・形状：本住居跡は、重複遺構や調査区域外にまで広がることにより、一部明らかにできなかった。検出部で、推定南北3.32m×東西2.25mある。東壁南半は突き出ており、西半分の形状は不明瞭などところがあるが、隅丸長方形に近い形になると考えられる。面積は検出部で5.89㎡、壁の高さは0.31mである。

カマド：東壁のはば中央で検出した。燃焼部の幅は0.82m、壁からの張り出しは0.56mであった。カマド付近からは瓦が出土しており、袖の構築材として使われていたようである。

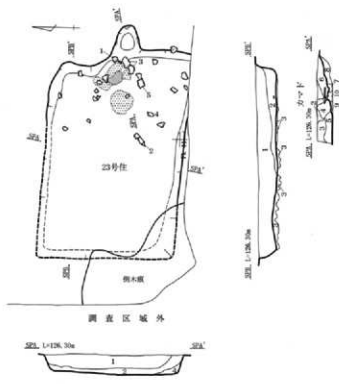
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：ほぼ平坦で、やや固く締まっていた。

出土遺物：須恵器境 (No 2) は床面直上からの出土であった。須恵器足高高台境 (No 1)、瓦 (No 3、5) はカマドの袖から出土した。

重複遺構：本住居跡の西側は22号住居跡と、東壁では25号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。また、南西角では銅木痕と重複し、本住居跡が古い。

その他：出土した須恵器より、本住居跡の時期は10世紀後半と判断される。



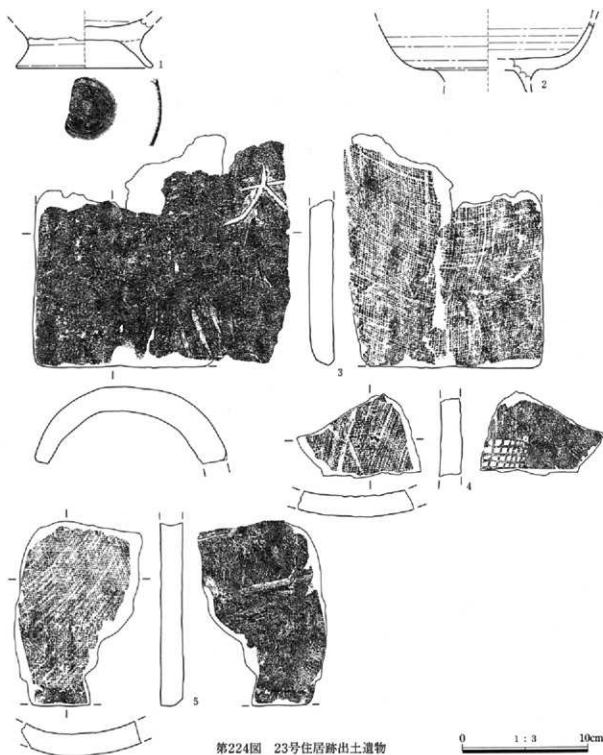
23号住居跡

1. 暗褐色土 As-C・焼土粒・炭化物少含
2. 暗褐色土 As-C・焼土粒・炭化物・ローム粒少含
3. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含、床土、締まりやや強
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多含

カマド

1. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒少含
2. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含
3. 暗褐色土 As-C少含
4. 暗褐色土 焼土粒やや多含
5. 暗褐色土 焼土粒・炭化物・As-C少含
6. 暗褐色土 焼土粒やや多、As-C・灰少含
7. 暗褐色土 ロームブロックやや多、灰・焼土粒少含
8. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロックやや多、焼土粒少含
9. 暗褐色土 灰・炭化物多、焼土粒少含、粘性弱
10. 暗褐色土 焼土粒多、灰・炭化物少含

第223図 23号住居跡



第224図 23号住居跡出土遺物

23号住居跡 遺物観察表

標図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第224図1 Pl. 71	須恵器 足高台 塊	カマド 縦1/4	口 - 底 (10.8) 高 (3.9)	胎 ϕ 3mm 砂粒やや多 焼 酸化焰 色 白・赤・黒色 良好 にぶい橙	輪繩整形 底部：切り離し技 法不明、その後付け高台	
第224図2 Pl. 71	須恵器 塊	床直上 口～底2/5	口 - 底 - 高 (4.7)	胎 ϕ 4mm 小礫 細砂較少 焼 酸化焰 色 白・赤・黒色 良好 橙	輪繩整形 底部：切り離し技 法不明、その後付け高台	足高台塊の

編目番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・輪痕・ 一枚作り可能性	粘土板（副 取表・裏・ 接合）	布目痕（合目・ 擦消）・瓦 乾燥時圧痕	継継使用・ 叩き技法・ 型式名称	側面 面取	備考
第224図3 PL.71	丸瓦	破片	胎 締 焼 密 色 黄灰	製 2枚 輪 寄木か 一 なし	表 × 裏 × 接 ○直	合 × 擦 × 乾 ×	× 素文 × × ×	3	吉井窯 9世紀前半、 ヘラ文字「大」
第224図4 PL.71	平瓦	覆土 破片	胎 硬 焼 密 色 に高い赤褐	製 輪 一 なし 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	× × × × × ×	-	笠懸窯 8世紀後半～9 世紀初
第224図5 PL.71	平瓦	カマド 破片	胎 並 焼 並 色 にぶい黄	製 輪 一 △ 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	× × × × × 素文	-	笠懸窯 8世紀後半～9 世紀初

24号住居跡（第225図、遺構PL.56、遺物PL.72）

位置：Fj～Fl-40～41

東壁方位：N-5°-W

規模・形状：本住居跡は、重複遺構によって大半が切られており、不明なところが多い。検出部で南北1.75m×東西0.8m、隅丸方形になる可能性が考えられる。面積は不明で、壁の高さは0.28mである。

カマド：東壁で検出した。燃焼部の幅は不明で壁からの張り出しは0.55mであった。

内部施設：壁溝や貯蔵穴は検出できなかった。ピットは北東角で検出し、規模は0.53m×0.44mで、深

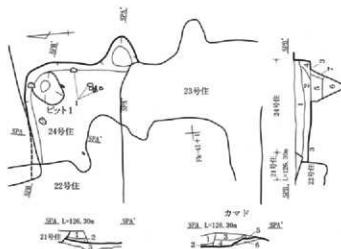
度0.44mであった。

床面：ほぼ平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：土師器甕（No1）はカマド近くの床面直上から出土した。

重複遺構：本住居跡は北壁で21号住居跡と、西部で22号住居跡と、南部で23号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他：出土遺物は少ないが、土師器甕より6世紀後半～7世紀初頭と判断される。



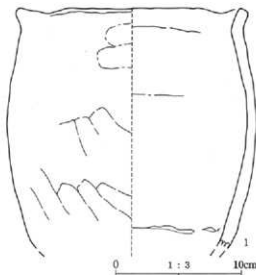
24号住居跡

1. 暗褐色土 As-C やや多、焼土粒・ロームブロック少含
2. 暗褐色土 As-C 焼土粒・ロームブロック・炭化物少含
3. 暗褐色土 As-C 焼土粒少含、ロームブロックやや多、As-C 焼土粒少含、灰土、締まりやや強
4. 暗褐色土 焼土粒やや多・As-C・ロームブロック少含
5. 暗褐色土 As-C 焼土粒少含
6. 暗褐色土 As-C 焼土粒・ロームブロック少含
7. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック少含

0 1:60 1m

カマド

1. 暗褐色土 As-C 焼土粒・炭化物少含
2. 暗褐色土 As-C 焼土粒・炭化物・ローム粒少含
3. 暗褐色土 As-C 焼土粒少含
4. 暗褐色土 暗褐色粘土ブロックやや多含
5. 暗褐色土 As-C ローム粒・焼土粒少含
6. 暗褐色土 焼土粒やや多、As-C ロームブロック少含



第225図 24号住居跡、出土遺物

第4章 引間松葉道跡Ⅲ区の調査

24号住居跡 遺物観察表

採集番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調		器形・技法等の特徴	備考
				胎土	焼成・色調		
第225図1 PL.72	土師器 甕	床直土 口〜体1/6	口 (18.2) 底 - 高 (19.0)	胎 粗砂粒多 焼 酸化焰 色 濃い黄褐色	白色・赤色・黒色鉱物 良好	外面：口縁部ナガ、指面圧痕状の凹み、体部へラ削り 内面：ナガ、輪積み痕	

25号住居跡 (第226・227図、遺構PL.57、遺物PL.71・72)

位置：Fj〜Fk-40〜42

北壁方位：N-80°-E

規模・形状：本住居跡は、重複遺構や調査区域外にまで広がることなどにより、不明なところが多い。検出部で東西2.9m×南北1.5m、形状や面積は不明で、壁の高さは0.3mである。

カマド：検出されていない。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

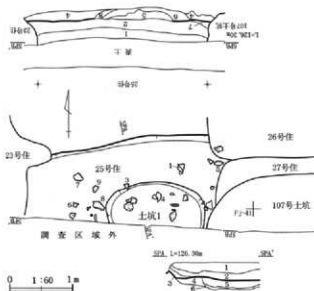
調査区域外にまで広がるが、中央部で土坑が1基検出された。規模は1.58m×0.68m以上、深度0.11mであった。

床面：ほぼ平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：灰粘陶器境 (No.3)、須恵器甕 (No.6) は床面直上からの出土であった。須恵器境 (No.2)、灰粘陶器境 (No.4) は土坑1から出土した。

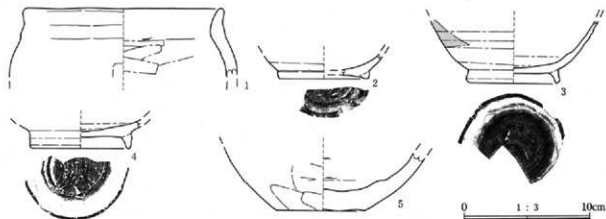
重複遺構：本住居跡の西側は23号住居跡と、東側で26・27号住居跡と107号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と堀土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他：出土した遺物は覆土からのものが多かった。床面出土の灰粘陶器境と重複関係より、本住居跡の時期は10世紀前半と考える。

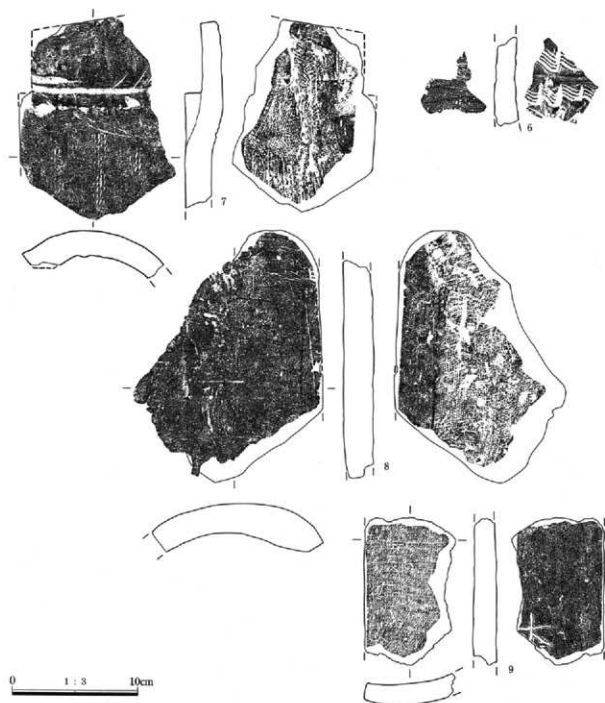


25号住居跡

1. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含
2. 暗褐色土 灰・焼土粒・As-C少含
3. 暗褐色土 暗褐色質土ブロックやや多、As-C少含
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C少含、床土、締まり強
5. 暗褐色土 ロームブロック・炭化物・焼土粒少含
6. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
7. 暗褐色土 As-C・ローム粒・焼土粒少含、締まり弱
8. 暗褐色土 ローム粒やや多、As-C・焼土粒少含、締まりやや強



第226図 25号住居跡、出土遺物 (1)



第227図 25号住居跡出土遺物(2)

25号住居跡 遺物観察表

神田番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)		胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
			口 底 高	胎 焼 色			
第226図1 PL. 71	土師器 壺	覆土 口～体1/6	口 (15.8) 底 - 高 (5.4)	胎 φ6mm小礫 焼 酸化焰 色 良好 橙	外面：口縁部ナデ、体部ヘラ 削り 内面：横ヘラナデ		
第226図2 PL. 72	須恵器 埴	土坑1 体～底1/4	口 - 底 (7.0) 高 (1.9)	胎 粗砂粒やや多 焼 還元焰 色 灰白 やや軟	輪轆整形 底部：切り離し技 法不明、その後付け高台		
第226図3 PL. 72	灰釉陶器 埴	床直上 体～底 底 1/2 他1/6 高 (5.0)	口 - 底 (7.4) 高 (5.0)	胎 φ4mm小礫 緻密 焼 還元焰 色 灰白 良好	輪轆整形 外面：体部施釉、 漬け掛け	大原2号窯式 期	

第4章 引間松葉遺跡Ⅲ区の調査

第226図4	灰輪陶器 境	土坑1	口 底	- 8.0 高 (2.3)	胎 色	緻密 還元焼 色	良好 灰白	輪軸整形	大原2号窯式 期					
PL.72														
第226図5	須恵器 羽釜か甕	覆土	口	-	胎 色	小3mm小礫 酸化焼 色	砂粒やや多 白・黒・赤色混用 良好	輪軸整形か 削り	外面：体部ヘラ 内面：ヘラナデ					
PL.72														
第227図6	須恵器 甕	床直上	口	-	胎 色	小3mm小礫 還元焼 色	砂粒少 黒色・白色混用 良好	外面：波状文						
PL.72														
埋国番号	瓦種	出土位置	胎土・焼成・ 色調	製作法・稀血・ 一枚作り可能性	粘土板（測 取表・裏・ 接合）	布目痕（合目 ・捺消）・瓦 乾燥時圧痕	輪軸使用・ 叩き技法・ 形式名称	部面取	備考					
図取番号	残存状態													
第227図7	丸瓦 有段	覆土 破片	胎 色	並 密 色	製 桶 一	2 枚 なし	表 裏 接	× × ×	合 捺 乾	× × ×	輪 叩 型	繩 給 消	2	藤岡窯 8世紀中葉
PL.72														
第227図8	丸瓦	覆土 破片	胎 色	並 密 色	製 桶 一	2 枚 なし	表 裏 接	× ○ ×	合 捺 乾	× × ×	輪 叩 型	○ 横 推 型	3	藤岡窯・赤陶土質 8世紀中葉
PL.72														
第227図9	平瓦	覆土 破片	胎 色	並 密 色	製 桶 一	なし あり	表 裏 接	○ × ×	合 捺 乾	× × ×	輪 叩 型	× タテ 推	1	吉井窯・赤陶土質 9世紀前半
PL.72														

26号住居跡 (第228・229図、遺構PL.57、遺物PL.72)

位置：Fj~F1-40~41

長軸方位：N-90°

規模・形状：本住居跡は、調査区域外にまで広がるため、全容は明らかでない。検出部で、2.45m×2.22m、隅丸長方形になると考えられる。面積は不明で、壁の高さは0.2mである。

カマド：東壁中央付近で検出した。燃焼部の幅は不明で、壁からの張り出しは、検出部で0.7mであった。袖には煙があり、構築材として使われていたといえる。

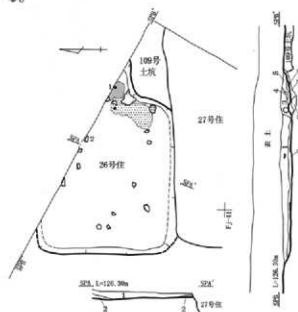
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：土師器甕（No.2）は床面直上から出土した。またカマドからは、土師器甕（No.1）が火床で出土した。

重複遺構：本住居跡は南壁で27号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、南西角で25号住居跡と、東壁で109号土坑と重複するが、本住居跡が新しい。

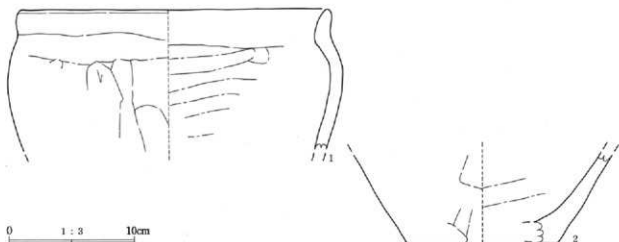
その他：出土遺物は少ないが、土師器甕より10世紀後半と判断される。



26号住居跡

1. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含
2. 暗褐色土 暗褐色粘土ブロックやや多含
3. 暗褐色土 As-Cやや多、ローム粒・焼土粒少含
4. 暗褐色土 焼土粒多含
5. 暗褐色土 焼土粒多含、灰少含、粘性弱
6. 暗褐色土 焼土粒・灰・炭化物・ローム粒少含
7. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒・ロームブロック少含、粘性弱
8. 暗褐色土 ロームブロック少含

第228図 26号住居跡



第229図 26号住居跡出土遺物

26号住居跡 遺物観察表

検出番号 図面番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第229図1 PL. 72	土師器 壺	カマド 口~体1/6	口 (24.4) 底 - 高 (11.1)	胎 φ4cm小礫 焼 粗形粒やや多 赤・白・黒色底物 色 酸化塩 良好 澄	外面：口縁部ナデ、体部ヘラ削り 内面：横ヘラナデ	
第229図2 PL. 72	土師器 壺	床直上 体下~底1/6	口 - 底 (11.8) 高 (7.2)	胎 φ5cm小礫 焼 粗形粒やや多 赤・白・黒色底物 色 酸化塩 良好 明赤弱	外面：体部ヘラ削り 内面：ヘラナデ	

27号住居跡 (第230-231図、遺構PL.57、遺物PL.72-73)

位置：Fi~Fk-40~42

北壁方位：N-85°-E

規模・形状：本住居跡は、重複遺構や調査区域外にまで広がることなどにより、不明なところが多い。

検出部で東西3.45m×南北1.05m、形状や面積は不明で、壁の高さは0.35mである。

カマド：検出されていない。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：平坦で、やや固く締まっていた。

出土遺物：土師器壺 (No 1) は床面直上からの出土であった。床面から掘り方土にかけては須恵器塊 (No 3) が、壁に張り付くようにして須恵器羽釜 (No 4) が出土した。

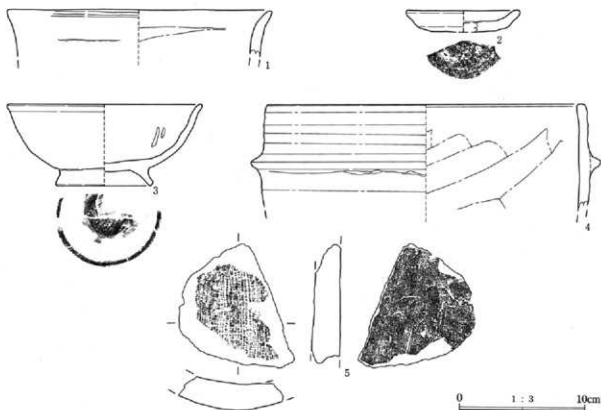
重複遺構：本住居跡の中央西よりを中心として、107号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と堀土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、西壁で25住居跡と、北壁で26号住居跡・109号土坑と重複するが、本住居跡が新しい。

その他：出土した須恵器塊・羽釜より、本住居跡の時期は11世紀前半と考える。



第230図 27号住居跡

第4章 引間松葉遺跡Ⅱ区の調査



第231図 27号住居跡出土遺物

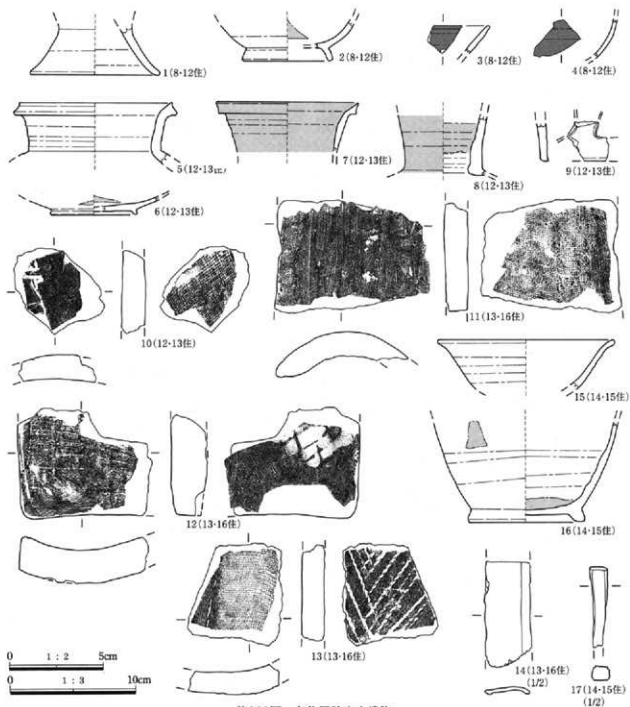
27号住居跡 遺物観察表

採回番号 図版番号	類別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)		胎土・焼成・色調		器形・技法等の特徴		備考				
第231図1 PL. 72	土師器 羹	床直上	口 底	(21.0) -	胎 焼	砂粒やや多 酸化焙 色	白色・黒色・赤色彩物 良好 にぶい橙	外面：口縁部横ナデ、輪積み 内面：横ヘラナデ					
第231図2 PL. 72	須恵器 皿	覆土	口 底	(9.0) (5.0)	胎 焼	砂粒やや多 酸化焙 色	赤色・黒色・白色彩物 良好 にぶい黄褐色	輪轆成形 底部：切り離し技 法不明					
第231図3 PL. 72	須恵器 碗	床直上・掘 り方	口 底	(15.4) (7.8)	胎 焼	砂粒やや多 酸化焙 色	黒色・白色・赤色彩物 良好 にぶい黄褐色	輪轆成形 底部：切り離し技 法不明、その後付け高台 内 面：内黒、縦方向のミガキ					
第231図4 PL. 72	須恵器 羽蓋	埋	口 底	(25.1) -	胎 焼	φ4mm小礫 酸化焙 色	粗砂粒少 良好 橙	輪轆成形 内面：ヘラナデ					
採回番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・模痕・ 一枚作り可能性	粘土板(割 取表・裏・ 接合)	布目痕(合目 ・捺目)・瓦 乾燥時圧痕	輪轆使用・ 叩き技法・ 型式名称	頸部 面取	備考				
第231図5 PL. 73	平瓦 小破片	覆土	胎 焼 色	並 並 にぶい黄褐色	製 模 一	不 明 あり	表 裏 接	× × ×	合 捺 乾	× × ×	輪 叩 型	×	吉井室か藤岡室 8世紀 後葉～9世紀前半

各住居跡出土の遺物 (遺物PL.72・73)

ここでは、各住居跡の覆土から出土した遺物で、個別の住居跡に帰属させることができなかったものを掲載した。特に8・12・13・16号住居跡は、重複が激しく、調査時は覆土出土の遺物がどの住居跡に属するのか、判別できなかったものもある。これら

の遺物は、各住居跡の時期から考えて、10世紀代に属すると考えられる。また、14・15号住居跡も隣接する住居跡で、一部の遺物が帰属させられなかった。これらの遺物の時期は9世紀後半から10世紀中葉に属すると考えられる。



第232図 各住居跡出土遺物

第4章 引間松葉遺跡Ⅲ区の調査

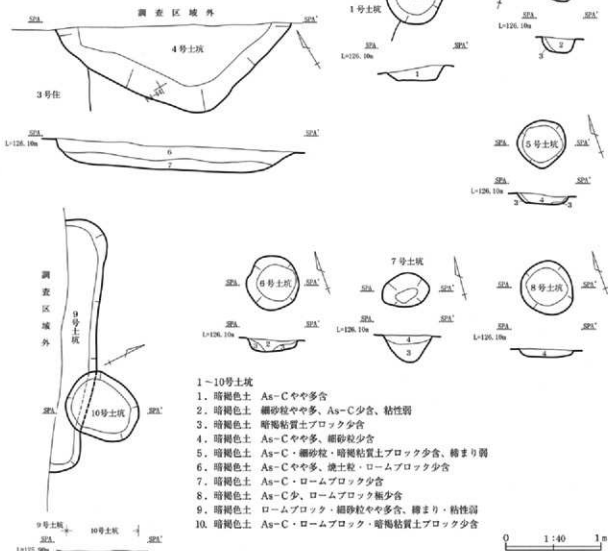
各住居跡 遺物観察表

棟号番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考		
			長さ	幅					
第232図1 PL.72	須恵器 足高台碗	8-12住覆土 腰1/3	口 - 底高 (10.2) 高 (4.1)	胎 砂粒少 焼 酸化焰 色 橙	胎 砂粒少 白色・赤色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好	轆轤整形			
第232図2 PL.72	灰輪陶器 碗	8-12住覆土 体~底1/8	口 - 底高 (7.2) 高 (3.3)	胎 細密 焼 還元焰 色 灰	胎 細密 焼 還元焰 良好	轆轤整形 (右回転) 内面: 体部施釉、漬け掛け	大原2号窯式 期		
第232図3 PL.72	緑輪陶器 碗	8-12住覆土 口破片	口 - 底高 - 高 -	胎 細砂粒少 焼 還元焰 色 灰	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好	轆轤整形 内外面施釉	築設窯		
第232図4 PL.72	緑輪陶器 碗	8-12住覆土 体破片	口 - 底高 - 高 -	胎 細密 焼 還元焰 色 灰	胎 細密 焼 還元焰 良好	轆轤整形 内外面施釉	築設窯		
第232図5 PL.72	須恵器 短册壺	12-13住覆土 口~腰1/8	口 (12.0) 底高 - 高 (5.4)	胎 細砂粒少 焼 還元焰 色 灰	胎 細砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好	轆轤整形 内面:口縁部から 頸部に自然釉			
第232図6 PL.72	灰輪陶器 皿	12-13住覆土 口~底1/4	口 - 底高 (6.9) 高 (1.5)	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 灰白	胎 砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好	轆轤整形 内外面体部に施釉	大原2号窯式 期		
第232図7 PL.73	灰輪陶器 長頸壺	12-13住覆土 口~腰1/6	口 - 底高 - 高 (4.0)	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 灰白	胎 砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好	轆轤整形 内外面施釉			
第232図8 PL.73	灰輪陶器 壺	12-13住覆土 腰1/3	口 - 底高 - 高 (4.8)	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 灰	胎 砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好	轆轤整形 外面:残存部全体 施釉			
第232図9 PL.73	須恵器 円面硯か	12-13住覆土 腰破片	口 - 底高 - 色 灰	胎 細砂粒少 焼 還元焰 色 灰	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好	内面:頸部上半施釉 内外面 ナゲ、透かし彫り入る	形の異なる透 かし彫りの一 部が残存		
第232図15 PL.73	須恵器 碗	14-15住覆土 口~体1/6	口 (14.0) 底高 (4.0)	胎 φ2mm小礫 焼 酸化焰 色 にぶい橙	胎 φ2mm小礫 砂粒やや多 白・赤・黒色灰物 焼 酸化焰 良好	轆轤整形			
第232図16 PL.73	灰輪陶器 長頸壺	14-15住覆土 体~底1/5	口 - 底高 (9.1) 高 (8.0)	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 灰白	胎 砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好	轆轤整形 外面:体部上半施 釉 内面:底部に輪付着			
棟号番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・輪痕・ 一枚作り可能性	粘土板 (測 取表・裏・ 接合)	布目痕 (合目 ・推測)・瓦 乾燥時圧痕	轆轤使用・ 叩き技法・ 型式名称	側面 面取	備考
第232図10 PL.73	丸瓦 小破片	13-16住土	胎 並 焼 並 色 並 焼 並 色 並	製 不明 輪 不明	表 × 裏 × 接 ×	合 × 摺 × 乾 ×	轆 × 叩 × 型 素文	-	吉井窯 9世紀前葉へ テ文字「□部(a)□」
第232図11 PL.73	丸瓦 覆土 破片	13-16住 覆土 破片	胎 並 焼 並 色 並 焼 並 色 にぶい橙	製 △ 輪 一 一 なし	表 × 裏 × 接 ×	合 × 摺 × 乾 ×	轆 × 叩 × 型 タテ瓦	3	笠懸窯 8世紀中葉
第232図12 PL.73	平瓦 覆土 破片	13-16住 覆土 破片	胎 並 焼 並 色 並 焼 並 色 橙	製 △ 輪 △ 一 あり	表 ○ 裏 ○ 接 ×	合 × 摺 ○ 乾 ×	轆 × 叩 × 型 格子部分	3	笠懸窯 8世紀中葉
第232図13 PL.73	平瓦 覆土 小破片	13-16住 覆土 小破片	胎 並 焼 並 色 並 焼 並 色 橙	製 △ 輪 一 一 あり	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 摺 × 乾 ×	轆 × 叩 × 型 輪草組	-	笠懸窯 8世紀中葉
棟号番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)				特徴		
第232図14 PL.73	鉄製品 板状品	13-16住覆土 欠損あり	長さ (5.5)	幅 2.3	厚さ 0.2	重量 (g) 4	扁平で薄い板状品。両端が湾曲する		
第232図17 PL.73	鉄製品 棒状品	14-15住覆土 先端部欠損	(4.3)	0.9	0.7	7	頭部の折り曲げは見られないが、角釘か		

(3) 土坑

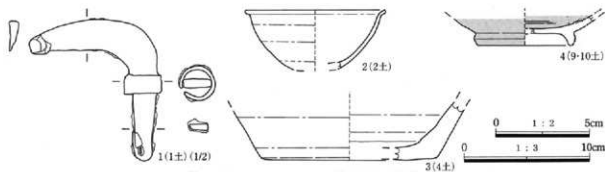
本遺跡では、同一面で複数の時代に亘る遺構調査を行っているため、どの時期に属するか不明なものが多い。土坑の規模や形状、覆土は様々であり、奈良・平安時代から近代に至る土坑が検出されたものと考えられる。出土遺物には、奈良・平安時代の土師器・須恵器が多いが、流れ込みのような覆土中の遺物が多いため、一部明瞭なものを除いて、時期判断は控えたい。

土坑の中で、遺物の出土が多いなど、特徴のある14～17号・19号土坑については記述する。その他の土坑についての詳細は、計測表を参照されたい。



第233図 1～10号土坑

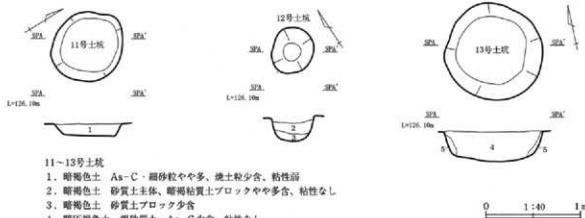
第4章 引間松葉遺跡Ⅲ区の調査



第234図 1・2・4・9・10号土坑出土遺物

1・2・4・9・10号土坑 遺物観表

検出番号	種類	出土位置	計測値 (cm)			胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考	
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	特徴		
第234図 2	須恵器 埴	2土坑覆土	口 底	(11.0) -	胎 焼 色	砂粒少 難化焙 色 橙	白色・赤色・黒色灰物 良好	輪轆整形 口縁部外反	
PL.73		口~体1/8	口 底	- (14.0)	胎 焼 色	砂粒少 還元焙 色 灰白	白色灰物 良好	内外面横ナデ	
第234図 3	須恵器 甕	4土坑覆土	口 底	- (7.4)	胎 焼 色	緻密 還元焙 色 灰白	良好	輪轆整形 外面：底部まで施 軸 内面：底部まで輪轆、底 部に環状の目痕	先ヶ丘1号窯 式期
PL.73		体~底1/8	口 底	- (2.4)	胎 焼 色				
第234図 4	灰輪陶器 埴	9・10土坑 覆土	口 底	- (2.4)	胎 焼 色				
PL.73		体~底1/6							
検出番号	種類	出土位置	計測値 (cm)			特徴			
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	特徴		
第234図 1	鉄製品 釵	1土坑覆土 ほぼ完	7.4	7.0	0.4	26	刃部先端は曲げられているが、装着部まで残る。また、柄の本質部の痕跡が残る。		



11～13号土坑

1. 暗褐色土 As-C・細砂粒やや多、焼土粒少含、粘性弱
2. 暗褐色土 砂質土主体、暗褐色粘質土ブロックやや多含、粘性なし
3. 暗褐色土 砂質土ブロック少含
4. 暗褐色土 粗砂質土、As-C少含、粘性なし
5. 暗褐色土 4層と同様の砂質土、暗褐色粘質土ブロックやや多含、粘性なし

第235図 11～13号土坑

14～16号土坑 (第236・237図、遺構PL.58、遺物PL.73・74)

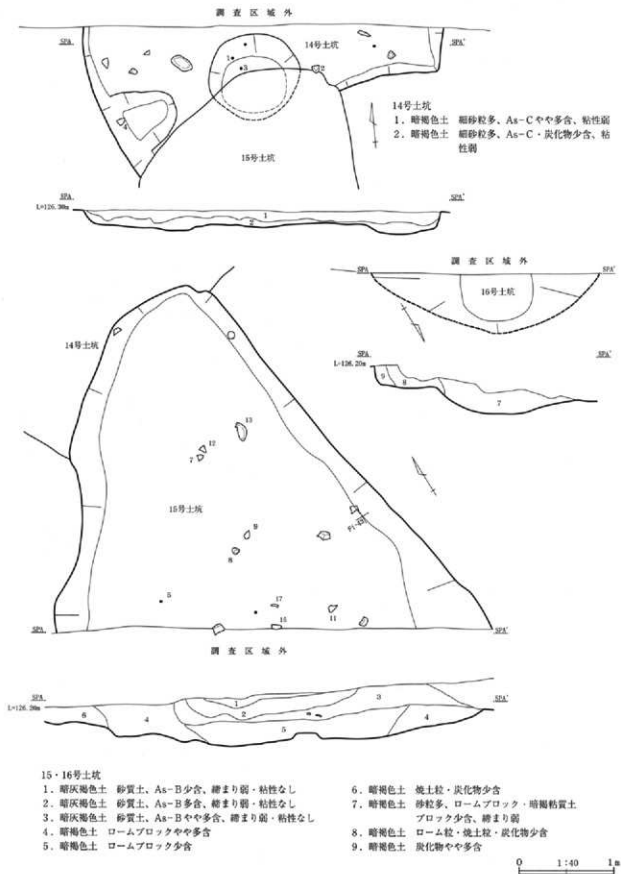
位置：Fh-Fj-42-44

概要：調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。掘り込みの浅い土坑が何基も重なっている状態であった。その中で主要なものについて記載する。形状は14・15号土坑が不整形で、16号土坑が楕円形になる可能性がある。遺物が全体的に広がっており、廃棄場のような性格であった可能性

が考えられる。

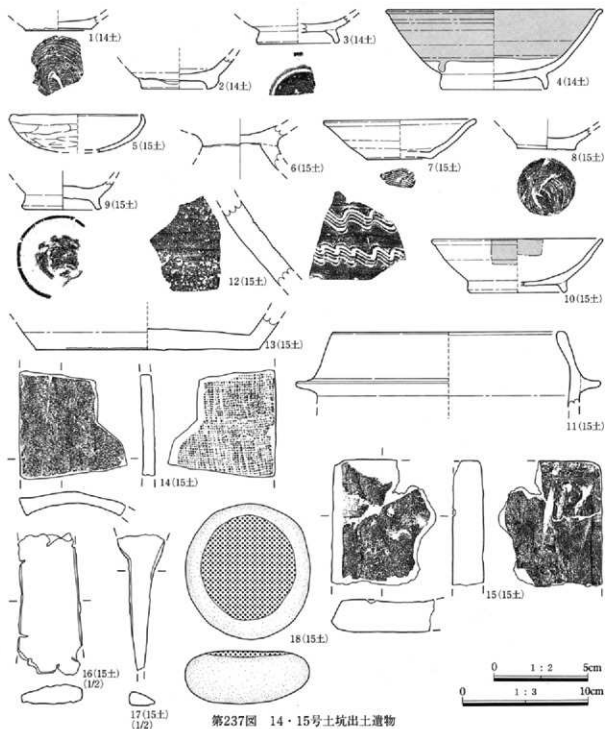
重複遺構：遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、15号土坑がもっとも新しく、14・16号土坑がそれよりも古い。

その他：出土遺物には時期幅があり、8～10世紀代のものが含まれる。これらの土坑は10世紀には埋没していた可能性がある。



第236図 14～16号土坑

第4章 引間松葉道跡Ⅲ区の調査



第237図 14・15号土坑出土遺物

14号土坑 遺物観察表

採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第237図1 PL. 73	須恵器 埴	甌土 体下~底1/4	口 - 底 (5.2) 高 (1.1)	胎 細砂粒やや多 焼 還元焰 良好 色 陶灰	轆轤整形(右回転) 底部: 回転糸切り	
第237図2 PL. 73	須恵器 埴	甌土 体~底 底 定 壺1/5	口 - 底 6.2 高 (2.6)	胎 粗砂粒やや多 焼 還元焰 やや軟 色 灰白	轆轤整形 底部:回転糸切り 技、付け高台	
第237図3 PL. 73	須恵器 埴	甌土 体~底1/5	口 - 底 (6.5) 高 (2.1)	胎 砂粒少 焼 還元焰 良好 色 にぶい澄	轆轤整形 底部:切り離し技 法不明、その後付け高台 内 面:黒色、ミガキ見えず	内黒埴

2. 引間松素遺跡Ⅱ区の遺構と遺物

第23704 PL.73	灰輪陶器 塊	底面 口～底1/4	口 底 高	(17.1) (8.6) 6.3	胎 焼 色	緻密 還元焰 灰白	良好	輪軸整形 内外面体部輪軸、 刷毛焼り	无ヶ丘1号室 式期
-----------------	-----------	--------------	-------------	------------------------	-------------	-----------------	----	--------------------------	--------------

15号土坑 遺物観察表

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		胎土・焼成・色調		器形・技法等の特徴			備考	
第23705 PL.73	土師器 土師	底面 口～底1/4	口 底 高	(10.8) — (3.1)	胎 焼 色	砂粒少 酸化焰 色	白色・黒色磁物 良好 橙	口縁部内湾 外面：口縁部横ナゲ、体部～底部へウ崩り 内面：ナゲ			
第23706 PL.73	土師器 台付壺	覆土 底4/5	口 底 高	— — (3.7)	胎 焼 色	砂粒多 酸化焰 色	黒色・白色・赤色磁物 良好 橙	内外面ナゲ			
第23707 PL.73	須恵器 環	覆土 口～底1/5	口 底 高	(12.0) (5.0) 3.1	胎 焼 色	φ4mm小礫 還元焰 色	粗砂粒やや多 やや軟 褐色	輪軸整形 (右回転) 口縁部 やや外反 底部：回転糸切り			
第23708 PL.73	須恵器 環	覆土 体下～底完	口 底 高	— 4.6 (1.8)	胎 焼 色	粗砂粒やや多 酸化焰 色	黒色・白色・赤色磁物 良好 橙	輪軸整形 (右回転) 底部： 回転糸切り			
第23709 PL.73	須恵器 塊	覆土 体～底2/3	口 底 高	— 6.0 (3.1)	胎 焼 色	φ3mm小礫 酸化焰 色	粗砂粒少 白・赤・黒色磁物 良好 橙	輪軸整形 底部：回転糸切り 後、付け高台			
第237010 PL.73	灰輪陶器 塊	覆土 底1/8	口 底 高	(13.5) (7.2) 4.3	胎 焼 色	緻密 還元焰 灰白	良好	輪軸整形 内外面体部輪軸、 刷毛焼り			无ヶ丘1号室 式期
第237011 PL.73	須恵器 羽釜	覆土 口～体上1/8	口 底 高	(18.3) — (6.0)	胎 焼 色	粗砂粒やや多 酸化焰 色	白色・赤色・黒色磁物 良好 黄褐色	輪軸整形			
第237012 PL.74	須恵器 壺	覆土 体破片	口 底 高	— — —	胎 焼 色	φ6mm小礫 還元焰 灰白	粗砂粒少 良好 灰白	外面：横ナゲ、波状文 内 面：横ナゲ			
第237013 PL.74	須恵器 壺	覆土 底1/2	口 底 高	— (17.8) (2.3)	胎 焼 色	φ3mm小礫 還元焰 灰白	粗砂粒少 良好 灰白	内外面横ナゲ			
検出番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調		製作法・橋本、 一枚作り可能性	粘土板 (測 取表・表・ 裏面) 配合)	布目度 (合目 ・擦消)・瓦 乾燥時寸直	輪軸使用・ 叩き技法・ 型式名称	側面 取取	備考	
第237014 PL.74	丸瓦	覆土 小破片	胎 焼 色	硬 粗 灰白	製 橋本 —	表 裏 裏	× × ×	合 × × × × × ×	輪 × × × × × ×	1 1	非陶土質 9世紀中葉、 薄作
第237015 PL.74	平瓦	底面 小破片	胎 焼 色	軟 粗 暗灰	製 橋本 —	表 裏 裏	× × ×	合 × × × × × ×	輪 × × × × × ×	3 3	空懸置 8世紀後半～9 世紀初
検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)				特徴				
第237016 PL.74	鉄製品 板状品	覆土 欠損あり	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	厚みのある板状品				
第237017 PL.74	鉄製品 へう状品	底面 欠損あり	(7.1)	(2.9)	0.7	12	先端部はやや薄く広がる。工具か				
検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			石材	特徴				
第237018 PL.74	石製品 磨石か	覆土 1212号形	長さ	幅	厚さ			磨石石山岩	平面面は磨かれている		

17号土坑 (第238図、遺物PL.74)

位置：Fh～Fi-43～44

長軸方位：不明

概要：調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。円形に近い楕円形を呈すると考えられるが、小さな掘り込みで、深度も深くない。覆土は、炭化物やロームブロックを含む土で埋められていた。遺物の量は少ないが、銭貨 (No.1) が出土

した。この銭貨は、土坑の東壁下半に張り付くような状態で出土した。

重複遺構：本土坑の西部で16号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本土坑が古いと判断される。

その他：出土した銭貨のみで時期判別はできないが、遺物と重複遺構より、本土坑の時期は9世紀後半

第4章 引間松葉道跡Ⅲ区の調査

(859年)以降と判断される。



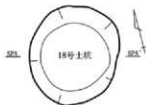
17号土坑

1. 暗褐色土 ロームブロック・As-C少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
3. 暗褐色土 炭化物・ローム粒・焼土粒少含
4. 暗褐色土 炭化物・ロームブロック・焼土粒少含



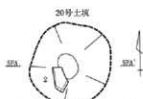
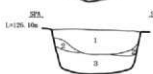
17号土坑 遺物観察表

押図番号	出土位置	種類	発行年	備考
図版番号	残存状態			
第238図 1	底面	鏡蓋神寶	859	一部錆により判読しにくい
PL. 74	ほぼ完			



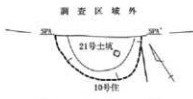
18号土坑

1. 暗褐色土 As-Cやや多、ローム粒・焼土粒少含
2. 暗褐色土 ロームブロック少含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多含



20号土坑

1. 暗褐色土 As-C・炭化物極少含
2. 暗褐色土 白黏ブロック少含

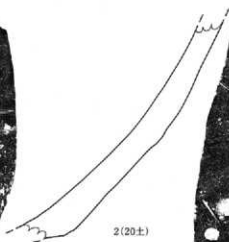


21号土坑

1. 暗褐色土 焼土粒少含、糝まり弱
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含



0 1:3 10cm



2(20土)



0 1:40 1m

第238図 17・18・20・21号土坑、出土遺物

20号土坑 遺物観察表

押図番号	種類	出土位置	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
図版番号	器種	残存状態				
第238図 2	須恵器	腹土	口 -	胎 φ3mm小礫 細砂粒やや多 白色・黒色混物	外面：平行叩き目 内面：ナ	
PL. 74	壺	破片	底 -	焼 還元焼 良好		
			高 -	色 灰白		

2. 引間松葉遺跡Ⅱ区の遺構と遺物

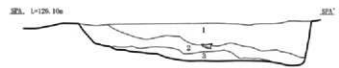
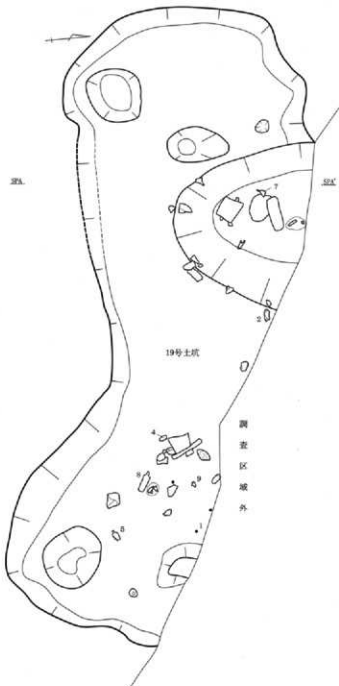
19号土坑 (第239-240図、遺構PL.58、遺物PL.74)

位置：Fe～Ff-43～44

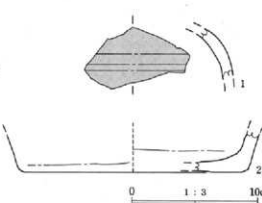
概要：本土坑は調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。形状や掘り込みは不定形である。遺物は、土師器・須恵器や瓦など、奈良・平安時代のものから近代以降に至るまで幅が広い。大半は近代以降の遺物である。廃棄等の性格をもった土坑であろう。

重複遺構：本土坑は東部で10・11号住居跡と28号土坑、南部で60号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本土坑が新しい。

その他：出土したガラス製品などから、本土坑の時期は近代以降と考えられる。

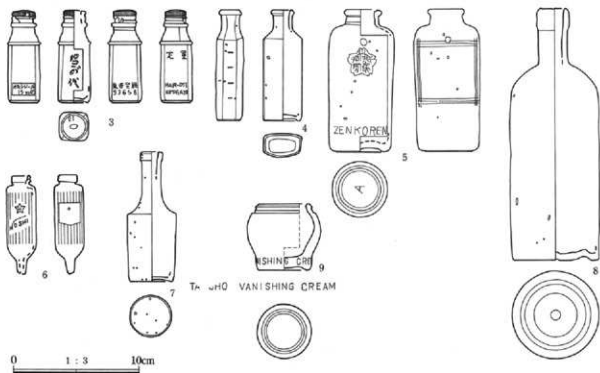


- 19号土坑
1. 褐色土 白色軽石・砂質土多含、粘性弱
 2. 暗褐色土 白色軽石・ロームブロック少含、粘性弱
 3. 褐色土 砂質土、As-C少含、粘性なし



第239図 19号土坑、出土遺物(1)

第4章 引開松葉遺跡Ⅱ区の調査

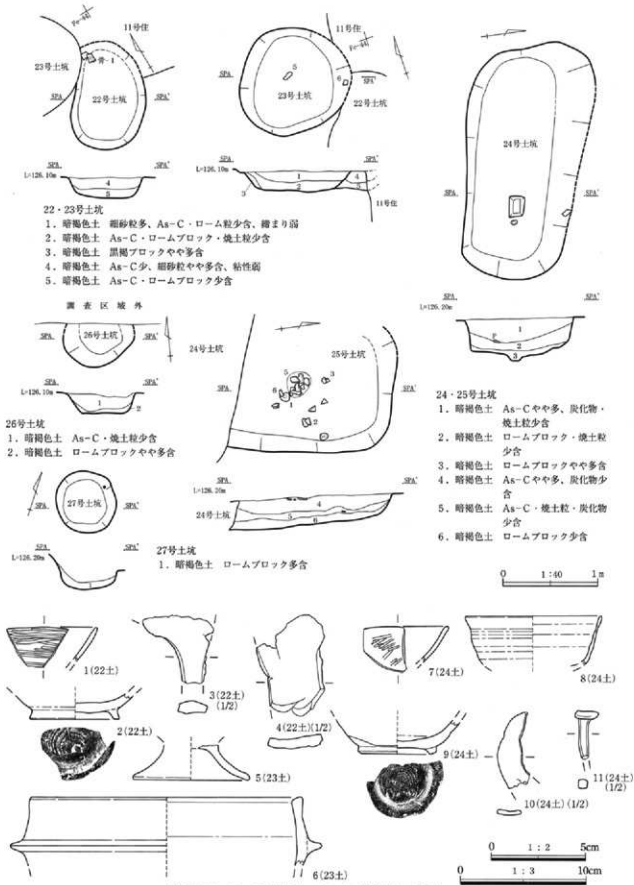


第240図 19号住居跡出土遺物(2)

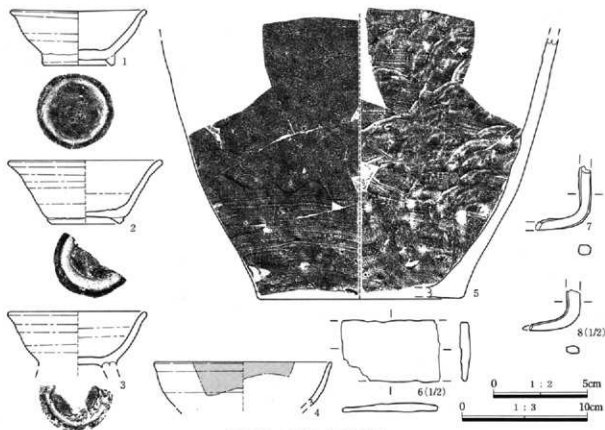
19号土坑 遺物観察表

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第239図1 PL. 74	灰釉陶器 瓶類	覆土 体破片	口 - 底 - 高 -	胎 細砂粒少 焼 還元焰 良好 色 灰白	輪轆製形 外面施釉	
第239図2 PL. 74	須恵器 壺	覆土 底1/5	口 - 底 (18.0) 高 (3.1)	胎 φ5mm小礫 砂粒やや多 焼 還元焰 良好 色 灰白	内外面横ナデ	
第240図3 PL. 74	ガラス 絵毛刷	覆土 ほぼ完	口 1.8 底 2.5 高 (3.7)	胎 - 焼 - 色 -	蓋一部残存、茶色の化粧品容器	「君が代」の銘
第240図4 PL. 74	ガラス 薬品	覆土 完形	口 1.8 底 3.0 高 3.7	胎 - 焼 - 色 -	側面に12mm間隔の目盛り、気泡が目立つ	
第240図5 PL. 74	ガラス 薬品	覆土 完形	口 2.9 底 4.2 高 11.2	胎 - 焼 - 色 -	表面に「共存御堂」の陽刻、裏面に成分等を表示か、底面は「A」の陽刻	「ZENKOREN」の銘
第240図6 PL. 74	ガラス 目薬	覆土 完形	口 1.5 先 0.7 高 7.8	胎 - 焼 - 色 -	一端はゴム栓で留めか、片面に「HOSH」, もう一面に成分等を表示か	量製薬
第240図7 PL. 74	ガラス 化粧品か	覆土 完形	口 1.8 底 3.5 高 10.2	胎 - 焼 - 色 -	化粧品容器か、無色透明	
第240図8 PL. 74	ガラス 薬品か	覆土 完形	口 2.5 底 7.0 高 19.9	胎 - 焼 - 色 -	薬品関係か、淡い緑色	
第240図9 PL. 74	ガラス 化粧品	覆土 口~底 完、他1/3	口 (4.0) 底 4.0 高 5.3	胎 - 焼 - 色 -	化粧品容器、白色	

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物



第241図 22～27号土坑、22～24号土坑出土遺物



第242図 25号土坑出土遺物

22号土坑 遺物観察表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考	
第241図1 PL.75	須恵器 埴	覆土 口破片	口 - 底 - 高 -	胎 細砂粒少 焼 酸化焰 色 色にぶい橙	輪軸整形 内面：横方向のミガキ	内黒焼	
第241図2 PL.75	須恵器 埴	覆土 体下～底1/4	口 - 底 (7.1) 高 (2.0)	胎 φ4mm小確 粗砂粒少 焼 還元焰 色 灰	輪軸整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台		
検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)				特徴
第241図3 PL.75	鉄製品 不明鉄製品	覆土 欠損あり	長さ (3.7)	幅 (3.5)	厚さ 0.6	重量 (g) 7	
第241図4 PL.75	鉄製品 板状品	覆土 欠損あり	(5.3)	3.2	0.5	15	やや厚みのある板状品

23号土坑 遺物観察表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第241図5 PL.75	土師器 合付甕	覆土 脚4/6	口 - 底 (9.2) 高 (2.8)	胎 細砂粒少 焼 酸化焰 色 色にぶい橙	内外面横ナデ	外面：灰化物付着
第241図6 PL.75	須恵器 羽釜	覆土 口～体上1/8	口 (21.6) 底 - 高 (5.3)	胎 粗粒やや多 焼 酸化焰 色 色にぶい橙	輪軸整形	

24号土坑 遺物観察表

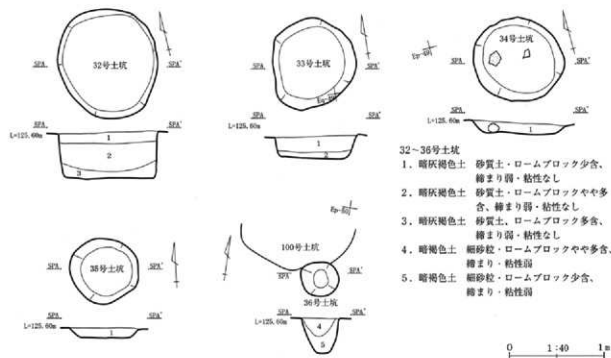
検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第241図7 PL.75	須恵器 埴	覆土 口破片	口 - 底 - 高 -	胎 細砂粒少 焼 酸化焰 色 色淡黄	輪軸整形 内面：ミガキ	内黒焼
第241図8 PL.75	須恵器 埴	覆土 口～体1/8	口 (10.6) 底 - 高 (4.3)	胎 細砂粒少 焼 還元焰 色 灰	輪軸整形	

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物

第241図9 PL.75	須恵器 埴 種別 器種	覆土 体下~底1/4	口 底 高	- (5.4) (2.7)	胎 焼 色	φ4mm小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 還元焰 やや軟 灰	縦横整形 (右回転) 底部; 回転未切り後、付け高台
種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)				特徴	
第241図10 PL.75	鉄製品 不明鉄製品	覆土 欠損あり	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	扁平で、刃部の形成などは見られない
第241図11 PL.75	鉄製品 釘	覆土 先端部欠損	(2.6)	0.45	0.5	1	頭部折り曲げの角釘

25号土坑 遺物観察表

種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調				器形・技法等の特徴	備考
第242図1 PL.75	須恵器 埴 種別 器種	覆土 口~底3/4	口 底 高	11.0 5.6 4.4	胎 焼 色	φ3mm小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 還元焰 やや軟 灰白	縦横整形 (右回転) 口縁部 外反 底部: 回転未切り後、 付け高台	
第242図2 PL.75	須恵器 埴 種別 器種	覆土 口~底1/2	口 底 高	(12.2) (6.1) 5.0	胎 焼 色	φ6mm小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 還元焰 良好 明褐色	縦横整形 (右回転) 口縁部 外反 底部: 回転未切り後、 付け高台	
第242図3 PL.75	須恵器 埴 種別 器種	覆土 口~底1/4 高台欠損	口 底 高	(11.0) (6.1) (4.4)	胎 焼 色	φ3mm小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 還元焰 やや軟 灰白	縦横整形 (右回転) 口縁部 外反 底部: 回転未切り後、 付け高台	
第242図4 PL.75	灰釉陶器 埴 種別 器種	覆土 口~底2/5	口 底 高	(14.0) (8.5) (3.5)	胎 焼 色	緻密 還元焰 良好 灰白	縦横整形 内外面体部上半施 釉、漬け掛け	口唇部に炭化 物付着、大塚 2号窯式
第242図5 PL.75	須恵器 甕 種別 器種	覆土 体~底1/4	口 底 高	- (15.8) (20.4)	胎 焼 色	φ3mm小礫 粗砂粒少 白色・黒色鉱物 還元焰 良好 灰	外面: 体部ヘラ削りの後、ヘ ラナデ	
種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)				特徴		
第242図6 PL.75	鉄製品 板状品	覆土 欠損あり	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	扁平で、やや薄い板状品	
第242図7 PL.75	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	(3.5)	(3.5)	0.5	3	断面四角形の棒状品で、折り曲げられている。釘や工 具の柄などか	
第242図8 PL.75	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	(2.6)	(2.6)	0.4	1	断面四角形の棒状品で、折り曲げられている。釘や工 具の柄などか	

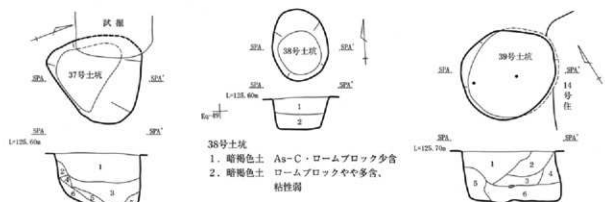


第243図 32~36号土坑

32~36号土坑

1. 暗灰褐色土 砂質土・ロームブロック少含、
締まり弱・粘性なし
2. 暗灰褐色土 砂質土・ロームブロックやや多
含、締まり弱・粘性なし
3. 暗灰褐色土 砂質土・ロームブロック多含、
締まり弱・粘性なし
4. 暗褐色土 細砂粒・ロームブロックやや多含、
締まり弱・粘性弱
5. 暗褐色土 細砂粒・ロームブロック少含、
締まり・粘性弱

第4章 引間松葉遺跡Ⅲ区の調査

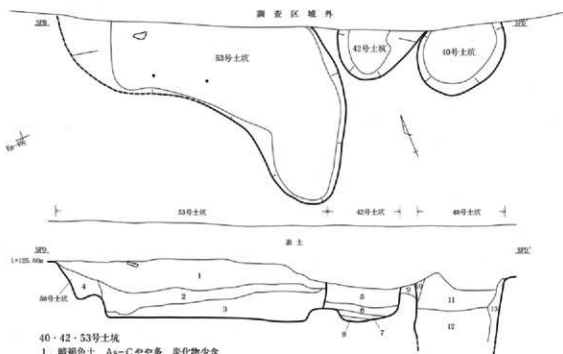


37号土坑

1. 暗褐色土 細砂粒多、As-C・ロームブロック少含、
締まり・粘性弱
2. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロック多含、粘性弱
3. 暗褐色土 ロームブロック・灰・焼土粒少含
4. 暗黄褐色土 ロームブロック多含
5. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
6. 淡褐色土 ロームブロック多含

39号土坑

1. 暗褐色土 砂質土、ロームブロックやや多、炭化物少含、粘性なし
2. 暗褐色土 砂質土、ロームブロック・白色軽石やや多含、粘性なし
3. 暗褐色土 砂質土、ロームブロック少含、締まり弱・粘性なし
4. 暗褐色土 砂質土、ロームブロック極少含、粘性なし
5. 暗褐色土 砂質土、ローム・暗褐粘質土ブロックやや多含、粘性なし
6. 暗褐色土 砂質土、ローム・暗褐粘質土ブロック少含、粘性なし

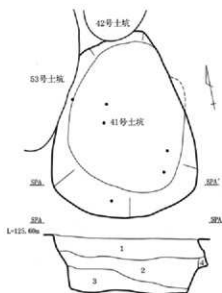


40・42・53号土坑

1. 暗褐色土 As-Cやや多、炭化物少含
2. 暗褐色土 As-Cやや多含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C少含
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、締まり弱
5. 暗褐色土 As-Cやや多、ロームブロック少含
6. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含
7. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C少含
8. 暗褐色土 ロームブロック多含
9. 暗褐色土 As-Cやや多含
10. 暗褐色土 砂質土、As-C・暗褐粘質土ブロックやや多含、締まり弱・粘性なし
11. 暗褐色土 砂質土、As-C少含、締まり・粘性なし
12. 暗褐色土 砂質土、締まり弱・粘性なし
13. 暗褐色土 砂質土、ロームブロックやや多含、締まり弱・粘性なし

第244図 37・40・42・53号土坑

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物



49号土坑

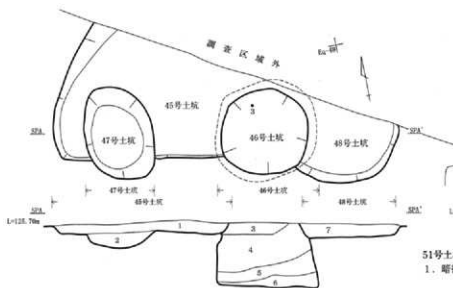
1. 暗褐色土 砂質土、白色軽石・ロームブロック少含、粘り弱・粘性なし
2. 暗褐色土 砂質土、ロームブロックやや多含、粘り弱・粘性なし
3. 暗褐色土 砂質土、ロームブロック少含、粘性なし

41号土坑

1. 暗褐色土 砂質土多、As-C少含、粘性弱
2. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
4. 暗褐色土 砂質土多、暗褐色粘質土やや多含、粘性弱

43・44号土坑

1. 暗褐色土 As-Cやや多、ロームブロック少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
3. 暗褐色土 As-C・ロームブロックやや多含
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
5. 暗褐色土 ロームブロック多含、粘り弱
6. 暗褐色土 ロームブロック少含
7. 暗褐色土 ロームブロックやや多含

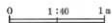


51号土坑

1. 暗褐色土 As-C・炭化物・焼土粒やや多含

45～48号土坑

1. 暗褐色土 砂質土、白色軽石やや多、焼土粒・炭化物少含、粘性なし
2. 暗褐色土 砂質土、暗褐色粘質土ブロック少含、粘り弱・粘性なし
3. 暗褐色土 砂質土、ロームブロックやや多、白色軽石少含、粘性なし
4. 暗褐色土 砂質土、ロームブロック多含、粘り弱・粘性なし
5. 暗褐色土 ロームブロック少含
6. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
7. 暗褐色土 砂質土多、白色軽石少含



第245図 41・44～47・49・51号土坑

第4章 引田松葉遺跡田区の調査



54号土坑

1. 暗褐色土 炭化物・黄褐色土ブロック少、As-C・焼土粒極少含



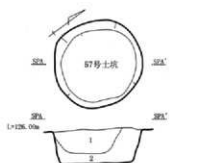
55号土坑

1. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含



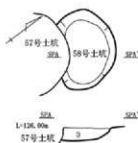
56号土坑

1. 暗褐色土 砂質土多、炭化物少含



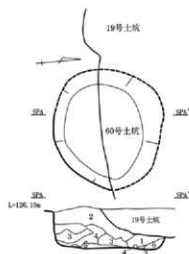
57・58号土坑

1. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
2. 暗褐色土 ロームブロック少含
3. 暗褐色土 砂質土、As-Cやや多含、締まりなし



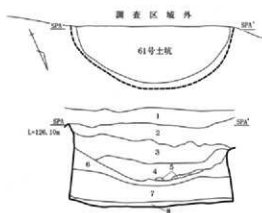
57号土坑

58号土坑



60号土坑

1. 暗褐色土 As-B主体、褐ブロック多含、締まり弱・粘性なし
2. 暗褐色土 As-B・褐ブロック多含、締まり弱・粘性なし
3. As-B層 As-Bの灰
4. As-B層 やや粗い軽石層
5. As-B層 細かい軽石層
6. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含



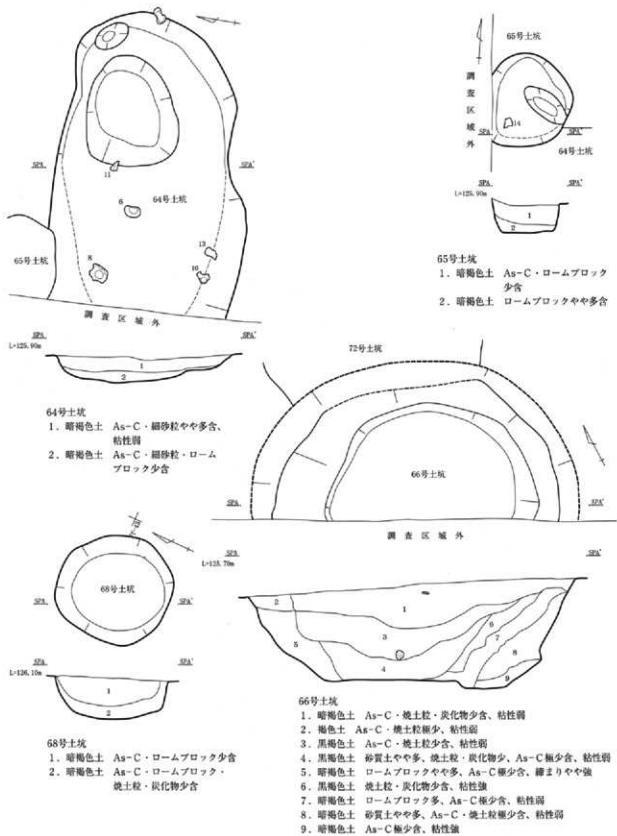
61号土坑

1. 暗褐色土 砂質土多含、粘性弱
2. 暗褐色土 As-B多含、締まり弱・粘性なし
3. 暗褐色土 As-B多、As-B灰ブロック少含、締まり弱・粘性なし
4. As-B層 As-Bの灰
5. As-B層 As-Bの黒色灰
6. As-B層 As-Bの赤褐色灰
7. As-B層 やや粗い軽石層
8. As-B層 細かい軽石層

0 1:40 1m

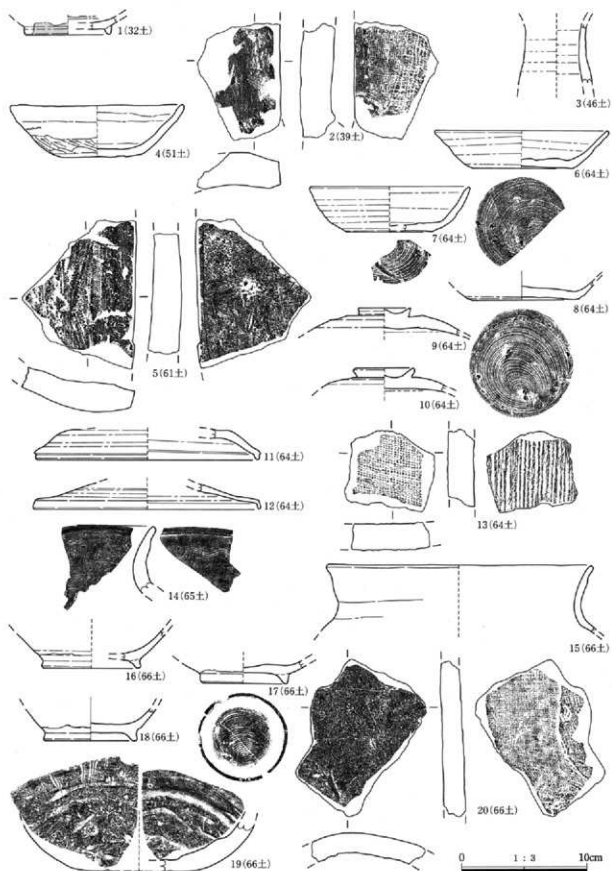
第246図 54～58・60・61号土坑

2. 引間松築遺跡Ⅲ区の遺構と遺物



第247図 64～66・68号土坑

第4章 引間松葉遺跡田区の調査



第248図 32~66号土坑出土遺物

2. 引間松葉道跡Ⅲ区の遺構と遺物

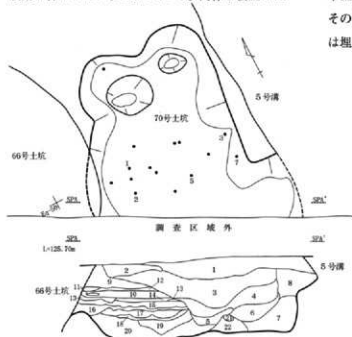
32～66号土坑 遺物観察表坑

探り番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
第248図2 PL.75	灰釉陶器 碗	32土坑覆土 体下～底1/4	口 - 底 (6.8) 高 (1.5)	胎 砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰白	罐轆整形 内外面底部付着ま で施釉	成沢山1号室 式期			
第248図3 PL.75	須恵器 長頸壺	46土坑覆土 底1/8	口 - 底 - 高 (4.9)	胎 粗砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 褐色	罐轆整形				
第248図4 PL.75	土師器 51土坑覆土 底	51土坑覆土 底 (6.0) 口～底1/5 高 4.0	胎 φ3mm小礫 砂粒やや多 黒・白・赤色灰物 焼 還元焰 良好 色 にぶい橙	外面：口縁部横ナデ、体部下 半～底部ヘラ削り 内面：横 ナデ	罐轆整形 (右回転) 底部： 回転糸切り				
第248図5 PL.75	須恵器 64土坑底面 底	64土坑底面 底 (7.9) 口～底1/3 高 3.0	胎 φ3mm小礫 砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	罐轆整形 (右回転) 底部： 回転糸切り					
第248図7 PL.75	須恵器 64土坑覆土 底	64土坑覆土 底 (7.0) 口～底1/6 高 3.6	胎 φ4mm小礫 砂粒やや多 黒色・白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	罐轆整形 (右回転) 底部： 回転糸切り					
第248図8 PL.75	須恵器 64土坑底面 体下～底1/2 ば光	64土坑底面 体下～底1/2 高 (2.2)	胎 細砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	罐轆整形 (右回転) 底部： 回転糸切り					
第248図9 PL.75	須恵器 64土坑覆土 底	64土坑覆土 底 (4.0) 高 (2.5)	胎 細砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰白	罐轆整形 (右回転) 外面： 天井上半回転ヘラ削り					
第248図10 PL.75	須恵器 64土坑底面 底	64土坑底面 底 (4.8) 高 (2.1)	胎 細砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	罐轆整形 (右回転) 外面： 天井上半回転ヘラ削り					
第248図11 PL.75	須恵器 64土坑覆土 底	64土坑覆土 底 (17.6) 天井～口1/5 高 (2.5)	胎 細砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	罐轆整形					
第248図12 PL.75	須恵器 64土坑覆土 底	64土坑覆土 底 (18.0) 天井～口1/6 高 (2.0)	胎 φ5mm小礫 細砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 やや軟 色 灰白	罐轆整形					
第248図14 PL.75	須恵器 65土坑底面 底	65土坑底面 底 - 口破片 高 -	胎 粗砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰白	外面：波状文 内面：自然釉					
第248図15 PL.76	土師器 66土坑覆土 底	66土坑覆土 底 (21.0) 口～体上1/5 高 (5.5)	胎 砂粒やや多 白色・黒色・赤色灰物 焼 還元焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘ ラ削り 内面：横ヘラナデ					
第248図16 PL.76	須恵器 66土坑覆土 底	66土坑覆土 底 (7.6) 体～底1/5 高 (4.0)	胎 φ4mm小礫 細砂粒少 黒色・白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰白	罐轆整形 (右回転) 底部： 切り離し技法不明、その後付 け高台					
第248図17 PL.76	須恵器 66土坑覆土 体下～底 底完 包1/3	66土坑覆土 体下～底 底 6.8 底完 包1/3 高 (1.9)	胎 φ4mm小礫 細砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 黄灰	罐轆整形 (右回転) 底部： 回転糸切り後、付け高台					
第248図18 PL.76	須恵器 66土坑覆土 底	66土坑覆土 底 (7.4) 体～底4/5 高 (2.5)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 黒褐色	罐轆整形 (右回転) 底部： 回転糸切り(?)後、付け高 台					
第248図19 PL.76	須恵器 66土坑覆土 底	66土坑覆土 底 (3.9) 体下～底1/6 高 (3.9)	胎 砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好	内面：青海波文					
探り番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・模痕・ 一枚作り可能性	粘土板(洞 取表・裏・ 接合)	布目直(合目 ・捺目)・瓦 乾燥押痕	轆轤使用・ 印き技法・ 型式名称	部取	備考
第248図2 PL.75	障、 男部	39土坑覆土 小破片	胎 並 焼 並 色 並	製 不明 模 不明	表 × 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	轆 × 印 × 型 横溝	2	伏間堂か観音山原 9世 紀前葉
第248図5 PL.75	平瓦	61土坑覆土 破破片	胎 並 焼 並 色 灰黄褐色	製 桶 模 ○ 一 なし	表 × 裏 × 接 ×	合 × 捺 ○ 乾 ×	轆 × 印 × 型 横溝	4	藤岡堂 8世紀中葉
第248図13 PL.76	平瓦	64土坑覆土 小破片	胎 密 焼 密 色 オリーブ黒	製 桶 模 なし 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	轆 × 印 × 型 横溝	-	観音山原 8世紀後葉～ 9世紀初
第248図20 PL.76	丸瓦	66土坑覆土 破片	胎 並 焼 並 色 灰	製 2枚 模 桶 一 なし	表 × 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	轆 ○ 印 × 型 横溝	-	芝懸堂 8世紀後葉～9 世紀初頭

70号土坑 (第249・253図、遺物PL.77)

位置：Ep~Eq-49~51

概要：本土坑は調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。掘り込みは深いが、形状は不整形である。覆土の中央や上層部分は崩されているが、東部を中心に薄い重なりが残存している。層が何枚も重なったようになっている部分は固く、版築が行われたようになっている。同様な覆土は72



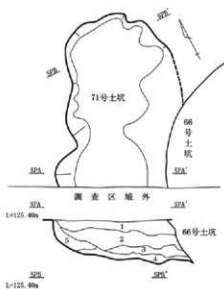
70号土坑

1. 暗褐色土 As-C・焼土粒・炭化物少含、粘性弱
2. 黒褐色土 砂質土・ロームブロック・As-C少含
3. 黒褐色土 砂質土・ロームブロック・As-C少含
4. 黒褐色土 ロームブロック少、As-C・焼土粒極少含、粘性やや強
5. 黒褐色土 ロームブロック多、焼土粒極少含、粘性強
6. 黒褐色土 ロームブロック・炭化物少含、粘性やや強
7. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、粘性強
8. 暗褐色土 As-C少含、締まり・粘性強
9. 黒褐色土 As-C少、焼土粒極少含、締まりやや強
10. 黒褐色土 ロームブロック少、As-C極少含、締まりやや強
11. 褐色土 砂質土・As-C少含、粘性なし
12. 暗褐色土 明黄褐色ブロックやや多含、締まりやや強・粘性強
13. 暗褐色土 As-C少、締まり・粘性強
14. 濃い黄褐色土 砂質土主体、ロームブロック少含、粘性弱
15. 黒褐色土 As-C少含、粘性強
16. 明黄褐色土 ロームブロック主体、締まり・粘性強
17. 黒褐色土 As-C少含、粘性やや強
18. 暗褐色土 ロームブロック極少含、締まり・粘性強
19. 暗褐色土 ロームブロック極少含、締まり強
20. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
21. 暗褐色土 ロームブロック多含、粘性強
22. 暗褐色土 ロームブロック主体、粘性強

号土坑にもあり、何らかの関連が伺える。本土坑付近には他に66・71・90・96号土坑があり、これらはいずれも規模が大きい。何らかの理由で大規模に掘られた後、埋め戻されている。

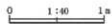
重複遺構：本土坑は5号溝と、66号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本土坑が古い。

その他：遺物には様々な時代があるが、平安時代には埋没していたであろう。



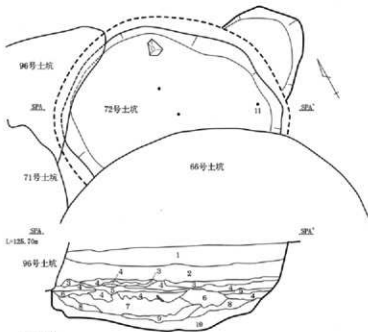
71号土坑

1. 暗褐色土 As-C少、焼土粒極少含、締まりやや強
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C少含、締まりやや強
3. 黒褐色土 As-C極少含
4. 暗褐色土 ロームブロック多含、粘性やや強
5. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、締まりやや強・粘性強



第249図 70・71号土坑

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物



72号土坑

1. 褐色土 As-Cやや多、焼土粒・炭化物極少含
2. 暗褐色土 砂質土ブロックを数層含、As-Cやや多、焼土粒・炭化物極少含
3. にぶい黄褐色土 As-C少含、締まり・粘性強
4. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含、締まり強・粘性やや強
5. 暗褐色土 As-C極少含、締まり・粘性強
6. 暗褐色土 ロームブロック少、As-C極少含、締まり・粘性強
7. にぶい黄褐色土 暗褐・明黄褐・明褐土が層状に入る、締まり・粘性強
8. 明黄褐色土 暗褐・明褐土が層状に入る、締まり・粘性強
9. にぶい黄褐色土 暗褐・明黄褐・明褐土が層状に入る、締まり・粘性強
10. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C極少含、締まり・粘性強



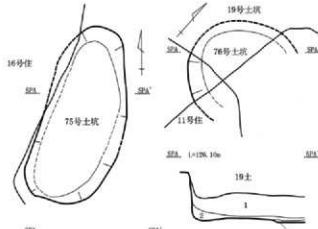
73号土坑

1. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒・炭化物少含
2. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含



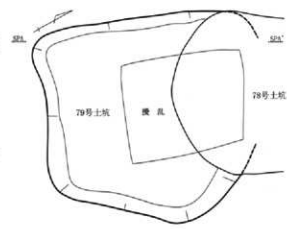
74号土坑

1. 暗褐色土 As-B・白色軽石・暗褐粘質土ブロック少含、締まり・粘性弱
2. 暗褐色土 As-Bやや多、白色軽石・暗褐粘質土ブロック少含、締まり・粘性弱



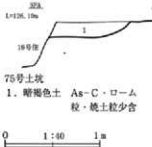
76号土坑

1. 暗褐色土 As-Cやや多、ローム粒・焼土粒・炭化物少含
2. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多含



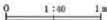
79号土坑

1. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含
2. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロックやや多含、As-C少含
3. 暗褐色土 As-C多、焼土粒・ローム粒少含
4. 暗褐色土 As-C・暗褐粘質土ブロックやや多、炭化物・焼土粒少含



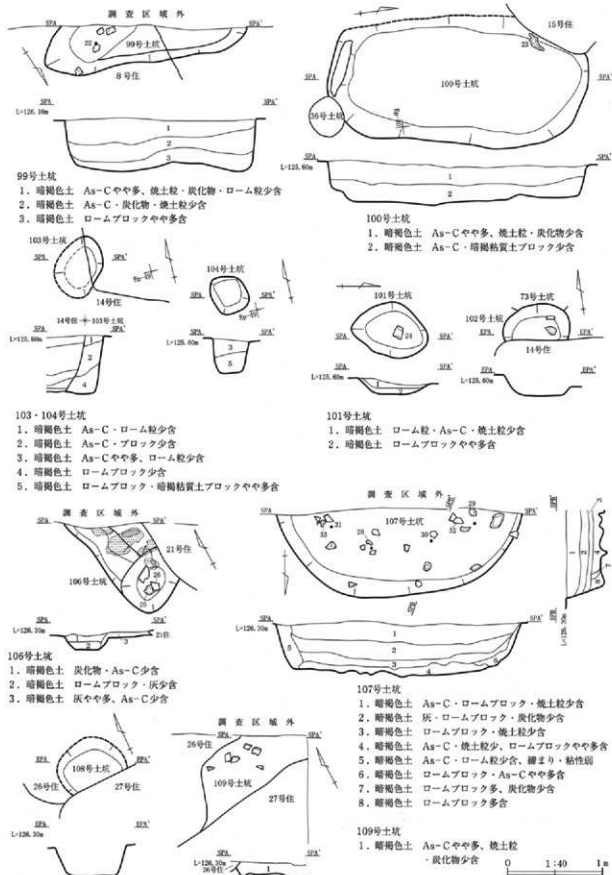
75号土坑

1. 暗褐色土 As-C・ローム粒・焼土粒少含

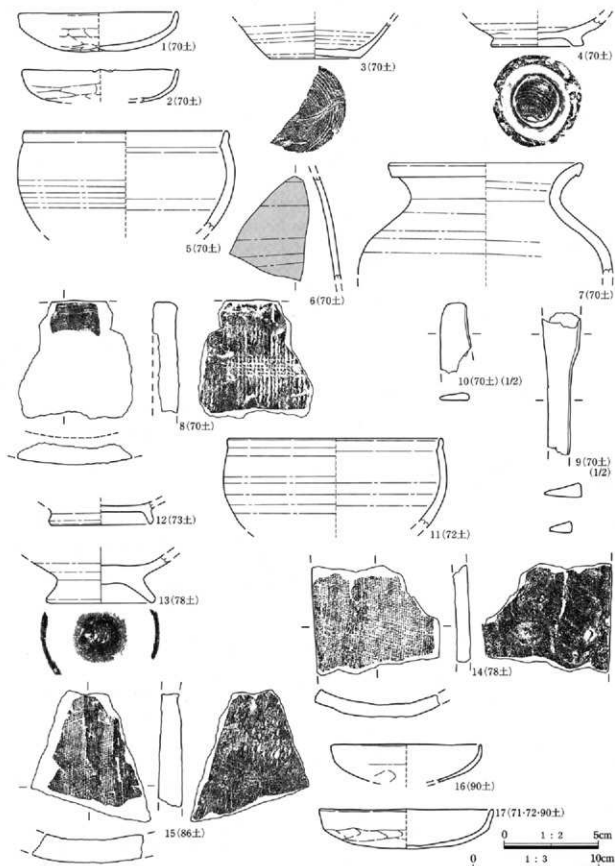


第250図 72-76・79号土坑

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物

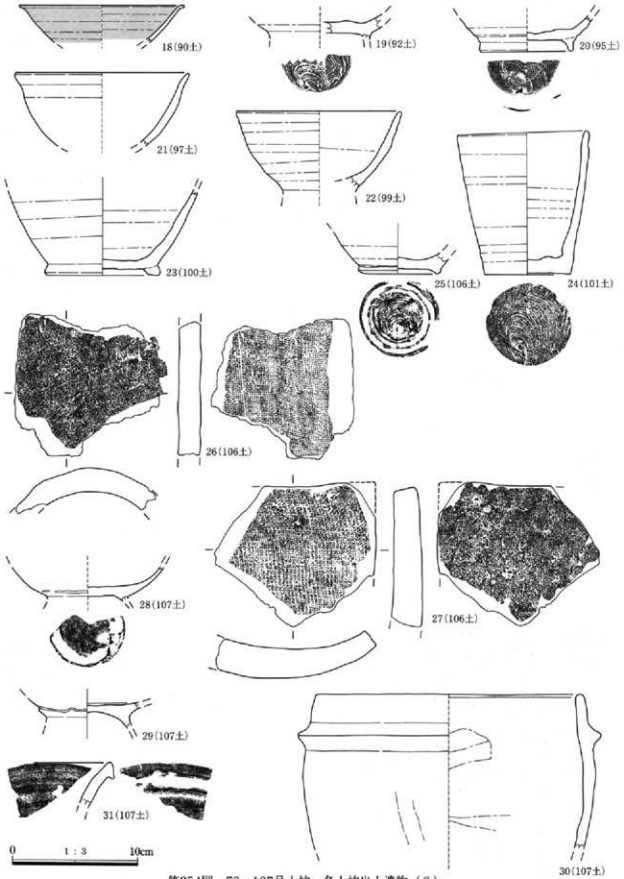


第252図 99-104・106-109号土坑



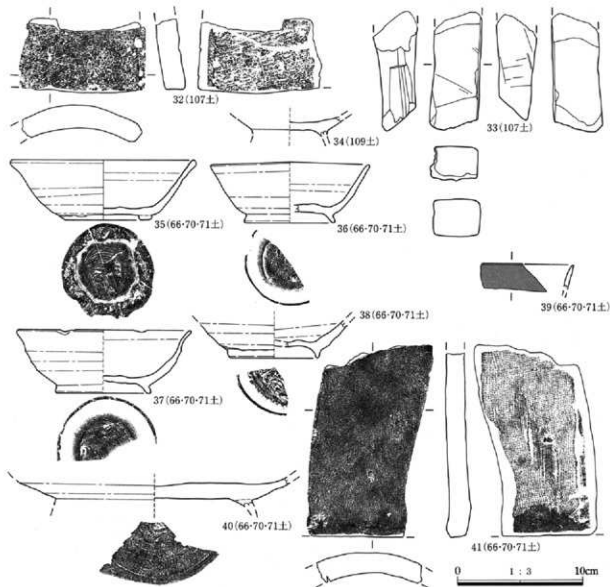
第253図 70~107号土坑・各土坑出土遺物(1)

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物



第254図 70~107号土坑・各土坑出土遺物(2)

第4章 引間松葉遺跡Ⅲ区の調査



第255図 70～107号土坑・各土坑出土遺物(3)

70～109号土坑・各土坑 遺物観察表

探洞番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状況	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第253図 1 PL. 76	土師器 坏	70土坑覆土 口～底1/8	口 (12.6) 底 - 高 3.1	胎 砂粒やや多 燒 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部～ 底部へラ顔り 内面：ナデ	
第253図 2 PL. 76	土師器 坏	70土坑底面 口～底1/6	口 (12.4) 底 - 高 (2.7)	胎 砂粒少 燒 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部～ 底部へラ顔り 内面：横ナデ	
第253図 3 PL. 76	須恵器 坏	70土坑覆土 体～底1/3	口 - 底 (7.2) 高 (3.8)	胎 細砂粒やや多 燒 還元焰 良好 色 灰	輪轆整形 (右回転) 底部： 回転未切り	
第253図 4 PL. 76	須恵器 埴	70土坑覆土 体～底 底 完 他1/6	口 - 底 7.3 高 (2.3)	胎 粗砂粒少 燒 還元焰 良好 色 黄灰	輪轆整形 (右回転) 底部： 回転未切り後、付け高台	
第253図 5 PL. 76	須恵器 鉢	70土坑底面 口～体1/6	口 (16.2) 底 - 高 (7.9)	胎 ϕ 3mm小礫 砂粒少 燒 還元焰 良好 色 灰	輪轆整形	
第253図 6 PL. 76	灰釉陶器 瓶類	70土坑覆土 体破片	口 - 底 - 高 -	胎 緻密 燒 還元焰 良好 色 灰黄	輪轆整形 外面施釉	

2. 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物

第253回7	須恵器 甕	覆土	口 底 (15.4) - 高 (8.7)	胎 焼 還元焰 色 灰	粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 良好	縦横整形 口縁部折り返し	
PL. 76		口～体上1/8					
第253回11	須恵器 鉢	72土坑覆土	口 (17.0) 底 - 高 (7.1)	胎 焼 還元焰 色 灰	細砂粒少 白色鉱物 良好	縦横整形	
PL. 76		口～体1/6					
第253回12	灰輪陶器 埴かま	73土坑覆土	口 - 底 (8.0) 高 (1.9)	胎 焼 還元焰 色 灰白	緻密 良好	縦横整形	光ヶ丘1号窯 式期
PL. 76		底1/4					
第253回13	須恵器 尼高台 埴	78土坑底面	口 - 底 8.6 高 (3.8)	胎 焼 還元焰 色 明地	粗砂粒少 白色・黒色鉱物 良好	縦横整形 底部：切り難し技 法不明、その後付け高台	
PL. 76		体下～底2/3					
第253回16	土師器 坏	90土坑覆土	口 (12.0) 底 - 高 (3.0)	胎 焼 還元焰 色 橙	粗砂粒やや多 黒色・白色鉱物 良好	外面：口縁部横ナデ、体部へ ラ割り 内面：ナデ	
PL. 76		口～体1/8					
第253回17	土師器 坏	90土坑覆土	口 (13.7) 底 - 高 3.2	胎 焼 還元焰 色 橙	砂粒やや多 黒色・白色鉱物 良好	外面：口縁部横ナデ、体部～ 底部へラ割り 内面：ナデ	
PL. 76		口～底1/4					
第254回18	灰輪陶器 埴	90土坑覆土	口 (13.0) 底 - 高 (2.9)	胎 焼 還元焰 色 灰白	緻密 良好	縦横整形 内外面輪軸 刷毛 塗り	光ヶ丘1号窯 式期
PL. 76		口～体1/8					
第254回19	須恵器 埴	92土坑覆土 底1/4 高台欠損	口 - 底 - 高 (2.0)	胎 焼 還元焰 色 白	粗砂粒やや多 黒色・白色鉱物 良好	縦横整形 (右回転) 底部： 回転未切り後、付け高台	内面スレ、転 用碗か
PL. 76							
第254回20	須恵器 埴	95土坑覆土	口 - 底 (7.0) 高 (3.0)	胎 焼 還元焰 色 灰白	砂粒やや多 黒色・白色鉱物 良好	縦横整形 (右回転) 底部： 回転未切り後、付け高台	内面スレ、転 用碗か
PL. 77		体下～底2/5					
第254回21	須恵器 埴	97土坑覆土	口 (13.7) 底 - 高 (5.9)	胎 焼 還元焰 色 灰白	φ4mm小礫 砂粒やや多 黒色・白色鉱物 良好	縦横整形	
PL. 77		口～体1/8					
第254回22	須恵器 埴	99土坑覆土	口 (13.0) 底 - 高 (6.5)	胎 焼 還元焰 色 橙	砂粒やや多 白色・黒色・赤色鉱物 良好	縦横整形	
PL. 77		口～体1/8					
第254回23	須恵器 長頸壺	100土坑覆土	口 - 底 9.0 高 (6.8)	胎 焼 還元焰 色 橙	粗砂粒やや多 白色・赤色鉱物 良好	縦横整形	
PL. 77		体下～底2/3					
第254回24	須恵器 鉢	101土坑覆土	口 10.2 底 6.7 高 11.3	胎 焼 還元焰 色 灰	φ4mm小礫 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 良好	縦横整形 (右回転) 底部： 回転未切り	
PL. 77		口～底7/8					
第254回25	須恵器 埴	106土坑覆土	口 - 底 6.6 高 (3.3)	胎 焼 還元焰 色 黒褐	砂粒やや多 白色・黒色鉱物 良好	縦横整形 (右回転) 底部： 回転未切り後、付け高台	
PL. 77		体～底4/5					
第254回28	須恵器 埴	107土坑覆土 体～底1/2 高台欠損	口 - 底 - 高 (2.7)	胎 焼 還元焰 色 橙	粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 良好	縦横整形 (右回転) 底部： 回転未切り後、付け高台 内 面：底部わずかにミガキ面	内黒埴
PL. 77							
第254回29	須恵器 埴	107土坑覆土 体下～底完 高台欠損	口 - 底 - 高 (2.3)	胎 焼 還元焰 色 淡黄	砂粒多 黒色・白色・赤色鉱物 良好	縦横整形 (右回転) 底部： 切り難し技法不明、その後付 け高台	
PL. 77							
第254回30	須恵器 羽釜	107土坑覆土	口 (21.0) 底 - 高 (12.2)	胎 焼 還元焰 色 灰白	粗砂粒やや多 白色・黒色・赤色鉱物 良好	外面：口縁部～脚部横ナデ、 体部へラ割り 内面：ヘラナ デ	
PL. 77		口～体1/8					
第254回31	須恵器 壺	107土坑覆土	口 - 底 - 高 -	胎 焼 還元焰 色 黄灰	φ2mm小礫 細砂粒少 白色鉱物 良好	内外面横ナデ	
PL. 77		口破片					
第255回34	須恵器 埴	109土坑覆土 体下～底1/4 高台欠損	口 - 底 - 高 (1.6)	胎 焼 還元焰 色 灰白	細砂粒少 白色・黒色鉱物 良好	縦横整形 (右回転) 底部： 切り難し技法不明、その後付 け高台	
PL. 77							
第255回35	須恵器 埴	66-70-71土 坑覆土 口～底 底完 壺2/3	口 14.6 底 7.0 高 4.7	胎 焼 還元焰 色 灰白	φ6mm小礫 砂粒少 白色・黒色鉱物 やや軟	縦横整形 (右回転) 口縁部 深く外反 底部：回転未切り 後、付け高台	
PL. 77							
第255回36	須恵器 埴	66-70-71土 坑覆土	口 (13.6) 底 (7.4) 高 (5.0)	胎 焼 還元焰 色 灰	φ4mm小礫 粗砂粒少 黒色・白色鉱物 良好	縦横整形 (右回転) 底部： 回転未切り後、付け高台 口 唇部一部ゆがむ	
PL. 77		口～底1/2					
第255回37	須恵器 埴	66-70-71土 坑覆土	口 (12.5) 底 (7.1) 高 4.8	胎 焼 還元焰 色 灰	φ2mm小礫 粗砂粒少 白色・黒色鉱物 良好	縦横整形 (右回転) 底部： 回転未切り後、付け高台	
PL. 77		口～底1/4					
第255回38	須恵器 埴	66-70-71土 坑覆土	口 - 底 (7.1) 高 (3.0)	胎 焼 還元焰 色 灰白	φ5mm小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 良好	縦横整形 (右回転) 底部： 回転未切り後、付け高台	
PL. 77		体～底1/4					

第4章 引込松葉遺跡Ⅲ区の調査

種別	出土位置	胎土・焼成・色調	製作法・輪・一枚作り可能性	粘土板(測取表・裏・接合)	布目痕(合目・擦消)・瓦乾燥時圧痕	継輪使用・叩き技法・型式名称	側面図	備考
第253図39 PL.77	鉢輪陶器 残存状態	66-70-71土 口底高 口破片	- - -	軟 焼 色 灰白	載密 還元焰 良好			継輪整形 内外面粘輪
第253図40 PL.77	須臾器 盤	66-70-71土 坑覆土 体下~底1/4	口底高 (13.8) (2.3)	- -	砂泥やや多 色 黒色・白色紅物 還元焰 良好			継輪整形(右回転) 底部: 回転へら切り後、付け高台
第253図8 PL.76	平瓦 小破片	70土坑覆土 胎焼色 色にぶい黄緑	製 輪 一 あり	表裏 接 × ×	合 撮 × ×	継 叩 × ×	×	秋田宮 9世紀前半
第253図14 PL.76	平瓦 小破片	78土坑底面 胎焼色 色にぶい黄緑	製 輪 △ あり	表裏 接 × ×	合 撮 × ×	継 叩 × ×	1	吉井宮 9世紀中葉、薄作
第253図15 PL.77	平瓦 破片	86土坑覆土 胎焼色 色 黒褐	製 輪 一 なし	表裏 接 × ×	合 撮 × ×	継 叩 ○ ×	-	笠懸宮 8世紀後半、被熱している
第254図26 PL.77	丸瓦 破片	106土坑底面 胎焼色 色 灰黄	製 輪 一 あり	表裏 接 × ×	合 撮 × ×	継 叩 × ×	-	笠懸宮 8世紀後半~9世紀初葉
第254図27 PL.77	平瓦 破片	106土坑覆土 胎焼色 色 灰	製 輪 一 あり	表裏 接 × ×	合 撮 × ×	継 叩 × ×	2	笠懸宮 8世紀後半~9世紀初葉
第255図32 PL.77	丸瓦 小破片	107土坑覆土 胎焼色 色 灰	製 輪 2枚 なし	表裏 接 × ×	合 撮 × ×	継 叩 ○ ×	3	吉井宮 8世紀後半~9世紀初葉
第255図41 PL.77	丸瓦 破片	66-70-71土 坑覆土 胎焼色 色 黄灰	製 輪 2枚 なし	表裏 接 × ×	合 撮 × ×	継 叩 ○ ×	1 酒込	笠懸宮 8世紀後半~9世紀初葉、側部2回割込
種別	器種	出土位置	計測値 (cm)			特徴		
第253図9 PL.76	鉄製品 板状品	70土坑覆土 欠損あり	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	内厚だが、片側は薄くなる。刀子張か	
第253図10 PL.76	鉄製品 板状品	70土坑覆土 欠損あり	(7.5)	2.0	0.9	13		
第253図33 PL.77	石製品 砥石	107土坑覆土 両端部欠損	(3.6)	1.6	0.3	3	扁平で薄い板状品	
種別	器種	出土位置	計測値 (cm)			石材	特徴	
第253図33 PL.77	石製品 砥石	107土坑覆土 両端部欠損	長さ	幅	厚さ	砥沢石	欠損部を除く、ほぼ全面が使用面 溝状の切り込みと横紋の挟り込みが入る	
			(9.0)	3.7	2.9			

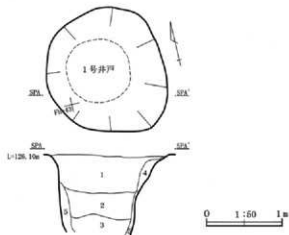
(4) 井戸跡

1号井戸跡 (第256図)

位置: Fg-Fi-42~44

方位: N-24°-W

概要: 本遺跡では井戸跡が1基検出された。形状は長円形で、南北方向がやや長い。出土遺物はなく、時期は明らかでないが、覆土の様相から近世以降の可能性が考えられる。未完掘である。



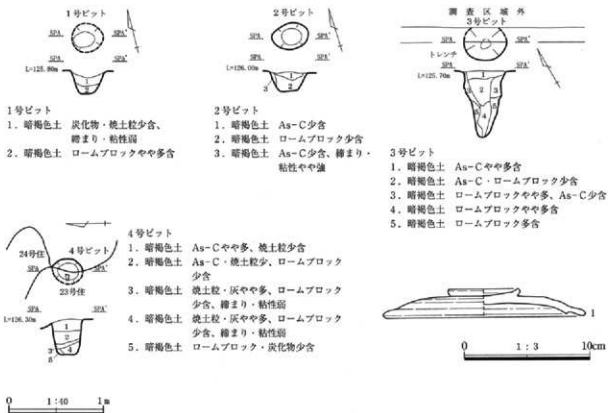
1号井戸跡

1. 暗褐色土 砂質土・暗褐色粘質土ブロック・白濁軽石極少含、締まり弱・粘性なし
2. 暗褐色土 砂質土・暗褐色粘質土ブロック極少含、締まり弱・粘性なし
3. 暗褐色土 砂質土・炭化物少含、締まり弱・粘性なし
4. 暗褐色土 砂質土・暗褐色粘質土ブロック多含、締まり・粘性弱
5. 暗褐色土 砂質土・暗褐色粘質土ブロックやや多含、締まり・粘性弱

第256図 1号井戸跡

(5) ビット

本遺跡では、4基のビット状の遺構を検出した。はできなかった。詳細は計測表を参照されたい。
掘立柱建物や柱列になるような配列を確認すること



第257図 1～4号ビット、出土遺物

3号ビット 遺物観察表

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第257図1 PL.77	須恵器 甕	覆土 横~口1/2	口 (15.8) 柄 (5.6) 高 2.3	胎 φ31リ小粒 細砂粒少 白色・黒色或物 焼 還元焰 良好 色 灰白	輪軸整形(右回転) 外面: 天井部上半回転ヘラ削り	内面スレ、転 用痕か

(6) 溝跡

本遺跡では、5条の溝跡を検出した。覆土や遺物から中世よりは古く、1号溝跡以外は奈良・平安時代に属するであろう。詳細は計測表を参照されたい。

1号溝跡 (第258図、遺構PL.60)

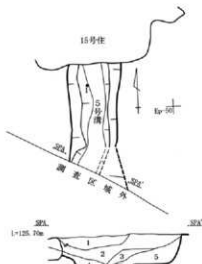
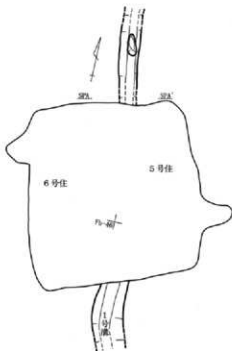
位置: Fa~Fc-44~47

方位: N-8°-W

概要: As-C混土層の下面で確認された。そのため、

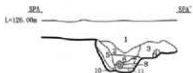
時期は古墳時代以前に属すると考えられる。検出できた長さは短く、遺物も出土していないため、詳細は明らかでない。

第4章 引間松葉遺跡Ⅱ区の調査



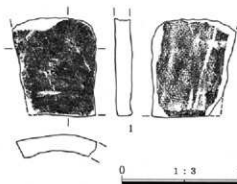
5号溝跡

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・As-C少含
2. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒少、As-C極少含
3. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒・As-C少含、締まりやや強
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C少含、締まり・粘性強
5. 暗褐色土 ロームブロック多、As-C極少含、締まり強・粘性やや強



1号溝跡

1. 暗褐色土 As-Cやや多含、古墳～平安地山層
2. 暗褐色土 小礫やや多含、締まり・粘性弱
3. 暗褐色土 小礫多含、締まり・粘性弱
4. 暗褐色土 小礫・ロームブロック主体
5. 暗褐色土 小礫少含
6. 暗褐色土 細砂粒多、小礫少含、粘性弱
7. 暗褐色土 小礫・砂粒主体、締まり強・粘性弱
8. 暗褐色土 粗砂粒少含
9. 暗褐色土 積物痕か、1層に似た層、締まり弱
10. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
11. 暗褐色土 粗砂粒・ロームブロックやや多含、締まり強・粘性弱



第258図 1・5号溝跡、出土遺物

5号溝跡 遺物観察表

種別番号	瓦種	出土位置	粘土・焼成・色調	製作法・積痕・一枚作り可能性	粘土版(酒取表・裏・接合)	布目版(合目・継消)・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側面図取	備考
第258図1		底面	胎並 焼並 色 灰白	製 2枚 積 一	表 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	轆 ○ 叩 × 型 横後	3	非陶土質・藤岡窯 9世紀前葉
PL.77	丸瓦 小破片								

2～4号溝跡 (第259～261図、遺構PL.60、遺物PL.78)

位置：En-Ep-48～51

方位：N-0°

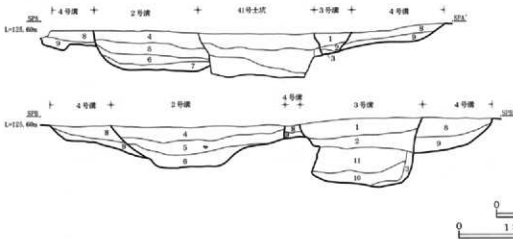
概要：調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。この溝跡群は基本的には同一の溝跡であり、掘り直し等により複数の溝跡が集合した

ようになったと考えられる。溝跡は所々深くなっている箇所もあるが、基本的には浅い。方向は真北に向かって流れている。もっとも幅の広い4号溝跡の中を2・3号溝跡が列んで流れている。

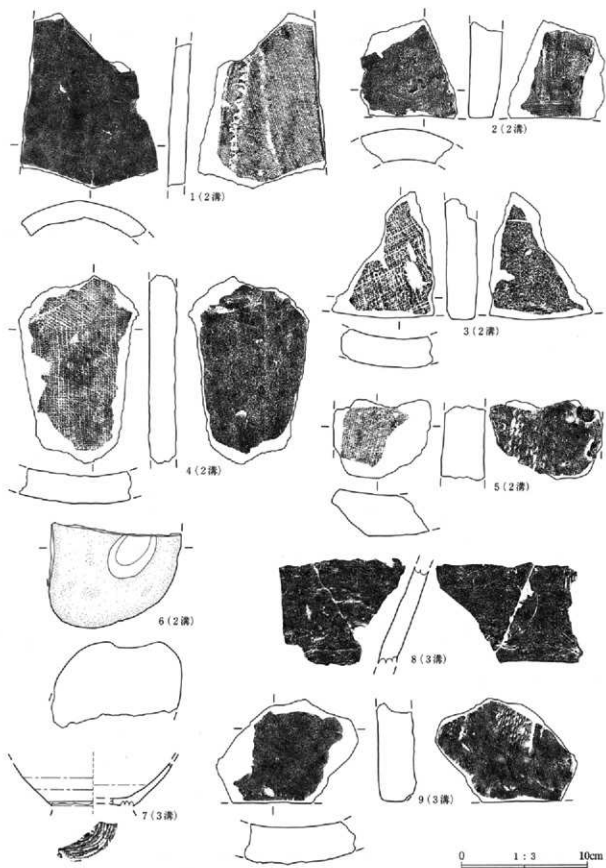
重複遺構：これらの溝跡の北西部で35・40・41・42・43・44・53号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、溝跡が古い。また、溝同士では、4号溝跡がもっとも古いと考えられるが、2・3号溝跡同士の新旧関係は明らかでない。その他：8～9世紀代を主体とする土器類や瓦などの遺物が出土している他、軟質陶器鉢（No 8）の破片なども出土している。これらの遺物は流れ込みによるものと考えられ、時期を特定することは困難である。恐らく大半は平安時代に埋没し、3号溝跡の一部は中世以降にも残存していた可能性がある。

2～4号溝跡

1. 暗褐色土 砂質性强、As-Cやや多、ローム粒少含、粘性弱
2. 暗褐色土 As-C・ローム粒やや多含
3. 暗褐色土 ロームブロック多含
4. 暗褐色土 砂質性强、As-C・ローム粒やや多含、粘性弱
5. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含
6. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C少含
7. 暗褐色土 ロームブロック多含
8. 暗褐色土 As-C・ローム粒やや多、砂粒少
9. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
10. 暗褐色土 砂質土、ロームブロック少含、締まり弱・粘性なし
11. 暗褐色土 砂質土、As-C少含、締まり弱・粘性なし



第259図 2～4号溝跡



第260図 2～4号溝跡出土遺物(1)

2. 引間松葉遺跡Ⅱ区の遺構と遺物



第261図 2～4号溝跡出土遺物(2)

2～4号溝跡 遺物観察表

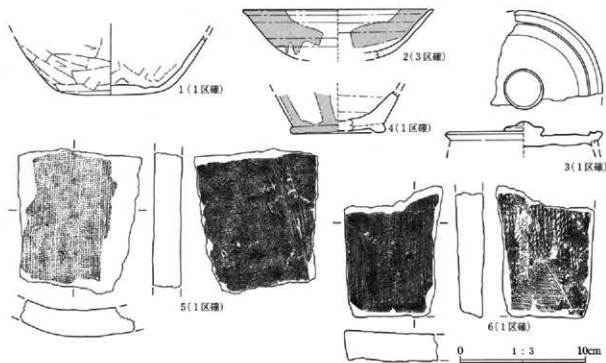
神田番号 図版番号	種別 砂種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		胎土・焼成・色調			器形・技法等の特徴		備考					
第260図7 PL. 78	須恵器 塊	3溝覆土 体～底1/5 高台欠損	口 底 高	- - (4.8)	胎 燒 色	細砂やや多 還元焰 灰白	白色・黒色鉱物 良好	輪轡整形(右回転) 底部: 回転糸切り後、付け高台							
第260図8 PL. 78	軟質陶器 鉢	3溝覆土 体破片	口 底 高	- - -	胎 燒 色	φ7mm小礫 酸化焰 オリーブ黒	細砂粒少 黒色・白色鉱物 良好	内外面横ナデ							
第261図11 PL. 78	須恵器 坏	2～4溝覆土 体～底1/3	口 底 高	- (6.0) (2.7)	胎 燒 色	φ2mm小礫 還元焰 黄灰	細砂粒少 白色鉱物 良好	輪轡整形(右回転) 底部: 回転糸切り							
第261図12 PL. 78	須恵器 短頸壺	2～4溝覆土 口～体上1/8	口 底 高	(10.0) - (3.9)	胎 燒 色	砂粒やや多 還元焰 灰白	黒色・白色鉱物 良好	輪轡整形							
神田番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調		製作法・補修・一枚作り可能性		粘土板(割取表・裏・乾燥時寸法)		布目痕(合目・捺消)・瓦乾時寸法		輪轡使用・印記技法・型式名称		側面取		備考
第260図1 PL. 78	丸瓦	2溝覆土 破片	胎 燒 色	並 並 にぶい黄橙	製 種	2枚 なし	表 裏 接	× × ×	合 捺 乾	○ × ×	輪 印 型	○ 機 機	2	笠形蓋 8世紀後半～9世紀初頭	
第260図2 PL. 78	丸瓦	2溝覆土 小破片	胎 燒 色	塊 密 灰	製 種	2枚 なし	表 裏 接	× × ×	合 捺 乾	× × ×	輪 印 型	○ 機 機	-	鏡香山窟 8世紀後半～9世紀前半	
第260図3 PL. 78	平瓦	2溝覆土 小破片	胎 燒 色	塊 並 褐灰	製 種	なし あり	表 裏 接	× × ×	合 捺 乾	× × ×	輪 印 型	× 機 素文	-	笠形蓋 8世紀後半～9世紀初頭 ヘア文字ありか	
第260図4 PL. 78	平瓦	2溝表面 破片	胎 燒 色	塊 並 灰	製 種	なし あり	表 裏 接	○ × ×	合 捺 乾	× × ×	輪 印 型	× 素文	-	笠形蓋 8世紀後半～9世紀初頭	
第260図5 PL. 78	平瓦	2溝覆土 小破片	胎 燒 色	塊 並 青黒	製 種	不明 あり	表 裏 接	× × ×	合 捺 乾	× × ×	輪 印 型	× 縄結	3	笠形蓋 8世紀後半～9世紀初頭	
第260図9 PL. 78	平瓦	3溝覆土 破片	胎 燒 色	並 並 黄灰	製 種	なし あり	表 裏 接	× × ×	合 捺 乾	× ○ ×	輪 印 型	× 縄結消	-	笠形蓋 8世紀中葉	
第261図10 PL. 78	平瓦	3溝覆土 小破片	胎 燒 色	並 並 褐	製 種	なし あり	表 裏 接	○ ○ ×	合 捺 乾	× × ×	輪 印 型	× 素文	-	笠形蓋 8世紀後半～9世紀初頭	
第261図13 PL. 78	平瓦	2～4溝覆土 小破片	胎 燒 色	塊 塊 淡黄	製 種	粗小 不明 不明	表 裏 接	× × ×	合 捺 乾	× ○ ×	輪 印 型	× 全格子	-	笠形蓋・青陶土質 8世紀後半～9世紀前半	
神田番号 図版番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			石材			特徴						
第260図6 PL. 78	石製品 四石状	2溝表面 欠損あり	長さ	幅	厚さ	粗粒輝石安山岩			中央部が窪む						

第4章 引間松葉遺跡Ⅲ区の調査

(7) 遺構外出土遺物

本遺跡の遺構確認作業中に出土し、遺構との関係を明らかにすることができなかった遺物を掲載した。土師器、須恵器をはじめとして、灰陶陶器や瓦など、

本遺跡の住居跡などでも多く出土している遺物である。



第262図 遺構外出土遺物

遺構外 遺物観察表

神田番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
第262図1 PL.78	土師器 壺	1区確認面 体下～底4/5	口— 底— 高(4.8)	胎 φ3mm小礫 砂粒多 焼 酸化焰 良好 色 にぶい橙	外面：体部～底部へう張り 内面：へうナデ、へう板				
第262図2 PL.78	灰陶陶器 埴	3区確認面 口～体1/8	口(15.0) 底— 高(3.9)	胎 緻密 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形 外面施釉、漬け掛け	大塚2号窯式 期			
第262図3 PL.78	須恵器 蓋	1区確認面 挿～天井 挿完 他1/5	口— 幅 3.2 高(2.0)	胎 砂粒やや多 焼 還元焰 良好 色 黄灰	輪軸整形				
第262図4 PL.78	灰陶陶器 長頸壺	1区確認面 体下～底1/4	口— 底(7.4) 高(4.0)	胎 細砂少 焼 還元焰 良好 色 灰白	輪軸整形 外面：底部付近まで釉がかかる				
神田番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・施釉・ 一枚作り可能性	胎土板(酒 取表・裏・ 接合)	布目痕(合目 ・捺消)・瓦 乾地時圧痕	輪軸使用・ 叩き技法・ 型式名称	部面 面取	備考
第262図5 PL.78	平瓦	1区確認面 破片	胎 並 焼 並 色 灰	製 輪 軸 一 あり	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	製 × 叩 × 型 素文	—	笠懸窯 8世紀後半～9 世紀初頭
第262図6 PL.78	平瓦	1区確認面 破片	胎 並 焼 並 色 灰白	製 輪 軸 一 あり	表 ○ 裏 ○ 接 ×	合 × 捺 × 乾 ○瓦簷	製 × 叩 × 型 縄絡	3	秋田窯 9世紀前半
神田番号 図版番号 (遺構外7)	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
PL.78	陶製製品 薬入れ	2区確認面 定形	径 4.2 厚 1.1	— —	片面にゴム製の蓋がつく	延命堂製薬所 「興仁」			

3. 引間松葉遺跡Ⅲ区のみとめ

塚田中原遺跡0区と同様に、ほとんど1面のみの調査であった。一部の土坑の覆土にはAs-Bが入ることから、時期の特定ができるが、遺構確認面はAs-C混土層上であるため、土坑など時期が特定できない遺構が多い。

縄文時代では、本遺跡も遺構は検出していない。後期初頭の称名寺式の土器片が出土した他は、塚田村東Ⅳ遺跡や塚田中原遺跡0区と同様に、中期の土器片と石器が出土したのみである。

古墳時代の遺構では、6世紀後半から7世紀初頭に位置付けられる住居跡を1軒検出した。7世紀後葉から8世紀初頭に属する5・6・7号住居跡と共に、古墳時代後期から少しずつ集落が営まれてきていることがわかる。

奈良・平安時代では、住居跡など遺構の数はやはり多い。しかし、極端に増加するのは9世紀後半以降であり、8世紀代はまばらである。この時期では、8世紀前葉から中葉の住居跡が1・22号住居跡の2軒のみであり、古墳時代後期から増加するとは言いがたい。さらに、8世紀後半には住居跡はなく、9世紀前半では、その時期に属する可能性があるのは4号住居跡だけである。大幅に増加するのは9世紀後半以降であり、この時期の住居跡で特徴的なのは、重複が激しいことである。3・4・10・11号住居跡群や8・9・12・13a・13b・16・17号住居跡群のように、9世紀後半から10・11世紀まで、ほとんど同一箇所に住居を造り続けている。また、21・23・25・26・27号住居跡群も10世紀から11世紀にかけて近い場所に作り続けている。これらは、9世紀後半から11世紀にかけて何代にも亘って、集落が営まれた結果である。これらの住居跡からは、瓦や灰輪陶器などが出土しており、国分僧寺とのなんらかの関係をもった集落が、長く保たれていたことを示すだろう。

住居跡以外の遺構では、2・3・4号溝跡が特徴的である。これらの溝跡は、基本的には同一の溝跡

と考えられるが、ずれることなく南北に走向していることが特徴である。すぐ側には塚田中原遺跡0区18号溝跡が並行して流れており、奈良・平安時代からこの付近に区画となる溝が存在していた可能性が考えられる。

また、この時代で特筆すべき遺物に饒益神寶が挙げられる。これは、17号土坑から出土したものであるが、この土坑の性格は明らかにできていない。調査区域外にまで広がることも一因ではあるが、他の遺物にめばしいものはなく、土坑の規模や形態も際だったものがないことによる。覆土には炭化物がみられることから、他の土坑の多くとは異なる点もある。しかし、土坑墓と判断するだけの情報も得られなかった。饒益神寶は上野国分僧寺尼寺中間地域で出土しているが、県内では類例が少ない。

次に、本遺跡ではAs-B直下の遺構が検出されている。これは、60・61号土坑であり、円柱形の形態をしている。しかし、性格は明らかでない。

中世に属すると判断できた遺構は検出されていない。しかし、隣接する塚田中原遺跡0区など周辺遺跡の様相から考えると、多数ある土坑などの一部は、この時期に属する可能性もあろう。

近世以降では、1号井戸跡と、19号土坑が挙げられる。1号井戸跡は、覆土から近世以降に属すると判断したが、時期は明らかでない。19号土坑は板状の鉄材などに混じって、近代のガラス瓶が出土したことが特徴である。19号土坑は近代以降の廃棄を目的とした土坑と判断しているが、ここから出土したガラス製品には第2次大戦中かそれ以前のものも含まれている。近くから迫撃砲弾が出土したことも含めて考えると、終戦後に投棄などが行われた可能性も考えられる。

第4章 引間松葉遺跡Ⅲ区の調査

第10表 引間松葉遺跡Ⅲ区土坑計測表

番号	位置	形状	長軸方位	長径×短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
1	Fc~Fd-44~45	隅丸長方形	N-0°	222×(92)	54	土師器、須恵器、瓦、 灰輪陶器、鉄製品	
2	Fc~Fd-44~45	円形	N-40°-W	60×60	15	土師器、須恵器、陶磁器	
3	Fc~Fd-44~45	楕円形	N-75°-W	35×30	15	陶磁器	
4	Fc~Fe-43~45	隅丸方形小	N-50°-W	(180)×(130)	36	土師器、須恵器、灰輪陶器、瓦	
5	Fd~Fe-44~45	ほぼ円形	N-70°-W	50×45	12		
6	Fd~Fe-44~45	ほぼ円形	N-70°-W	60×53	15	土師器、須恵器	
7	Fd~Fe-44~45	楕円形	N-75°-W	50×35	28		
8	Fd~Fe-45~46	ほぼ円形	N-71°-W	58×55	9		
9	Fd~Fe-45~47	隅丸方形小	N-56°-W	265×(37)	6		
10	Fd~Fe-45~46	隅丸長方形	N-55°-E	77×63	8		
11	Fc~Fd-45~46	ほぼ円形	N-38°-E	73×63	12	土師器、須恵器	
12	Fb~Fc-45~46	楕円形	N-57°-E	49×41	23	土師器、灰輪陶器	
13	Fh~Fi-42~43	円形	N-50°-W	105×105	31	土師器、須恵器、灰輪陶器	
14	Fh~Fi-42~43	不明	N-74°-W	381×(48)	25	土師器、須恵器、灰輪陶器、瓦	
15	Fi~Fj-42~43	不明	N-55°-W	(470)×(350)	40	土師器、須恵器、灰輪陶器、瓦、鉄製品、石製品	
16	Fi~Fj-43~44	不明	N-58°-W	(240)×(62)	51		
17	Fh~Fi-43~44	楕円形小	N-55°-W	47×(30)	26	土師器、須恵器、灰輪陶器、鍔形神寶	
18	Fe~Fi-43~44	ほぼ円形	N-27°-E	105×94	47	土師器、須恵器、灰輪陶器、瓦	
19	Fe~Fi-43~44	不整形	N-9°-E	(180)×(140)	48	土師器、須恵器、瓦、陶磁器、ガラス製品	近代以降
20	Fi~Fj-42~43	ほぼ円形小	N-22°-E	84×84	50	土師器、須恵器	
21	Fd~Fe-43~44	円形小	N-55°-W	90×(45)	50	土師器、須恵器、瓦	
22	Fd~Fe-44~45	楕円形	N-40°-E	114×73	20	土師器、須恵器、瓦、鉄製品	
23	Fe~Fi-43~45	円形	N-70°-W	115×115	21	土師器、須恵器	
24	Fh~Fi-43~44	隅丸長方形	N-74°-W	250×116	44	土師器、須恵器、灰輪陶器、瓦、鉄製品	
25	Fh~Fi-42~44	隅丸方形小	N-8°-E	160×(110)	30	土師器、須恵器、灰輪陶器、鉄製品	
26	Fi~Fj-42~43	楕円形小	N-85°-W	75×60	21		
27	Fi~Fj-42~43	円形	-	65×63	38	土師器	
32	Ep~Er-48~49	ほぼ円形	N-8°-E	116×105	48	土師器、須恵器、灰輪陶器	
33	Ep~Er-48~49	ほぼ円形	N-11°-E	97×88	25	土師器、灰輪陶器、瓦	
34	Eo~Ep-49~50	ほぼ円形	N-66°-W	97×86	12	瓦	
35	Eo~Ep-49~50	ほぼ円形	N-38°-W	74×70	10		
36	Ep~Eq-50~51	ほぼ円形	N-37°-W	40×36	36		
37	Ep~Eq-48~49	隅丸三角形	N-81°-W	95×85	60	土師器、須恵器、灰輪陶器、瓦	
38	Ep~Eq-48~49	楕円形	N-4°-W	76×58	32		
39	Ep~Eq-48~49	楕円形	N-69°-W	104×95	55	土師器、須恵器、瓦	
40	En~Ep-49~50	楕円形	N-57°-E	95×80	35	土師器、須恵器	
41	Eo~Ep-49~50	楕円形	N-8°-E	(190)×140	60	土師器、須恵器	
42	Eo~Ep-49~50	隅丸長方形	-	85×(52)	41		
43	Eo~Ep-49~50	長方形	N-0°	190×65	33		
44	Eo~Ep-49~50	隅丸長方形	N-0°	136×67	19		
45	Eq~Er-47~49	隅丸方形小	N-71°-W	173×145	10	土師器、須恵器、灰輪陶器	
46	Eq~Er-48~49	ほぼ円形	N-84°-E	110×100	70	須恵器	
47	Eq~Er-48~49	楕円形	N-3°-W	100×72	17	須恵器	
48	Ep~Er-48~49	楕円形小	N-67°-W	110×78	16	土師器、須恵器	
49	Ep~Eq-48~49	楕円形小	N-60°-W	107×61	35		
51	Fe~Pg-44~45	隅丸方形小	N-66°-W	95×90	18	土師器、須恵器	
53	Eo~Ep-48~50	不整形	N-59°-W	270×(75)	65	土師器、須恵器、瓦	
54	Fe~Pg-44~46	隅丸長方形	N-59°-W	147×(80)	13		

3. 引間松葉遺跡Ⅲ区のまとめ

番号	位置	形状	長軸方位	長径×短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
55	Fe-Fg-44-45	隅丸長方形	N-19°-W	78×67	8		
56	Ff-Fg-44-45	楕円形小	N-62°-W	95×(38)	20		
57	Ff-Fg-44-45	円形	-	95×90	34	土師器	
58	Ff-Fg-44-45	楕円形	N-62°-W	86×(50)	14		
60	Fe-Ff-43-44	楕円形	N-70°-W	122×115	40		As-B F
61	Fe-Ff-45-46	楕円形小	N-65°-W	170×(65)	65	瓦	As-B F
64	Er-Es-47-48	隅丸長方形	N-83°-E	312×172	30	土師器、須恵器、陶磁器、瓦	
65	Er-Es-47-48	楕円形	N-3°-E	100×(80)	37	土師器、須恵器	
66	Ep-Er-49-51	楕円形小	N-62°-W	350×(165)	115	土師器、須恵器、灰輪陶器、瓦	
68	Ff-Fh-42-44	楕円形	N-15°-W	126×116	46	土師器、須恵器、灰輪陶器	
70	Ep-Eq-49-51	不定形	N-67°-W	(220)×140	105	土師器、須恵器、灰輪陶器、瓦、鉄製品	
71	Eq-Er-49-50	不定形	N-22°-E	(185)×110	47		
72	Eq-Er-49-50	楕円形	N-61°-W	250×(125)	85	土師器、須恵器	
73	Ep-Eq-48-49	隅丸長方形	N-79°-W	75×(65)	34	土師器、須恵器、瓦	
74	Ep-Eq-48-49	楕円形小	N-60°-W	79×(28)	40		
75	Ff-Fg-43-44	隅丸長方形	N-17°-E	190×88	15	土師器、須恵器、灰輪陶器、瓦	
76	Fe-Ff-43-44	円形小	-	115×(50)	53		
78	Ff-Fg-43-45	隅丸長方形	N-28°-E	325×146	20	須恵器、瓦	
79	Ff-Fg-44-45	隅丸長方形	N-29°-E	205×(204)	20		
86	Fg-Fi-43-44	楕円形小	N-57°-W	130×(73)	15	瓦	
90	Ep-Eq-48-49	円形小	N-68°-W	146×(90)	38	土師器、須恵器、灰輪陶器、瓦	
92	Ff-Fg-42-43	ほぼ円形	-	110×110	50	土師器、須恵器、灰輪陶器、瓦	
95	Fg-Fh-44-45	楕円形小	N-8°-W	115×110	30	土師器、須恵器、鉄製品	
96	Eq-Er-49-50	不定形	N-74°-E	310×(150)	37		
97	Er-Es-48-50	隅丸長方形	N-20°-E	85×70	35	須恵器	
99	Fg-Fh-43-45	楕円形	N-63°-W	230×(40)	55	須恵器	
100	Es-Eq-49-51	隅丸長方形	N-8°-E	275×125	46	土師器、須恵器、灰輪陶器、瓦	
101	Ep-Eq-49-50	楕円形	N-12°-E	80×56	18	須恵器	
102	Ep-Eq-48-49	楕円形	N-82°-W	70×37	23	須恵器	
103	Ep-Eq-48-49	隅丸長方形	N-39°-E	(65)×(45)	61		
104	Ep-Eq-48-49	隅丸長方形	N-14°-W	42×37	37		
106	Fk-Fi-39-40	隅丸方形小	N-67°-W	(55)×(51)	15	須恵器、瓦	
107	Fi-Fk-40-41	楕円形	N-90°	260×(92)	60	須恵器、瓦、石製品	
108	Fi-Fk-40-42	隅丸方形小	N-66°-W	70×(48)	30		
109	Fi-Fj-40-41		N-80°-E	(130)×(56)	15	須恵器	

第11表 引間松葉遺跡Ⅲ区ピット計測表

番号	位置	形状	長軸方位	長径×短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
1	Fh-Fi-43-44	楕円形	N-75°-W	35×30	25		
2	Ff-Fg-42-43	楕円形	N-73°-W	39×26	22		
3	Fq-Fr-47-48	楕円形	N-60°-W	45×(35)	70	土師器、須恵器	
4	Fj-Fk-43-44	楕円形	N-13°-W	33×26	32	土師器	

第12表 引間松葉遺跡Ⅲ区溝跡計測表

番号	位置	断面形状	方位	幅 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
1	Fa-Fc-44-47	逆台形	N-8°-W	(上)60-100 (下)25-30	45		古墳時代以前
2	Ep-Eq-49-51	逆台形	N-0°	(上)90-106 (下)42-135	22	土師器、須恵器、灰輪陶器、瓦、石製品	古代
3	Ep-Eq-49-51	逆台形状	N-0°	(上)78-165 (下)42-136	30-87	土師器、須恵器、灰輪陶器、軟質陶器、瓦	中世

第4章 引間松葉遺跡Ⅲ区の調査

番号	位置	断面形状	方位	幅 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
4	Ep~Eq-49~51	圓状	N-0°	(上)510~590 (F)470~505	45	土師器、須恵器、灰輪 陶器、瓦	古代
5	Ep~Eq-49~51	圓状	N-0°	(上)120~140 (F)35~47	23~45	須恵器、瓦	古代

第5章 調査の成果

1. 集落の変遷

今回の3遺跡の調査では、合計62軒の住居跡を検出することができた。調査区の幅が広くないため、部分的にしか検出することができなかったり、重複が激しく、不明瞭な点が多い住居跡もあったが、時期のわかる住居跡を時期毎に区分して、集落の変遷を考えてみたい。

本3遺跡は、国府城の西部で、国分僧寺南面に位置する。したがって、これらの存在による影響を強く受けた集落といえよう。塚田村東IV遺跡の場合、国分僧寺よりもより国府に近く、引間松葉遺跡Ⅲ区は国分僧寺の方がより近いなど、遺跡によって距離の違いはある。しかし、染谷川を挟んでいるとはいえ、国分僧寺の建立は、この地にとって大きな出来事であっただろう。特に塚田中原遺跡0区・引間松葉遺跡Ⅲ区は正面である南面に位置することから、国府よりも強い関係があったかもしれない。

そこで、集落の変遷を考える上で、住居跡を大きく3時期に区分して考える。第1は国分僧寺建立以前の8世紀前半までの時期、第2は国分僧寺建立後の8世紀後半から9世紀前半までの時期、第3は国分僧寺が少しずつ力を失っていく9世紀後半以降の時期とする。

塚田村東IV遺跡では、15軒の住居跡を検出した。その内訳を見ると、8世紀前半までの時期が8軒、8世紀後半から9世紀前半までの時期が3軒、9世紀後半以降が3軒、時期不明が1軒となっている。特徴としては、国分寺建立以前の時期が最も多く、その後は、減少したまま目立った増加が見られないことである。10世紀代の住居が検出されていない事も特徴であろう。塚田村東IV遺跡における8世紀前半までの住居跡には、鉄生産関連遺物を伴うものが多い。この時期は、律令体制の整備に伴い、建物建築や物資など様々な需要があったと考えられる。しかし、国分僧寺の建設は8世紀後半も続けられたことを考えると、塚田村東IV遺跡の住居跡は、減少するのが早すぎる感がある。塚田村東IV遺跡の8世紀

前半までの住居跡は、国府との関連で建てられた可能性を考えたい。では、その後の減少は何を意味するのであろうか。また、10世紀以降の住居跡が検出されなかったのは、何を意味するのであろうか。

群馬町教育委員会による発掘調査で、塚田村東IV遺跡と最も近い距離にあるのは、塚田村東Ⅱ・稲荷台村北遺跡である(田辺・綿貫 2001・2002)。それによると、8世紀前半までの住居跡も多いが、9世紀後半以降の住居跡がより多い。しかし、8世紀後半から9世紀前半期の住居跡はあまり多くない傾向がある。また、鉄生産関連遺物の出土は、8世紀前半期の住居跡(H-21)にみられるが、他に10世紀代の住居跡(H-9)にもみられ、特定の時期に集中するような傾向は確認できなかった。

塚田村東IV遺跡と塚田村東Ⅱ・稲荷台村北遺跡の傾向をみると、8世紀前半までの時期は、住居跡の数が多く、8世紀後半から9世紀前半期は、減少する。そして、9世紀後半以降に増加するようである。塚田村東IV遺跡では、10世紀の住居跡はみられないが、隣接する塚田村東Ⅱ・稲荷台村北遺跡では検出されているので、あたらなかっただけであろう。

塚田中原遺跡0区では、19軒の住居跡を検出した。その内訳は、8世紀前半までの時期が2軒、8世紀後半から9世紀前半までの時期が5軒、9世紀後半以降の時期が10軒、時期不明が2軒であった。8世紀後半から9世紀前半の時期に分類した住居跡は、重複住居であり、やや不明瞭な点もあるが、一定の傾向として、時期が下るに連れて増加しているようにみえる。塚田中原遺跡0区は、南東から北西に長く、東端の0-1区は塚田村東IV遺跡の北にほぼ接し、西端の0-6区は引間松葉遺跡Ⅲ区に接する。ここでは、8世紀前半までの時期の住居跡は塚田村東IV遺跡に近い東側で検出されている。

群馬町教育委員会による発掘調査で、塚田中原遺跡0区に最も近い、塚田村東Ⅲ遺跡(田辺・綿貫 2002)では、塚田村東IV遺跡に近い東端部で8世紀前半までの住居跡が多く、それ以外の調査区では、9世紀後半以降の住居跡が多く検出されている。

第5章 調査の成果

塚田中原遺跡0区だけでみると、8世紀後半から9世紀前半の時期に住居跡が減少し、9世紀後半以降に増加するという傾向は確認できない。しかし、塚田村東Ⅲ遺跡とあわせてみると、ほぼ東部だけに8世紀前半までの時期の住居跡がみられ、8世紀後半から9世紀前半の時期は、少数の住居跡が継続的に営まれ、その後の9世紀後半以降に、北西部を中心として、かなりの増加がみられる。この傾向は、塚田中原遺跡0区の北に位置する上野国分寺参道遺跡(齊藤・吉田 1997)や元総社西川遺跡(笹沢 2001)の様相とも一致している。ただし、元総社西川・塚田中原遺跡(井川 2003)では、8世紀後半から9世紀前半の住居数は多いという。もっともその前後の時期も多いため、全体的な傾向は変わらないだろう。

引開松葉遺跡Ⅲ区では、28軒の住居跡を検出した。その内訳をみると、8世紀前半までの時期が6軒、8世紀後半から9世紀前半の時期が1軒、9世紀後半以降が20軒、時期不明が1軒であった。調査区は塚田中原遺跡0-6区の西端に始まり北西に細く延びている。8世紀前半までの時期と9世紀後半以降の時期は、重複住居を考慮するとすべてが同時に建っていたわけではないが、それでも9世紀後半以降の時期は住居跡の増加が目立ち、堅穴住居では最後に近い11世紀代までまんべんなくみられる。逆に、8世紀後半から9世紀前半の時期が極端に少なく感じられる。

群馬町教育委員会の発掘調査による引開松葉・塚田的場遺跡(田辺・綿貫 2000)においても、8世紀前半までの時期は、あまり多くなく、8世紀後半から9世紀前半の時期はさらに少ない。そして、9世紀後半以降に増加している。

このことから、引開松葉遺跡Ⅲ区は基本的には隣接する塚田中原遺跡0区と同じ様相であり、9世紀前半までの時期は少なく、9世紀後半以降に住居跡が増加する。そして、10世紀以降の住居跡は、塚田中原遺跡0区より多い傾向にある。

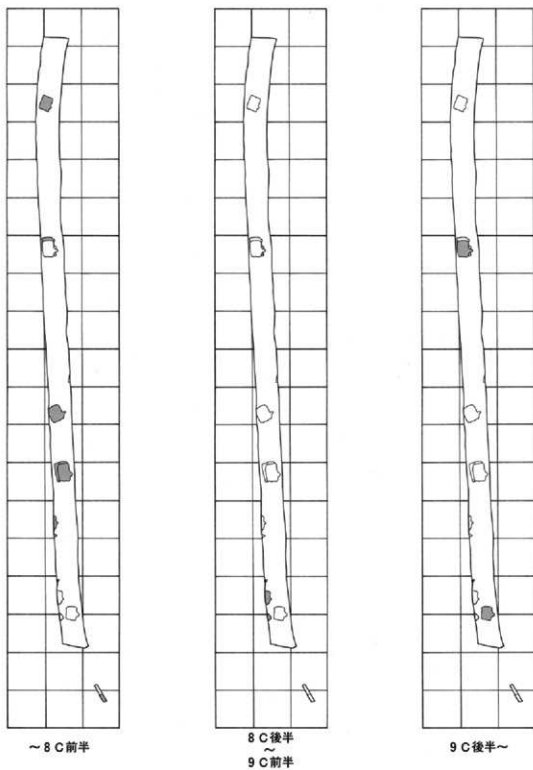
3遺跡とその周辺遺跡の住居跡の傾向を概観して

みたが、いくつかの傾向をまとめてみたい。

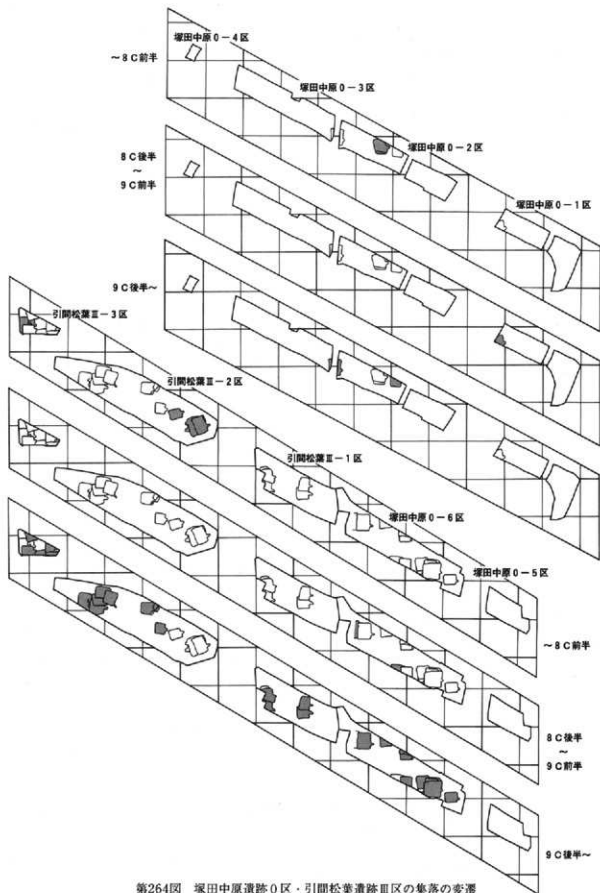
8世紀前半までの時期は、住居跡は多くはないが、一定数はみられる。特に国府に近い東よりではやや多くみられる。そして、塚田村東Ⅳ遺跡の鉄生産関連遺物を出土する住居跡や、鉄製鎌・漆付着土器をもつ塚田中原遺跡0区26号住居跡のように、重要な役割を担っていたであろう住居跡が存在するのも特徴である。恐らく、国府との何らかの関わりを持った集落であり、地方支配制度の整備期において、国府を支える集落の一つであったのだろう。

8世紀後半から9世紀前半の時期は、全体的に住居跡が少ないことが特徴である。なくなったわけではなく、少数が存在することから、国分僧寺南面を完全に無住としたわけではないようである。そうであるならば、国分僧寺建立において、それを支える役目を担っても良い地域であり、工房的性格を持った堅穴住居などが検出されても良いはずである。しかし、この地域の様相からみると、国分僧寺建立を支えるために集落が発達したようにはみえない。減少したということ踏まえると、他の地域に配された可能性が考えられる。国分僧寺と同じ染谷川北岸に位置し、僧寺・尼寺により近い上野国分僧寺・尼寺中間地域(木津ほか 1987-1992)でもこの時期の減少は強くでている。おそらく、このあたりの地域は上野国の中核として、居住などに制限があったのだろう。

9世紀後半以降になると、この地域では住居跡が極端に増加する。特にその傾向は、国分僧寺により近いところで顕著である。塚田村東Ⅳ遺跡周辺でも増加はみられるが、塚田中原遺跡0区や引開松葉遺跡Ⅲ区周辺が目立つ。この時期の住居跡は、カマドなどに瓦を用い、灰軸陶器や緑軸陶器などの破片が出土することが多い。塚田中原遺跡0区の奈良三彩も含めて、国分僧寺との結びつきが遺物に現れてくる。国分僧寺の瓦などがどのような経緯を経て、住居に持ち込まれるのかはわからない。しかし、公的な制度とは別の有機的な結びつきが感じられる。



第263図 塚田村東Ⅳ遺跡の集落の変遷



第264図 塚田中原遺跡0区・引間松葉遺跡Ⅲ区の集落の変遷

2. 旧陸軍前橋飛行場に関わる遺構と遺物について

(1) 対空高射機関銃座

陸軍前橋飛行場の設定は、1943（昭和18）年5月の土地測量から始まった。飛行場敷地は約160町歩に及び、43年から44年にかけて、地元の堤ヶ岡村や国府村をはじめ周辺町村住民による連日の動労奉仕が続いた。そして44年2月には、いまだ完成していない滑走路に金網を敷いて初めての飛行機が着陸した。前橋飛行場は教育訓練用に設定された、陸軍の飛行場の一つであった。飛行場内外には、飛行機誘導路や掩体（壕）11か所が造られた。

この飛行場に関わる遺構や遺物が発掘調査に伴って検出されている。塚田村東Ⅳ遺跡の11号土坑と引間松葉遺跡Ⅱ区（別途報告）の312号土坑が、対空高射機関銃座であった。また引間松葉遺跡Ⅲ区からは未使用の迫撃砲砲弾が出土した。

塚田村東Ⅳ遺跡の11号土坑は、飛行場の東隅から北へ約220メートルに位置している。発掘当初は、覆土上層から戦後の遺物が出土したこともありゴミ穴と判断されたが、さらに慎重に調査を進めた結果、ゴミ穴ではなくて何らかの土坑であることが判明した。近隣の住民からは、土坑の約20メートル北には東西に飛行機誘導路が延びており、それを挟んで千鳥足状に飛行機の掩体（壕）が存在し、付近に高射機関銃座があった、との証言が得られたこともあり、この土坑は対空機関銃座の可能性が高まった。

そこで防衛研究所図書館での調査となった。担当者一名が同図書館専門官に土坑の図面を見てもらい、飛行場と土坑の位置関係、その他の状況を説明し教示を受けた。それによると「機関砲なら98式高射機関砲」「機関銃なら92式重機関銃」の公算が大きい、との説明を受けた。

ただし98式高射機関砲は全長2 m 45 cmであり、11号土坑は径約2 mである。この場合、土坑の外に銃口がはみ出してしまい、旋回補弾操作に支障をきたしてしまう、最低でも全長程度の直径が必要である

2. 旧陸軍前橋飛行場に関わる遺構と遺物について

という。92式重機関銃の全長は115 cm程であり、土坑の中におさまる。また、3か所の付随する張り出し（長さ70～120 cm、幅30～70 cm）は弾薬格納に使用された可能性があり、銃座の深さは盛り土を除くと70～80 cmを必要とすることから、当土坑の深さと一致する。そして土坑の北西に伸びる溝は交通壕と思われ、主要射撃方向は敵機予想進入経路の一つである東側を指向していることもわかった。

これらのことから、塚田村東Ⅳ遺跡11号土坑は92式重機関銃を使用した、対空高射機関銃座であることが判明した。

なお、「太平洋戦争米国海軍・海兵隊艦載機戦闘報告書」中にある1945年7月10日に行われた前橋飛行場に対する空襲、そのドッグ掃討隊の戦闘報告書に「降下中、飛行場北側にはほんのわずかな銃撃を確認したが、たいしたものではなく飛行機にも命中しなかった」とあるが、それに該当する対空高射機関銃座であるのかは判然としない。

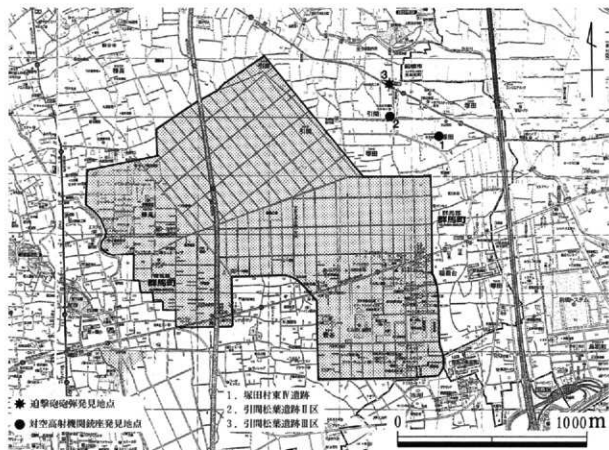
(2) 迫撃砲砲弾

2003（平成15）年10月1日、引間松葉遺跡Ⅲ区の調査現場から不発弾と思われる砲弾が発見された。発掘区の松杭を抜こうとしたときに、地表下約15 cmのところでスコップに当たったものである。砲弾の長さ30 cm、直径9 cm、重量約3000 gで信管も付着。

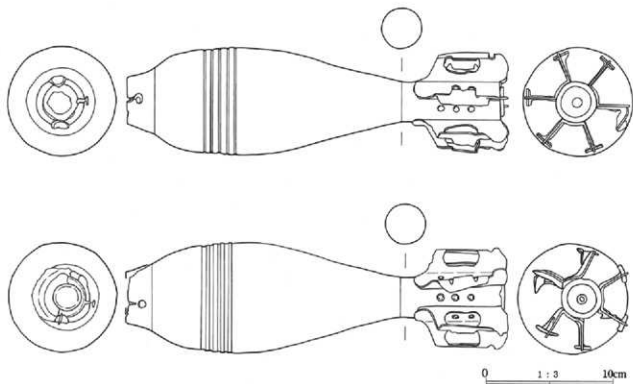
直ちに警察に連絡、県警察本部生活安全部銃器薬物対策課、高崎署員が急行して現場を封鎖し調べたところ、すぐには爆発の危険性はないということであった。砲弾は高崎署で保管し、自衛隊の定期回収の際、引き取ってもらうことになった。

その後、この砲弾は旧陸軍の「九四式・九七式軽迫撃砲」の砲弾であることが判明した。爆発すれば、半径30 mに被害が及ぶ。

なお、現物は回収されてしまったので、参考までに県内の赤城演習場跡（陸軍特殊演習場）で採集された同型の砲弾2点を紹介する。戦争遺跡関連の調査では、このような事例は今後も増えるものと思う。その取り扱いには慎重を期したい。



第265図 陸軍前橋飛行場（アミ部分）と関連遺構位置図



第266図 九四式軽迫撃砲弾（参考図）

3. 総括

今回の塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡0区・引間松葉遺跡Ⅲ区の発掘調査では、奈良・平安時代を中心として、縄文・古墳・中世・近世・近代に至る、様々な時代の資料を得ることができた。

塚田村東Ⅳ遺跡では、奈良・平安時代の住居跡15軒や多数の遺構を中心として、古墳時代の冨跡、中近世の土坑墓や冨跡、近代の土坑（機関銃座）を検出した。奈良・平安時代の遺物では、住居跡や土坑から羽口や鉄滓が出土し、住居跡の年代から8世紀前半に鉄生産との関わりがあったことが確認された。中世では土坑墓や火葬跡が検出され、また、近世では土坑墓が検出され、17世紀の埋葬例や人骨が確認できた。

塚田中原遺跡0区では、奈良・平安時代の住居跡19軒を中心として、中世の遺構や遺物8世紀前半の住居跡から鉄製錘が出土し、溝跡からは奈良三彩が出土するなど、奈良・平安時代の集落から重要な遺物の出土がみられた。また、中世の土坑墓も確認することができた。

引間松葉遺跡Ⅲ区では、古墳時代後期から11世紀代に至る住居跡が検出され、遺物では、土坑から饅頭神寶が出土した。また、近代のガラス製品などがまとまって見つかった。本遺跡からは、調査終了後の埋め戻しなどの撤収作業中に、旧日本軍の迫撃砲砲弾が出土するなど、前例の少ない出来事もあった。

今回の塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡0区・引間松葉遺跡Ⅲ区の成果を中心として、集落の変遷を述べてみたが、あくまでも部分的な情報から考えてみただけに過ぎない。これまでの調査を踏まえ、西毛広域幹線道路の本線部分の発掘調査成果がまとめられることによって、この地域におけるより詳細な集落動態が解明されるであろう。

これまでの調査によって、これほどの良好な資料を得ているながら、それを十分に活かしてまとめられなかったことをお詫びすると共に、調査・整理にお

いて、貴重なご意見・ご指導を下された方々に、この場を借りて篤く御礼申し上げます。

参考文献

- 井川達雄 2003『元総社西川・塚田中原遺跡——般居道前橋・足門線バイパス（西毛広域幹線道路）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告323集（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 今井和久 2003『稲荷塚道遺跡——前橋警察署新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書——』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第320集（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 木津博明・板岡正信・友廣哲也ほか 1987～1992『上野国分寺寺域中興地城（1）～（8）』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 群馬町誌編纂委員会 1998『群馬町誌』資料編1 原始古代・中世群馬町誌刊行委員会
- 群馬町誌編纂委員会 2001『群馬町誌』通史編上 原始古代・中世・近世 群馬町誌刊行委員会
- 齊藤仁志・吉田聖二 1997『上野国分寺参道遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 世澤幸史 2001『元総社西川遺跡——因分寺進入路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書——』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第288集（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 田辺芳昭・綿貫綾子他 2000『国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ』群馬町埋蔵文化財調査報告書第55集 群馬町教育委員会
- 田辺芳昭・綿貫綾子 2001『国府南部遺跡群Ⅲ』群馬町埋蔵文化財調査報告書第50集 群馬町教育委員会
- 田辺芳昭・綿貫綾子 2002『国府南部遺跡群Ⅳ』群馬町埋蔵文化財調査報告書第62集 群馬町教育委員会
- 田辺芳昭・綿貫綾子 2003『国府南部遺跡群Ⅴ』群馬町埋蔵文化財調査報告書第64集 群馬町教育委員会

付編 自然科学分析

1. 塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡0区出土人骨

横崎 修一郎

塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡0区は、それぞれ、群馬県群馬郡群馬町大字塚田字村東・同大字塚田字中原に所在する。西毛広域幹線道路建設に伴う発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により、平成15(2003)年4月から同年10月まで行われた。上記の2遺跡より、人骨が出土したので以下に報告する。しかしながら、人骨の保存状態は全般的に悪い。主として、歯について報告せざるをえない。歯の計測方法は、藤田(1949)に従った。また、歯の計測値の比較は中近世人は松村(MATSUMURA, 1995)を引用し、現代人は権田(1959)を引用した。

塚田村東Ⅳ遺跡出土人骨

塚田村東Ⅳ遺跡からは、3号土坑・85号土坑・86号土坑より中世の人骨が、19号土坑・20号土坑・31号土坑・45号土坑より近世の人骨が出土したので、以下に報告する。

1. 3号土坑出土人骨

時代は、出土遺物より、13世紀後半以降の中世に比定されている。

(1) 人骨の出土状況

人骨は、長さ約222cm・幅約2m・深さ約20cmの楕円形土坑から出土している。本土坑の上部には、多量の礫が発見されており、その下から人骨が出土している。人骨は、すべて火を受けた痕跡が認められるため、火葬跡と推定される。ちなみに、出土人骨は、主に中央南側に分布している。人骨の個体数は、2個体と推定されるが、火葬骨の総量は明らかに少ない。したがって、取骨された跡なのであろう。このように、火葬骨の全部ではなく一部のみを取骨する方法は、現代にも続く西日本タイプの取骨方法であると推定される(横崎, 2002)。

(2) 人骨の出土部位

火葬人骨の出土部位は、ほぼ全身に及ぶ。

(3) 被火葬者の頭位・火葬状態

被火葬者の頭位及び火葬状態は、不明である。

(4) 被火葬者の個体数

出土火葬人骨に、下顎骨頭部及び上腕骨及び大腿骨骨頭部に重複部位が認められたため、被火葬者の個体数は2個体であると推定される。これは、本土坑の大きさが大きいことから矛盾しない。

(5) 被火葬者の性別

火葬による、人骨の収縮を考慮しても、上腕骨骨頭部及び大腿骨骨頭の大きさに大小があるため、被火葬者の性別は男性及び女性の2個体分であると推定される。

(6) 被火葬者の死亡年齢

残存していた下顎骨右の歯槽部を観察すると、歯が第3大臼歯まで萌出していたことが確定できる。ところが、上顎第3大臼歯はまだ、歯根が完成していない状態である。したがって、被火葬者の死亡年齢は、約20歳前後と推定される。もう1体は、成人であろう。

(7) 火葬の方法

火葬人骨の色を観察すると、白色を呈しているため、高温、恐らく900℃以上で火葬に付されたことと推定される。また、人骨には亀裂や歪み及び捻れが認められるため、白骨化させたものを火葬に付したのではなく、死体をそのまま火葬に付したと推定される。

2. 85号土坑出土人骨

本土坑より副葬品は出土していないが、As-B(浅間B)混土層に覆われた状態で検出されたため、時代は中世に比定されている。

(1) 人骨の出土状況

人骨は、長さ約115cm・幅約80cm・深さ約25cmの隅丸長方形土坑から出土している。

(2) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は悪いが、頭蓋骨片・歯・四肢骨片等が出土している。

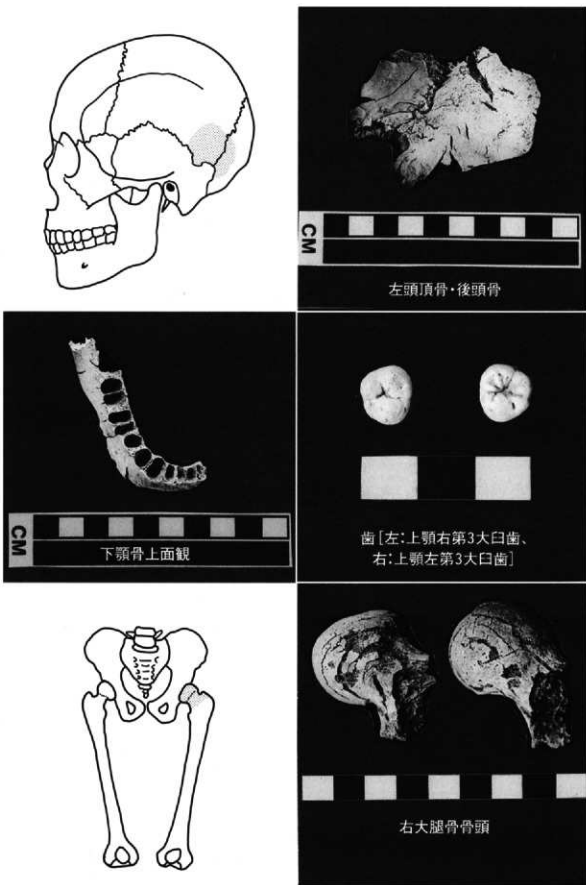


图1. 塚田村東IV遺跡3号土坑出土火葬人骨

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

出土状況より、被葬者の頭位は北側で、恐らく左側を下にした側臥（横臥）屈葬により埋葬されたと推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨特に歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体と推定される。

(5) 被葬者の性別

頭蓋骨の骨の厚さが比較的厚く出土歯の歯冠計測値も大きいため、被葬者の性別は男性と推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度を観察すると、上顎犬歯では象牙質が線状に露出した状態である。しかしながら、これは、人為的に歯を使用してできた異常摩耗であると推定される。したがって、確かな死亡年齢推定はできないが、恐らく、被葬者の死亡年齢は約40歳代と推定される。

(7) 被葬者の古病理

上顎左第1小白歯の、遠心面歯頸部に象牙質に達する程度の齧蝕（虫歯）が認められた。



左から、上顎右C（大歯）・同P1（第1小白歯）・同M3（第3大白歯）

図2. 塚田村東Ⅳ遺跡85号土坑出土歯

表1. 塚田村東Ⅳ遺跡85号土坑出土歯歯冠計測値及び比較表

歯種	計測項目	塚田村東Ⅳ 85号土坑		中世時代人		江戸時代人		現代人	
		右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀
上	C	MD (7.3)	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71	
	B L	8.5	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13	
P1	MD	7.1	7.25	7.02	7.41	7.33	7.38	7.37	
	B L	10.3	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43	
M3	MD	9.2	—	—	—	—	8.94	8.86	
	B L	11.8	—	—	—	—	10.79	10.50	

注1. 計測値の単位は、すべて、「mm」である。
 注2. 歯種は、C（大歯）・P1（第1小白歯）・M3（第3大白歯）を意味する。
 注3. 計測項目は、MD（歯冠遠心径）・B L（歯冠斜径）を意味する。
 注4. 計測値の内、（ ）で囲まれているものは、咬耗により、計測値に影響を受けていることを示す。
 注5. 「♂」は、MATSUMURA(1995)より引用。♀は、MATSUNURA(1995)には、第3大白歯のデータはない。
 注6. 「★★」は、植田(1959)より引用。

3. 86号土坑出土人骨

本土坑より副葬品は出土していないが、As-B（浅間B）混土層に覆われた状態で検出されたため、時代は中世に比定されている。

(1) 人骨の出土状況

人骨は、長さ約148cm・幅約74cm・深さ約24cmの楕円形土坑から出土している。

(2) 人骨の出土部位

人骨の残存状況は、比較的良好である。人骨の出土部位は、ほぼ全身に及ぶ。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

出土状況より、被葬者の頭位は北側で、恐らく左側を下にした側臥（横臥）屈葬により埋葬されたと推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体と推定される。

(5) 被葬者の性別

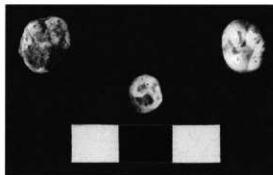
四肢骨が比較的大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性と推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

右第1大白歯の咬耗は、象牙質にまで達して面を形成している。従って、50歳代とも推定されるが、人為的に歯を使用してできた異常摩耗であるとも推定されるので、咬耗が実際の年齢よりも早く進んでいる可能性もある。ところが、わずかに残されている下顎骨より、下顎左右第1大白歯部から第3大白歯部は、生前脱落しており、歯槽が閉鎖していることが確かめられた。そうすると、下顎の歯が先に生前脱落をおこし、上顎の歯と咬耗をしなかったとも推定される。そうすると、被葬者の死亡年齢は、老齢の可能性もある。

(7) 被葬者の古病理

出土歯には、俗に虫歯と呼ばれる齧蝕は認められなかった。



左から、上顎右M1(第1大白歯)・下顎右P1(第1小臼歯)・上顎左M3(第3大白歯)

図3. 塚田村東Ⅳ遺跡86号土坑出土歯

表2. 塚田村東Ⅳ遺跡86号土坑出土水久歯冠計測値及び比較表

歯種	計測項目	塚田村東Ⅳ 86号土坑		中世時代人		江戸時代人		現代人	
		右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀
上顎	M1	MD 10.0	—	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.50
	B.L	10.7	—	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
下顎	M3	MD —	9.2	—	—	—	—	8.94	8.86
	B.L —	10.7	—	—	—	—	—	10.79	10.50
P1	MD 6.8	—	7.07	6.96	7.32	7.06	7.31	7.19	
	B.L 7.9	—	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77	

注1. 計測値の単位は、すべて、「mm」である。

注2. 歯種は、P1(第1小臼歯)・M1(第1大白歯)・M3(第3大白歯)を意味する。

注3. 計測項目は、MD(歯冠近遠心径)・B.L(歯冠冠径)を意味する。

注4. 「♂」は、MATSUMURA(1996)より引用。なお、MATSUMURA(1996)には、第3小臼歯のデータはない。

注5. 「★★」は、植田(1959)より引用。

4. 19号土坑出土人骨

出土遺物より、時代は17世紀の近世に比定されている。

(1) 人骨の出土状況

人骨は、長さ約100cm・幅約65cm・深さ約112cmの長方形土坑から出土している。

(2) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は非常に悪い。歯及び四肢骨片が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の残存状態が非常に悪いため、被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(4) 被葬者の個体数

人骨の残存状態は非常に悪いが、出土歯に、一部重複部位が認められたため、被葬者の個体数は2個体と推定される。以下に、歯の一部が出土しているものを個体Aとし、歯のほとんどが出土しているものを個体Bとして記載する。

(5) 被葬者の性別

人骨A及び人骨B共に、比較的歯の計測値が大きいため、被葬者の性別はどちらも男性であると推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度を観察すると、人骨Aは象牙質が線状に露出する状態である。従って、被葬者の死亡年齢は、約30歳代と推定される。また、人骨Bは、人骨Aに比べると咬耗が少ないので約20歳代と推定される。

(7) 被葬者の古病理

人骨Aの上顎歯の舌側面には、異常摩耗が認められた。これは、歯で樹皮をしごいたり芋麻等の繊維を歯で紡いだためと推定される。



左から、下顎右I2(第2切歯)・上顎左I1(第1切歯)・上顎左I2(第2切歯)

図4. 塚田村東Ⅳ遺跡19号土坑出土歯A

表3. 塚田村東Ⅳ遺跡19号土坑出土人骨水久歯冠計測値及び比較表

歯種	計測項目	塚田村東Ⅳ 19号土坑		中世時代人		江戸時代人		現代人	
		右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀
上顎	I1	MD —	8.5A	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
	B.L —	7.2A	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28	
	M2	MD 6.1	6.9A	6.3	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13
下顎	B.L 6.4	7.0A	6.5	6.25	6.74	6.53	6.62	6.51	
	M2	MD 7.5	7.6	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
	B.L 8.6	8.5	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13	
P1	MD 7.4	7.5	7.20	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37	
	B.L 9.2	9.5	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.49	
	P2	MD 7.2	7.0	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
M1	B.L 9.9	9.6	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23	
	M1	MD 10.5	10.4	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
	B.L 11.4	11.4	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40	
M2	MD 9.7	9.8	9.63	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74	
	B.L 11.5	11.9	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31	
	I2	MD 5.8A	—	6.04	5.78	6.06	5.97	6.29	6.11
P1	B.L 6.4A	—	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30	
	M2	MD 7.4	—	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
	B.L 7.8	—	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77	
P2	MD 7.8	—	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29	
	B.L 8.6	—	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26	
	M1	MD 11.2	—	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
M2	B.L 10.4	—	11.90	10.49	11.15	13.62	10.89	10.55	
	MD 11.2	—	11.06	10.65	11.39	10.78	11.39	10.89	
	B.L 10.5	—	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20	

注1. 計測値の単位は、すべて、「mm」である。

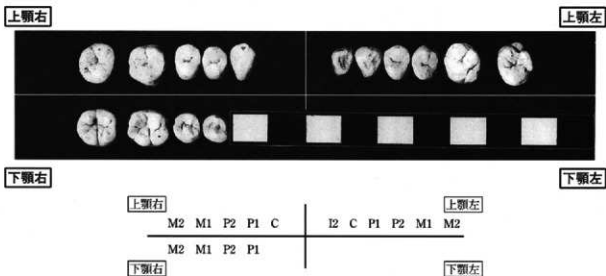
注2. 計測値はAとされているものは個体Aで、その他は個体Bである。

注3. 歯種は、I1(第1切歯)・I2(第2切歯)・C(犬歯)・P1(第1小臼歯)・P2(第2小臼歯)・M1(第1大白歯)・M2(第2大白歯)を意味する。

注4. 計測項目は、MD(歯冠近遠心径)・B.L(歯冠冠径)を意味する。

注5. 「♂」は、MATSUMURA(1996)より引用。

注6. 「★★」は、植田(1959)より引用。



注：I 2 (第2切歯)・C (犬歯)・P 1 (第1小白歯)・P 2 (第2小白歯)・M 1 (第1大白歯)・M 2 (第2大白歯)を意味する

図5. 塚田村東IV遺跡19号土坑出土歯B

5. 20号土坑出土人骨

出土遺物より、時代は17世紀の近世に比定されている。

(1) 人骨の出土状況

人骨は、長さ約98cm・幅約86cm・深さ約165cmの楕円形土坑から出土している。

(2) 人骨の出土部位

人骨は、ほぼ全身が出土しているが、残存状態はあまり良くない。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

出土状況から、被葬者は座葬で埋葬された可能性が高い。

(4) 被葬者の個体数

出土歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体と推定される。

(5) 被葬者の性別

出土歯の歯冠計測値が比較的大きく、四肢骨が頑丈で大きいため、被葬者の性別は男性と推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

出土歯の咬耗度を観察すると、小白歯にはそれほどの咬耗が認められないが、犬歯には象牙質が面を成すほどに露出している。これは、歯を人為的に使

用したためにできた異常摩耗とも推定される。しかしながら、頭蓋骨の主要縫合である冠状縫合・矢状縫合・ラムダ（人字）縫合を観察すると、一部に若干の癒合が認められるものの、ほとんどは癒合していない状態である。したがって、総合的に、被葬者の死亡年齢は約30歳代と推定される。



図6. 塚田村東IV遺跡20号土坑出土歯

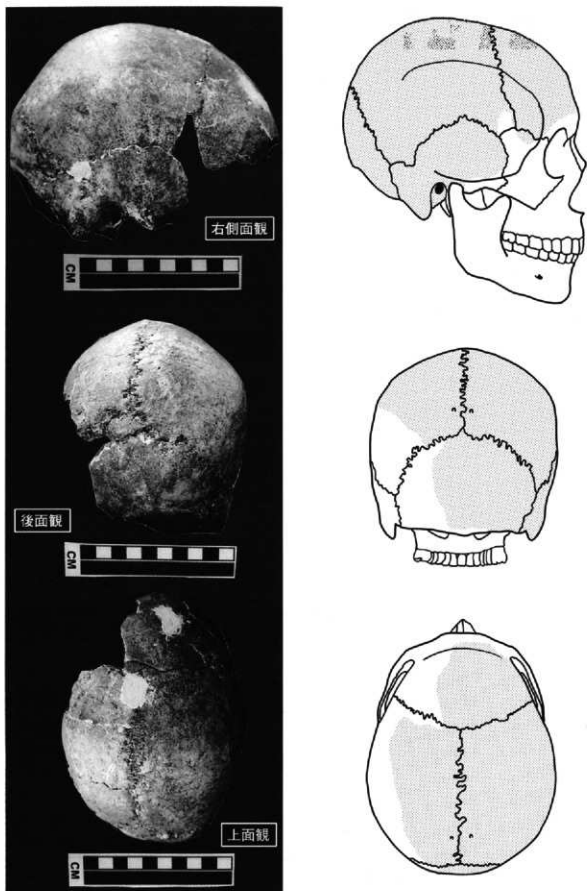


图7. 塚田村東IV遺跡20号土坑出土頭蓋骨及び出土部位図

(7) 被葬者の古病理

出土骨の内、上顎右第1大臼歯は、歯冠が完全に崩壊し、歯根のみが残存する状態の齦齦症第4度(C4)である。これは、恐らく、俗に虫歯と呼ばれる齦齦により、歯冠が崩壊したと推定される。

表4. 塚田村東Ⅳ遺跡20号土坑出土土人骨永久歯歯冠計測値及び比較表

歯種	計測		中世時代人				江戸時代人				現代人		
	項目	右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
I 1	MD	8.6	8.5	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.56	8.67	8.56	8.67	8.56
	BL	9.9	9.5	8.5	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13	8.52	8.13	8.52	8.13
	BL	7.9	7.8	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28	7.35	7.28	7.35	7.28
	MD	6.9	7.4	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.06	7.13	7.06	7.13	7.06
I 2	BL	7.4	7.4	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51	6.62	6.51	6.62	6.51
	MD	7.9	7.7	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71	7.94	7.71	7.94	7.71
	BL	9.9	9.5	8.5	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13	8.52	8.13	8.52	8.13
	MD	7.9	7.8	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28	7.35	7.28	7.35	7.28
P 2	BL	—	—	10.4	9.39	8.88	9.59	9.41	9.23	9.41	9.23	9.41	9.23
	MD	10.4	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47	10.68	10.47	10.68	10.47	10.68
	BL	10.5	10.0	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74	9.91	9.74	9.91	9.74
	MD	12.7	12.6	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31	11.85	11.31	11.85	11.31
M 1	MD	7.0	6.6	6.04	5.78	6.09	5.97	6.29	6.11	6.29	6.11	6.29	6.11
	BL	9.2	9.4	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30	6.43	6.30	6.43	6.30
	MD	7.5	7.3	7.07	6.96	7.52	7.06	7.31	7.19	7.31	7.19	7.31	7.19
	BL	8.1	8.3	8.1	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77	8.06	7.77	8.06	7.77
P 2	BL	7.5	7.5	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.20	7.42	7.20	7.42	7.20
	MD	9.2	9.0	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26	8.53	8.26	8.53	8.26
	BL	11.2	12.0	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32	11.72	11.32	11.72	11.32
	MD	10.4	10.9	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.56	10.89	10.56	10.89	10.56

注1. 計測値の単位は、すべて、「mm」である。
 注2. 歯種は、I 1(第1切歯)・I 2(第2切歯)・C(犬歯)・P 1(第1小臼歯)・P 2(第2小臼歯)・M 1(第1大臼歯)・M 2(第2大臼歯)を意味する。
 注3. 計測項目は、MD(歯冠全長)・BL(歯冠残存長さ)を意味する。
 注4. 「齦齦」は歯冠が脱落しているため、「齦齦症」は歯冠が齦齦(虫歯)のために崩壊しているため計測不能であることを示す。
 注5. 「*」は、MATSUMURA(1995)より引用。
 注6. 「**」は、徳田(1959)より引用。

6. 31号土坑出土土人骨

出土銭貨より、時代は17世紀の近世に比定されている。

(1) 人骨の出土状況

土坑は、調査区域外にまたがるため、土坑の形状及び大きさは不明である。検出された土坑の大きさは、長さ約62cm・幅55cm・深さ約45cmである。

(2) 人骨の出土部位

人骨の保存状態は、比較的良好である。人骨の出土部位はほぼ全身に及ぶ。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の出土状況より、被葬者は顔を北に向けた座葬で埋葬されたと推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨に重複部位は認められないため、被葬者の個体数は1個体と推定される。

(5) 被葬者の性別

被葬者の性別は、頭蓋骨並びに四肢骨の計測値が大きく頑丈であるため、男性と推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

頭蓋の主要縫合を観察すると、冠状縫合は癒合しているが、矢状縫合及びラムダ(人字)縫合は癒合していない状態である。また、歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度である。総合的に、被葬者の死亡年齢は、約30歳代であると推定される。

(7) 被葬者の古病理

本被葬者には、骨梅毒の痕跡が認められた。

①梅毒の起源

梅毒の起源については、コロンブスがアメリカから1492年以降にヨーロッパに持ち帰ったという説・元々ヨーロッパに存在したという説があり、未だに決着はしていない。土肥慶三の『日本梅毒史』によると、日本では室町時代(1338年-1573年)の永正9(1512)年に、中国の広東省から京都に伝わり、翌年には関東地方に伝わったというのが定説になっている。これを裏付けるかのように、日本では、中世の室町時代人骨である東京の鍛冶橋遺跡や近世の出土人骨に、多数、骨梅毒の痕跡が認められている。なお、近世の骨梅毒についてまとめたものに、東京都老人総合研究所の鈴木隆雄による研究がある(SUZUKI, 1984; 鈴木, 1998)。

②症状

病変は、皮膚・骨・心血管系・肝臓や小腸等の消化器系・中枢神経系までもがおかされる。症状は、3期に分かれ、感染後数週間は性器のみだが、その後数ヶ月すると全身にバラ疹ができ、数年後にはゴム腫と呼ばれる腫瘍ができ、骨を破壊し、大動脈瘤破裂といった症状をもたらす。

③骨の特徴

スタインボック(Steinbock, 1976)によると、骨梅毒に侵される骨の部位は、頭蓋骨と脛骨が主であり、その他、鎖骨・胸骨・上腕骨・橈骨・尺骨・大腕骨も含まれるという。なお、ハンセン病は、梅毒

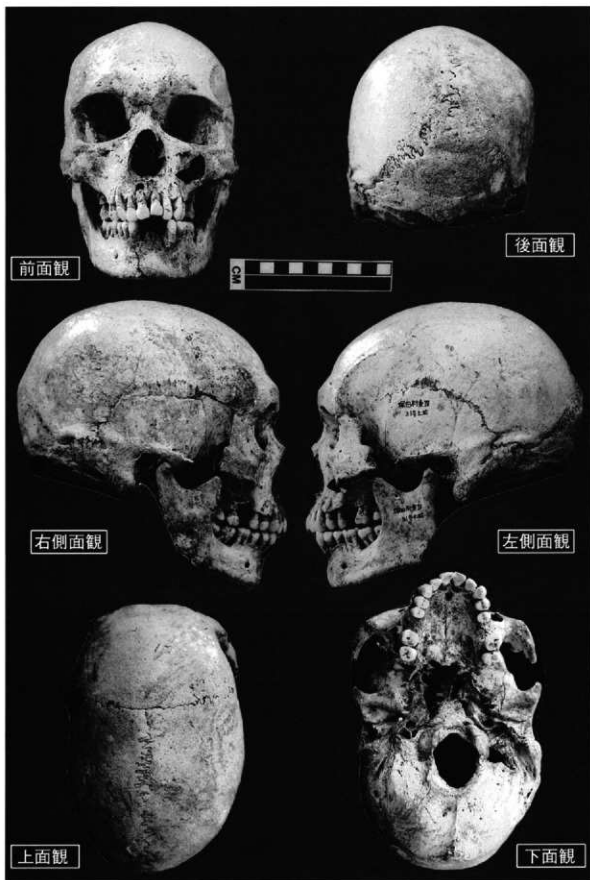


図8. 塚田村東Ⅳ遺跡31号土坑出土土頭蓋骨



頭蓋骨前面観(梨状口と上顎骨の骨萎縮に注意)

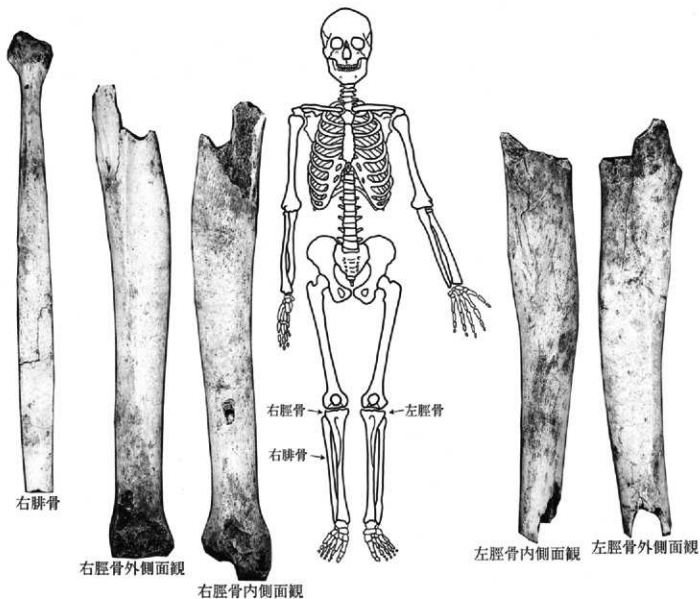


図9. 塚田村東IV遺跡31号土坑出土人骨病変部

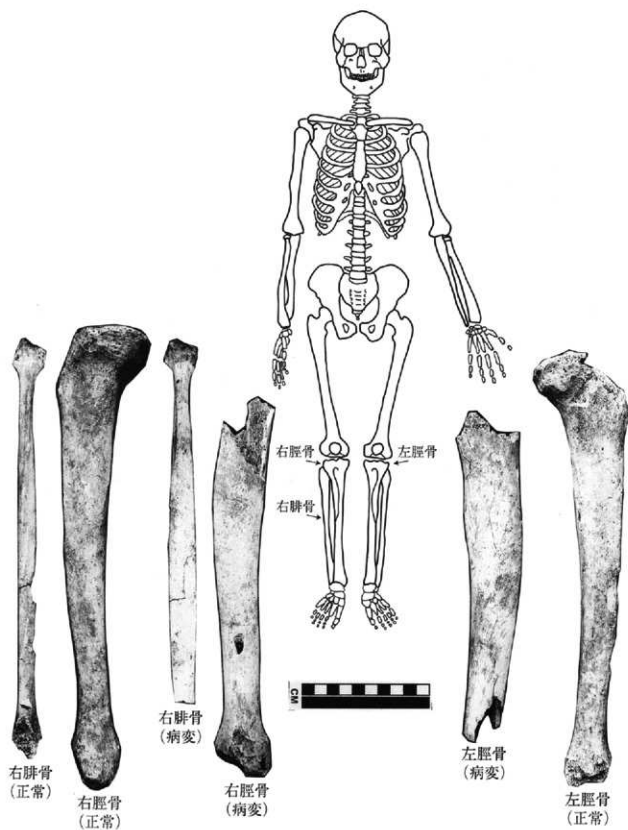


図10. 塚田村東Ⅳ遺跡31号土坑出土土人骨病変と正常人骨(今井三騎堂遺跡)

と症例が似ることが知られており、ハンセン病では上顎骨及び脛骨・腓骨・手足の指の先端部が罹患するが、本出土人骨の手足の指には症例が認められなかった。

④人骨の症状

出土人骨を観察すると、頭蓋骨では鼻の梨状口下縁及び上顎骨に骨萎縮が認められる。また、尺骨・大腿骨遠位部・脛骨・腓骨に骨の異常増殖による肥厚が認められた。歯を観察すると、上顎の左右第1大臼歯は生前脱落をおこしており、歯槽も閉鎖している。上顎の左右第2大臼歯・下顎左第2大臼歯・下顎左右第3大臼歯の咬合面には、転倒・衝突・転落・打撲等により強い外力が加わり、歯冠部が破損した痕跡が認められた。生前に、前出の事故に遭遇したと推定される。これらの歯の形態は、一見、桑実状臼歯に似ている。この桑実状臼歯は、梅毒に先天的に罹患した際に現れることが知られているが、同時に、上下顎の切歯の先端部が欠損するハッチンソンの歯が本個体には認められなため、被葬者は先天性梅毒ではなく、後天的に罹患したものと推測される。以上を総合して、本人骨は梅毒に罹患して

いたと推定される。

なお、本報告者が知る限り、群馬県内での出土人骨で梅毒に罹患した例は初見である。

(8) 被葬者の生前の身長

今回、出土した四肢骨の中で唯一全長を計測することができた右尺骨の全長は、263mmであった。これから、藤井の式を使って被葬者の生前の身長を推定すると、163.9cmとなった。尺骨による身長推定は、他の上腕骨・大腿骨・脛骨に比べると、精度が落ちるので、場合によってはもう少し身長が高かった可能性もある。北里大学の平本嘉助による江戸時代人骨の右大腿骨を使用した研究では、江戸時代人男性の平均身長は157.1cm [最大167.2cm、最小147.2cm] であり、女性の平均身長は145.6cm [最大157.1cm、最小137.6cm] である (平本, 1947)。本個体は、江戸時代男性としては、大柄であったと推定される。

7. 45号土坑出土人骨

人骨の残存状態は、きわめて悪いため、被葬者の個体数・性別・死亡年齢等を推定するのは不可能である。

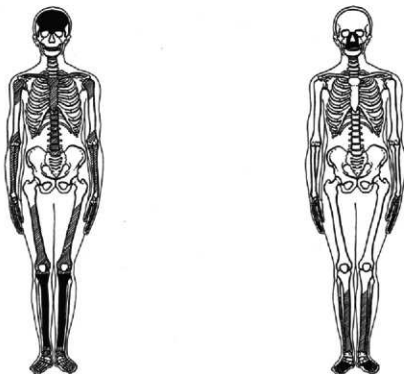


図11. 左：梅毒におかされる部位、右：ハンセン病におかされる部位 (steinbock,1976より引用)



上顎右													上顎左		
M3	M2	P2	P1	C	I2	I1		I1	I2	C	P1	P2	M2	M3	
M3	M2	M1	P2	P1	C					C	P1	P2	M1	M2	M3
下顎右													上顎左		

註：I 1 (第1切歯)・I 2 (第2切歯)・C (犬歯)・P 1 (第1小白歯)・P 2 (第2小白歯)・
M 1 (第1大白歯)・M 2 (第2大白歯)・M 3 (第3大白歯) を意味する。

図12. 塚田村東IV遺跡31号土坑出土歯

塚田村東IV遺跡・塚田中原遺跡0区出土人骨

表5. 塚田村東IV遺跡31号土坑出土土器番号及び比較表

前掲項目 (Martin's No.)	塚田村東IV 31号土坑		中古人***		江戸時代人***		現代人***	
	番号	寸法	番号	寸法	番号	寸法	番号	寸法
1 灰燼層最大長	198 mm	184.2 mm	177.9 mm	181.9 mm	176.4 mm	178.9 mm	170.8 mm	185.9 mm
8 灰燼層最大幅	133 mm	136.5 mm	131.6 mm	139.8 mm	136.8 mm	140.3 mm	135.9 mm	135.9 mm
8 : 1 灰燼層傾斜率	67.2(高低差)	74.2(高低差)	74.2(高低差)	78.0(高低差)	78.1(高低差)	78.5(高低差)	78.5(高低差)	79.7(高低差)
17 パイオン・グレイマ高	139 mm	137.2 mm	128.8 mm	137.5 mm	133.3 mm	138.3 mm	133.5 mm	133.5 mm
17 : 1 断面長高比	70.2(中層)	78.0(高層)	75.4(中層)	75.6(高層)	75.8(高層)	77.3(高層)	77.7(高層)	77.7(高層)
17 : 8 断面幅高比	104.5(中層)	99.8(高層)	97.6(中層)	98.6(高層)	97.6(高層)	98.6(高層)	97.7(中層)	97.7(中層)
1 + 8 + 17 : 3 断面モジュール	156.7	152.4	146.4	153.1	148.7	-	146.8	-
5 断面長	106 mm	103.5 mm	93.0 mm	101.9 mm	97.7 mm	100.7 mm	95.6 mm	95.6 mm
9 断面幅	93 mm	93.5 mm	90.5 mm	94.5 mm	91.8 mm	93.2 mm	91.0 mm	91.0 mm
10 最大断面積	122 mm	114.2 mm	109.0 mm	117.4 mm	114.0 mm	115.9 mm	113.7 mm	113.7 mm
9 : 10 断面積比	76.2	81.9	82.8	80.8	80.5	80.5	81.5	81.5
9 : 8 断面積傾斜率	69.9(中層)	68.3(中層)	69.1(中層)	67.7(中層)	67.0(中層)	66.4(中層)	66.9(中層)	66.9(中層)
11 断面積	124 mm	119.2 mm	113.5 mm	126.2 mm	120.9 mm	124.9 mm	118.8 mm	118.8 mm
12 最大断面積	110 mm	107.8 mm	104.4 mm	109.9 mm	105.8 mm	108.4 mm	104.2 mm	104.2 mm
12 : 8 断面積傾斜率	82.7	77.6	78.9	78.9	78.6	77.3	76.8	76.8
13 孔隙率	102 mm	103.7 mm	100.6 mm	104.0 mm	99.2 mm	102.4 mm	97.6 mm	97.6 mm
7 大断面孔長	38 mm	34.7 mm	34.1 mm	35.9 mm	34.6 mm	35.0 mm	33.7 mm	33.7 mm
16 大断面孔幅	28 mm	28.9 mm	28.1 mm	28.8 mm	28.3 mm	29.8 mm	28.4 mm	28.4 mm
16 : 7 大断面孔率	73.7(後)	82.7(中)	85.9(中)	83.4(中)	82.1(前)	88.2(中)	84.4(中)	84.4(中)
23 断面積水当り	542 mm	516.9 mm	496.5 mm	520.2 mm	503.3 mm	513.7 mm	493.7 mm	493.7 mm
24 断面積	315 mm	309.4 mm	297.2 mm	311.1 mm	313.8 mm	324.4 mm	313.2 mm	313.2 mm
25 正中気孔長	399 mm	373.7 mm	366.1 mm	373.4 mm	361.1 mm	371.7 mm	357.6 mm	357.6 mm
26 正中断面長	134 mm	126.5 mm	120.9 mm	126.7 mm	123.7 mm	127.4 mm	122.1 mm	122.1 mm
27 正中断面幅	140 mm	139.4 mm	124.4 mm	127.7 mm	123.9 mm	125.1 mm	121.0 mm	121.0 mm
28 正中断面積	125 mm	117.5 mm	114.6 mm	119.2 mm	113.0 mm	119.1 mm	114.3 mm	114.3 mm
27 : 26 気孔断面積率	104.5	102.7	103.3	101.1	100.7	98.6	98.9	98.9
28 : 26 気孔断面積率	93.3	96.1	94.4	94.2	91.4	93.6	93.9	93.9
28 : 27 気孔断面積率	89.3	93.1	92.0	93.3	91.2	95.4	95.4	95.4
26 : 25 断面大気孔長率	33.6	33.8	33.6	33.9	34.3	34.3	34.2	34.2
27 : 25 断面大気孔長率	35.1	34.5	34.6	34.4	34.3	33.7	33.8	33.8
28 : 25 断面大気孔長率	31.3	31.9	31.9	31.9	31.3	32.0	32.0	32.0
29 正中断面長	118 mm	111.5 mm	106.6 mm	111.4 mm	108.7 mm	111.8 mm	106.5 mm	106.5 mm
30 正中断面幅	118 mm	115.7 mm	111.6 mm	114.6 mm	111.2 mm	111.8 mm	108.6 mm	108.6 mm
31 正中断面積	103 mm	99.3 mm	99.6 mm	99.1 mm	96.8 mm	100.4 mm	97.0 mm	97.0 mm
29 : 26 気孔断面積率	88.1	88.2	88.2	87.9	87.9	87.9	87.4	87.4
30 : 27 気孔断面積率	84.3	89.5	89.6	89.7	89.7	89.3	89.8	89.8
31 : 28 気孔断面積率	82.4	82.9	82.9	85.7	85.7	84.5	84.9	84.9
40 断面長	102 mm	102.0 mm	94.9 mm	99.3 mm	96.7 mm	97.6 mm	94.4 mm	94.4 mm
40 : 1 断面長比	51.5	55.8	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4
40 : 3 断面長比	96.2	96.8	98.9	97.6	98.6	97.0	99.0	99.0
41 断面幅	75 mm	75.4 mm	72.6 mm	-	-	-	-	-
42 下断面積	109 mm	110.4 mm	101.0 mm	-	-	104.6 mm	99.6 mm	99.6 mm
43 上断面積	111 mm	105.5 mm	100.1 mm	104.8 mm	101.2 mm	103.8 mm	100.1 mm	100.1 mm
44 断面積傾	103 mm	100.0 mm	94.7 mm	98.8 mm	95.9 mm	97.2 mm	94.1 mm	94.1 mm
9 : 43 断面積率	83.8	88.9	90.7	-	-	-	-	-
46 中断面積(上断面)	114 mm	101.8 mm	95.4 mm	99.6 mm	94.8 mm	98.6 mm	93.5 mm	93.5 mm
47 断面積	125 mm	118.9 mm	105.1 mm	118.0 mm	-	123.8 mm	115.0 mm	115.0 mm
48 上断面積	72 mm	64.7 mm	61.6 mm	66.2 mm	66.6 mm	70.7 mm	67.1 mm	67.1 mm
48 : 46 ウイルヒョウ断面積率	110.6(低層)	113.9(低層)	109.4(低層)	116.2(低層)	-	125.4(中層)	123.3(中層)	123.3(中層)
48 : 46 ウイルヒョウ断面積率	62.8(高低差)	65.6(高低差)	64.1(高低差)	69.7(高低差)	70.6(低層)	71.8(低層)	72.0(低層)	72.0(低層)
50 断面積傾	17 mm	19.1 mm	18.2 mm	18.6 mm	17.7 mm	17.8 mm	17.4 mm	17.4 mm
50 : 44 断面積傾率	16.5	19.2	19.8	18.7	17.9	18.3	18.5	18.5
51 断面積(右)	42 mm	43.3 mm	41.1 mm	-	-	-	-	-
51 断面積(左)	42 mm	43.1 mm	40.7 mm	43.2 mm	42.0 mm	42.7 mm	41.1 mm	41.1 mm
52 断面積(右)	35 mm	33.8 mm	33.1 mm	-	-	-	-	-
52 断面積(左)	34 mm	32.7 mm	32.0 mm	34.4 mm	34.9 mm	34.3 mm	33.6 mm	33.6 mm
52 : 51 断面積率(右)	83.3(中層)	77.8(中層)	80.7(中層)	-	-	-	-	-
52 : 51 断面積率(左)	81.0(中層)	78.2(中層)	79.9(中層)	79.5(中層)	83.3(高層)	80.4(中層)	82.4(中層)	82.4(中層)
54 断面積	27 mm	26.6 mm	24.6 mm	26.2 mm	25.1 mm	25.0 mm	24.5 mm	24.5 mm
55 断面積	56 mm	51.1 mm	46.9 mm	52.5 mm	49.5 mm	52.0 mm	49.0 mm	49.0 mm
54 : 55 断面積率	48.2(中層)	52.1(中層)	52.7(中層)	49.0(中層)	50.0(中層)	48.4(中層)	50.2(中層)	50.2(中層)
55(1) 断面積	35 mm	30.0 mm	27.7 mm	31.8 mm	29.6 mm	30.6 mm	28.0 mm	28.0 mm
56 断面積	22 mm	23.3 mm	21.8 mm	-	-	-	-	-
57 断面積傾	7 mm	8.0 mm	7.9 mm	7.6 mm	6.8 mm	7.0 mm	7.1 mm	7.1 mm
57(1) 断面積傾率	17 mm	17.9 mm	17.6 mm	18.4 mm	17.6 mm	17.9 mm	17.5 mm	17.5 mm
60 上断面積傾率	55 mm	55.7 mm	49.5 mm	53.3 mm	52.4 mm	52.4 mm	50.3 mm	50.3 mm
61 上断面積傾率	69 mm	65.2 mm	60.7 mm	66.5 mm	64.8 mm	65.8 mm	61.7 mm	61.7 mm
62 断面積	50 mm	46.3 mm	43.6 mm	44.8 mm	44.0 mm	44.0 mm	42.7 mm	42.7 mm
63 断面積	41 mm	41.0 mm	38.3 mm	40.9 mm	40.7 mm	40.0 mm	38.4 mm	38.4 mm
61 : 60 上断面積傾率	125.5(高層)	121.8(高層)	124.1(高層)	125.0(高層)	123.1(高層)	126.0(高層)	123.2(高層)	123.2(高層)
63 : 62 断面積率	82.0(中層)	86.7(中層)	88.9(中層)	91.2(中層)	90.9(中層)	91.4(中層)	90.4(中層)	90.4(中層)
67 断面積	48 mm	48.4 mm	45.9 mm	47.8 mm	32.5 mm	32.7 mm	33.2 mm	33.2 mm
69 断面積	35 mm	32.7 mm	28.7 mm	34.5 mm	32.5 mm	32.7 mm	33.2 mm	33.2 mm
71 断面積傾(左)	39 mm	39.6 mm	35.7 mm	35.4 mm	31.1 mm	36.6 mm	31.1 mm	31.1 mm

表6. 塚田村東N遺跡31号土坑出土頭蓋骨非計測的形質

観察項目	塚田村東N遺跡 31号土坑		
	右	中央	左
	前頭縫合	—	—
額葉上孔	+	—	+
前額窩下孔	—	破損	—
前額孔	—	—	—
内側口蓋管骨癒	+	—	+
第3後頭隆	—	—	—
前額結節	—	—	—
明門孔種孔連線	—	—	—
莖突管長孔	—	—	—
側頭孔二分	—	—	—
側頭窩癒合	—	破損	—
後頭骨縫合破損	—	—	—
額田切痕跡	—	—	—
アステリオン骨	—	—	—
後額孔突癒合骨	—	—	—
外耳道骨癒	—	—	—
側舌骨結節縫合癒	—	—	—
ラムダ小骨	—	—	—
舌下神経管二分	—	—	+
後頭頭縫合破損	—	—	—

注1:「+」は有ることを、「—」は無いことを示す。
 注2:「破損」は、人骨が破損していて観察不能であることを示す。

表7. 塚田村東N遺跡31号土坑出土永久歯歯冠計測値及び比較表

歯種	計測項目	塚田村東N 31号土坑		中世時代人		江戸時代人		現代人		
		右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀	
上	I 1	MD	9.3	9.2	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
		B.L	7.6	7.6	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
	I 2	MD	7.9	8.1	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05
		B.L	7.3	7.2	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51
	C	MD	8.5	8.4	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		B.L	9.9	10.1	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	P 1	MD	7.6	7.6	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		B.L	10.8	10.6	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	P 2	MD	6.9	6.9	6.67	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		B.L	9.9	9.7	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	M1	MD	先前	先前	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		B.L	破損	破損	11.81	11.3	11.87	11.39	11.75	11.40
MD		破損	破損	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74	
M2	B.L	12.9	12.8	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31	
	MD	10.0	破損	—	—	—	—	8.94	8.86	
M3	B.L	12.2	12.6	—	—	—	—	10.79	10.50	
下	I 1	MD	欠損	欠損	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48	5.47
		B.L	欠損	欠損	5.78	5.61	5.78	5.65	5.88	5.77
	I 2	MD	欠損	欠損	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11
		B.L	欠損	欠損	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30
	C	MD	7.5	7.5	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68
		B.L	9.2	8.9	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.5
	P 1	MD	7.7	7.4	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		B.L	9.1	9.1	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
	P 2	MD	7.7	7.4	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		B.L	8.9	8.8	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	M1	MD	11.9	12.2	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		B.L	11.4	11.4	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.65
M2	MD	12.0	11.9	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89	
	B.L	10.8	10.5	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20	
M3	MD	11.5	9.8	—	—	—	—	10.96	10.65	
	B.L	10.3	10.7	—	—	—	—	10.28	10.02	

注1. 計測値の単位は、すべて「mm」である。

注2. 歯種は、I 1(第1切歯)・I 2(第2切歯)・C(犬歯)・P 1(第1小臼歯)・P 2(第2小臼歯)・M 1(第1大臼歯)・M 2(第2大臼歯)・M 3(第3大臼歯)を意味する。

注3. 計測項目は、MD(歯冠近遠心径)・B.L(歯冠唇舌径)を意味する。

注4. 「生前脱臼」は歯槽が閉鎖していることを示す。

注5. 「欠損」は生前脱臼でも死後脱臼でもなく歯が出土していないことを示す。

注6. 「破損」は、歯冠が破損しており計測ができなかったことを示す。

注7. 「♂」は、MATSUMURA (1995) より引用。なお、MATSUMURA (1995) には、第3大臼歯のデータは無い。

注8. 「★★」は、藤田 (1959) より引用

塚田中原遺跡0区出土人骨

塚田中原遺跡0区からは、2号竪穴状遺構・95号土坑・104号土坑・143号土坑・10号溝より人骨が出土したので、以下に報告する。

1. 2号竪穴状遺構出土人骨

本遺構は、出土遺物より、9世紀より新しい時代に比定されている。人骨は焼かれており、大きさが約1cmから5mm程度の骨片が数十片出土しているのみである。火葬人骨の色は白色を呈しているため、約900℃以上で焼成されたことが推定される。残念ながら、この骨片からは、被火葬者の個体数・死亡年齢・性別等を推定するのは不可能である。

2. 95号土坑出土人骨

本土坑は、出土遺物より、中世に比定されている。土坑の大きさは、長さ約4.4m・幅約1.78mの隅丸長方形土坑である。人骨は焼かれており、数ミリの破片が出土しているのみである。火葬人骨の色は白色を呈しているため、約900℃以上で焼成されたことが推定される。残念ながら、この骨片からは、被火葬者の個体数・死亡年齢・性別等を推定するのは不可能である。

3. 104号土坑出土人骨

出土状況から、中世に比定されている。副葬品は、銭貨が出土している。

(1) 人骨の出土状況

人骨は、長さ約46cm・幅約32cmの隅丸長方形土坑より出土している。

(2) 人骨の出土部位

人骨の残存状況は、非常に悪い。頭蓋骨片・歯・四肢骨片等が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の残存状況が悪いため、被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨、特に出土歯に重複部位が認められないため被葬者の個体数は1個体と推定される。

(5) 被葬者の性別

出土歯の歯冠計測値が比較的小さいため、被葬者の性別は女性と推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

出土歯の咬耗度を観察すると、上顎犬歯・下顎切歯は象牙質が面を成す程度まで咬耗している。しかしながら、上下顎の小臼歯及び大臼歯はエナメル質のみかあるいは象牙質が点状に露出する程度である。また、上顎左第1切歯の舌側面には異常摩耗が認められるため、同様に上顎犬歯及び下顎切歯は異常摩耗と推定される。そうすると、被葬者の死亡年齢は、上下顎の咬耗度より、約30歳代と推定される。

(7) 被葬者の古病理

前出のように、本被葬者の上顎切歯・上顎犬歯・下顎切歯には、異常摩耗が認められた。これは、歯で苧麻等の繊維を紡いだためと推定される。

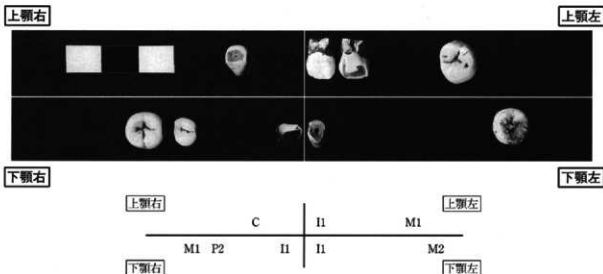
表8. 塚田中原遺跡0区104号土坑出土人骨歯冠計測値及び比較表

歯種	歯種項目	新羅時代 104号土坑		中世時代人		江戸時代人		現代人		
		右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀	
上	I1	MD	—	8.0	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
	BL	—	7.5	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.38	
	C	MD	6.7	—	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
前	M1	MD	—	10.1	10.45	10.09	10.61	10.18	10.58	10.47
	BL	—	12.0	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40	
	下	I1	MD	(5.2)	(4.9)	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48
後	P2	MD	6.2	—	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
	BL	8.1	—	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26	
	M1	MD	10.9	—	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
歯	M2	BL	16.5	—	11.50	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	MD	—	10.2	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89	
	BL	—	10.3	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20	

注1. 計測値の単位は、すべて、[mm]である。
 注2. 歯種は、I1(第1切歯)・C(犬歯)・P2(第2小臼歯)・M1(第1大臼歯)・M2(第2大臼歯)を意味する。
 注3. 歯種項目は、MD(歯冠近心径)・BL(歯冠歯舌径)を意味する。
 注4. ()内の計測値は、異常摩耗で計測値が影響を受けている。
 注5. [*]は、MATSUMURA(1985)より引用。
 注6. [**]は、梅田(1959)より引用。

4. 143号土坑出土人骨

本土坑は、出土遺物より、平安時代に比定されている。人骨は、焼かれており、大きさが約1cmから5mm程度の破片が数百片出土している。中には、歯根も出土しているため、人骨であることは間違いない。火葬人骨の色は、白色を呈しており、約900℃以上で焼成されたと推定される。本土坑からは、炭化材も出土しているため、火葬跡であり、丁寧に収骨した跡であると推定される。残念ながら、小破片のみであるため、被火葬者の個体数・死亡年齢・性別等を推定するのは不可能である。



註：I 1 (第1切歯)・C (大歯)・P 2 (第2小臼歯)・M 1 (第1大臼歯)・M 2 (第2大臼歯) を意味する。

図13. 塚田中原遺跡0区104号土坑出土歯

5. 10号溝跡出土人骨

本溝跡は、中世に埋没したと推定されている。

(1) 人骨の出土状況

本土坑は、10号溝跡に切られており、出土状況は不明である。

(2) 人骨の出土部位

人骨の残存状況は悪い。頭蓋骨片及び歯が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の残存状況が悪いため、被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨、特に出土歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体と推定される。

(5) 被葬者の性別

出土歯の歯冠計測値が比較的大きいため、被葬者の性別は男性と推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度を観察すると、上顎左右第1大臼歯は象牙質が面を成す程度に露出しているが、上顎左右大歯・第1小臼歯・第2小臼歯は、象牙質が点状に露出する程度である。これは、上顎左右第1大臼歯

が異常摩耗であると推定される。したがって、被葬者の死亡年齢は上顎左右大歯から第2小臼歯までの咬耗度から、約30歳代と推定される。

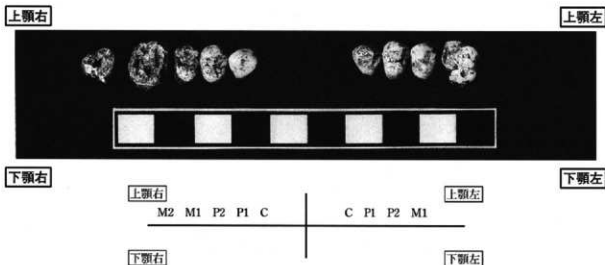
(7) 被葬者の古病理

被葬者の上顎右第2大臼歯は、歯冠が完全に崩壊し、歯根のみが残存する状態の齲蝕症第4度(C4)である。これは、恐らく、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕により、歯冠が崩壊したと推定される。

表9. 塚田中原遺跡0区10号溝跡出土永久歯歯冠計測値及び比較表

歯種	計測項目	塚田中原10号溝跡		中世時代人		江戸時代人		現代人	
		右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀
C	MD	7.7	7.4	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
	B.L	8.5	8.2	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
P 1	MD	7.1	7.3	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
	B.L	10.1	10.1	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
P 2	MD	6.8	6.8	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
	B.L	9.9	10.0	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
M 1	MD	10.0	9.9	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
	B.L	11.8	11.5	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
M 2	MD	歯冠	—	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
	B.L	磨蝕	—	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31

註1. 計測値の単位は、すべて、「mm」である。
 註2. 歯種は、C (大歯)・P 1 (第1小臼歯)・P 2 (第2小臼歯)・M 1 (第1大臼歯)・M 2 (第2大臼歯) を意味する。
 註3. 計測項目は、MD (歯冠近心径)・B.L (歯冠近心径) を意味する。
 註4. 「歯冠磨蝕」とは齲蝕 (虫歯) により歯冠が崩壊したことを示す。
 註5. 「♂」は、MATSUMURA (1995) より引用。
 註6. 「♀」は、藤田 (1959) より引用。



註：C(犬歯)・P1(第1小白歯)・P2(第2小白歯)・M1(第1大白歯)・M2(第2大白歯)を意味する

図14. 塚田中原遺跡0区10号溝跡出土歯

まとめ

塚田村東IV遺跡及び塚田中原遺跡0区より、人骨が出土した。以下に、出土人骨のまとめを表にした。本出土人骨の特徴としては、多くの個体に歯の異常摩耗が認められたことである。また、1例ではあるが、骨梅毒に罹患した近世人骨も認められた。これは、群馬県では、恐らく初見であると考えられる。

表10. 出土人骨のまとめ

塚田村東IV遺跡出土人骨						
土坑番号等	時代	個体数	性別	死亡年齢	身長	備考
3号土坑	中世	2個体	男性	約20歳	不明	火葬骨
85号土坑	中世	1個体	女性	成人	不明	火葬骨
86号土坑	中世	1個体	男性	約40歳代	不明	歯に異常摩耗
19号土坑	近世	2個体	男性	約20歳代	不明	—
20号土坑	近世	1個体	男性	約30歳代	不明	歯に異常摩耗
31号土坑	近世	1個体	男性	約30歳代	163.9cm	骨梅毒
45号土坑	近世	不明	不明	不明	不明	—
塚田中原遺跡0区						
2号墓穴	9C以降	不明	不明	不明	不明	—
95号土坑	中世	不明	不明	不明	不明	—
104号土坑	中世	1個体	女性	約30歳代	不明	歯に異常摩耗
143号土坑	平安	不明	不明	不明	不明	—
10号溝跡	中世	1個体	男性	約30歳代	不明	歯に異常摩耗

謝辞

本出土人骨を記載する機会を与えていただき、考古学的情報をいただいた、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の小林 正氏に感謝します。また、助言をいただいた、同事業団の菊池 実氏に感謝いたします。

引用文献

- 藤井 明 1960 四肢骨長の長さとの関係に就いて、「順天堂大学体育学部紀要」、3:49-61.
- 藤田恒太郎 1949 歯の計測規準について、「人類学雑誌」、61(1):1-6.
- 権田和良 1959 歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、67(3):47-59.
- 平本嘉助 1972 縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代的变化、「人類学雑誌」、80(3):221-236.
- MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology, National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum, Tokyo.
- STEINBOCK, R. Ted 1976 Paleopathological Diagnosis and Interpretation, Charles C. Thomas.
- 鈴木隆雄 1998 『骨から見た日本人』、講談社

2. 塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡0区・引間松葉遺跡Ⅲ区出土獣骨

植崎 修一郎

塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡0区・引間松葉遺跡Ⅲ区は、それぞれ、群馬県群馬郡群馬町大字塚田字村東・同大字塚田字中原・同大字引間字松葉に所在する。西毛広域幹線道路建設に伴う発掘調査が、(財)群馬埋蔵文化財調査事業団により、平成15(2003)年4月より同年10月まで行われた。上記の3遺跡より、獣骨が出土したので以下に報告する。

1. 塚田村東Ⅳ遺跡出土馬歯

塚田村東遺跡では、6号溝跡より馬歯が出土している。この6号溝跡は、平安時代に埋没したと推定されている。

馬の下顎臼歯が1本分出土しているが、ばらばらの状態であるため、歯種の同定はできなかった。しかしながら、馬歯であることは、間違いない。

2. 塚田中原遺跡0区出土馬歯

塚田中原遺跡0区では、11号溝跡より馬歯が出土している。この11号溝跡は、中世に埋没したと推定されている。

馬の上顎臼歯が1本出土しているが、破損しているため、歯種は、上顎左第3・4小臼歯及び同第1・2大臼歯のどれかであると推定される。

全歯高を計測すると、約50mmであった。このことから、死亡年齢は、約6歳から7歳であると推定される。獣医学の分野では、6歳～15・16歳は牡馬に分類される。

3. 引間松葉遺跡Ⅲ区出土馬骨・馬歯

引間松葉遺跡Ⅲ区では、8号住居・13号住居・22号住居・22号土坑より獣骨が出土している。

(1) 22号住居

22号住居は、8世紀中葉に比定されている。長さ約3cmの骨片が出土している。骨の特徴から、人骨では無いことは明らかである。恐らく、馬の骨であると推定されるが、詳細は不明である。

(2) 8号住居

8号住居は、10世紀前葉に比定されている。馬の

下顎臼歯片が出土しているが、ばらばらの状態であり、復元することも不可能である。従って、歯種の同定はできなかった。しかしながら、馬歯であることは間違いない。

(3) 13号住居

13号住居は、10世紀後半に比定されている。骨片が数点出土している。すべて、馬の歯の一部と推定されるが、小片であるため、歯種の同定は不可能である。

(4) 22号土坑

22号土坑は、10世紀代に比定されている。長さ約8cmの骨片が出土している。骨の特徴から、人骨では無いことは明らかである。恐らく馬の長骨片であると推定されるが、詳細は不明である。



写真1. 塚田中原遺跡0区11号溝跡出土馬歯(上顎左P3・P4・M1・M2のどれか)[左:歯齶面視、右:舌齶面視]

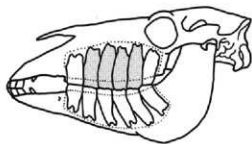


図1. 塚田中原遺跡0区11号溝跡出土馬歯(上顎左P3・P4・M1・M2のどれか)出土馬歯出土部位図

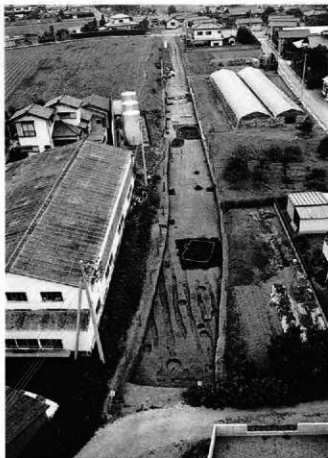
報告書抄録

書名ふりがな	つかだむらひがしよんいせき・つかだなかはらいせき(せろく)・ひきままたばいせき(さんく)
書名	塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡(Ⅰ区)・引間松葉遺跡(Ⅲ区)
副書名	一般県道足門前橋線バイパス(西毛広域幹線道路)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	2
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	347
編著者名	小林 正
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20050315
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	つかだむらひがしよんいせき
遺跡名	塚田村東Ⅳ遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんぐんまぐんぐんままちおおあざつかだ
遺跡所在地	群馬県群馬郡群馬町大字塚田
市町村コード	10324
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	362306
東経(日本測地系)	1390133
北緯(世界測地系)	362317
東経(世界測地系)	1390122
調査期間	20030414-20030703
調査面積	1554
調査原因	道路建設工事
種別	集落/田畑/その他
主な時代	古墳/奈良平安/中世/近世/近代
遺跡概要	集落-奈良平安-住居跡15+竪穴状遺構1+土坑42+溝2-土師器+須恵器+瓦+鉄製品/田畑-古墳-高1/平安-高1/中世-高14/近代高2/その他-縄文-縄文土器+石器/中世-土坑29+溝4-陶器+石製品+人骨/近世-土坑5-陶器+銭貨+人骨/近代-土坑7
特記事項	奈良平安の集落と近世墓

書名ふりがな	つかだむらひがしよんいせき・つかだなかはらいせき(ぜろく)・ひきままつばいせき(さんく)
書名	塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡(0区)・引間松集遺跡(Ⅲ区)
副書名	一般県道足門前橋線バイパス(西毛広域幹線道路)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	2
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	347
編著者名	小林 正
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20050315
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	つかだなかはらいせき
遺跡名	塚田中原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんぐんまぐんぐんままちおおあざつかだ
遺跡所在地	群馬県群馬郡群馬町大字塚田
市町村コード	10324
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	362311
東経(日本測地系)	1390128
北緯(世界測地系)	362322
東経(世界測地系)	1390117
調査期間	20030624-20031024
調査面積	1520
調査原因	道路建設工事
種別	集落/田畑/その他
主な時代	古墳/奈良平安/中近世
遺跡概要	集落-奈良平安-住居跡19+土坑+溝-土師器+須恵器+陶器+瓦+鉄製品 /田畑-古墳-高2/古代2/中世2/その他-縄文-縄文土器+石器/中近世-土坑+溝-陶器+銭貨+人骨
特記事項	奈良平安の集落/奈良三彩出土

書名ふりがな	つかだむらひがしよんいせき・つかだなかはらいせき(せろく)・ひきままつばいせき(さんく)
書名	塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡(0区)・引間松葉遺跡(Ⅲ区)
副書名	一般県道足門前橋線バイパス(西毛広域幹線道路)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	2
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	347
編著者名	小林 正
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20050315
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ひきままつばいせき
遺跡名	引間松葉遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんぐんまぐんぐんままちおおあざひきま
遺跡所在地	群馬県群馬郡群馬町大字引間
市町村コード	10324
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	362315
東経(日本測地系)	1390121
北緯(世界測地系)	362326
東経(世界測地系)	1390110
調査期間	20030724-20031010
調査面積	1059
調査原因	道路建設
種別	集落/その他
主な時代	奈良平安/中近世/近代
遺跡概要	集落-奈良平安-住居跡28+土坑+溝-土師器+須恵器+陶器+瓦+鉄製品+銭貨/その他-中近世-土坑+溝-陶器/近代-土坑-ガラス
特記事項	奈良平安の集落/饗益神寶出土

写 真 图 版



1. 古墳～平安面北部全景 北から



2. 中世面南部全景 南から



3. 1号住居跡全景 西から



4. 1号住居跡掘り方全景 西から



5. 2号住居跡カマド 西から



6. 2号住居跡カマド掘り方 東から



1. 3号住居跡全景 北から



2. 3号住居跡掘り方全景 南から



3. 4号住居跡カマド 西から



4. 5号住居跡全景 西から



5. 5号住居跡掘り方全景 西から



6. 6号住居跡カマド 西から



7. 6号住居跡カマド掘り方 西から



8. 7号住居跡全景 西から



1. 8号住居跡全景 南から



2. 8号住居跡掘り方全景 南から



3. 9・10（奥～左端）号住居跡全景 南から



4. 9号住居跡カマド 西から



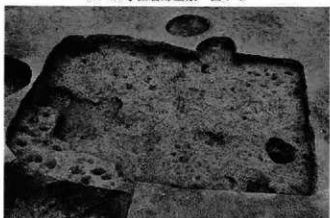
5. 9・10（奥～左端）号住居跡掘り方全景 南から



6. 11号住居跡全景 西から



7. 11号住居跡如跡 南から



8. 11号住居跡掘り方全景 西から



1. 12(奥)・13(前)・14(右前)号住居跡全景 南から



2. 12(左)・13(右)・14(右奥)号住居跡掘り方全景 西から



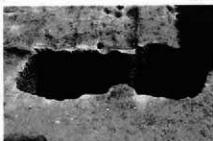
3. 15号住居跡 北から



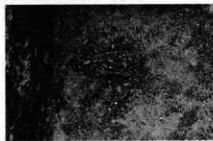
4. 15号住居跡調査風景 北から



5. 1号壁穴状遺構(左)・46号土坑(右) 南から



6. 2(中)・19(左)・20(右)号土坑 北から



7. 19号土坑人骨・遺物出土状況 東から



8. 20号土坑人骨出土状況 西から



9. 3号土坑葬出土状況 北から



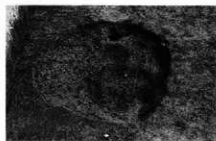
10. 3号土坑人骨出土近景 北から



11. 3号土坑人骨出土状況全景 北から



12. 3号土坑全景 北から



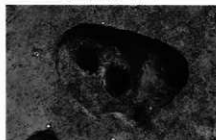
1. 4号土坑 北から



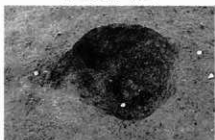
2. 5号土坑 南から



3. 6号土坑 西から



4. 7号土坑 西から



5. 8号土坑 南から



6. 9号土坑 南から



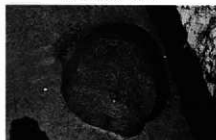
7. 10号土坑 南から



8. 11号土坑 北から



9. 12~14 (奥~前)・15 (左)号土坑



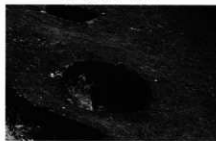
10. 16号土坑 南から



11. 17号土坑 北から



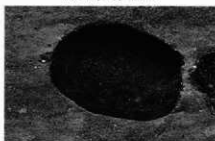
12. 23号土坑 西から



13. 24号土坑 南から



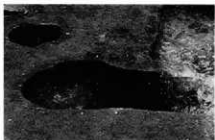
14. 25号土坑 南から



15. 26号土坑 南から



16. 27号土坑 西から



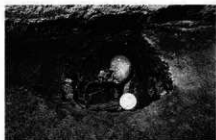
17. 28 (左)・29 (右)号土坑 南から



18. 30号土坑 南から



1. 31号土坑人骨出土状況 東から



2. 31号土坑人骨出土状況 東から



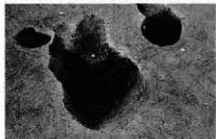
3. 31号土坑人骨出土状況 南から



4. 31号土坑 東から



5. 33号土坑 南から



6. 34号土坑 南から



7. 35号土坑 南から



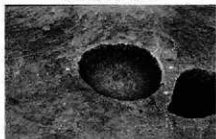
8. 36号土坑 南から



9. 37号土坑 西から



10. 38号土坑 南から



11. 39号土坑 南から



12. 40号土坑 東から



13. 45号土坑遺物出土状況 東から



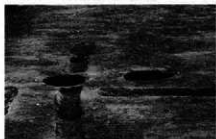
14. 45号土坑 東から



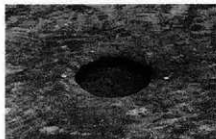
15. 48号土坑 南から



16. 49号土坑 南から



17. 50 (右) - 51 (左)号土坑 南から



18. 52号土坑 南から



1. 53号土坑 南から



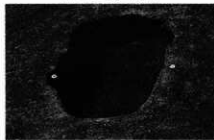
2. 54号土坑 南から



3. 55号土坑 西から



4. 56号土坑 南から



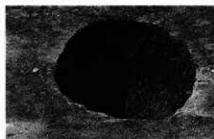
5. 57号土坑 南から



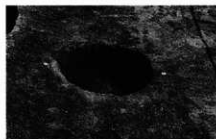
6. 58号土坑 南から



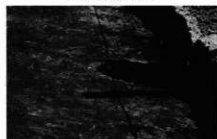
7. 59号土坑 南から



8. 60号土坑 南から



9. 61号土坑 北から



10. 62号土坑 北から



11. 63号土坑 南から



12. 64(左)・65(右)号土坑 北から



13. 66号土坑 北から



14. 67号土坑 北から



15. 68(右奥)・69(左奥)・77(左前)号土坑 南から



16. 72~74・76・78号土坑 南から



17. 79号土坑 南から



18. 80号土坑 南から



1. 82号土坑 南から



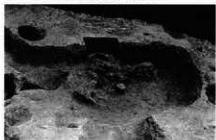
2. 83号土坑 南から



3. 84号土坑上面 北から



4. 84号土坑中面 東から



5. 84号土坑下面 西から



6. 85号土坑人骨出土状況 東から



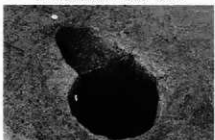
7. 86号土坑人骨出土状況 東から



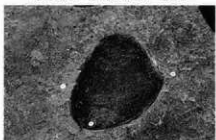
8. 85(右)・86(左)号土坑 西から



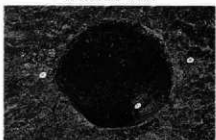
9. 87号土坑 南から



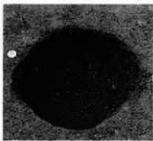
10. 93号土坑 南から



11. 94号土坑 南から



12. 95号土坑 南から



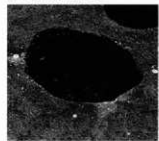
13. 1号ピット 南から



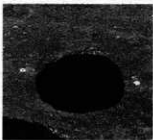
14. 2号ピット 南から



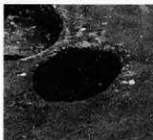
15. 3(右)・4(左)号ピット 南から



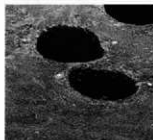
16. 6号ピット 南から



17. 7号ピット 南から



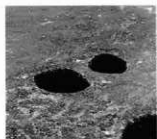
18. 8号ピット 南から



19. 9(前)・10(奥)号ピット 南から



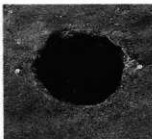
20. 11(前)・15(奥)号ピット 南から



1. 12(右)・13(左)号ピット 南から



2. 14号ピット 南から



3. 16号ピット 北から



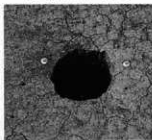
4. 17号ピット 北から



5. 21(左)・41(右)号ピット 南から



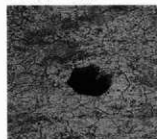
6. 22(左)・23(右)号ピット 南から



7. 24号ピット 南から



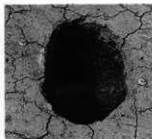
8. 25号ピット 南から



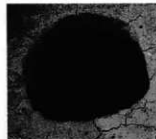
9. 26号ピット 南から



10. 27(右)・28(左)号ピット 西から



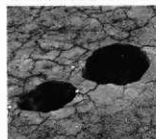
11. 29号ピット 南から



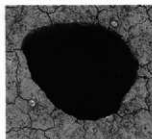
12. 30号ピット 南から



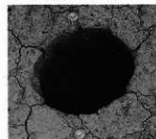
13. 31号ピット 南から



14. 32(左)・33(右)号ピット 南から



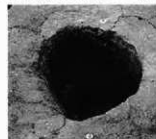
15. 34号ピット 西から



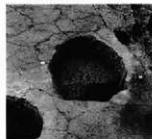
16. 35号ピット 西から



17. 36号ピット 西から



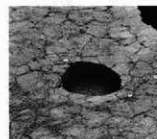
18. 37号ピット 南から



19. 38号ピット 南から



20. 39号ピット 南から



21. 40号ピット 南から



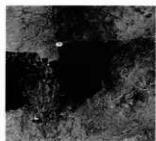
22. 42(前)・69(奥)号ピット 南から



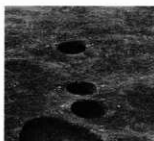
23. 44号ピット 南から



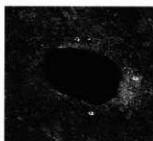
24. 45(前)・46(奥)号ピット 南から



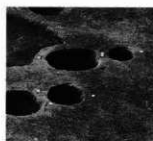
1. 47号ピット 南から



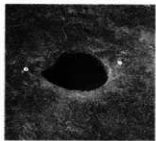
2. 50-51-54(奥から)号ピット 南から



3. 52号ピット 西から



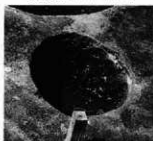
4. 55(右)-56(左)-57(前)号ピット 南から



5. 59号ピット 南から



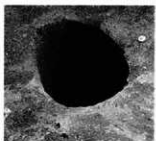
6. 61号ピット 南から



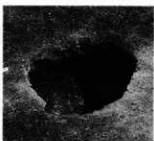
7. 62号ピット 南から



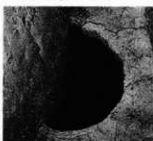
8. 63号ピット 北から



9. 64号ピット 北から



10. 65号ピット 北から



11. 67号ピット 南から



12. 68(左)-69(右)号ピット 南から



13. 1号溝跡 西から



14. 2号溝跡 北から



15. 3号溝跡 北から



16. 4号溝跡 南西から



1. 5号溝跡 北から



2. 6号溝跡 北から



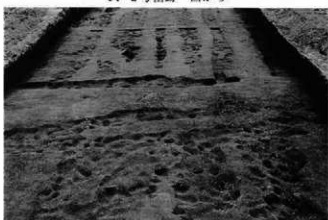
3. 1号冢跡 北から



4. 2号冢跡 西から



5. 3号冢跡 北西から



6. 3(奥)・4(前)号冢跡 北から



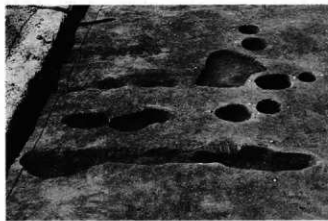
7. 5(奥)・6(前)号冢跡 北から



8. 7(奥)・8(前)号冢跡 南から



1. 9(右横)・10(右縦)・11(左縦)号竈跡 南から



2. 12号竈跡 南から



3. 13号竈跡 南から



4. 14号竈跡 北から



5. 15号竈跡 北から



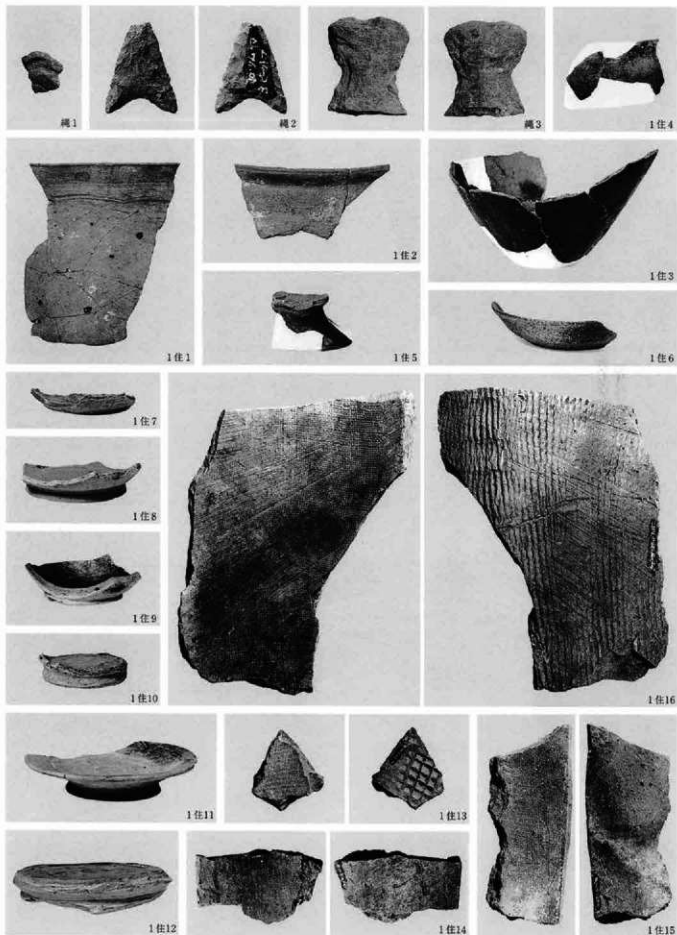
6. 16号竈跡 北から

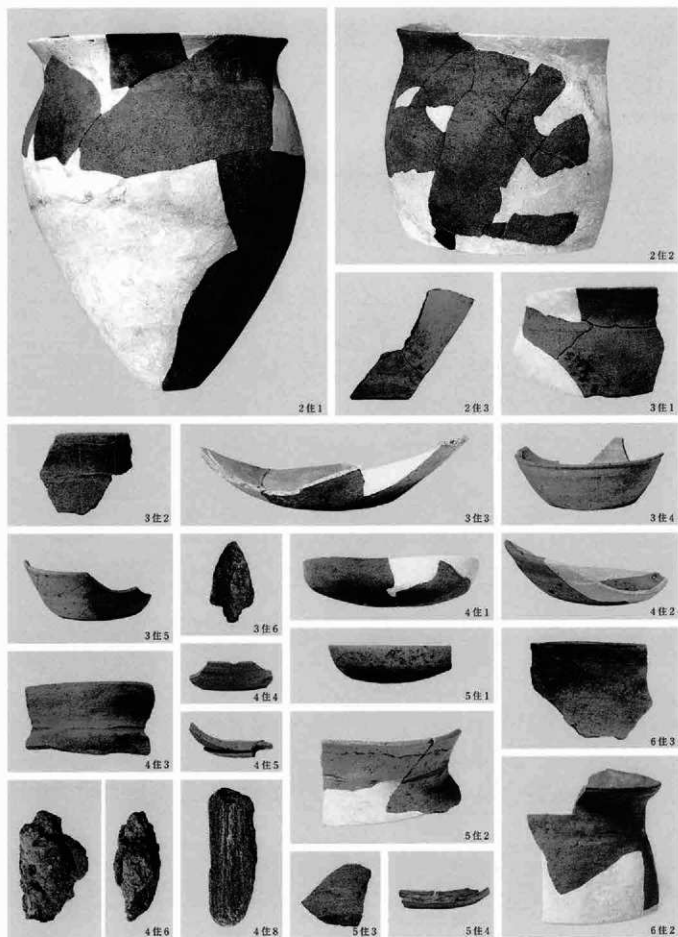


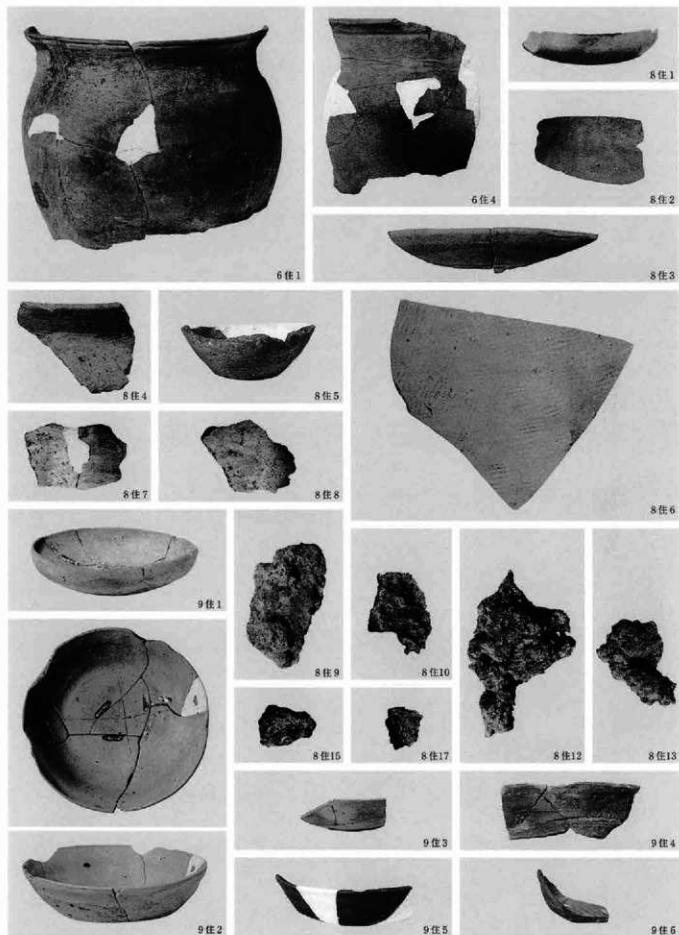
7. 17号竈跡 南から

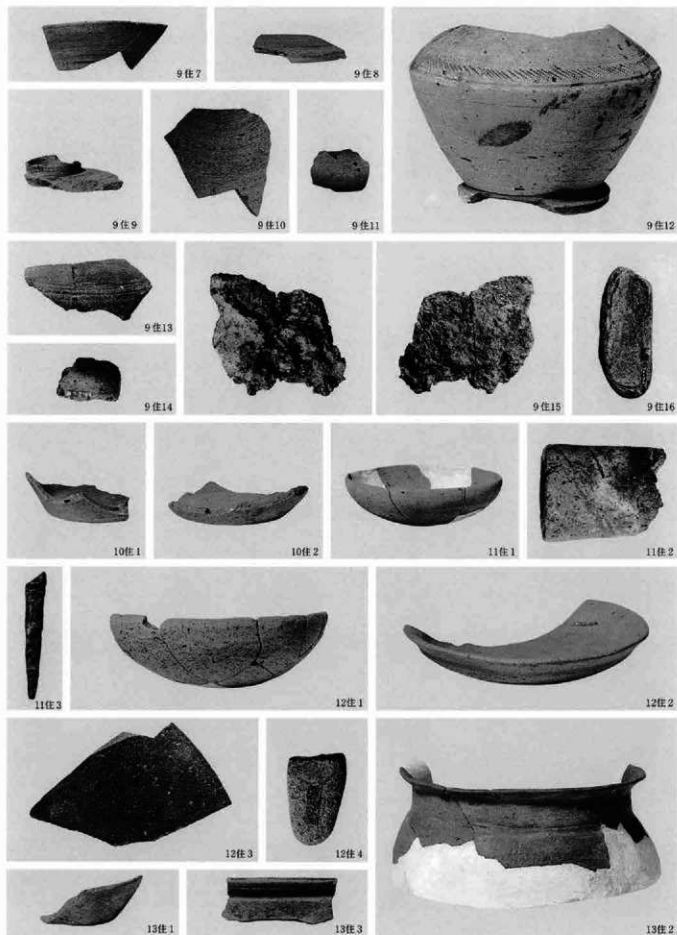


8. 18号竈跡 南から

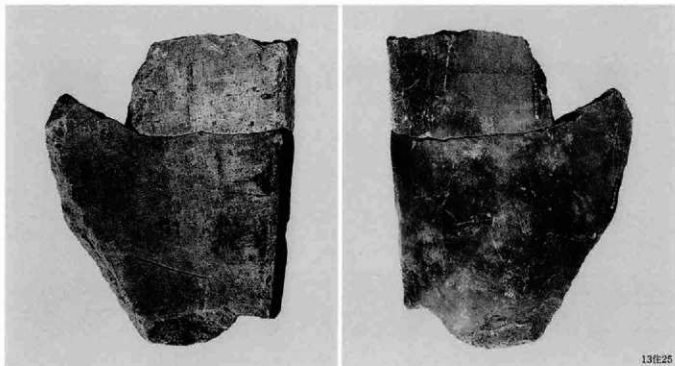
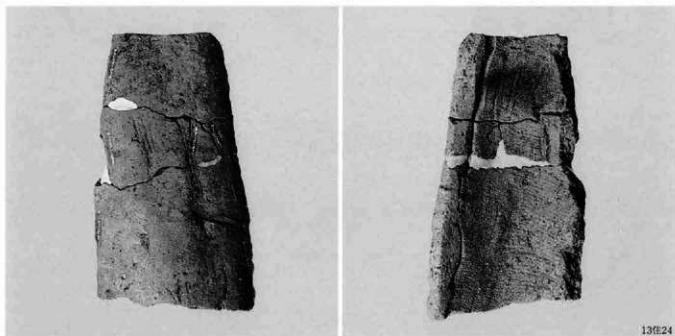
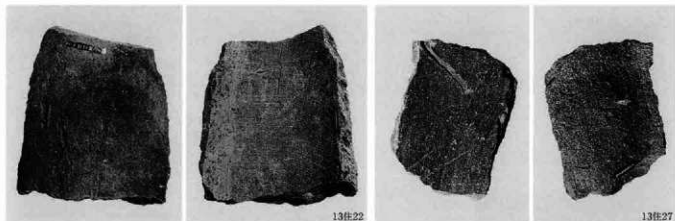


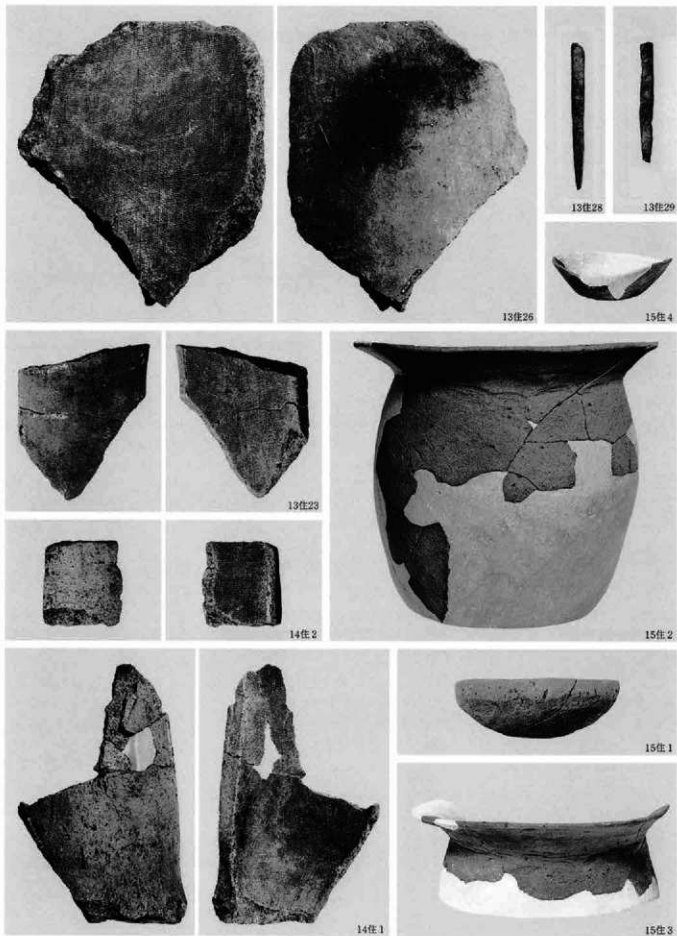


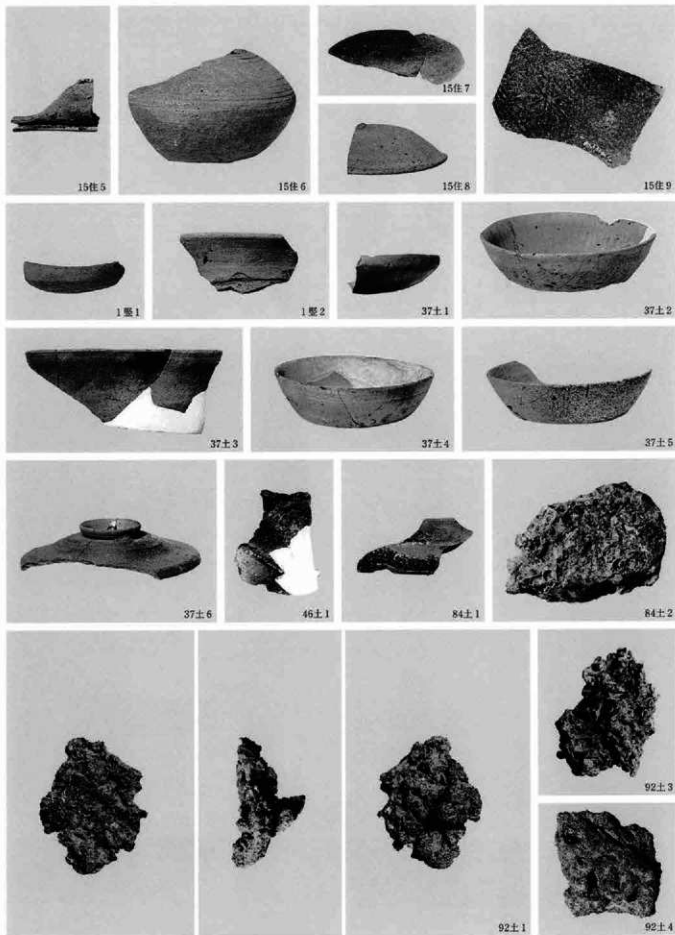


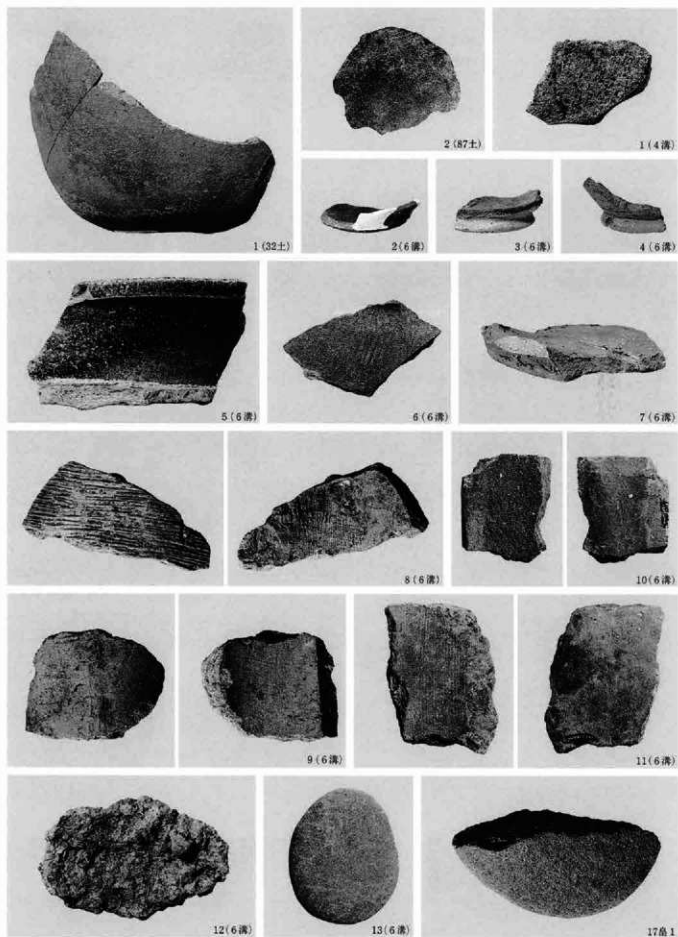


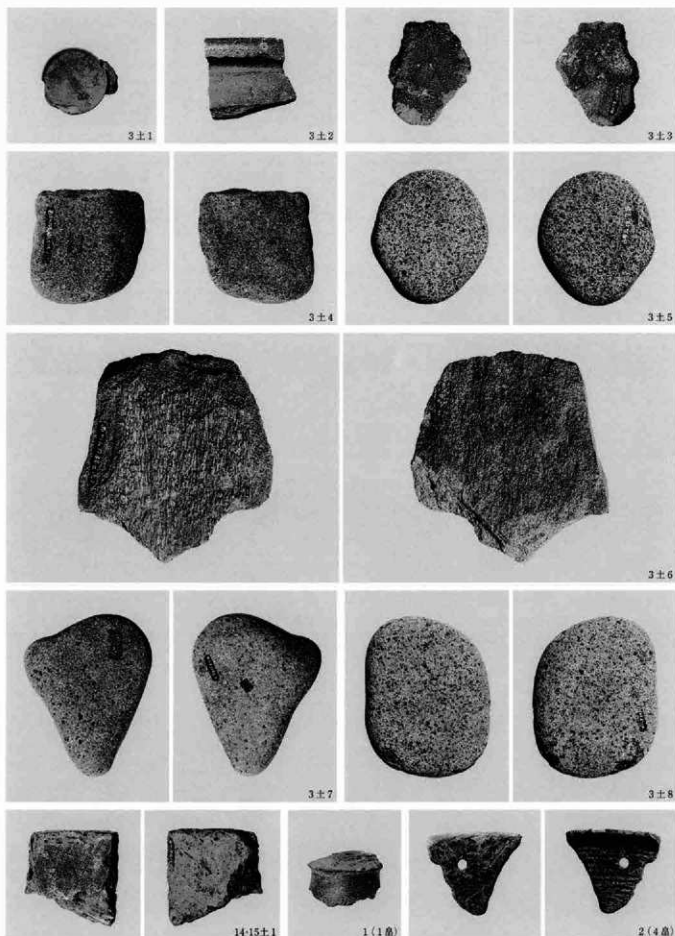


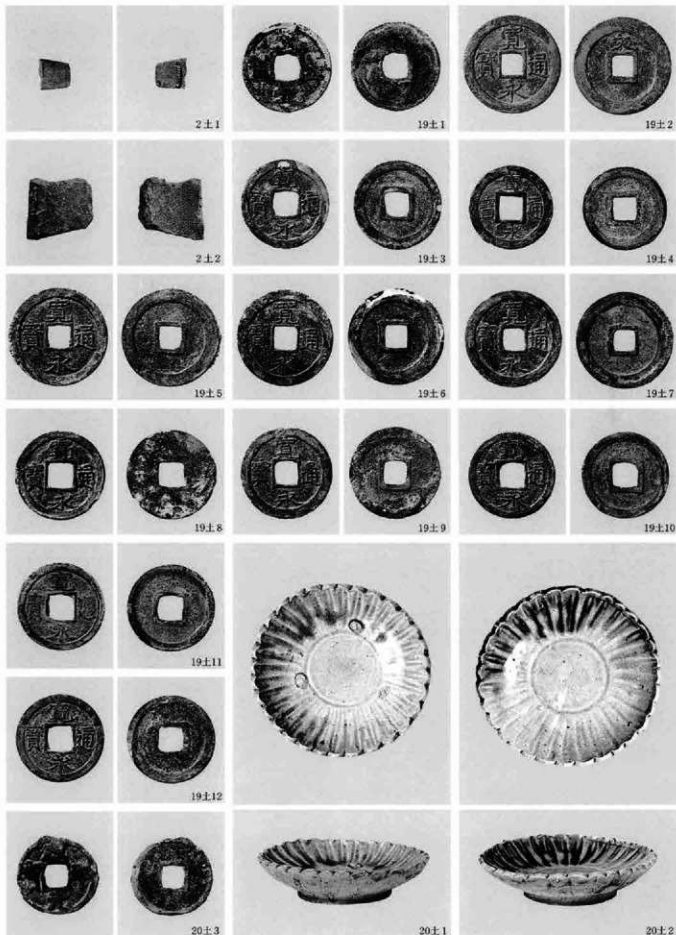




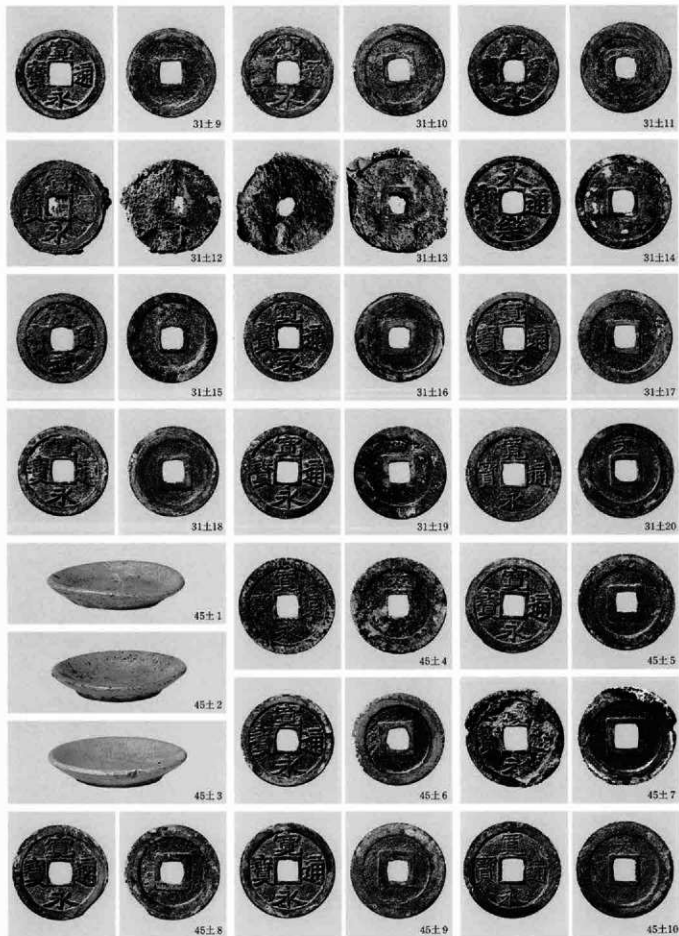


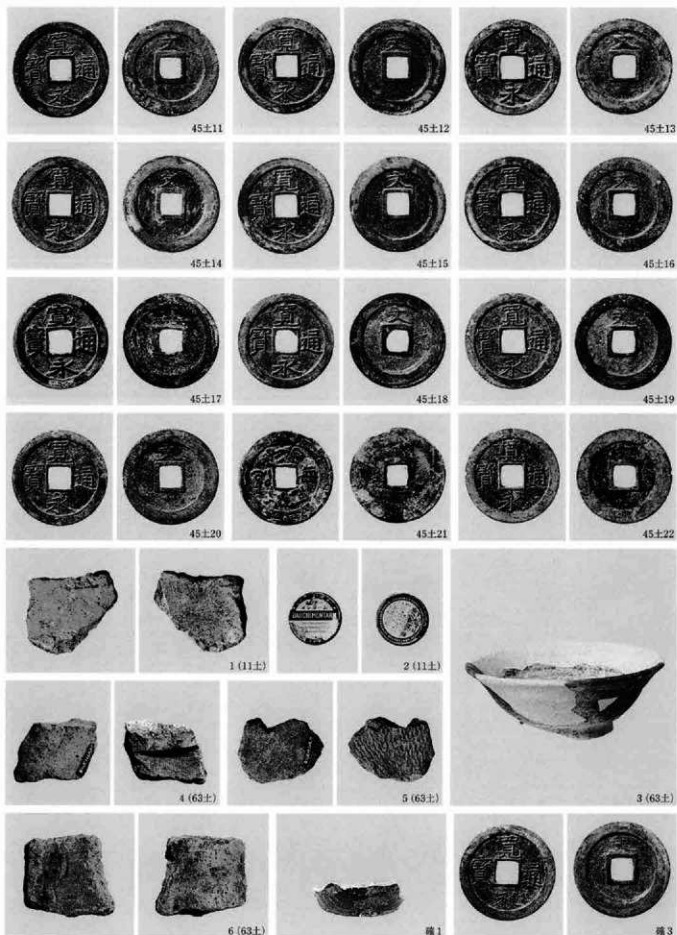














1. 0-1区東側全景 南東から



2. 0-1区西側全景 西から



3. 0-2区全景 東から



1. 0-3区全景 西から



2. 0-5区東側As-B混下全景 西から



3. 0-5区西側全景 東から



4. 0-5区東側全景 西から



5. 0-6区全景 東から



1. 25号住居跡全景 西から



2. 25号住居跡掘り方全景 西から



3. 26(中)・29(右)号住居跡全景 西から



4. 26号住居跡遺物出土状況 西から



5. 26(中)・29(右)号住居跡掘り方全景 西から



6. 27号住居跡全景 西から



7. 27号住居跡掘り方全景 西から



8. 28号住居跡東側 西から



1. 28号住居跡西側 西から



2. 31(右奥)・33(左奥)・34(左前)・35(右前)号住居跡全景 西から



3. 31・33・34・35・44(中やや左)号住居跡掘り方全景 西から



4. 32号住居跡全景 西から



5. 32号住居跡掘り方全景 西から



6. 36(奥)・37(前)号住居跡全景 西から



7. 36(奥)・37(前)号住居跡掘り方全景 西から



8. 38(右)・42(左)・43(奥)号住居跡全景 西から



1. 38(右)・42(左)・43(奥)号住居跡掘り方全景 西から



2. 38号住居跡貯蔵穴 西から



3. 39号住居跡全景 西から



4. 39号住居跡遺物出土状況 西から



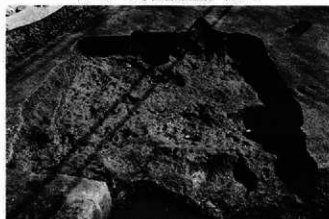
5. 39号住居跡掘り方全景 西から



6. 40・41号住居跡全景 西から



7. 40号住居跡緑釉陶器(No14)出土状況(奥) 西から



8. 40・41号住居跡掘り方全景 西から



1. 89(右)・90(左)号土坑 南から



2. 91号土坑 東から



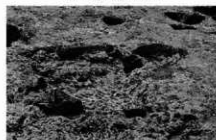
3. 92号土坑 南から



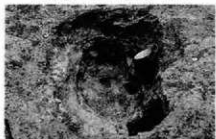
4. 93(左)・94(右)号土坑 西から



5. 95(中)・96(中下)・97(右外)号土坑 西から



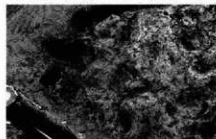
6. 98(前)・99(奥)・100(右)号土坑 西から



7. 101号土坑 南から



8. 102号土坑 北から



9. 103号土坑 西から



10. 104号土坑 西から



11. 104号土坑人骨出土状況 北から



12. 105(右)・106(左)号土坑 南から



13. 107(奥)・108(中)・109(左)号土坑 南から



14. 110号土坑 北から



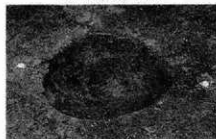
15. 111号土坑 西から



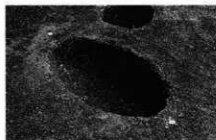
16. 112号土坑 北から



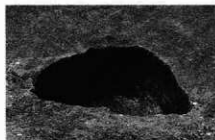
17. 113号土坑 北から



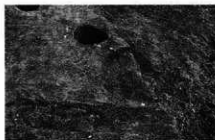
18. 114号土坑 北から



1. 115号土坑 西から



2. 116号土坑 南から



3. 117号土坑 西から



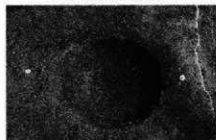
4. 120号土坑 南から



5. 122号土坑 南から



6. 125号土坑 南から



7. 126号土坑 南から



8. 128号土坑 北から



9. 129(右)・130(左)号土坑 西から



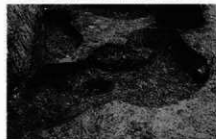
10. 131(右)・132(左)号土坑 北から



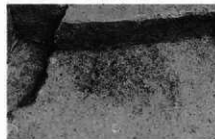
11. 134号土坑 北から



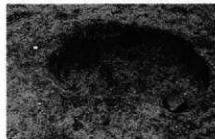
12. 135(右奥)・136(前)・137(左奥)号土坑 西から



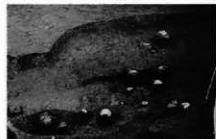
13. 右から138・139・140号土坑 西から



14. 143号土坑 西から



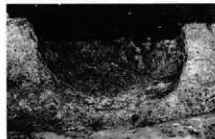
15. 144号土坑 北から



16. 145(右)・146(左)号土坑 西から



17. 147号土坑 東から



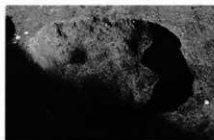
18. 148号土坑 東から



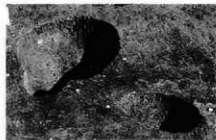
1. 149号土坑 北から



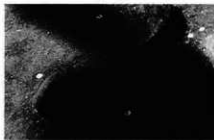
2. 150号土坑 西から



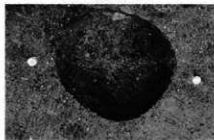
3. 151号土坑 南から



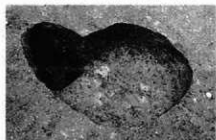
4. 152(右)・164(左)号土坑 南から



5. 153号土坑 南から



6. 154号土坑 東南から



7. 155(左)・156(右)号土坑 南から



8. 157(前)・158(奥)号土坑 北東から



9. 159号土坑 東から



10. 160(中)・161(奥)・162(前)号土坑 南から



11. 163号土坑 西から



12. 165号土坑 東から



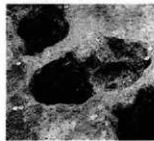
13. 103号ピット 東から



14. 104号ピット 東から



15. 105号ピット 東から



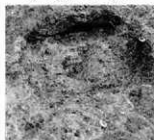
16. 106(右)・107(左)号ピット 東から



17. 108号ピット 東から



18. 109号ピット 東から



19. 110号ピット 東から



20. 111号ピット 南から



1. 112(右)・113(左)号ピット 南から



2. 前から114・115・116号ピット 西から



3. 117号ピット 北から



4. 118号ピット 西から



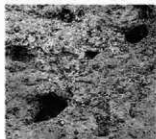
5. 119号ピット 北から



6. 120号ピット 北から



7. 121(左)・122(奥)・125(右)号ピット 北から



8. 126(左前)・127(右奥)号ピット 西から



9. 128号ピット 北から



10. 129(左)・130(右)号ピット北から



11. 132号ピット 北から



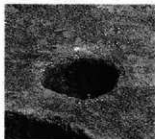
12. 133(左)・134(右)号ピット 西から



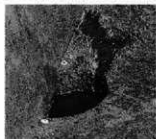
13. 135(奥)・136(前)号ピット 北から



14. 137(左)・138(右)号ピット 西から



15. 139号ピット 西から



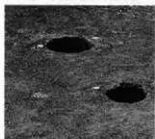
16. 140号ピット 西から



17. 142(前)・143(奥)号ピット 南から



18. 144(前)・145(右)・146(左)号ピット 前から



19. 147(前)・148(奥)号ピット 前から



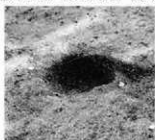
20. 150(左)・151(右)号ピット 西から



21. 152号ピット 北から



22. 153(前)・154(奥)号ピット 北から



23. 155号ピット 北から



24. 156号ピット 東から



1. 9号溝跡 東から



2. 9(右)・10(左)号溝跡 東から



3. 11号溝跡 東から



4. 12号溝跡 南から



5. 13号溝跡 北から



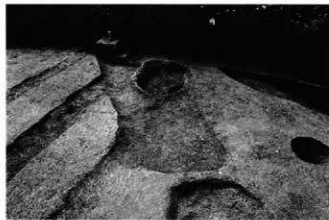
6. 14号溝跡 南から



7. 15号溝跡 東から



8. 16号溝跡奈良三彩(No7)出土状況 南から



1. 17号溝跡 北から



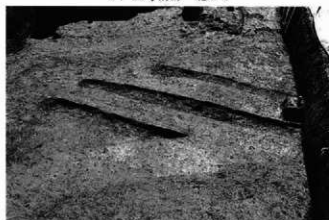
2. 18号溝跡 南から



3. 18号溝跡 北から



4. 1号溝跡 西から



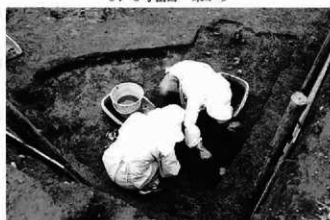
5. 5号溝跡 西から



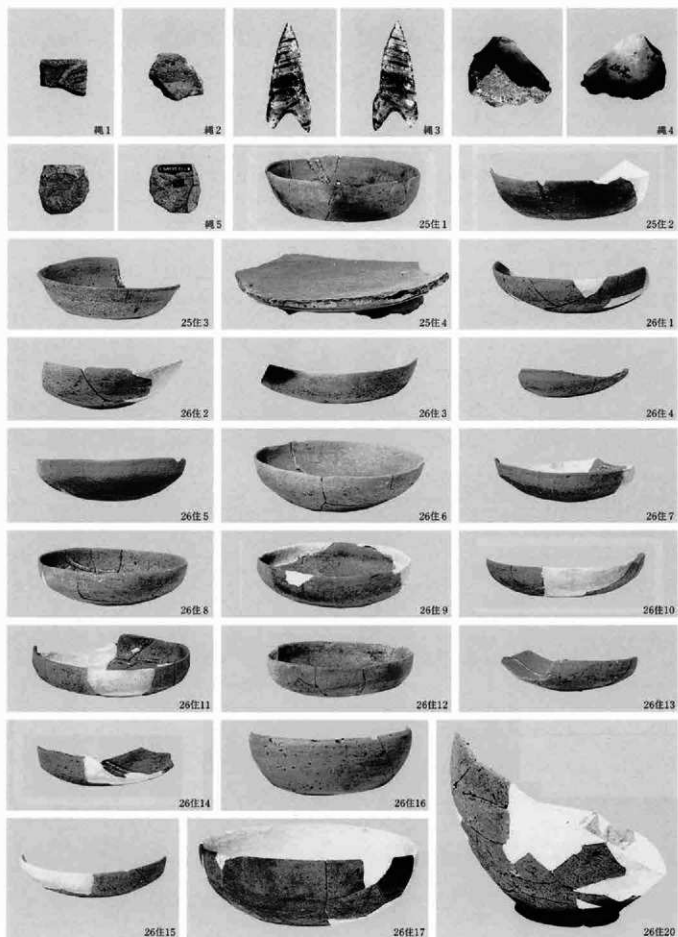
6. 6号溝跡 東から

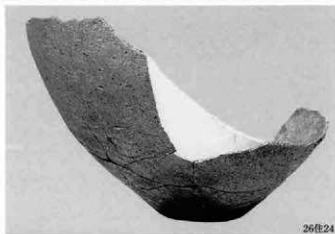
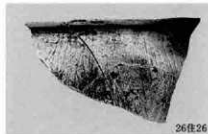
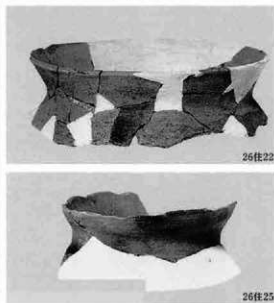


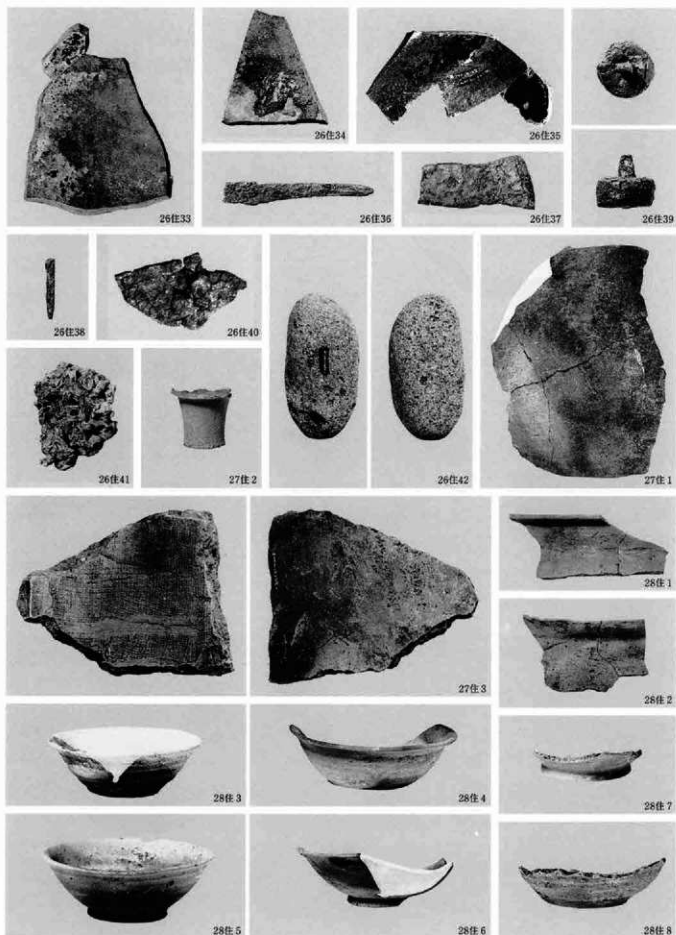
7. 0-1区西側調査風景 西から

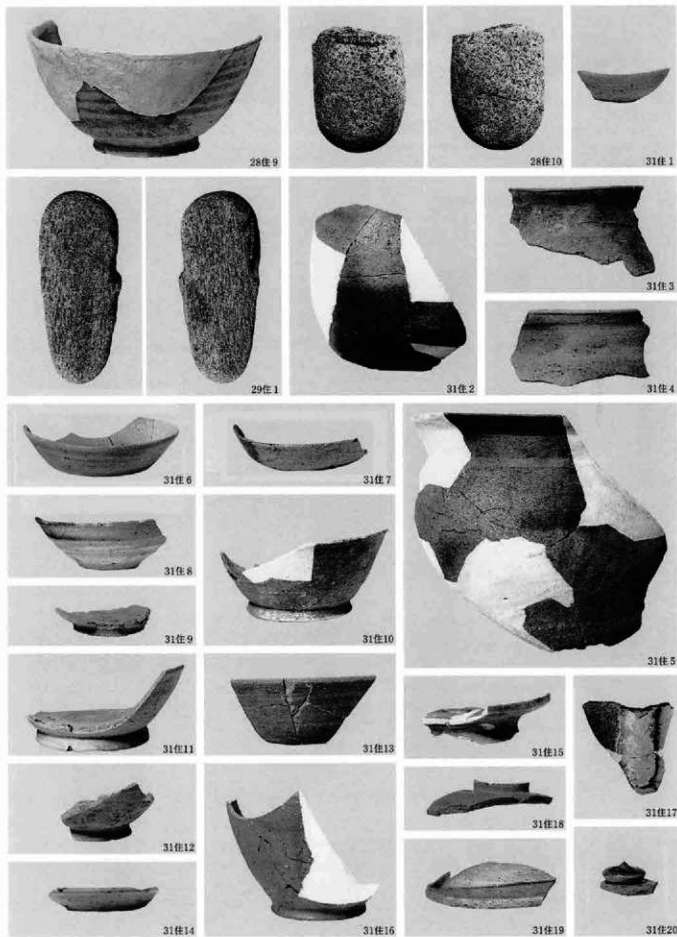


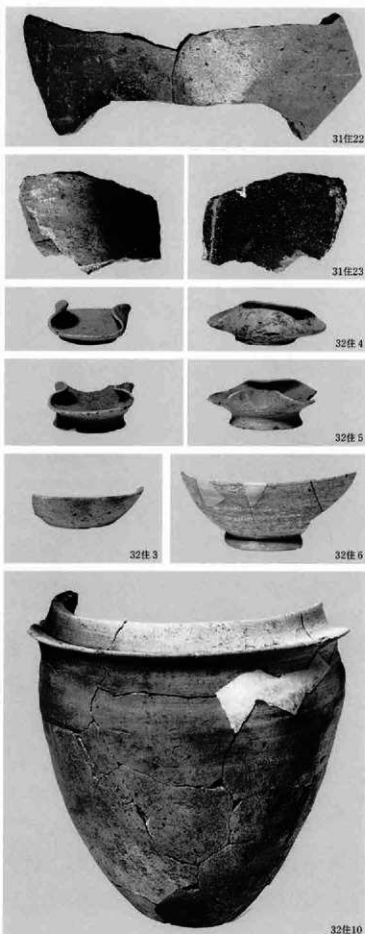
8. 25号住居跡調査風景 西から

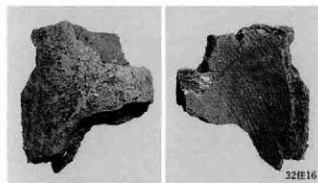
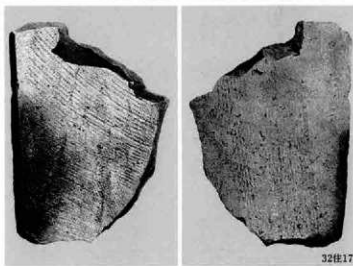


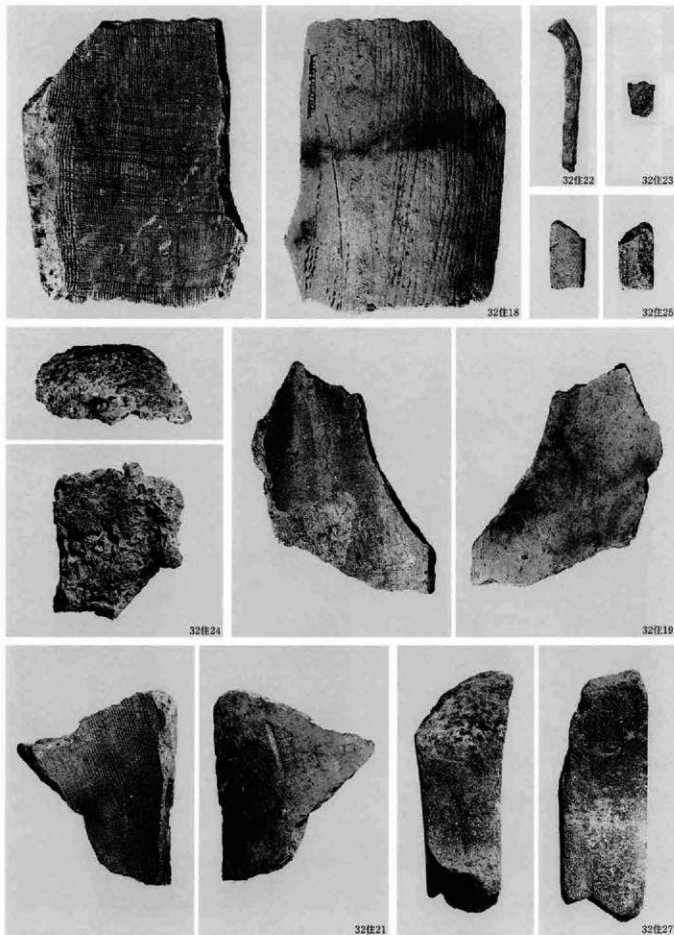


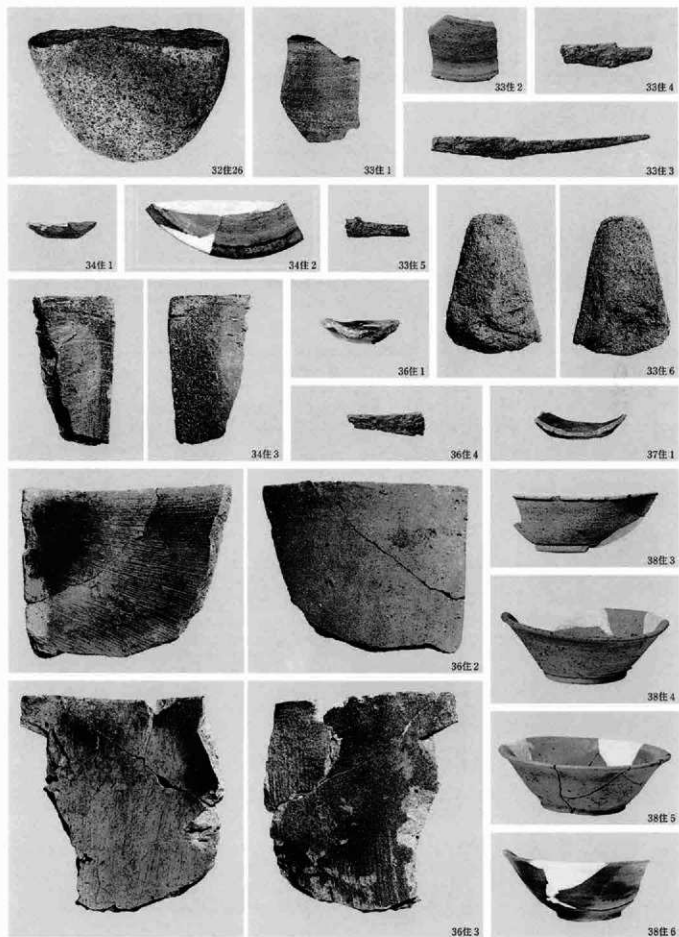


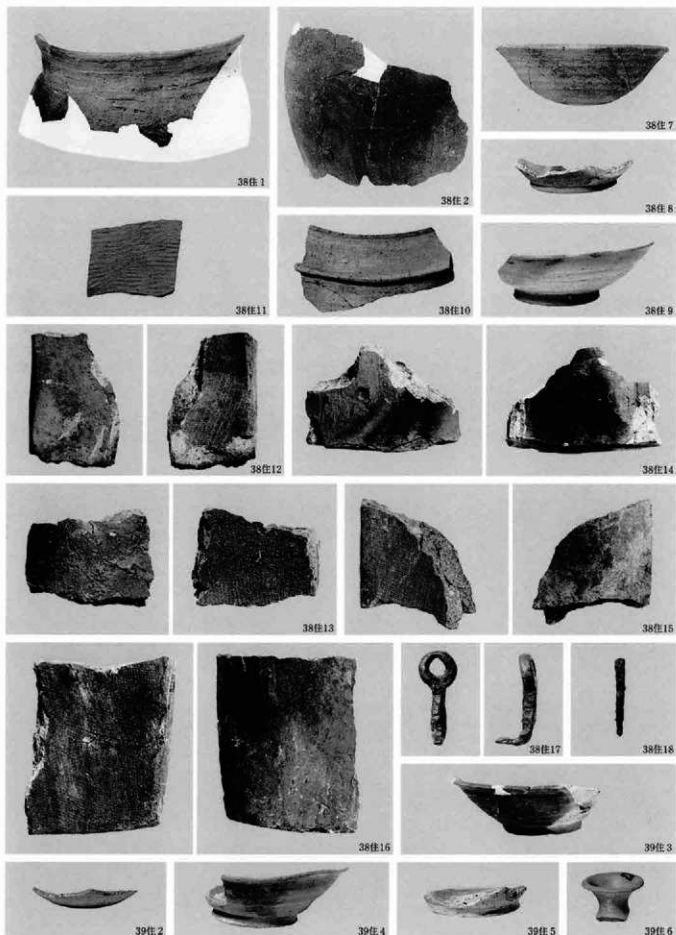






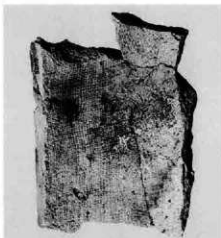








39住1



39住8



39住7

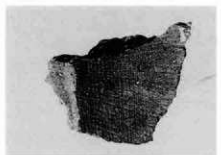
39住10



39住12



40住1



39住11



40住2



40住3



40住4



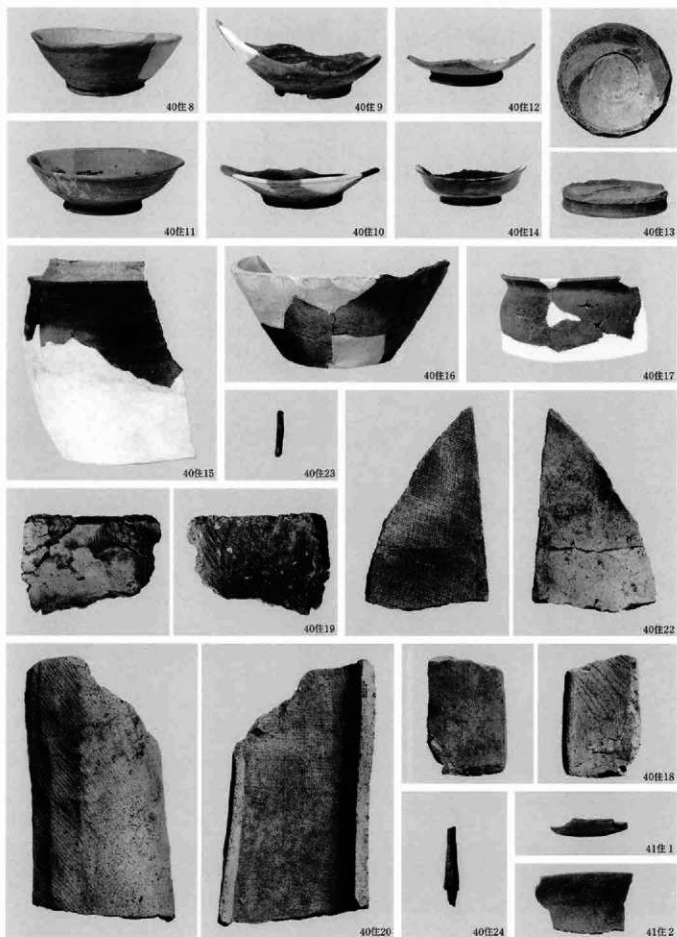
40住5



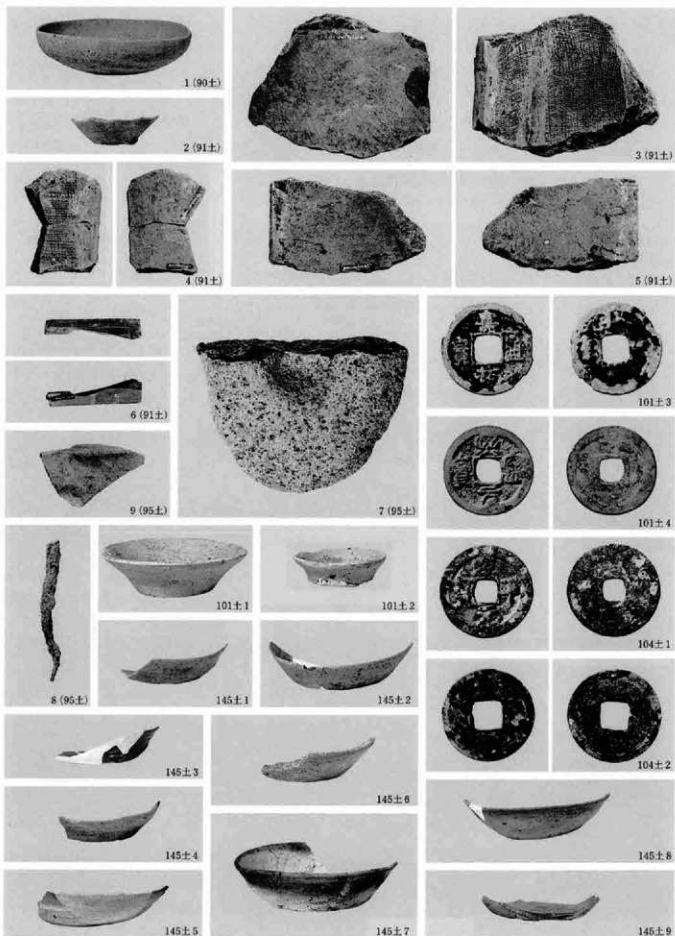
40住6

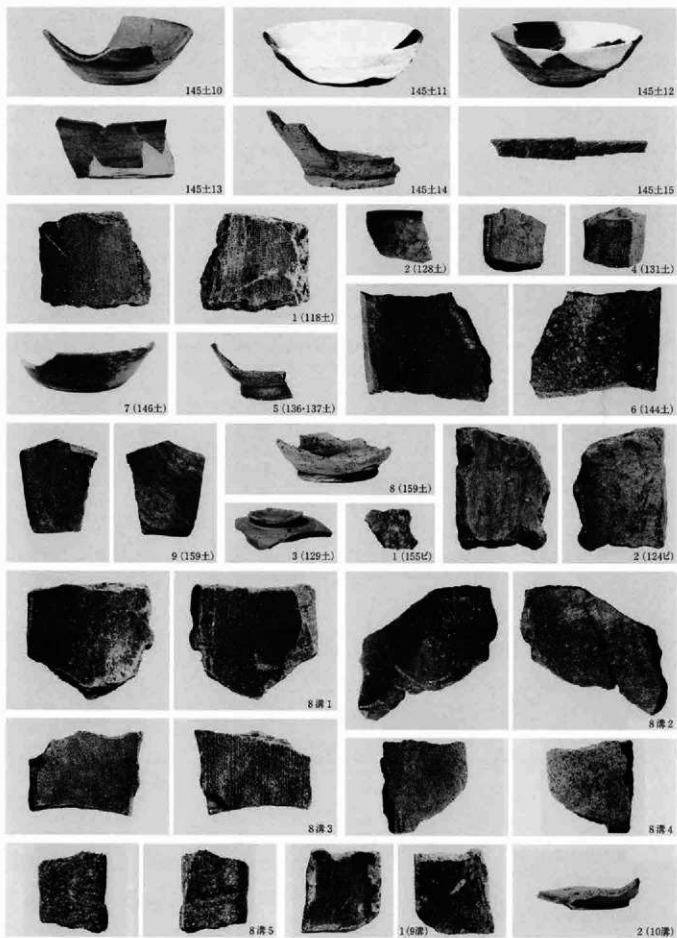


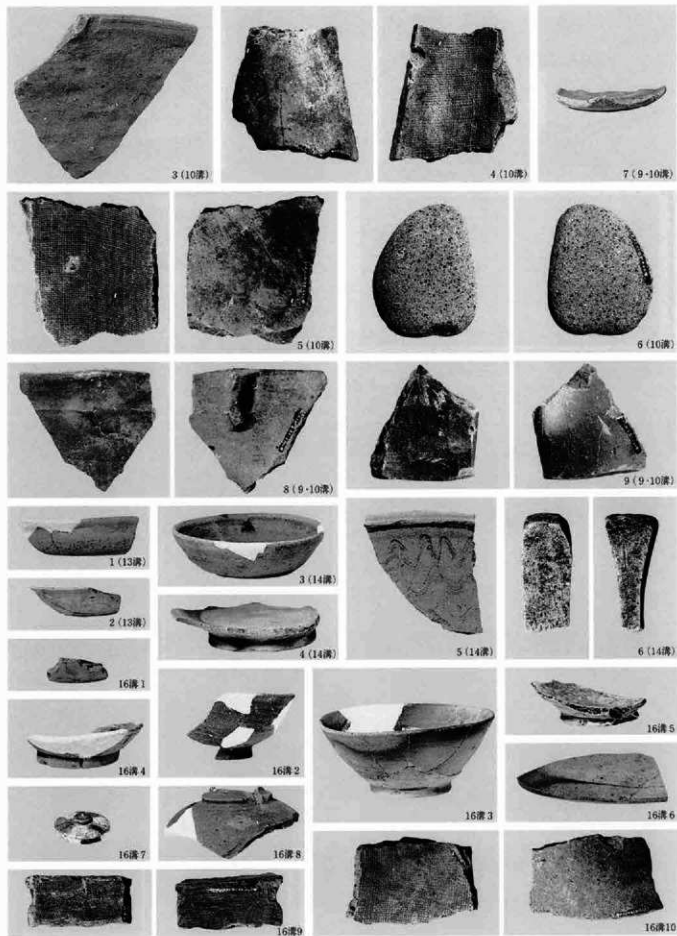
40住7

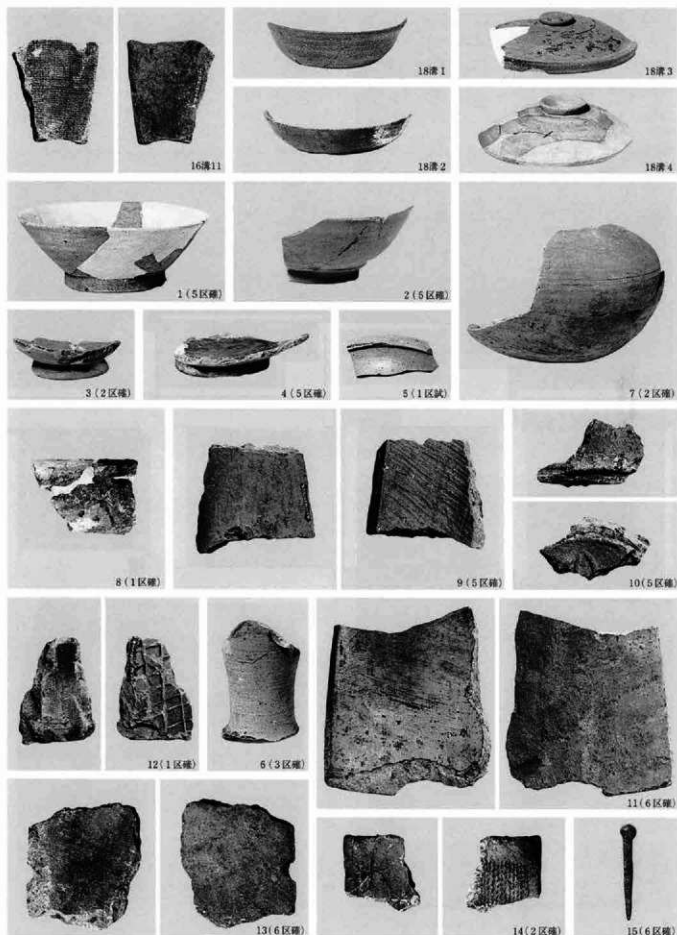














1. Ⅲ-1区全景 西から



2. Ⅲ-2区東側全景 西から



3. Ⅲ-2区西側全景 西から



4. Ⅲ-3区全景 西から



1. 1号住居跡全景 西から



2. 2号住居跡全景 西から



3. 2号住居跡掘り方全景 西から



4. 3・4・10・11号住居跡全景 西から



5. 3・4・10・11号住居跡掘り方全景 西から



6. 5・6・7号住居跡全景 東から



7. 8・9・17号住居跡全景 西から



8. 12・13ab・16号住居跡全景 西から



1. 14号住居跡全景 西から



2. 14号住居跡掘り方全景 西から



3. 15号住居跡全景 西から



4. 15号住居跡掘り方全景 西から



5. 18(中)・19(右)・20(左)号住居跡全景 西から



6. 21号住居跡全景 西から



7. 22(前)・23(中)・24(中右)号住居跡全景 西から



8. 23号住居跡カマド出土遺物 西から



1. 25号住居跡全景 西から



2. 26号住居跡全景 西から



3. 26号住居跡掘り方全景 西から



4. 27号住居跡全景 西から



5. 1(中)・2(左)号土坑 西から



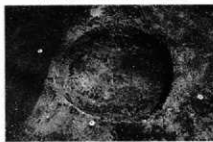
6. 3(奥)・5(前)号土坑 西から



7. 4号土坑 南から



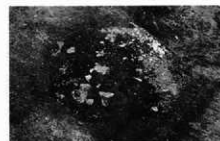
8. 6(左)・7(右)号土坑 西から



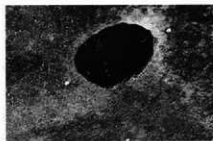
9. 8号土坑 北から



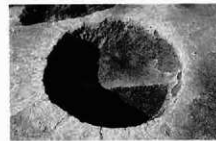
10. 9(中)・10(左)号土坑 北から



11. 11号土坑 西から



12. 12号土坑 西から



13. 13号土坑 南から



1. 14(左)・15(中)・16(右奥)号土坑 西から



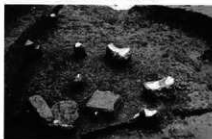
2. 18号土坑 北から



3. 19(左)・21(右)号土坑 西から



4. 19(中)・60(前)号土坑 南から



5. 19号土坑遺物出土状況 西から



6. 20(右)・26(中)・27(左)号土坑 南から



7. 22(前)・23(左奥)号土坑 西から



8. 24号土坑 西から



9. 24(前)・25(右奥)号土坑 南から



10. 32号土坑 北から



11. 33号土坑 北から



12. 34号土坑 南から



13. 37(奥)・38(前)号土坑 北から



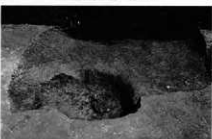
14. 39号土坑 北から



15. 40(右奥)・41(前)号土坑 南から



16. 43(中)・44(前)号土坑 北から



17. 45(奥)・47(前)号土坑 南から



18. 46号土坑 南から



1. 48号土坑 南から



2. 49号土坑 南から



3. 51号土坑 西から



4. 54(左奥)・55(前)・56(右奥)号土坑 北から



5. 57(左)・58(右)号土坑 西から



6. 61号土坑 北から



7. 64号土坑 西から



8. 65号土坑 西から



9. 71・72・90・96号土坑 北から



10. 78(右)・79(左)号土坑 東から



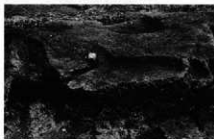
11. 92号土坑 東から



12. 95号土坑 北から



13. 100号土坑 西から



14. 101号土坑 西から



15. 106号土坑 西から



16. 107号土坑 西から



17. 108号土坑 西から



18. 109号土坑 西から



1. 1号溝跡北部全景 南から



2. 1号溝跡南部全景 北から



3. 2～4号溝跡全景 南から



4. 5号溝跡全景 北から



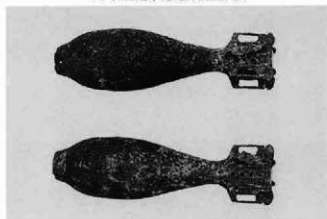
5. 出土迫撃砲砲弾



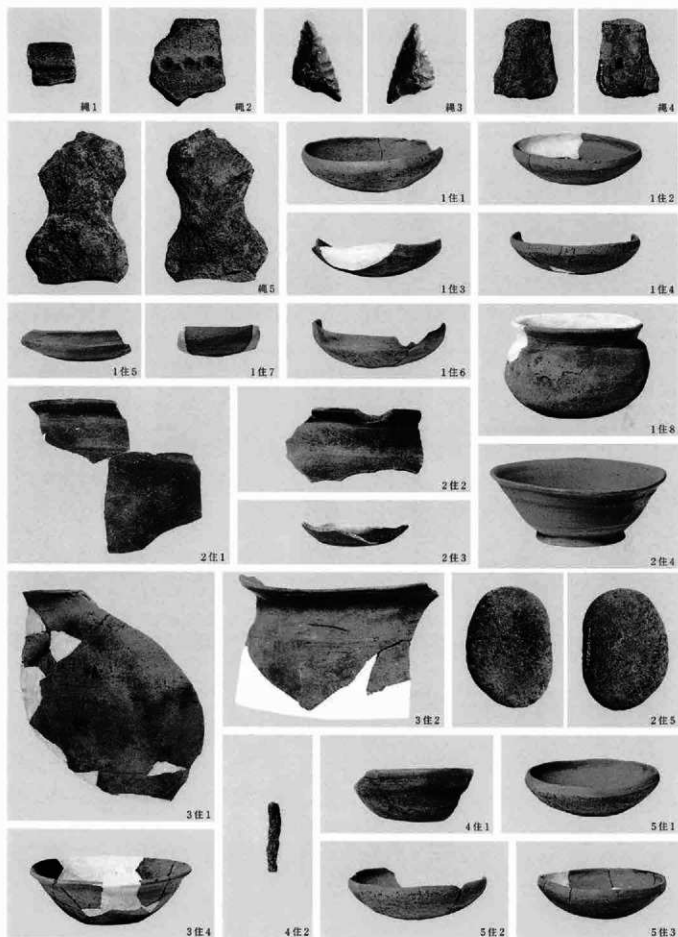
6. 出土迫撃砲砲弾調査状況

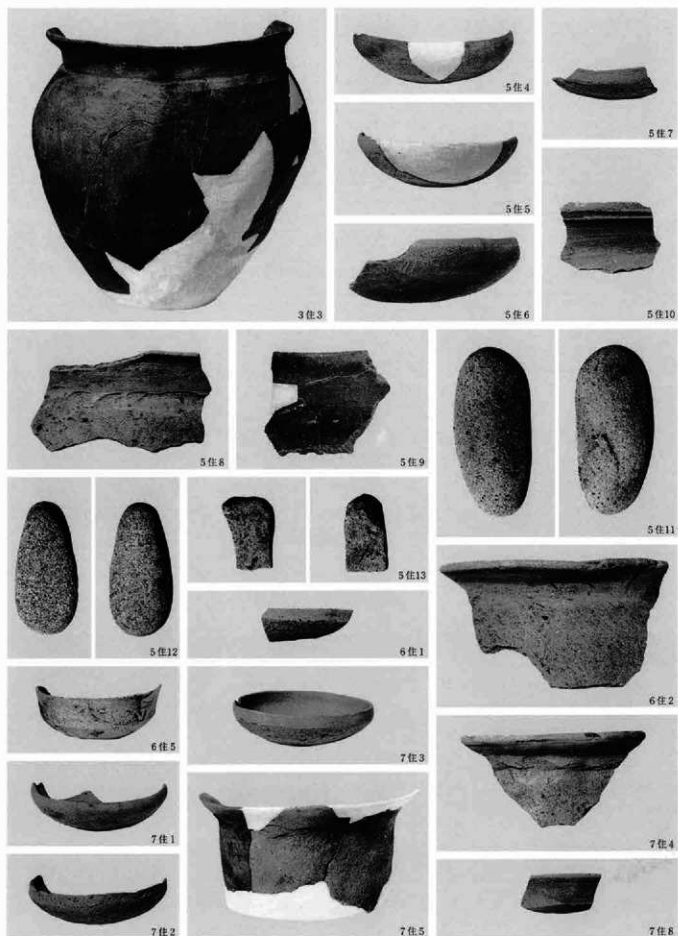


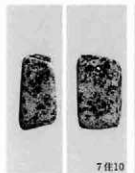
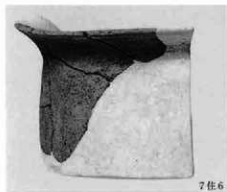
7. 出土迫撃砲砲弾処理状況

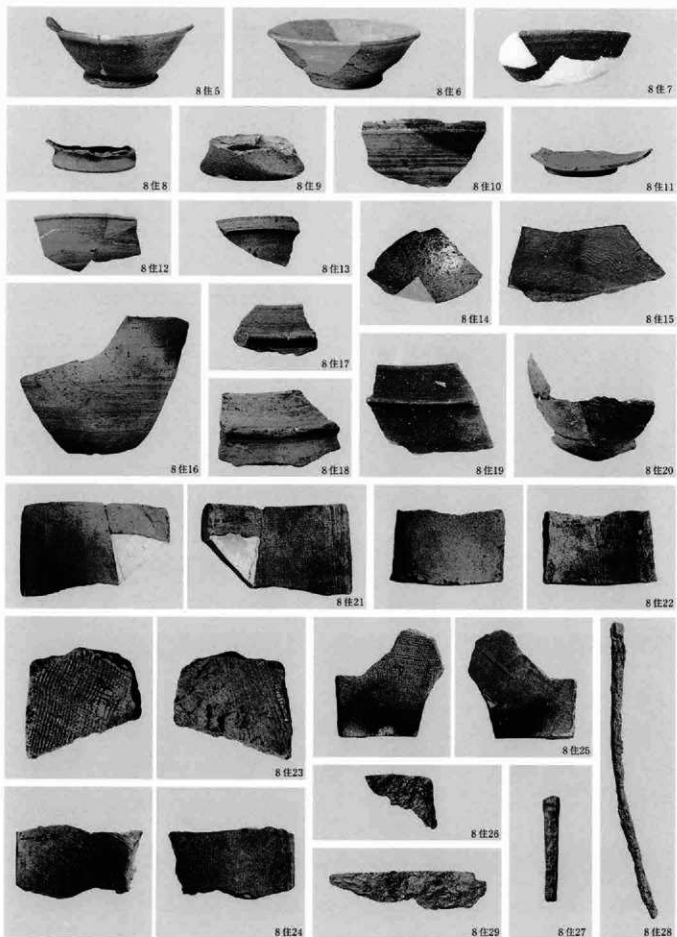


8. 出土したものと同型の九四式軽迫撃砲砲弾

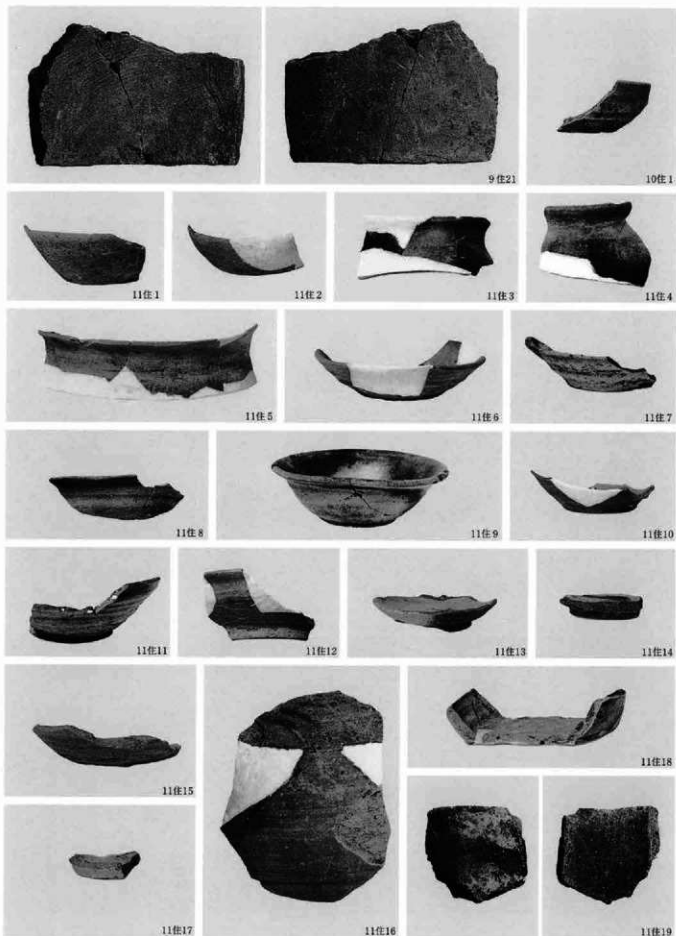


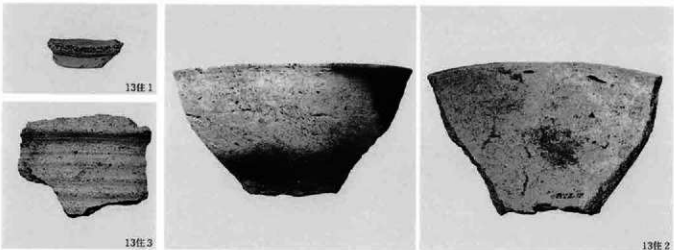
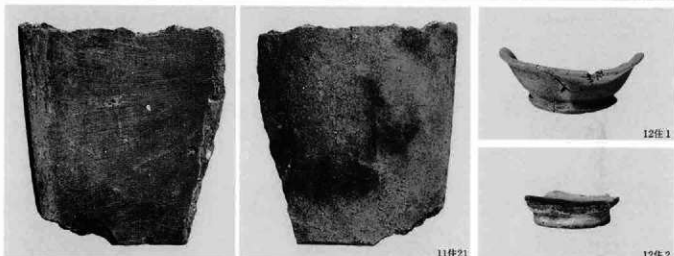
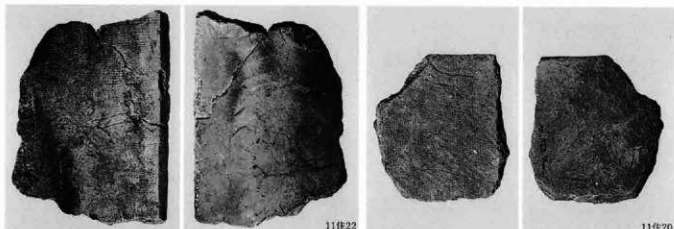


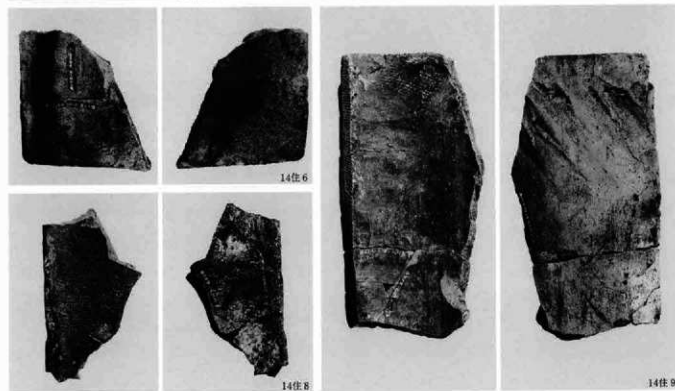
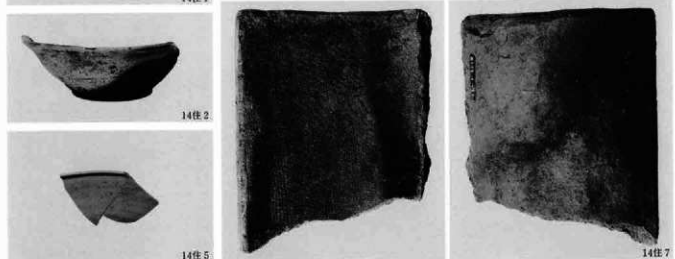
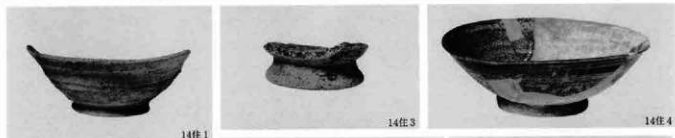
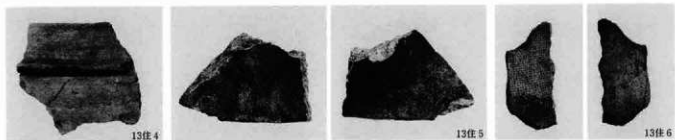


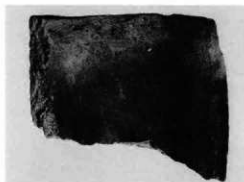












15住1



15住2

14住10



15住3



15住4



15住5



15住6



15住7



15住8



15住9



15住11



15住10



15住12



15住13

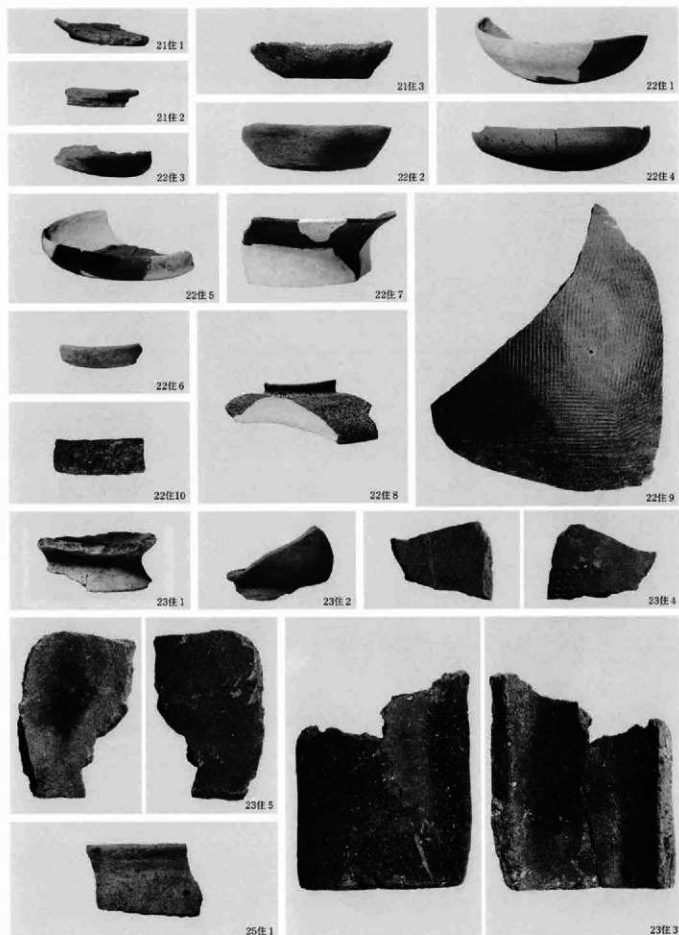


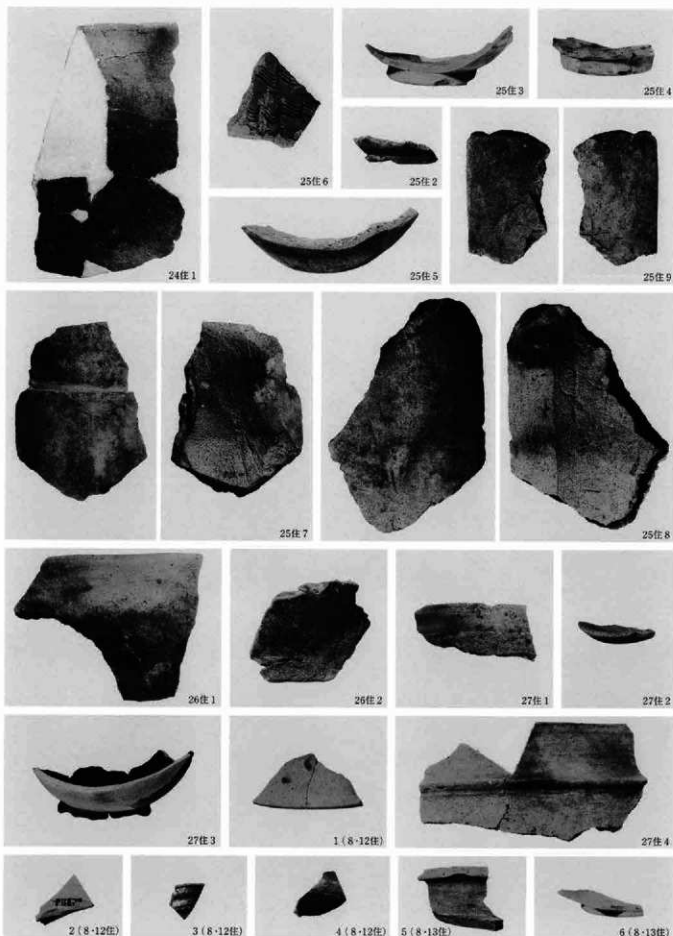
16住1

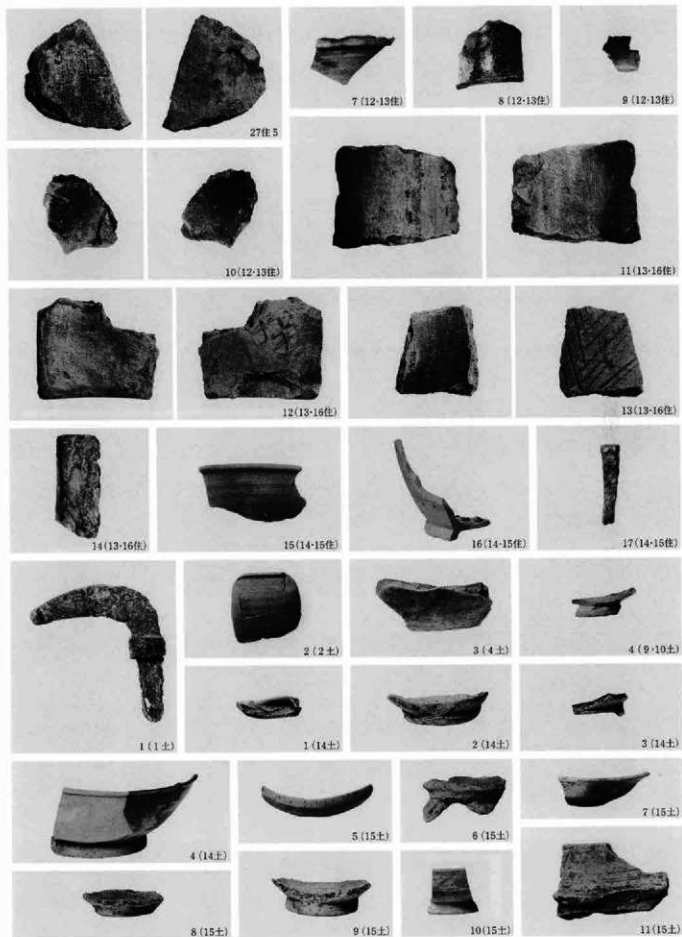


16住2

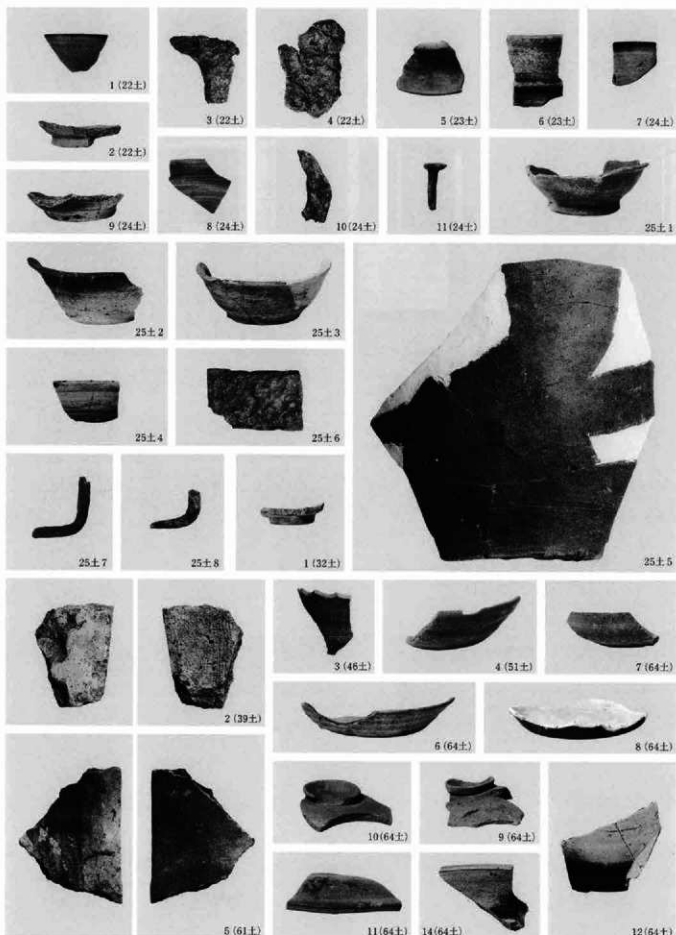


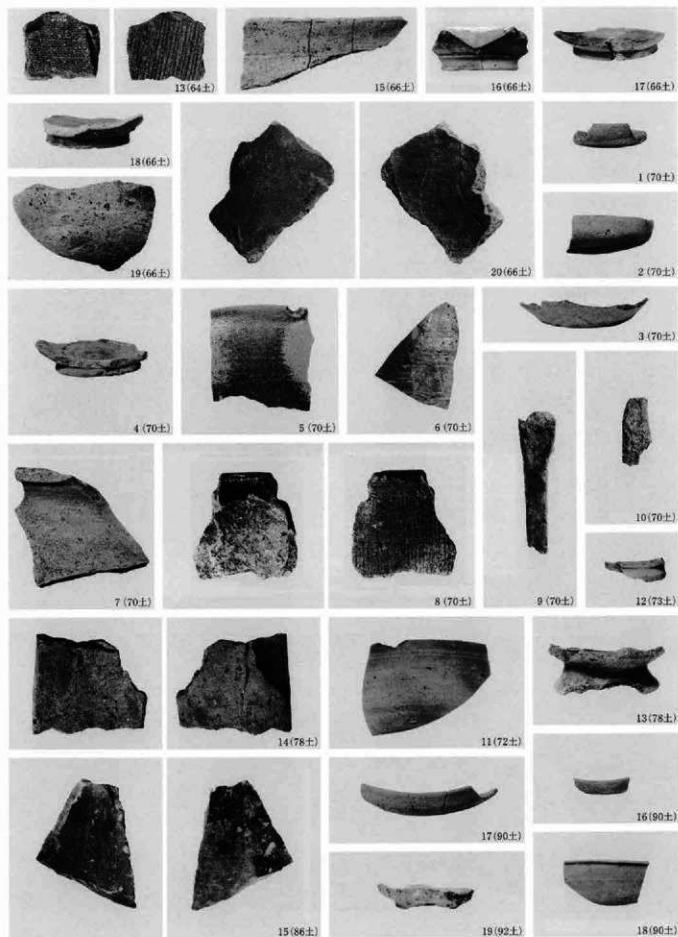


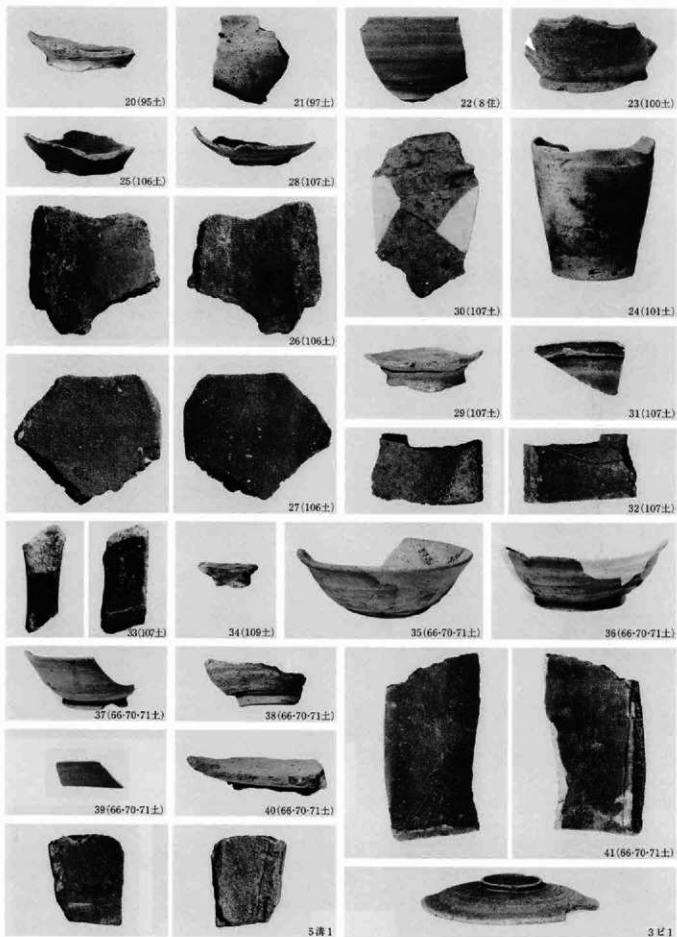


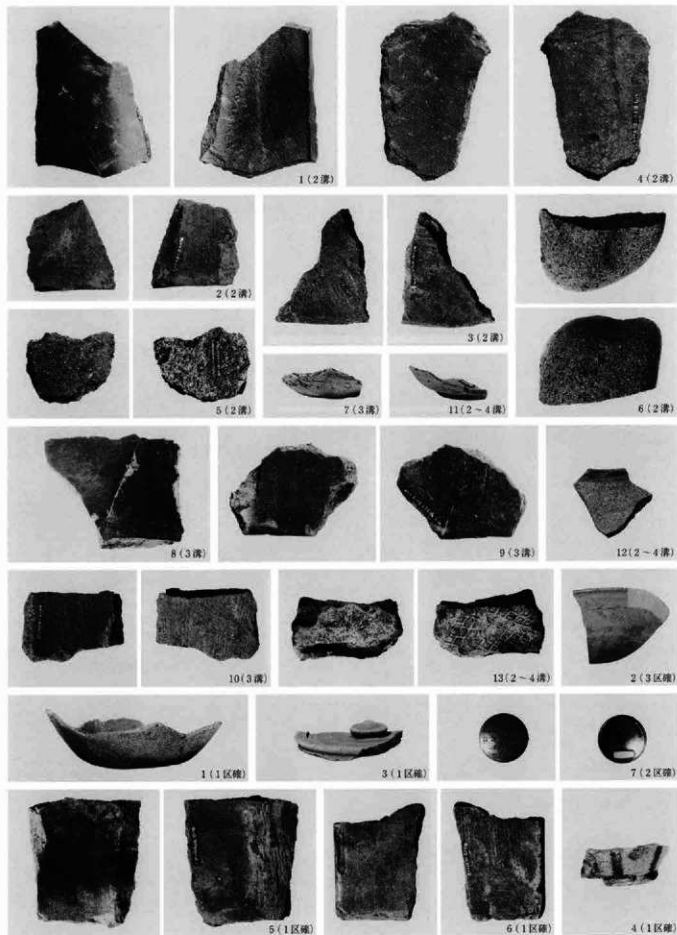












財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第347集

塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡(Ⅰ区)・引間松葉遺跡(Ⅲ区)

一般県道足門前橋線バイパス(西毛広域幹線道路)

建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

平成17年(2005年)3月10日印刷

平成17年(2005年)3月15日発行

編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県北橋村大字下箱田784番地の2

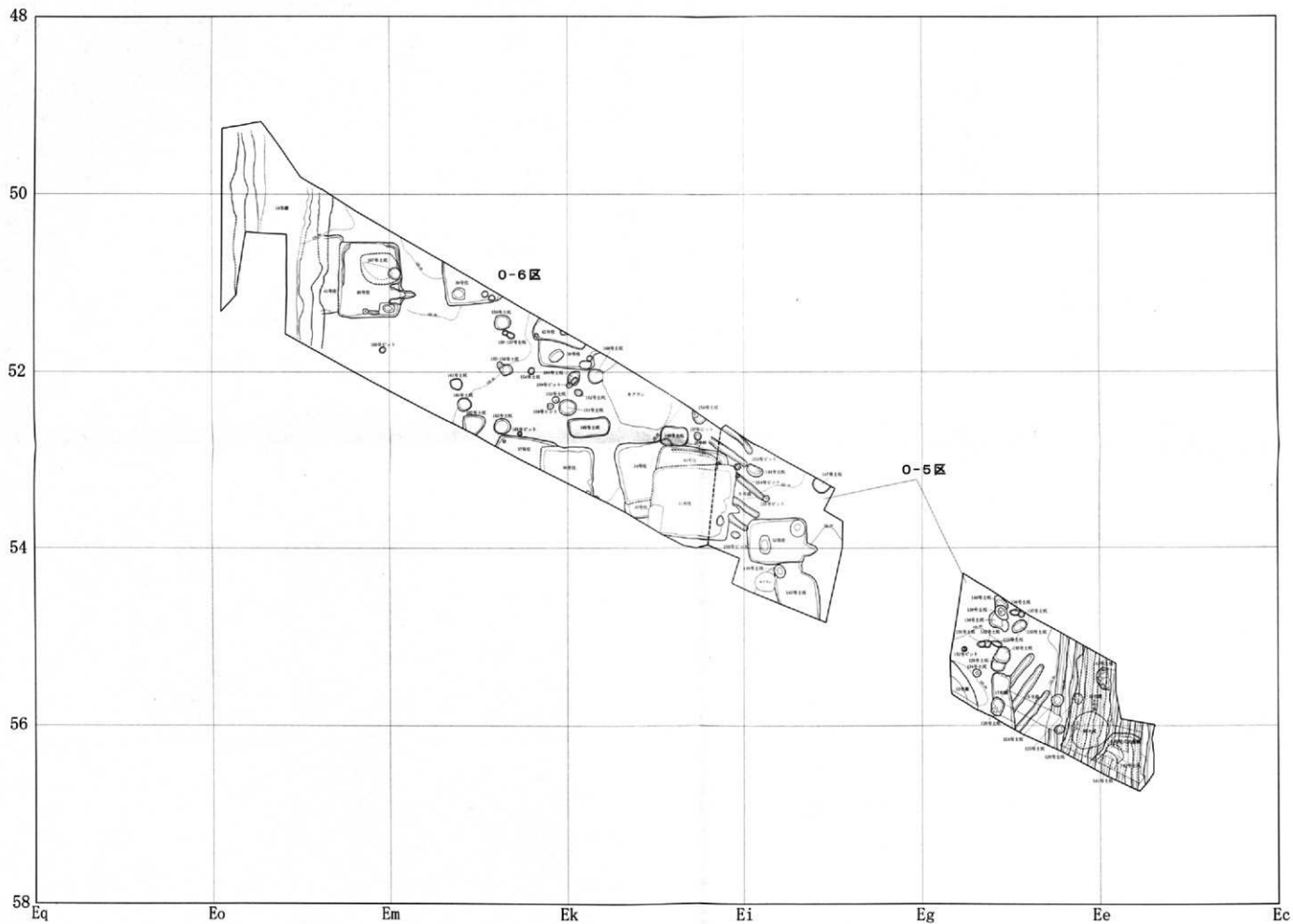
電話 0279-52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上毎印刷工業株式会社

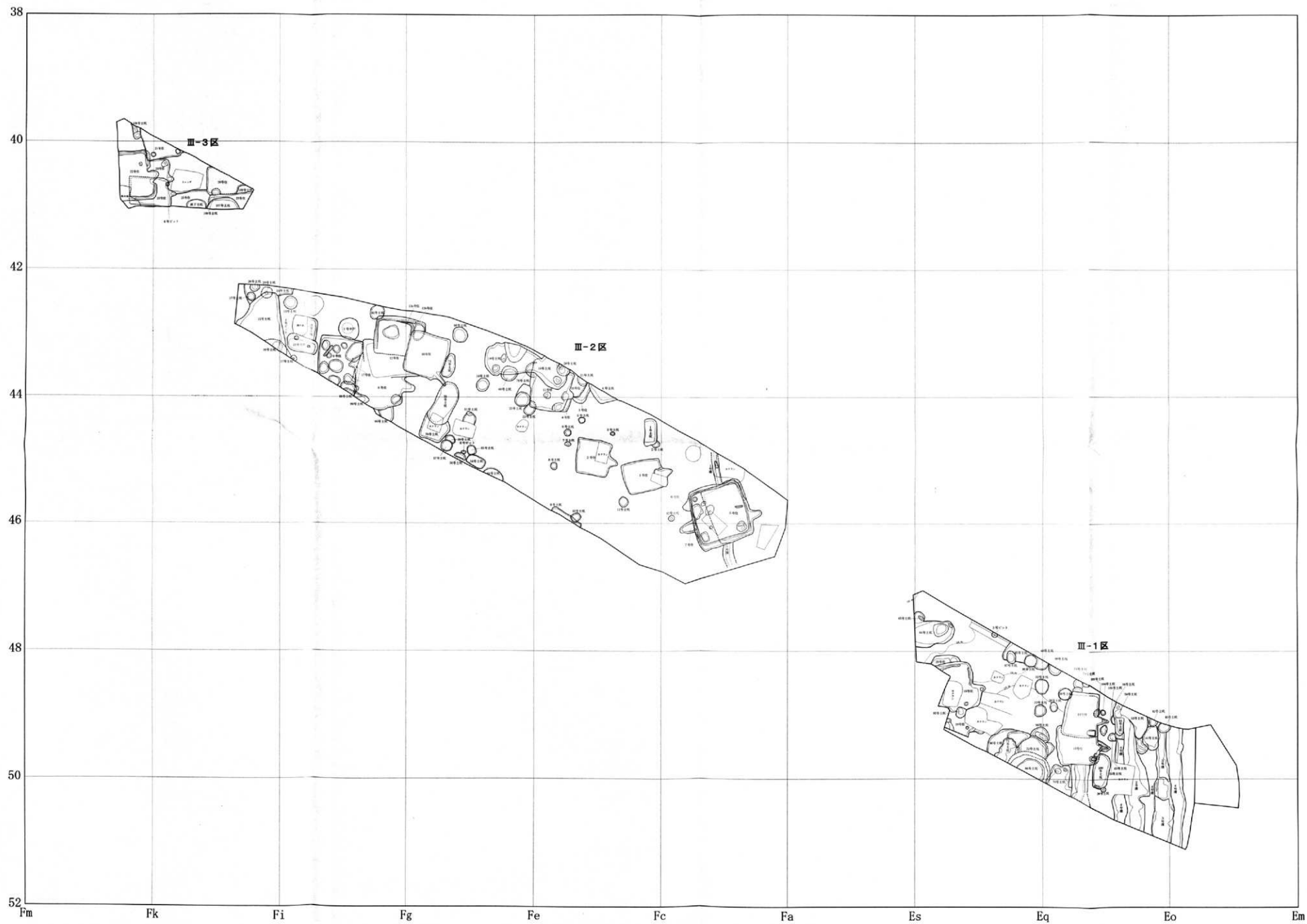


塚田中原遺跡 0-5・6区 全体図

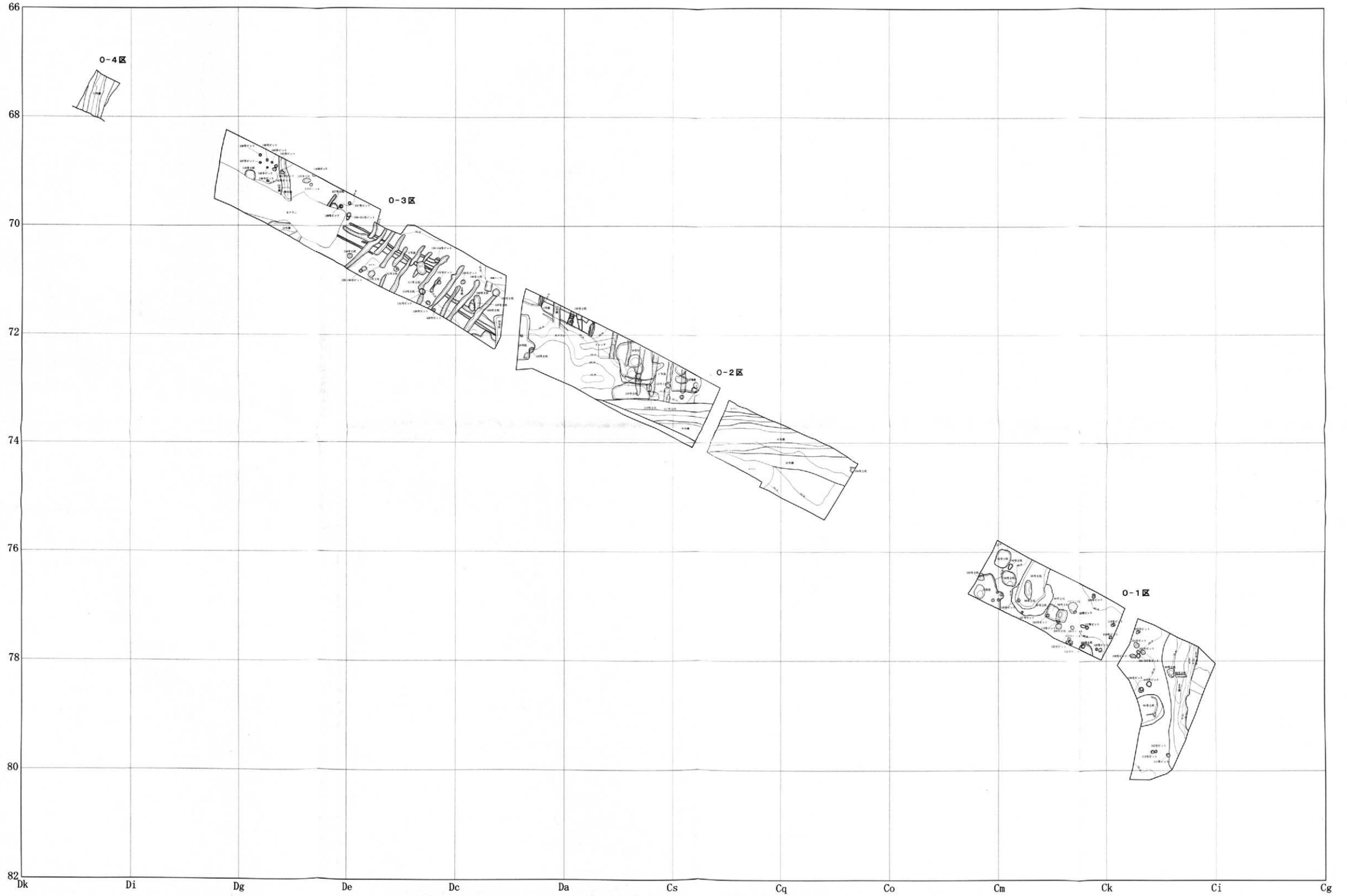


S=1:200

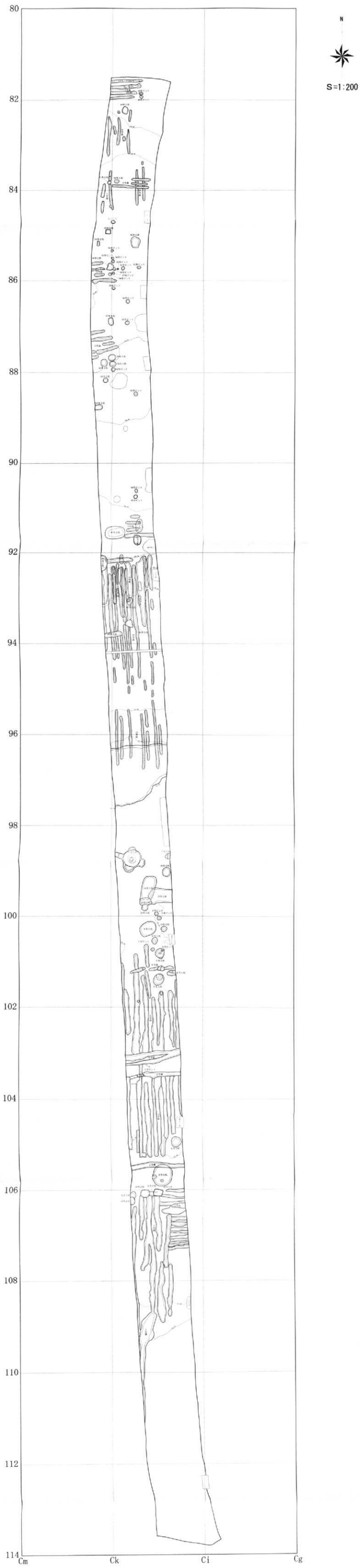
引間松葉遺跡 Ⅲ区 全体図



塚田中原遺跡 0-1~4区 全体図



塚田村東IV遺跡 中世・近世・近代面



塚田村東IV遺跡 古墳・奈良・平安面

